まえがき

BYD 車をお選びいただき、誠にありがとうございます。車両の正しい使用とメンテナンスのために、必ず本マニュアルをよくお読みください。

特記事項：純正部品を使用し、本マニュアルの要件に従って正しく使用、メンテナンス、修理を行うことをおすすめしています。非純正部品を使用した交換や改造は車両全体の性能、特に安全性と耐久性に悪影響を及ぼす可能性があります。これによって生じた車両の損傷や性能の問題は保証対象外となります。また、車両の改造は国の法律や地方自治体の条例に違反する可能性があります。

この度は BYD 車をお選びいただき、誠にありがとうございます。お客様の貴重なご意見やご提案をいただけましたら幸いです。より良いサービスを提供させていただくために、正確な連絡先をご提供ください。連絡先に変更が生じた場合は、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にご連絡いただき、システム上の情報更新をお願いいたします。あわせて、国の関連法規および地方条例を適宜ご確認の上、車両登録をできるだけ早く行ってください。登録が遅れた場合、ナンバー取得ができなくなるおそれがあるので、ご注意ください。

本マニュアルに「＊」記号が付いている内容と PAD 画面の内容は、一部の車種にのみ適用され、それが搭載されていることを表しています。使われているイラストは代表例です。お買い上げの車両と異なる場合は、実車を参考にしてください。

本マニュアルに「アドバイス」、「注意」および「警告」が記載されているところは、怪我や破損が発生しないように記載内容をお守りください。シンボルマークの表示や使い方は、次の通りです。

お願い

メンテナンスなどを容易にするために守らなければならない事項

注意

車両の損傷を避けるために守らなければならない事項

警告

身の安全を守るために守らなければならない事項

左図に示す禁止マークは、「このようにしないでください」、または「このようなことを起こさないでください」を意味します。

本マニュアルは、製品を正しくお使いいただくためのものであり、本製品の仕様およびソフトウェアバージョンに関する説明を表すものではありません。製品仕様やソフトウェアバージョンについては、本製品に関する契約書 (もしあれば) を参照していただくか、製品をお買い上げいただいた販売店までお問い合わせください。

環境を守ることは、一人ひとりの責任です。車両を正しくご使用いただき、法規制に従って廃棄物やリサイクル材料などを処分してください。

著作権は、BYD に帰属します。

BYD から書面による許可を得ずに、本マニュアルの一部または全部の内容を転載・複製することを禁じます。

本マニュアルを複製する場合は、必ずその責任を追及します。

図目次

車外..... 7

インストルメントパネル.....8

車内..... 9

ドア.....10

安全

シートベルト..... 12

シートベルトについて.....12

シートベルトの着用..... 12

エアバッグ..... 15

エアバッグについて..... 15

運転席および助手席エアバッグ..... 16

シートサイドエアバッグ.....17

フロントファーサイドエアバッグ*.....17

サイドカーテンエアバッグ..... 18

エアバッグの作動条件および注意事項.... 18

幼児用補助装置（チャイルドシート）....21

幼児用補助装置（チャイルドシート）.... 21

幼児用補助装置の取り付けについて..... 22

デュアルモードシステム動作モード.....25

デュアルモードシステム動作モード概要 25

デュアルモードシステム動作モード選択 30

デュアルモードシステム動作モードの注意事項.....34

イモビライザー..... 36

イモビライザー..... 36

自動車イベントデータ記録システム.....36

データの収集および処理..... 36

メータークラスター

コンビネーションメーター.....44

コンビネーションメーターイメージ..... 44

メーター表示灯..... 44

コントローラーの操作

ドアとキー..... 54

キー..... 54

ドアの施錠/解錠.....58

スマートエントリー＆スタートシステム 65

チャイルドロック.....67

シート.....68

シートについて..... 68

フロントシートの調節.....69

リアシートの収納.....70

ヘッドレストの調節..... 70

ステアリングホイール..... 72

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ.....72

ステアリングホイールの調節.....75

ワイパー.....75

ワイパースイッチ.....75

ワイパーの交換..... 77

リアビューミラー..... 78

ルームミラー.....78

ドアミラー.....79

スイッチ.....80

ライトスイッチ..... 80

運転席側スイッチ.....82

走行距離切替.....83

フロントコンビネーションランプの調節 84

ハザードランプ..... 84
サンルーフスイッチ*.....84
ルームランプ.....86
E-Call スイッチ.....86

使用および運転

充電/放電について..... 90
充電について.....90
充電方法..... 93
充電ポート盗難防止ロック機能..... 98
電力量バランス機能..... 100
外部給電について*..... 101
バッテリー.....104
パワーバッテリー.....104
低電圧バッテリー.....105
ご利用要領.....107
慣らし運転期間..... 107
トレーラーのけん引..... 108
燃料..... 108
燃料の節約で車を長持ちさせる方法について..... 110
荷物の積み込み..... 111
一酸化炭素中毒の危険性..... 111
冠水路の走行.....112
火災の予防.....113
発進と運転.....114
車の始動..... 114
車の運転..... 115
シフトコントロール機構..... 117
電動パーキングブレーキ（EPB）..... 118
オートビークルホールド（AVH）..... 121
運転要領..... 122
運転支援機能.....125
アダプティブクルーズコントロール（ACC）システム*.....125
ナビゲーションパイロット（ICC）*..... 129
予測緊急ブレーキシステム*.....131
フロントクロストラフィックアラートおよびフロントクロストラフィックオートブレーキ.....134
ハイビームアシストシステム（HMA）*.135
レーンサポートシステム（LDA）*.....137
緊急時車線維持支援（ELKA）*.....139
ブラインドスポットアシストシステム.. 140
交通標識認識システム(TSR)*..... 142
インテリジェントスピードリミットコントロール（ISLC）*.....143
ドライバー眠気注意力警告システム*.... 144
幼児置き去り検知.....145
車両接近通報装置（AVAS）*..... 146
BYD アラウンドビューシステム*..... 146
駐車支援システム*..... 147
タイヤ空気圧モニタリング..... 150
ヘッドアップディスプレイ（HUD）*....152
安全運転支援システム.....152

車内装置

マルチメディアシステム..... 158
マルチメディアコントロールパネル..... 158
ナビゲーションバー..... 159
ジェスチャーおよび応答..... 159
OTA アップデート..... 159
BYD インテリジェント音声制御機能.....160
Bluetooth 電話.....160
外部アプリケーション.....161
エアコンシステム..... 161

ファン ON/OFF.....161
エアコン操作画面.....163
機能定義.....163
吹き出し口.....166
エアコン設定項目.....168
BYD APP について..... 168
BYD APP の紹介.....168
アカウント登録.....168
車両状態および車両制御システム.....168
個別センターおよび車両管理.....169
収納ボックス.....169
ドアポケット.....169
グローブボックス.....169
駐車券収納ボックス.....170
センターコンソールボックス.....170
カップホルダー.....170
シートバックポケット.....171
サングラスホルダー.....171
その他の装置.....172
サンバイザー.....172
バニティーミラー*.....172
アシストグリップ.....172
12V アクセサリー電源.....172
USB ポート.....173
SD カードスロット*.....173
リアシェルフ*.....173
ワイヤレス充電.....174
トランクアンダーボード.....175

お手入れとメンテナンス

メンテナンスについて..... 178
メンテナンス周期およびメンテナンス内容 178
定期メンテナンス..... 183
定期メンテナンス.....183
車両の防食について.....184
塗装メンテナンスのお願い.....184
車両外部洗浄.....185
車内の清掃.....187
セルフメンテナンス..... 188
セルフメンテナンス.....188
サンルーフのメンテナンスについて.....190
車両の保管.....191
ボンネット.....191
冷却システム.....192
ウォッシャ.....193
ブレーキシステム.....193
エンジンオイル.....194
エアコンシステム.....195
ワイパーブレード.....195
タイヤのメンテナンスおよびお手入れ..196
ヒューズ.....198

故障が発生した時

故障が発生した時..... 202
リモートキーのバッテリーが切れたら..202
車両が始動しない場合.....202
運転中にエンジンが停止した場合.....203
エンジンがオーバーヒートした場合.....203
レッカー移動が必要なとき.....204
タイヤの空気漏れが発生したら.....205

車両仕様

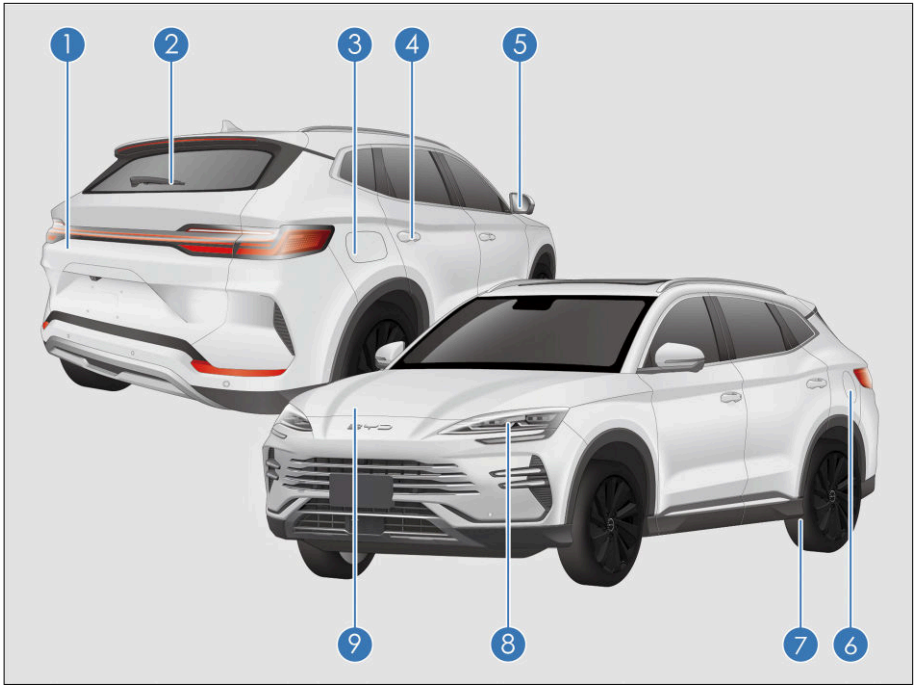
データ情報.....210
車両諸元..... 210
プロンプトメッセージ..... 214
車両の表示.....214
警告ラベル.....215
マイクロ波通信用ウィンドウ.....216
適合宣言書.....216

略語一覧

略語.....223

図目次

車外



1 テールゲートの施錠と解錠 *(62 ページ)*

2 ワイパーブレードの交換 *(77 ページ)*

3 家庭用 AC 普通充電 *(94 ページ)*

4 メカニカルキーでの施錠/解錠 *(58 ページ)*

5 ドアミラーの調整ボタン *(79 ページ)*

6 燃料の給油 *(108 ページ)*

7 タイヤ *(196 ページ)*

タイヤの空気漏れが発生したら *(205 ページ)*

8 ライトスイッチ *(80 ページ)*

9 ボンネット *(191 ページ)*

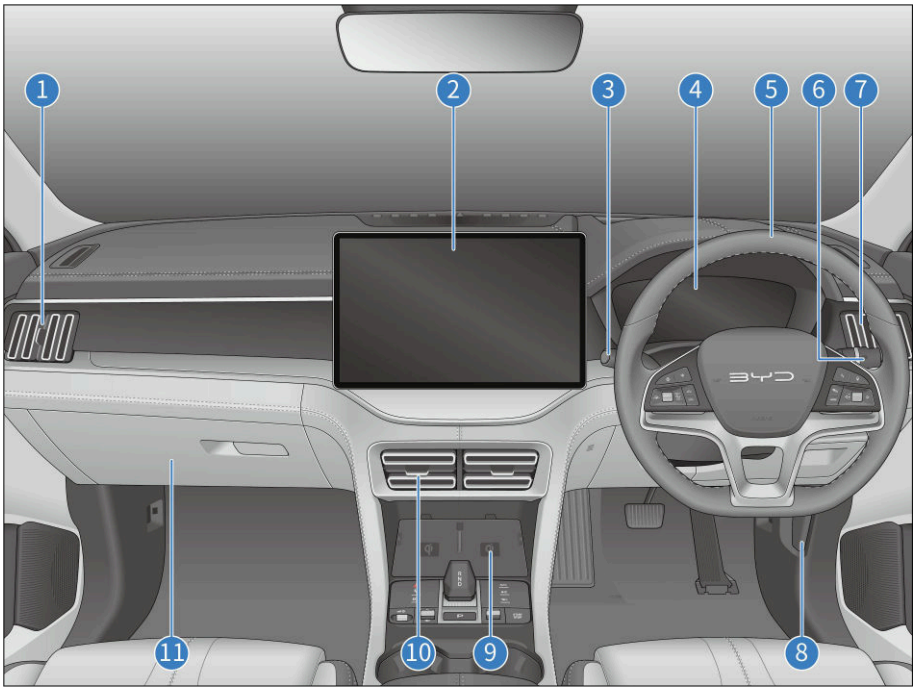
冷却システム *(192 ページ)*

ウォッシャー *(193 ページ)*

ブレーキシステム *(193 ページ)*

エンジンルームフューズボックス *(198 ページ)*

インストルメントパネル



1 フロント側サイド吹き出し口 *(167 ページ)*

2 マルチメディアタッチスクリーン *(158 ページ)*

3 ワイパースイッチ *(75 ページ)*

4 コンビネーションメーター *(44 ページ)*

5 ステアリングホイール *(75 ページ)*

ステアリングホイールの調節 *(75 ページ)*

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ *(72 ページ)*

6 ライトスイッチ *(80 ページ)*

7 フロント側サイド吹き出し口 *(167 ページ)*

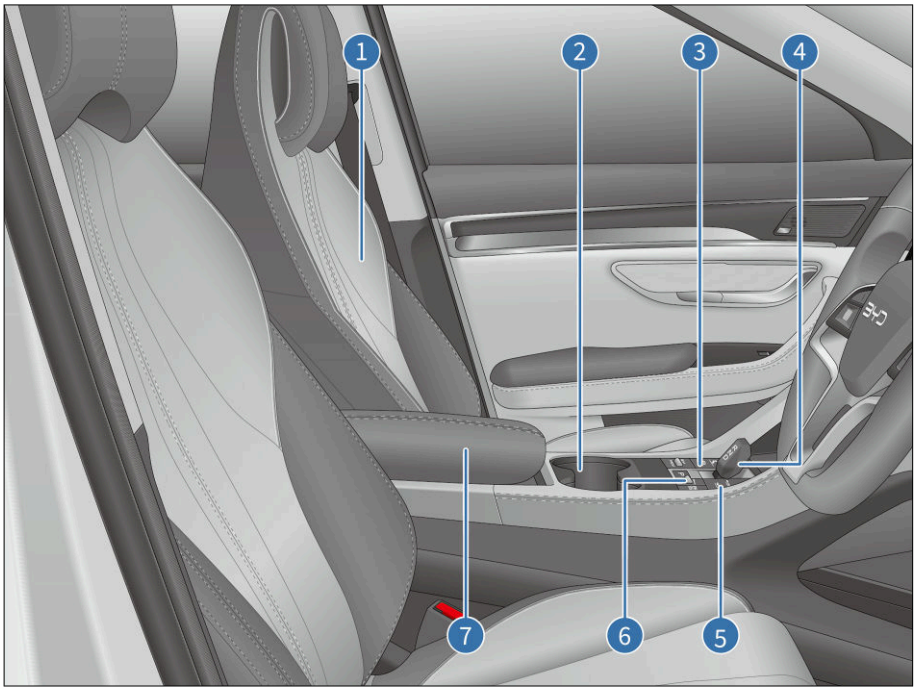
8 ボンネットリリースレバー *(191 ページ)*

9 ワイヤレス充電 *(174 ページ)*

10 フロント側中央吹き出し口 *(166 ページ)*

11 グローブボックス *(169 ページ)*

車内



1 シート *(68 ページ)*

フロントパワーシートの調節 *(69 ページ)*

2 フロントカップホルダー *(170 ページ)*

3 ハザードランプスイッチ *(84 ページ)*

ブラインドスポットインフォメーションシステムスイッチ* *(140 ページ)*

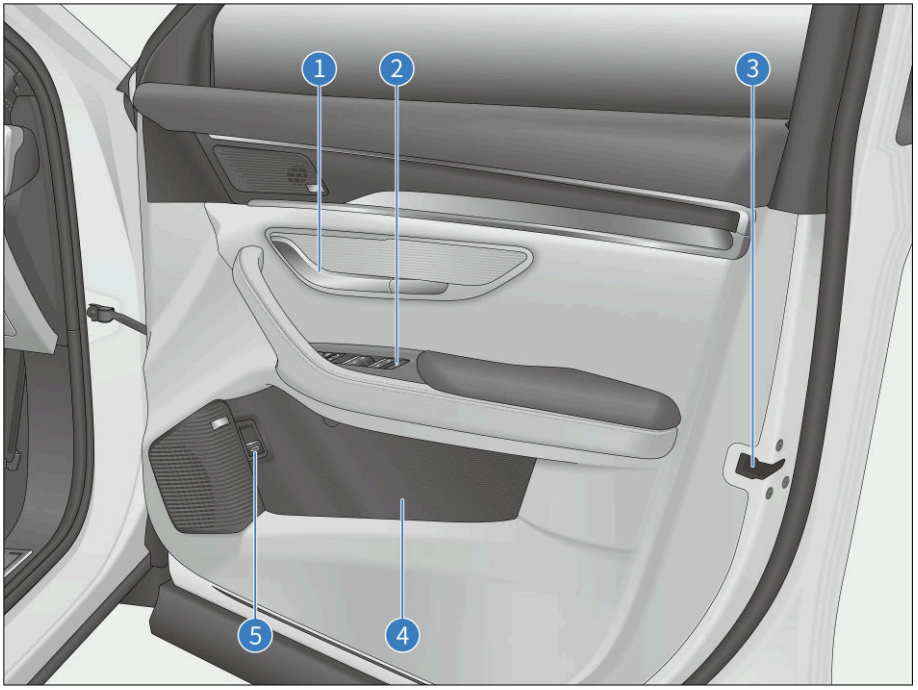
オートビークルホールドスイッチ *(121 ページ)*

4 シフトコントロールパネル *(117 ページ)*

5 ファン ON/OFF *(161 ページ)*

6 モードスイッチユニット *(30 ページ)*

7 センターコンソールボックス *(170 ページ)*



1 ドアノブ *(59 ページ)*

2 運転席側スイッチユニット *(82 ページ)*

パワーウィンドウスイッチ *(82 ページ)*

ウィンドウロックキー *(83 ページ)*

集中ドアロック *(83 ページ)*

ドアミラーの調整ボタン *(79 ページ)*

3 メカニカルキーでの全ドア緊急施錠 *(65 ページ)*

4 ドアポケット *(169 ページ)*

5 車内テールゲートスイッチ *(62 ページ)*

01 安全

シートベルト..... 12
エアバッグ.....15
幼児用補助装置（チャイルドシート）
.....21
デュアルモードシステム動作モード
.....25
イモビライザー.....36
自動車イベントデータ記録システム
.....36

シートベルト

シートベルトについて

シートベルトを正しく使用することで、急ブレーキ、急ハンドル、衝突の際に乗員の死傷者数を大幅に減らすことが研究により明らかになっています。以下をよくお読みになり、厳守してください。

⚠ 注意

- 走行中は常にシートベルトを着用してください。
- 発進前に、乗員全員がシートベルトを確実に締めていることを確認してください。シートベルトを締めていないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- 車両のシートベルトは大人のサイズに合わせて設計されているため、お子様向けではありません。お子様の年齢や体格にあった適切な幼児用補助装置（チャイルドシート）を選定してください（詳細は本章の「幼児用補助装置(チャイルドシート)」の項をご参照ください）。
- シートベルトの破損または異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検や処置を依頼してください。それまでは該当シートを使用しないでください。

- ドライバーおよび乗員全員は常にシートベルトの着用を徹底してください。そうしないと、事故による傷害または重傷を負うおそれがあります。
- お子様は必ずリアシートに乗車させ、シートベルトや幼児用補助装置（チャイルドシート）を確実に締めてください。急ブレーキや衝突事故発生時に幼児用補助装置を利用していないと、生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。お子様がリアシートに立ったり、お子様をひざの上に座らせたりすることがないようにしてください。

シートベルト緊急ロック(ELR)機能

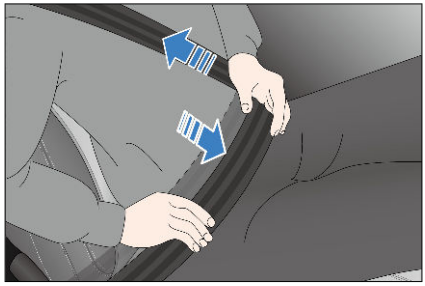
- 急ハンドル、緊急ブレーキ、衝突事故があった場合や、乗員の身体が勢いよく前へ傾いた場合、シートベルトは自動的にロックし、乗員を効果的に拘束および保護します。
- 走行中は、シートベルトが乗員の動きに合わせて伸縮するため、身体を動かしても支障はありません。
- シートベルトの引き出し方が速く、シートベルトがロックされた場合は、シートベルトを 15mm 巻き戻してからゆっくり引っ張り出すと、シートベルトをスムーズに引き出すことができます。

シートベルトのプリテンショナー/ロードリミット機能*

重大な正面衝突事故が発生してプリテンショナーの作動条件が揃うと、プリテンショナーがシートベルトの緩みを瞬時に巻き取りロックすることで、乗員の身体を拘束します。ロードリミッターは、乗員にかかるシートベルトの拘束力を一定レベルに保って、乗員に掛かる過度な負荷を回避します。

シートベルトの着用

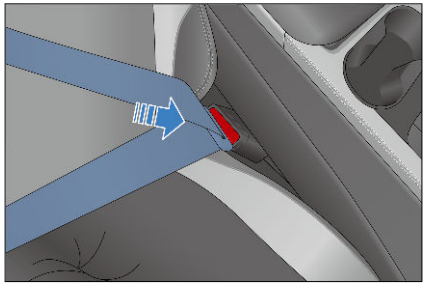
1. シートおよびシートバックを適切な位置や角度に調節します。(*(ページ)*を参照してください)
2. 3 点式シートベルトの位置を調節します。
   - 正しい運転姿勢でシートベルトのストラップをゆっくり引っ張り出し、肩部から胸骨を通すように着用します。シートベルトが脇の下や首の後部に当たらないようにしてください。また、腰ベルトは腰部を押さえず、できる限り骨盤部を通るように着用してください。



注意

- 肩ベルトは、肩の真ん中を通してください。また、シートベルトは首から遠く離し、肩から簡単に外れないようにしてください。そうしないと、急ブレーキや事故時にシートベルトが十分に機能せず、乗員の重大な傷害につながるおそれがあります。
- 事故時に、乗員の腹部にベルトがかかったことで発生する傷害を避けるため、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- シートベルトの保護機能がより発揮できるように、シートベルトを身体に密着させてください。

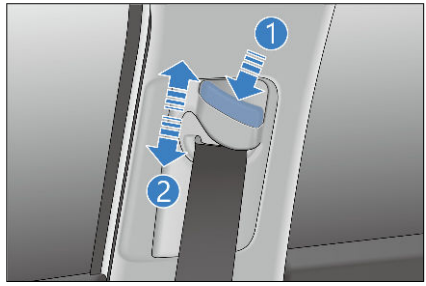
3. タングプレートをバックルに「カチッ」と音がするまで挿し込んでから、反対方向にタングプレートを引っ張り、確実にロックできたかを確認します。シートベルトにねじれがないように注意してください。



4. 最適な快適性と保護機能を得るために、シートベルトのアンカーアジャスター（前側）を適切な位置に調節してください。

①シートベルトのアンカーアジャスターのリリースボタンを押します。

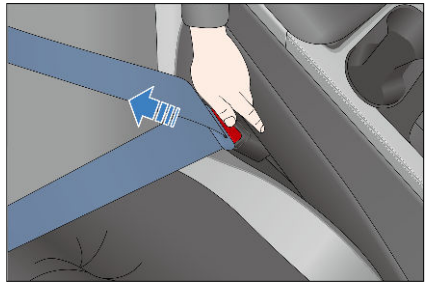
②シートベルトのアンカーアジャスターを上下に動かし、フロントシートのシートベルトを適切な高さまで調節してから、アンカーアジャスターから手を離します。



5. 調節完了後、肩ベルトを強く引っ張り、アンカーアジャスターがロックされているかをチェックします。

6. シートベルトのロックを解除します。

- バックルの赤い解除ボタンを押すと、タングプレートが外れてシートベルトが戻ります。シートベルトがスムーズに戻らない場合は、シートベルトを引き出してねじれがないかをチェックしてください。



お願い

- リアシートのシートベルトが保護機能を確実に発揮できるように、タングプレートを対応するバックルに確実に挿し込んでください。ドライバーには、乗員にシートベルトを正しく着用させる責任があります。
- 発進する前に、乗員全員がシートベルトを締めていることを確認してください。

注意

- シートベルトは 1 人用です。お子様も含め、2 人以上で 1 本のシートベルトを使ってはいけません。
- シートバックを倒しすぎないでください。シートバックを直立にすることで、シートベルトの保護機能が十分に発揮できます。
- シートベルトが破損するおそれがあるため、シートベルトやタングプレート、およびバックルを、ドアや後部席のシートバックに挟まないでください。
- シートベルトを定期的に点検し、切れ、摩耗、緩みなどの異常がないかを確認してください。異常がある場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にチェックや処置を依頼し、それまでは該当シートを使用しないでください。
- シートベルトの取り外し、分解、改造を絶対にしないでください。
- 事故発生後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でシートベルトを点検してください。プリテンショナー機能が作動した場合は、シートベルトを交換してください。

注意

- 重大な事故が発生した場合は、明らかな損傷がなくても、シート ASSY と一緒にシートベルトを交換し、エアバッグシステムを充分に点検してください。
- 妊娠中の方も他の乗員と同じようにシートベルトを正しく着用してください。事故発生時に、腹部にベルトがかかったことによる妊婦や胎児への重大な傷害を起こさないように、腰ベルトを骨盤部のできるだけ低い位置に掛けてください。
- タングプレートとバックルを確実に結合させるために、バックルには、コイン、クリップまたは他の異物を入れないでください。
- シートベルトを正しく使用してください。人が座っていないのにシートベルトを使用しないでください。シートベルトが保護機能を発揮できなくなるだけでなく、シートベルト自体が損傷する可能性があります。
-

シートベルトリマインダー

車両を始動させた後、ドライバーまたは乗員*がシートベルトを着用していない場合、シートベルトを着用するまで音声・光警報システムが作動します。

- シートベルト非着用警告灯
  - いずれかの座席でシートベルトが使われていないとき、シートベルト非着用警告灯が点滅します。
- 非着用座席の表示
  - シートベルトを着用していない座席のシートベルト非着用警告灯が点灯します。
- 前席シートベルトリマインダー

- 電源ポジションを「ON」にしたとき、運転席シートベルトが使われていない、または助手席に着座している乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯し、該当座席の表示灯も点灯します。走行中もシートベルトが着用されていない場合は、シートベルト非着用警告灯が点灯すると同時に警告音を鳴らし、ドライバーや乗員に注意喚起します。

- 後席シートベルトリマインダー*
  - 電源ポジション「ON」時に後部座席の乗員がシートベルトを着用していない場合、シートベルト非着用警告灯が点灯し、該当座席の表示灯も点灯します。走行中、ドライバーまたは乗員がシートベルトを着用していないときは、シートベルト非着用表示灯が点灯すると同時に警告音を鳴らし、ドライバーや乗員に注意喚起します。
- ドライバーまたは乗員がシートベルト*を着用すると、シートベルト非着用警告灯が消灯し、該当座席の表示灯もすべて消灯します。

お願い

- シートベルトリマインダーに異常または故障がある場合は、ただちにBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡し、機能が正常に戻るまでは該当シートを使用しないでください。
- 走行中、乗員はシートに座ってシートベルトを確実に着用してください。着用しないと、急ブレーキや衝突事故時に、乗員の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

エアバッグ

エアバッグについて

- エアバッグは補助拘束システム(SRS)の一部分で、シートやシートベルトの働きを補助します。大きな衝突事故が発生してシステムの作動条件が揃うと、エアバッグが瞬時に膨張します。シートベルトと併用することで、ドライバーおよび乗員の頭部や胸部などを保護し、負傷や死亡の確率を軽減します。
- エアバッグシステムは、衝突の種類によって、フロントエアバッグとサイドエアバッグに大別されます。フロントエアバッグには運転席エアバッグと助手席エアバッグがあり、サイドエアバッグにはシートサイドエアバッグとサイドカーテンエアバッグ、前席ファーサイドエアバッグ*があります。
- エアバッグシステムはシートベルトに取って代わるものではなく、パッシブセーフティシステムの構成部分です。シートベルトを確実に締めていないと、エアバッグシステムは保護機能を最大限に発揮できません。

警告

- シートベルトとエアバッグシステムの保護機能を最大限に発揮できるように、正しい姿勢でシーベルトを着用してください。
- エアバッグの部品を取り外さないでください。
- BYD が装着を認めていないシートカバーでは、エアバッグ性能の低下につながったり、乗員に思わぬ傷害をおよぼしたりするおそれがあります。
- サイドエアバッグと乗員との間には、絶対にものを置かないでください。

警告

- サイドエアバッグが搭載されているシート側面には、大きな力を加えないでください。
- 衝突事故発生時にエアバッグモジュールが膨張せず、プリテンショナーシートベルトがロックされなくても、エアバッグコントロールユニットが正常に作動することを確認するため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

エアバッグ警告灯

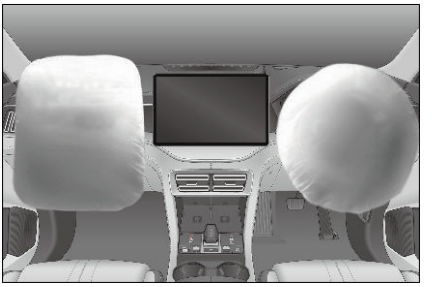
- このエアバッグシステムは、電子コントロールユニットでモニタリングし、自己診断機能により、コンビネーションメーターの故障警告灯でシステム状態を表示します。
- 車両の電源ポジションを「ON」にした後、エアバッグ故障警告灯が約 5 秒間点灯後に消灯した場合、システムに異常がないことを示します。

警告

- エアバッグ故障警告灯が常時点灯している場合は、システムに故障が発生していることを示しています。早めに BYD 指定サービス工場でエアバッグシステムを点検してください。そうしないと、エアバッグの機能動作に影響を及ぼすおそれがあります。
- 車両が浸水した（カーペットが濡れている、車両が水没しているなど）、または浸水によって損傷した場合は、車両の電源を入れずに起動バッテリーの接続を外してください。エアバッグが展開して重大な人身事故につながるおそれがあります。

運転席および助手席エアバッグ

運転席エアバッグはステアリングホイール内、助手席エアバッグはダッシュボード内に搭載されており、「AIRBAG」の表示があります。車両電源投入後、中程度から重度の衝突によってエアバッグの作動条件が揃うと、エアバッグが作動して怪我を軽減します。



- 中程度から重度の正面衝突が発生すると、センサーが急激な減速を検知してコントロールユニットに信号を発信し、フロントエアバッグを瞬時に膨張させます。
- 正面衝突の場合、シートベルトが下半身と胴体を固定し、エアバッグがクッションの役割を果たすことで、頭部と胸部を保護します。
- 衝突の強さがエアバッグ作動のしきい値に達していない場合、シートベルトが保護機能を発揮します。エアバッグは最小限の補助的な保護機能を提供します。
- フロントエアバッグは膨張するとすぐに収縮するため、ドライバーの視線やステアリングホイール、またはその他の制御装置の操作を妨げることはありません。
- エアバッグは作動条件が揃うと瞬間的に膨張するため、事故発生時にドライバーや乗員をさらに保護することができます。
- エアバッグ作動時は大きな音が発生しますが、通常は人に傷害を与えることはありません（耳鳴りまたは一時的な聴力障

害を起こすことはありますが、すぐに回復します）。

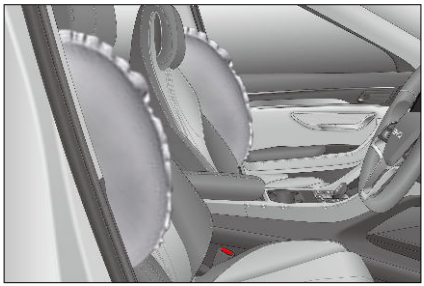
- 衝突後にエアバッグが展開すると、煙や粉じんが発生することがあります。煙や粉じんは無害ですが、呼吸器疾患のある乗員は一時的に不快感を感じることがあります。重篤な不快感があるときは速やかに医師の診断を受けてください。

警告

- スマートフォンホルダー、カップホルダー、灰皿などのアクセサリーは、エアバッグカバーの上またはエアバッグの作動範囲に取り付けないでください。そうしないと、事故発生時にエアバッグが展開することで怪我をする危険性が高くなります。

シートサイドエアバッグ

シートサイドエアバッグはシートバックの外側に取り付けられており、「AIRBAG」の表示があります。車両の電源ポジションが「ON」の場合、走行中に発生した中程度から重度の衝突により、シートサイドエアバッグの作動条件が揃うと、シートサイドエアバッグが作動し、衝突を受けた側の乗員の胸部を保護し、怪我を軽減します。



警告

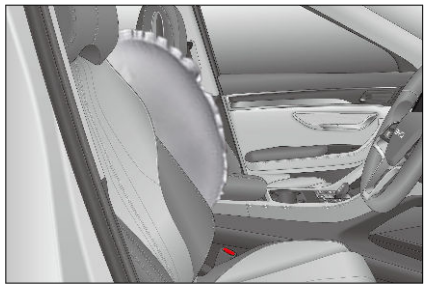
- シートバックを濡らさないでください。シートサイドエアバッグが正常に動作できなくなるおそれがあります。

警告

- シートバックにカバーを掛けたり、自分でシートバックのカバーを交換したりしないでください。不適切なシートバックカバーの交換、または不適切なカバーの使用は、衝突発生時にシートサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- 側面衝突がシステムの作動条件を満たした場合、通常は衝突を受けた側のエアバッグのみが作動します。
- シートサイドエアバッグの機能を最大限発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

フロントファーサイドエアバッグ*

- フロントファーサイドエアバッグは運転席側シートバックの内側に取り付けられており、「AIRBAG」の表示があります。車両電源投入後に発生した中程度から重度の衝突によりファーサイドエアバッグの作動条件が揃うと、ファーサイドエアバッグが作動し、衝突を受けた側の運転席および助手席乗員の頭部や肩部を保護して怪我を軽減します。



警告

- ファーサイドエアバッグシステムが正常に動作できなくなるおそれがあるため、シートバックを濡らさないでください。
- シートバックにカバーを掛けたり、自分でシートバックのカバーを交換したりしないでください。不適切なシートバックカバーの交換や不適切なカバーの使用は、衝突発生時にファーサイドエアバッグの作動を妨げるおそれがあります。
- 助手席側に衝突された場合、乗員が乗っていなくても助手席側ファーサイドエアバッグが作動します。
- ファーサイドエアバッグの機能を最大限発揮させるため、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。

サイドカーテンエアバッグ

- 左右サイドカーテンエアバッグは、ボディーサイドとヘッドライニングの結合部に内蔵されており、A ピラーパネル*、B ピラーパネル、C ピラーパネルに「CURTAIN AIRBAG」の表示があります。車両の電源ポジションが「ON」の場合、中程度から重度の側面衝突を ECU が検知し、作動条件が揃うとサイドカーテンエアバッグが瞬時に膨らみ、衝突を受けた側の乗員の頭部を保護することで怪我を軽減します。



警告

- サイドカーテンエアバッグの機能を最大限に発揮させるために、乗員はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢で身体をシートバックに密着させてください。
- システムの作動条件に達する側面衝突が発生したとき、衝突を受けた側のエアバッグのみが作動します。

エアバッグの作動条件および注意事項

- エアバッグの作動条件は以下のとおりです：エアバッグが作動する決定的な要素は、衝突発生時の衝撃力の強さ、事故パターン、衝突角度、障害物および速度が関係しています。また、特殊な衝突事故が発生した場合も、エアバッグシステムが作動することがあります。
- エアバッグシステムは、すべての事故において機能するわけではありません。軽度な正面衝突や後面衝突、または横転事故が発生した場合は、エアバッグシステムは作動しません。ドライバーや乗員は、確実に保護されるようにシートベルトを正しく着用してください。
- エアバッグシステムが作動する決定的な要素：衝突時に生成され、エレクトロニックコントロールユニット (ECU)によって取得される減速度曲線と設定値を、総合的かつ高度に比較したうえで判断します。衝突時に生成され、検知される減速度曲線などの信号が、ECU 内部に予め設定された基準値より低い場合は、車が衝撃で大きく変形したとしてもエアバッグが作動しません。
- BYD のエアバッグシステムの ECU は、設計段階で、よくある様々な誤作動や道路状況を十分に考慮しています。衝突事故の発生にはいろいろな原因やパターンがあります。安全のため、本オーナーズマニュアルの記載を遵守して正しくご使用

ください。そうしないと、エアバッグが正しく機能しないおそれがあります。

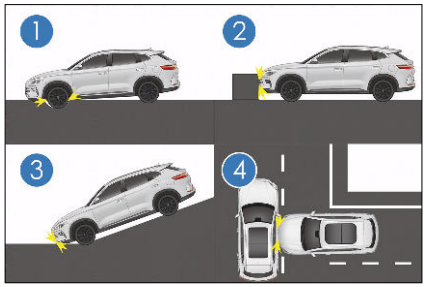
エアバッグが作動するとき

①深い溝を通り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。

②路肩の突起物、縁石などにぶつかったとき。

③急な下り坂を走り、車両の先端部が地面にぶつかったとき。

④車両側面に他の車両がぶつかったとき。



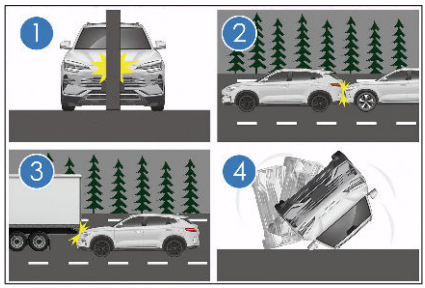
エアバッグが作動しないとき

①コンクリートの柱、樹木または他の細長い物にぶつかったとき。

②後方から追突されたとき。

③トラックの荷台の下に潜り込んだとき。

④車両が横転したとき。

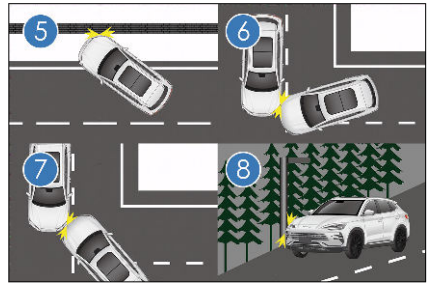


⑤壁または車両に斜めにぶつかったとき。

⑥車室以外の部位で側面から衝突を受けたとき。

⑦側面が斜め方向から衝突されたとき。

⑧側面が柱のような物に衝突したとき。



警告

- エアバッグは指定車種を対象に開発されているため、サスペンション、タイヤ寸法、バンパー、シャーシおよびオリジナルデバイスを変更すると、エアバッグシステムに悪影響を与えます。また、エアバッグシステムのすべての部品を他車種へ流用しないでください。エアバッグシステムが故障し、身体に危害を与えるおそれがあります。
- システム作動時に最も効果的に保護機能を発揮させるために、ドライバーは胸部からステアリングホイールの間を 25cm 以上離してください。
- 走行中はシートベルトを確実に着用し、正しい姿勢を保ってください。シートベルトを着用せずに前かがみになるなど、正しい姿勢をしていない場合は、事故により工アバッグが作動した際に怪我をする危険性が高まります。
- ステアリングホイールキャップの表面、インストルメントパネル右側工アバッグ近くの表面、A、B、Cピラーパネルの表面、シートのドア側工アバッグ部およびその付属品の表面に何かを貼り付けたり、何かで覆っ

警告

たり、装飾を施したりしないでください。汚れは、乾いた布や水で湿らせた布で拭き取り、強く叩かないでください。

- お子様を補助装置なし、または大人が抱きかかえた状態でフロントシートに座らせないでください。事故の発生により エアバッグが作動すると、生命にかかわる重大な怪我につながるおそれがあります。
- スマートフォンホルダー、カップホルダー、灰皿などのアクセサリーは、エアバッグカバーの上またはエアバッグの作動範囲に取り付けないでください。そうしないと、事故発生時にエアバッグが展開することで怪我をする危険性が高くなります。
- サイドエアバッグおよびサイドカーテンエアバッグは、展開速度が速く、かつ衝撃力が強いため、このエアバッグを搭載している車両の走行中は、乗員はドアに寄りかからないでください。ドアに寄りかかった状態で事故に遭うと、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- フロントガラス、ウィンドウガラス、A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネル、アシストグリップなど、サイドカーテンエアバッグが機能する範囲に、アクセサリーやものを置かないでください。サイドカーテンエアバッグの展開により、アクセサリーなどが強く飛ばされたり、サイドカーテンエアバッグが正常に展開できなくなったりすることで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 車を譲渡する場合は、購入時に入手したすべての資料を新しいオーナーに渡してください。

警告

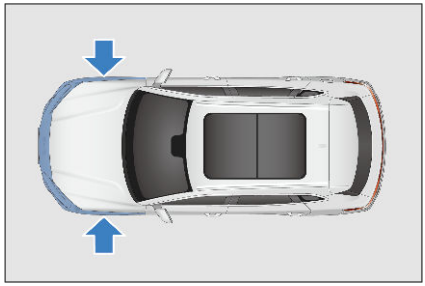
- シート、またはサイドエアバッグ付きシートのトリム部品を改造したり、交換したりしないでください。改造や交換によりサイドエアバッグが正常に展開せず、システムが機能できなくなる、またはサイドエアバッグが予期せずに作動することで、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- サイドカーテンエアバッグが内蔵されている A ピラーパネル、ヘッドライニング、B ピラーパネル、C ピラーパネルの分解や修理をしないでください。分解や修理により、システムが機能できなくなる、またはサイドカーテンエアバッグが予期せず作動し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- エアバッグシステムのすべての構成部品は、関連ラベルを含め、いかなる変更もしないでください。エアバッグに対するすべての作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- エアバッグは、1 回限りの使い捨てです。エアバッグが作動または破損した場合、当該システムを交換してください。
- 車両またはエアバッグシステムの各部品を廃棄処分する場合は、関連する安全規定および廃却処分手順を守ってください。
- エアバッグシステムは、周囲の電磁環境に対して強い耐干渉性と耐妨害性を有します。事故を防ぐため、国が許可した電磁環境以外で車両を使わないでください。
- 一般的な誤操作や道路状況を考慮したエアバッグシステムとなっていますが、事故を防ぐため、車両の底部をぶつけたり、悪路での乱暴な運転はしないでください。

警告

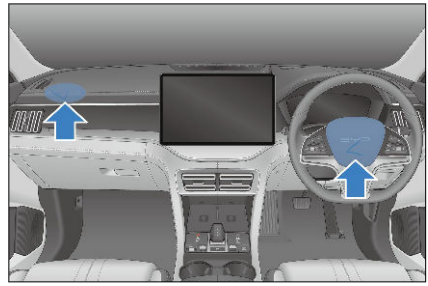
- 本車のエアバッグシステムは十分な検証を受け、オリジナルワイヤーハーネスシステムと完全に適合しています。車両全体のワイヤーハーネスの改造や変更をすると、エアバッグの誤作動または衝突発生時に作動しないおそれがあります。

下記のいずれかの場合は、ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

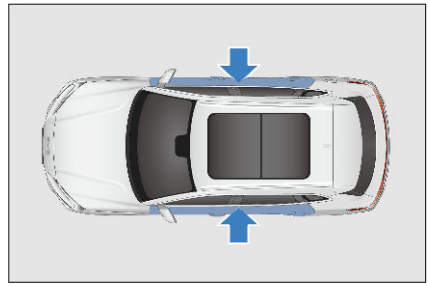
- エアバッグが展開したとき。
- コンビネーションメーターのエアバッグ故障警告灯 が異常点灯しているとき。
- 車両前方（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、フロントエアバッグが展開していないとき。



- エアバッグカバーに、破れ、割れまたはその他の破損があるとき。
- エアバッグの取り外し、分解、取り付け、修理を行う必要があるとき。



- サイドエアバッグやサイドカーテンエアバッグが展開したとき。
- 車両のドア部分（図の網かけ部）で衝突事故が発生したが、エアバッグが展開していないとき。
- サイドエアバッグが格納されているシートの表面に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。
- カーテンエアバッグが格納されている A ピラー、ルーフレール、および C ピラーの装飾（パッド）部に傷、割れ、またはその他の類似破損があったとき。



幼児用補助装置(チャイルドシート)

幼児用補助装置（チャイルドシート）

お子様の年齢や体格にあった、適切な幼児用補助装置を選定してください。

お子様に合った幼児用補助装置を選んでください。お子様の身体が大きくて幼児用補助装置が使えない場合は、リアシートに座らせ、シートベルトを着用させてください。

幼児用補助装置を使わないとき

幼児用補助装置をシートに正しく固定してください。絶対に助手席やトランクルーム内に置かないでください。

注意

- 事故や急ブレーキ時にお子様を確実に守るため、お子様の年齢や体格にあったシートベルト、または幼児用補助装置を使用してください。お子様を腕に抱くことは、幼児用補助装置の代わりにはなりません。事故発生時に、お子様がガラスにぶつかったり、保護者と車両の間に挟まれたりするおそれがあります。
- サイドカーテンエアバッグが搭載されている場合：お子様を幼児用補助装置に乗せていても、頭や体の一部をドア、シート、フロントおよびリアピラーやルーフサイドフレーム（サイドカーテンエアバッグの展開部）に寄りかからせないでください。サイドカーテンエアバッグ展開時の強い衝撃で、お子様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 幼児用補助装置メーカーの取扱説明書に従って幼児用補助装置を正しく取り付けてください。正しく取り付けていないと、緊急ブレーキや事故時に、お子様が生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあります。
- 車両走行の際は、お子様を車内に立たせたり、シートにひざまずかせたりしないでください。緊急ブレーキや衝突が発生した場合、重大な身体的傷害を受けたり、生命の危険にさらされたりするおそれがあります。
- BYD は幼児用補助装置の使用を強くおすすめします。研究によると、フロントシートよりセンターシートとリアシートに幼児用補助装置を取り付ける方が、安全性が高くなります。

注意

フロントシートよりセンターシートとリアシートに幼児用補助装置を取り付ける方が、安全性が高くなります。

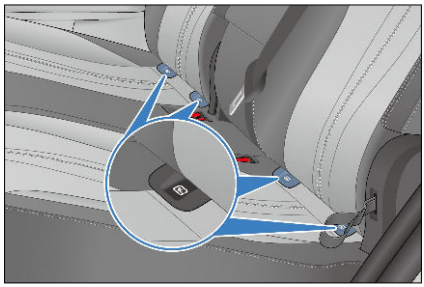
お願い

- BYD は幼児用補助装置の使用を強くおすすめします。研究によると、フロントシートよりリアシートに幼児用補助装置を取り付ける方が、安全性が高くなります。
- 幼児用補助装置メーカーの取扱説明書に従って正しく取り付けてください。チャイルドシートを後部座席の外側にしっかりと固定します。
- トップテザーを確実に固定してください。

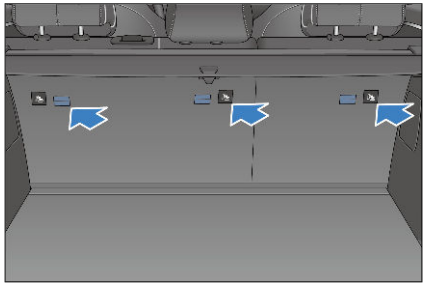
幼児用補助装置の取り付けについて

幼児用補助装置メーカーの取扱説明書に従って正しく取り付けてください。幼児用補助装置を取り付けるときは、リアシートの正しい位置に設置し、トップテザーを確実に固定してください。

- 外側のリアシートには、専用のアンカーが装備されています（アンカー位置を表示するラベルはシートに付いています）。



- リアシートバックの裏側にはアンカーが装備されています。
- トップテザーアンカレッジによるシートベルト固定式幼児用補助装置は、特定の市場でのみ使用できます。



お願い

- アンカーは、シートとシートバックの間の隙間に装備されています。

幼児用補助装置の取り付け手順

1.専用アンカーの位置をチェックし、幼児用補助装置をシートに取り付けます。

2. ヘッドレストを持ち上げ、取り付け金具をシートバック裏側のアンカーにしっかり取り付けた後、トップテザーを締め付けて確実に固定します。

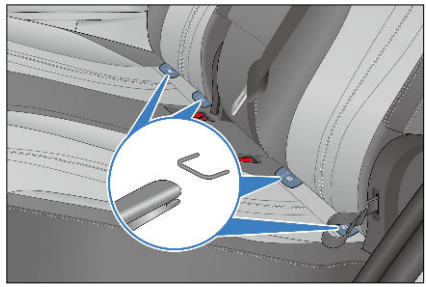
①トップテザー

②アンカー

お願い

- チャイルドシートの固定接続部とアンカーの位置合わせを容易にするため、ガイド溝付きのチャイルドシートを購入するか、ガイド溝を追加装着して利便性を高めることをおすすめします。

3. ヘッドレストを適切な位置に調整します。



お願い

- 幼児用補助装置にトップテザーを備えている場合は、トップテザーをアンカーに留めてください。

- 運転席シートとの干渉により、幼児用補助装置が正しく取り付けられない場合は、幼児用補助装置を右側リアシートに取り付けます。
- フロントエアバッグ（アクティブ状態）で保護されるシートには、後向きの幼児用補助装置を取り付けないでください。事故発生時にフロントエアバッグが展開した衝撃で、お子様の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。

警告

- それぞれの方向に幼児用補助装置を揺らし、確実に取り付けられていることを確認してください。
- 口アアンカーを使う場合は、アンカー周辺に異物がなく、シートベルトが幼児用補助装置の裏側に引っかかっていないことを確認してください。また、幼児用補助装置が確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、緊急ブレーキや事故の際に、お子様の生命にかかわる重大な傷害を負うおそれがあります。
- フロントシートに幼児用補助装置を取り付けないでください。

警告

- 前向きに取り付けるチャイルドシートを使用する際に、ヘッドレストがチャイルドシートバックとリアシートの密着を妨げる場合は、ヘッドレストを取り外してください。
- チャイルドシートの固定バーは、正しく取り付けられたチャイルドシートによって加えられる荷重にのみ耐えることができます。いかなる場合でも、大人用のシートベルトやハーネスとして使用したり、他のものや設備を車両に固定したりしないでください。

座席位置別の幼児用補助装置適合表

重量グループ	座席位置（または他の位置）		
	フロントシート（助手席）	リアシート左右	リアシート中央
グループ 0（10kg まで）	×	U	×
グループ 0+（13kg まで）	×	U	×
グループI (9~18kg)	×	U/UF	×
グループII (15~25kg)	×	UF	×
グループIII (22~36kg)	×	UF	×

注：表に記載されるアルファベットの意味は次の通りです。

U = この重量グループでの使用を許可された汎用型「ベビーシート」に適合している

UF = この重量グループでの使用を許可された前向き汎用型「チャイルドシート」に適合している

× = このシートの位置は、この重量グループの「ジュニアシート」に適合していない

ISO-FIX (ISOFIX)位置別の ISOFIX 幼児用補助装置適合表

重量グループ	サイズ	固定具	座席位置（または他の位置）		
			フロントシート（助手席）	リアシート左右	リアシート中央
キャリコット	F	ISO/L1	×	×	×

重量グループ	サイズ	固定具	座席位置（または他の位置）		
			フロントシート（助手席）	リアシート左右	リアシート中央
	G	ISO/L2	×	×	×
グループ 0（10kg まで）	E	ISO/R1	×	×	×
グループ 0+（13kg まで）	E	ISO/R1	×	×	×
	D	ISO/R2	×	×	×
	C	ISO/R3	×	×	×
グループI (9~18kg)	D	ISO/R2	×	×	×
	C	ISO/R3	×	×	×
	B	ISO/F2	×	IUF	×
	B1	ISO/F2X	×	IUF	×
	A	ISO/F3	×	IUF	×

注 1：ISO/XX サイズ区分表示（A～G）のない幼児用補助装置に適合する重量グループについて、各座席位置で使用できる専用の ISOFIX については、車両製造業者が説明する必要があります。

注 2：表に記載されるアルファベットの意味は次の通りです。

IUF=この重量グループでの使用を許可された前向き汎用型 ISOFIX 幼児用補助装置に適合している

×=ISOFIX 位置は、この重量グループおよび/または本サイズ区分の ISOFIX 幼児用補助装置に適合していない

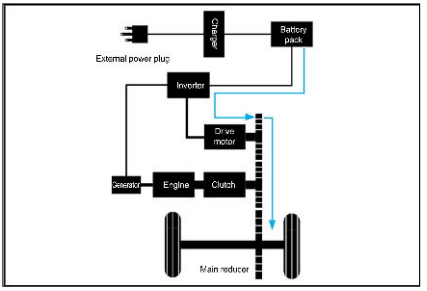
デュアルモードシステム動作モード

デュアルモードシステム動作モード概要

仕様 1（二輪駆動）

「EV」——純電気作動モード

- 純電気作動モードでは、パワーバッテリーが電力を供給し、モーターによって車両が駆動されます。このモードでは、発進、後退、低速走行、加速、等速走行など、様々な状況での走行に対応できます。

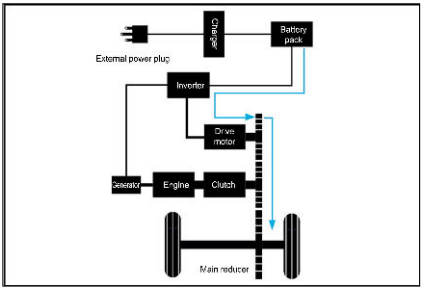


お願い

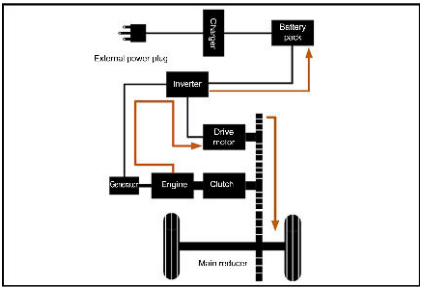
- 急加速、速度超過、登坂、環境温度が高すぎる/低すぎる、バッテリー残量の低下、エンジンメンテナンスが必要などの状況では、車両は自動的に「HEV」モードに切り替わる場合があります。引き続き「EV」モードで走行する場合は、EV モードの条件を満たした上で手動で切り替えてください。温度が高すぎるまたは低すぎる場合は、「HEV」モードを使用し続けることをお勧めします。

「HEV」――デュアルモード動作モード

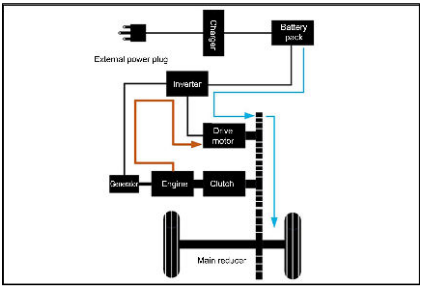
- HEV モードでは、バッテリー残量が多い場合や出力需要が低い場合は、エンジンは始動せず、車両は EV 駆動を優先します。



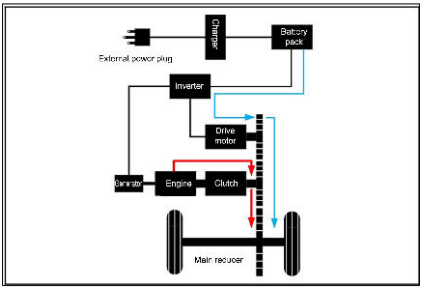
- HEV モードでは、バッテリー残量が少ない場合や出力需要が高い場合は、エンジンが始動して直列モードに移行し、動力性能の要求を満たします。
  - HEV モードでは、エンジンの発電により、バッテリーを充電し、モーターを駆動します。



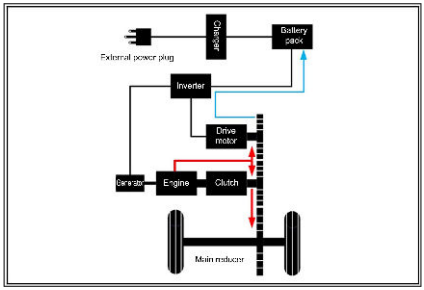
  - HEV モードでは、エンジンが発電し、バッテリーからの放電によってモーターを駆動します。



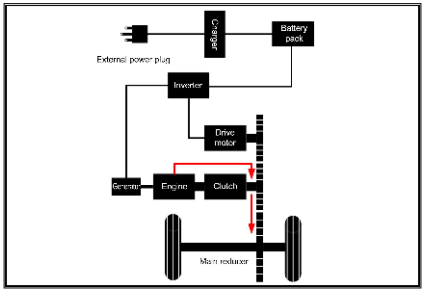
- HEV モードでは、中高速走行時や特定の条件下でエンジンが始動して並列モードに移行し、燃費を向上させます。
  - HEV モードではエンジンとモーターが同時に駆動します。



・HEV モードではエンジンが駆動し、モーターが発電してエネルギーを回収します。



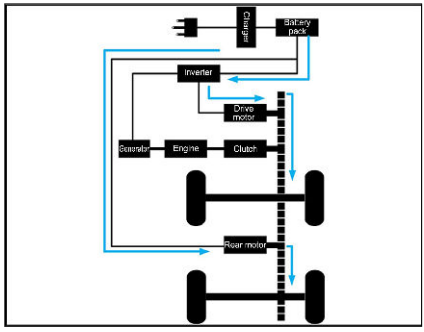
・HEV モードではエンジンが駆動し、モーターは作動しません。



仕様 2（四輪駆動）

「EV」――純電気作動モード

・EV モードでは、パワーバッテリーが電力を供給し、モーターによって車両が駆動されます。このモードでは、発進、後退、低速走行、加速、等速走行など、様々な状況での走行に対応できます。様々な条件に応じて、純電気作動四輪駆動モード、純電気作動前輪駆動モード、または純電気作動後輪駆動モードを自動的に選択します。



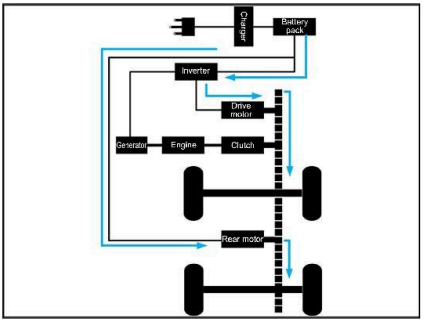
お願い

・急加速、速度超過、登坂、環境温度が高すぎる/低すぎる、バッテリー残量の低下、エンジンメンテナンスが必要などの状況では、車両は自動的に「HEV」モードに切り替わる場合があります。引き続き「EV」モードで走行する場合は、EV モードの条件を満たした上で手動で切り替えてください。温度が高すぎるまたは低すぎる場合は、「HEV」モードを使用し続けることをお勧めします。

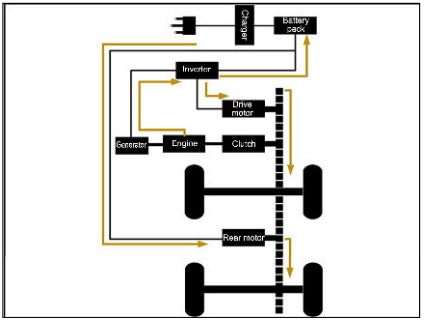
「HEV」――デュアルモード動作モード

・HEV モードでは、バッテリー残量が多い場合や出力需要が低い場合は、エンジンは始動せず、車両は EV 駆動を優先します。

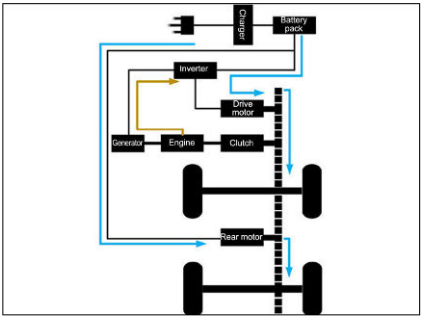
・HEV モードでは、バッテリー残量が少ない場合や出力需要が高い場合は、エンジンが始動して直列モードに移行し、動力性能の要求を満たします。



・HEV モードでは、エンジンの発電により、バッテリーを充電し、モーターを駆動します。様々な条件に応じて、四輪駆動モード、前輪駆動モード、または後輪駆動モードを自動的に選択します。

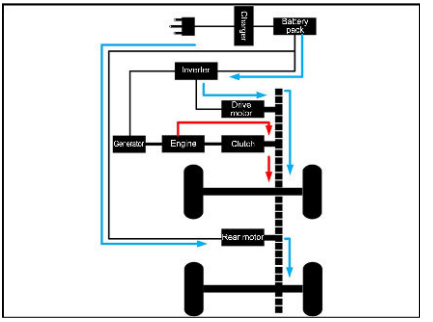


・HEV モードでは、エンジンが発電し、バッテリーからの放電によってモーターを駆動します。様々な条件に応じて、直列四輪駆動モード、直列前輪駆動モード、または直列後輪駆動モードを自動的に選択します。

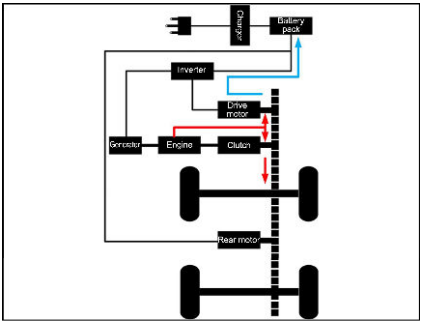


・HEV モードでは、中高速走行時や特定の条件下でエンジンが始動して並列モードに移行し、燃費を向上させます。

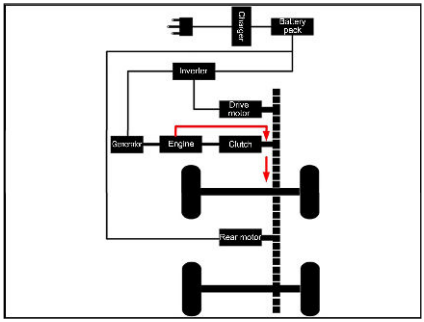
・HEV モードではエンジンとモーターが同時に駆動します。様々な条件に応じて、並列四輪駆動モード、並列前輪駆動モードを自動的に選択します。



・HEV モードではエンジンが駆動し、モーターが発電してエネルギーを回収します。様々な条件に応じて、フロントモーター発電、リアモーター発電、またはフロント・リアモーター同時発電を自動的に選択します。



・HEV モードではエンジンが駆動し、モーターは作動しません。


Charger
Battery pack
Inverter
Drive motor
Generator
Engine
Clutch
Rear motor

デュアルモードシステム動作モード選択

仕様 1 (二輪駆動)



①「EV/HEV」ボタン

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、EV モードが作動します。
- 「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、HEV モードが作動します。

②「MODE」ボタン

- 「MODE」ボタンを前に動かすと、ECO→スノー→SPORT→NORMAL→ECO の順に切り替わります。
- 「MODE」ボタンを後に動かすと、ECO→NORMAL→SPORT→スノー→ECO の順に切り替わります。

EV-ECO 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、メーターの EV 表示灯が点灯し、車両が EV モードであることを示します。メーターの ECO 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、ECO (エコ) モードに入り、最大限の節電ができます。

EV-NORMAL 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、メーターの EV 表示灯が点灯し、車両が EV モードであることを示します。メーターの NORMAL 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、NORMAL (ノーマル) モードに入り、快適性と電力消費量を両立させることができます。

EV-SPORT 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、メーターの EV 表示灯が点灯し、車両が EV モードであることを示します。メーターの SPORT 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、スポーツ

(SPORT)に入り、最適な動力性能を発揮できます。

HEV-ECO 駆動モード：

・「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、メーターの HEV 表示灯が点灯し、車両が HEV モードであることを示します。メーターの ECO 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、ECO (エコ) モードに入り、最適な燃費性能を発揮できます。

HEV-NORMAL 駆動モード：

・「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、メーターの HEV 表示灯が点灯し、車両が HEV モードであることを示します。メーターの NORMAL 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、ノーマル (NORMAL)に入り、快適性と燃費性能を両立させることができます。

HEV-SPORT 駆動モード：

・「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、メーターの HEV 表示灯が点灯し、車両が HEV モードであることを示します。メーターの SPORT 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、SPORT (スポーツ) モードに入り、最適な動力性能を発揮できます。

MAX EV 駆動モード：

・ MAX EV モードは、ドライバーの「燃料を使わず、電気のみを使う」というニーズに応え、車両の純粋な電気走行を最大限に保証します。パワーバッテリー残量が十分にある状態で MAX EV モードに入る必要がある場合は、メーターの EV 表示灯が青色に点灯するまで、「EV/HEV」ボタンを前方に 3 秒間押し続けてください。MAX EV モードに切り替わると、車両の出力は一定程度制限されます。その後、パワーバッテリー残量が低下すると、車両は自動的に「HEV-ECO」モードに切り替わります。

スノーモード

・ メーターのスノーモード表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、スノーモードに入り、雪などの滑りやすい路面での走行に適応します。

仕様 2（四輪駆動）



①「EV/HEV」ボタン

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、EV モードが作動します。
- 「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、HEV モードが作動します。

②「MODE」ボタン

- 「MODE」ボタンを前に動かすと、ECO→マッド/ラッツ→サンド→SPORT→NORMAL→ECO の順に切り替わります。
- 「MODE」ボタンを後に動かすと、ECO→NORMAL→SPORT→スノー/グラベル/グラス→サンド→マッド/ラッツ→ECO の順に切り替わります。

EV-ECO 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、メーターの EV 表示灯が点灯し、車両が EV モードであることを示します。メーターの ECO 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、ECO（エコ）モードに入り、最大限の節電ができます。

EV-NORMAL 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、メーターの EV 表示灯が点灯し、車両が EV モードであることを示します。メーターの NORMAL 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、NORMAL（ノーマル）モードに入り、快適性と電力消費量を両立させることができます。

EV-SPORT 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを前に動かすと、メーターの EV 表示灯が点灯し、車両が EV モードであることを示します。メーターの SPORT 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、スポーツ(SPORT)に入り、最適な動力性能を発揮できます。

HEV-ECO 駆動モード：

- 「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、メーターの HEV 表示灯が点灯し、車両が HEV モードであることを示します。メーターの ECO 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、ECO（エコ）

モードに入り、最適な燃費性能を発揮できます。

HEV-NORMAL 駆動モード：

・「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、メーターの HEV 表示灯が点灯し、車両が HEV モードであることを示します。メーターの NORMAL 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、ノーマル (NORMAL)に入り、快適性と燃費性能を両立させることができます。

HEV-SPORT 駆動モード：

・「EV/HEV」ボタンを後に動かすと、メーターの HEV 表示灯が点灯し、車両が HEV モードであることを示します。メーターの SPORT 表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、SPORT (スポーツ) モードに入り、最適な動力性能を発揮できます。

MAX EV 駆動モード：

・ MAX EV モードは、ドライバーの「燃料を使わず、電気のみを使う」というニーズに応え、車両の純粋な電気走行を最大限に保証します。パワーバッテリー残量が十分にある状態で MAX EV モードに入る必要がある場合は、メーターの EV 表示灯が青色に点灯するまで、「EV/HEV」ボタンを前方に 3 秒間押し続けてください。MAX EV モードに切り替わると、車両の出力は一定程度制限されます。その後、パワーバッテリー残量が低下すると、車両は自動的に「HEV-ECO」モードに切り替わります。

サンドモード

・ メーターのサンドモード表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、サンドモードに入ります。

・柔らかく、乾燥し、車輪が沈み込みやすい地面 (乾燥した砂漠、砂丘、砂地など) で使用します。

・砂利の層が深い地面を走行する場合にも、このモードを使用できます。

スノー/グラベル/グラスモード

・ メーターのスノー/グラベル/グラスモード表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、スノー/グラベル/グラスモードに入ります。

・表面が固いものや滑りやすいもの (草、雪、氷や砂利など) で覆われている路面で使用します。

・滑りやすい路面を走行する場合の運転性、操縦性および車両の安定性を向上させるため、アクセルペダルを頻繁に深く踏む操作を避けてください。

マッド/ラッツモード

・ メーターのマッド/ラッツモード表示灯が点灯するまで「MODE」ボタンを動かし続けると、マッド/ラッツモードに入ります。

・ぬかるみ、深いわだち、または柔らかくて凹凸のある路面で使用します。

⚠ 注意

・ 通過する砂地が湿っていたり、車輪が沈むほど砂の層が厚い場合は、マッド/ラッツモードを選択してください。

・ 砂利の層が比較的深い路面を走行する場合は、サンドモードを選択することを推奨します。

・ 柔らかい砂地、雪地・砂利地・草地の環境で走行する際、ESC システムが作動して車両の性能が低下した場合は、ESC システムを OFF にすると車両性能が向上します。困難な路面状況を脱した後、ESC システムを再度 ON にしてください。

デュアルモードシステム動作モードの注意事項

車両はガソリンと電力の組み合わせで作動するため、以下の項目に特に注意してください。

- 高温または低温の環境では、パワーバッテリーの性能が低下します。パワーバッテリーの損傷を防ぐため、以下の状況が発生する可能性があります。
  - 温度が高すぎるまたは低すぎる場合、車両は充放電電力と電力量を制限します。
  - 温度が-30℃より低いまたは 60℃より高い場合、車両は充電できません。
  - 温度が-35℃より低いまたは 60℃より高い場合、車両は放電できません。
- 温度が-20℃以上の環境で車両を利用することをお勧めします。もし上記のような特殊環境で利用する場合は、エンジン駆動による走行をお勧めします。
- バッテリーの最適使用温度は 25℃です。温度が高すぎるまたは低すぎる場合、バッテリーは出力電力を制限し、純粋な電気走行時の走行距離も短くなります。

高電圧部品および高温部品に注意してください

- 車両には、パワーバッテリーとその他の高電圧部品に接続されたオレンジ色のケーブルが装備されています。

警告

- オレンジ色のケーブルまたはパワーバッテリーの電極に触れないでください。感電した場合、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- すべての警告ラベルをお読みください。

- モーター、冷却水ラジエーター、およびその他一部の部品は、走行中に高温になることがあります。これらの部品には警告ラベルが付いています。これらの警告ラベルに記載された説明をよくお読みになり、遵守してください。

警告

- いかなる高電圧部品も分解または解体しないでください。生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。
- 衝突や水没など、高電圧システムの損傷を引き起こす可能性がある状況が発生した場合は、感電のリスクを避けるため、早急に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 車両に漏電警告が表示された場合や、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場の診断により車両に漏電があると判定された場合は、感電のリスクを避けるため、車両の使用を中止してください。
- 高電圧がかかっている部品には絶対に触れないでください。誤った操作により感電し、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- 車両はガソリンエンジンとモーターによって走行するため、モータールームからエンジンの音が聞こえる場合があります。
- 車両の電源ポジションを「ON」にする場合、または電源ポジションを「OFF」にする場合、センターコンソールの下方にある高電圧部品から、音（コンタクタの吸着音または切断音）が聞こえる場合がありますが、故障ではありません。
- 表示灯「 OK 」が点灯した場合は、ガソリンエンジンが作動していなくても、車両が走行可能である（モーターのみで駆動する）ことを示します。
- 駐車時は、必ず「P」レンジボタンを押してください。「P」または「N」レンジで、

バッテリー残量が一定値以下になった場合、エンジンが始動してパワーバッテリーを充電することがあります。シフトレバーを「N」、「R」、「D」レンジの位置に長時間入れたままにすると、システム故障を引き起こす可能性があります。そのため、シフトレンジの切り替えが完了した後は、必ずシフトレバーから手を離してください。車両を離れる際には、必ず電動パーキングブレーキスイッチを ON にし、「P」レンジボタンを押し、キーを携帯し、全てのドアを施錠してください。

- 起動バッテリーが故障して、完全に放電した場合、12V 外部電源を使用しても車両のジャンピングスタートはできません。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

警告

- 車両を離れる際には、必ず電源システムを OFF にしてください。
- 表示灯「 OK 」が点灯しているときは、エンジンが停止している状況でも、車両は起動できる（モーターによる駆動ができる）ため、必ず「P（パーキング）」レンジボタンを押してください。
- 表示灯「 OK 」が点灯しているときにシフトレバーを「R」または「D」レンジに入れると、ブレーキペダルを踏んでいなくても車両は低速で走行します。十分に注意してください。

- 車両の修理またはメンテナンスを行う場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。
- 車両が事故やその他の理由により修理できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。
- 車両には密閉型ハイブリッド始動用鉄イオンバッテリーが使用されているため、車両の処理を行う際は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

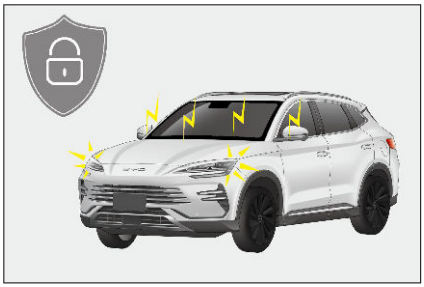
警告

- 事故が発生した場合、以下の操作を実施して、高電圧漏電のリスクを低減してください。
  - 車両を安全な場所に移動させます。
  - ブレーキペダルを踏んで、電動パーキングブレーキスイッチを押します。
  - 「P」レンジボタンを押し、デュアルモードシステムを停止します。
- 車両が深刻な損傷を受けている場合は、感電するおそれがあります。感電を避けるため、高電圧部品（バッテリーコンポーネントなど）や部品に接続しているケーブルに触れないでください。車内または車外に露出した電線がある場合、感電を避けるため、触れないでください。
- 液体が漏れ出した場合、または車両の一部の部品に液体が流入した場合は、起動バッテリーから漏れた電解液である可能性があるため、これらの液体に触れないでください。液体が皮膚に付着したり、目に入ったりした場合は、直ちに多量の水（できればホウ酸溶液）で洗い流し、重傷を避けるため即座に医療機関を受診してください。
- 車両に火災が発生した場合は、電気火災専用の消火器を使用して消火するか、消防隊の到着を待ってください。
- 車両のけん引が必要な場合は、4 輪を地面から浮かせるけん引方式を選択してください。けん引時に車輪が地面に接触していると、モーターが発電を続け、漏電の原因となる可能性があります。

イモビライザー

イモビライザー

盗難防止機能が作動している状態でいずれかのドアを開けると、車両の盗難を防ぐためにシステムが警報音を鳴らすと同時にターンシグナルランプが点滅します。



イモビライザーを有効にする

1. 電源ポジションを「OFF」にします。
2. すべての乗員が車両から降ります。
3. すべてのドアを施錠すると、セキュリティ表示灯が点灯し続け、10 秒後にイモビライザーが自動で設定されます。システムの設定が完了すると、セキュリティ表示灯は点滅します。
4. 表示灯が点滅していることを確認して車両から離れます。車内からドアを解錠するとシステムが作動するため、システム設定中は車内に残らないでください。

警報の作動

- 下記のいずれかの場合、システムは警告音を鳴らします。
  - リモートキーを使わずに機能を ON にし、ドアやテールゲート、ボンネットを解錠したとき。

警報の解除

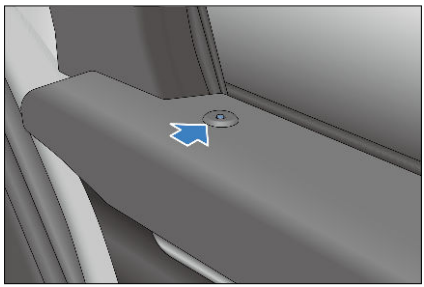
- 下記の操作を行うと警報を解除できます。
  - リモートキーでドアを解錠する。
  - マイクロスイッチでドアを解錠する。
  - リモートキーの遠隔操作でテールゲートを開ける。
  - リモートキーの遠隔操作で車両を始動する。
  - リモートキーを携帯した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押す。

警告

- 変更や追加によるイモビライザーの改造をしないでください。このような変更は、システム故障につながるおそれがあります。

セキュリティ表示灯

イモビライザーの設定中は、セキュリティー表示灯は 10 秒間点灯します。



自動車イベントデータ記録システム

データの収集および処理

- 本節では、BYD の車両をご利用いただく際に、システムが個人データをどのように収集および処理するかについて、重要な情報を提供します。

- データ処理、データ保護およびデータ主体の権利についての詳細は、BYD のホームページにアクセスし、最新版の車両プライバシーポリシーをご覧ください(→システム設定→更に表示→プライバシーポリシー)。
- 本車両には、イベントデータレコーダー (EDR) を備えています。主に特定の衝突事故またはこれに類する衝突事故が発生した場合 (たとえば、エアバッグの展開または障害物への衝突時)、安全関係システムの状態データを記録し、以下の車両システムの稼働状況を把握するために使用します。
  - 車両の速度。
  - タイヤ空気圧の状況。
  - アダプティブクルーズコントロールシステムの状態。
  - シートベルトの着用状況。
- 衝突またはこれに類する衝突事故が一定のレベルに達した場合のみ、車両は EDR データを記録します。車両が正常に走行している間は、EDR データを記録しません。
  - EDR システムに記録された関連情報をもとに事故分析ができるよう、事故発生時の車両安全に関連するシステムの状態を把握します。
  - EDR データは、特別な機器で車両にアクセスして読み出す必要があります。BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。車両メーカー以外に、専門機器を所有する第三者機関 (政府機関など) が車両 EDR にアクセスする権限および機器を持っている場合は、EDR データ情報を読み出すことができます (例えば、エアバッグコントロールユニットのデータを読み出して事故分析を行います)。

車両データの処理

- 車両センサーやコントロールユニットが収集または送信するデータなど、車両利用時にシステムが収集したデータは、車両の安全運転に必要なものです。
- 場合によって、収集されたデータは、運転支援 (ドライバー補助システム) や、特定の快適機能、インフォテインメント機能の作動に利用されます。
- 収集、処理される個人データは、主に車載データ、遠隔サービス関連のデータおよびその他のデータを含みます。詳細は次の通りです。

車載データ

走行データ

- 車両を使用中、システムはそれぞれの車両状態データ (速度、バッテリー残量、ブレーキシステムなど) または周囲の状況 (距離センサー、温度など) の収集と処理を行います。
- 上記のデータは通常保存されませんが、コントロールユニット、センサーまたは車両に取り付けられたデータを記録する他のユニットは、メンテナンス要求、エラー情報、その他の情報の記録に用いられます。
- 車載データは、車載デバイスにのみ保存されますが、法律で義務付けられる OBD (「車載式故障診断装置」) のポートを介し、それらのデータを読み取ることができます。例えば、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場、もしくは他の第三者がデータを読み取ることができます。
- 車両の整備中にシステムへアクセスする場合、これらの情報も品質検査保証、製品不具合報告またはユーザークレームの検証を目的として、BYD 技術者に提供されます。

遠隔サービス関連データ

遠隔監視サービス

- 車両は遠隔監視サービス機能を備えています。
- これには、安全性を確保するための遠隔診断・無線通信（OTA）によるアップデートおよびアップグレード（オーナーの了承が必要）などの遠隔監視サービスが含まれます。
- 監視サービスの目的：サービスの提供（遠隔支援/診断）、製品開発とセキュリティ/パブリックセーフティ。
- 使用される国または設定により、車両位置情報、車両状態（電費、速度、シフトポジション、電源ポジション、エレクトロニックスピードコントローラーの状態、ステアリングシステムの状態、バッテリーの状態、パワーユニットの状態、車両の性能状態など）を含む各種の車両情報は、上記の目的で BYD のサーバーに送信されることがあります。

その他

インフォテインメントシステム

- 車両の仕様により、ドライバーは自らインフォテインメントシステムでビデオを再生するためのメディアデータ、ナビゲーションシステムに用いられるアドレスデータ、またはオンラインサービスに用いられるデータなどをインフォテインメントシステムに追加することができます。
- 車両の仕様により、車両の個人設定にアクセスできます。
- 車両に保存されているデータは、いつでも削除できます。
- BYD は、第三者に送信されたデータを管理することはできません（特に、オンラインサービスの一部として第三者のコンテンツを使用した場合）。

モバイルデバイスの集積

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムを介して、モバイルデバイスの接続や制御を行うことができます。
- デバイスの画面または音声は、インフォテインメントシステムを介して表示/再生、またはシステムへの転送が必要な場合があります。
- 位置情報や車両情報のような付加データは、アプリケーションを介して送信し、ナビゲーションシステムや通信、または他の第三者サービスに用いることができます。
- データ処理の具体的なパターンはそれぞれの機能に依存し、ユーザーまたはデバイスや関係サービスを提供する第三者が制御します。

インターネットアクセスと接続サービス

- 車両の仕様により、インフォテインメントシステムのネットワークデバイスを介してインターネットにアクセスすることで、特定の機能または BYD のサービスを利用することができます。
- BYD は他の当事者が提供するこのようなサービスについて一切の責任を負いません。
- このような場合、データ使用に関する情報は、関連するオンラインサービスプロバイダーにお問い合わせください。

カメラ映像の記録/周辺区域の監視

- 車両には、複数のカメラ/センサーが搭載されています。
- 一部の機能は、車両の進路を感知して評価する必要があるため、車両周辺のもの（障害物など）を感知するカメラにより行われます。
- オペレーティングシステムが必要とする更なる分析を行うため、映像は関連する制御モジュールに送信されます。
- 一部の映像はランダムアクセスメモリ（RAM）でのみ処理され、その他の映像は車両の装備に応じて保存されることがあります。

- 車両は、周囲の撮影に用いられる室外向きカメラ (OFC) を搭載していることがあります (ドライブレコーダー)。
- 車内の撮影に用いられる室内向きカメラ (IFC) を搭載することができます。
- 2 種類の映像はすべて車内に保存されます。
- カメラを起動させる場合、ドライバーは居住地の法的要件を確認する責任があります。
- OFC または IFC を起動させる前に、関連する法的要件を確認してください (国によっては、IFC の使用許可を得る必要があり、ドライブレコーダーに利用される OFC を厳しく制限する国もあります)。
- 搭載される可能性のあるカメラの詳細については、本オーナーズマニュアルの「BYD アラウンドビューシステム」のセクションを参照してください。

車両の第三者への譲渡、およびオフラインモード

- 車両を売却または譲渡する場合、新しい所有者はインフォテインメントシステムを介して設定されたカスタマイズ/ユーザー設定のすべてにアクセスできます (住所リスト、ナビゲーションシステムなど)。

お願い

- 車両を廃車や譲渡する場合、お客様個人のプライバシーを守るため、工場出荷時の設定に戻すことをおすすめします。

- 車両をオフラインモードに設定することで、車両と BYD データサーバー間の通信、車両関係データや個人データの処理を制限することができます。
  - PAD をタッチして Wi-Fi を OFF にします。
  - 次の操作でも、Wi-Fi を OFF にできます。コントロールパネル→ →システム設定→ネットワーク→無線 LAN の設定画面から変更できます。

当局への個人情報開示

- BYD は、法律で許可されている、またはお客様の同意を得た場合にのみ第三者に対して個人データを開示します。
- ただし、適用される法律に従って、政府機関は車両からデータを読み出す権限を付与されることがあります (例えば、事故究明のために、データをエアバッグコントロールユニットから読み出す)。
- 法律で義務付けられている場合、BYD は犯罪捜査などの要求に従って、お住まいの国/地域の政府当局に対してデータを開示する義務を負う場合があります。

ユーザーのデータ保護の権利

- BYD はお客様のプライバシーを尊重し、すべてのデータ保護法、特に一般データ保護規則 (GDPR) および適用する現地の法律を厳しく遵守します。
- これらの法律によって個人データが処理される際、オーナーは特定の権利を有します。
- データ主体は、情報の通知を受ける権利、アクセス権、訂正権、削除権 (「忘れられる権利」)、および個人データの処理に異議を唱える、または制限する権利 (または同意を撤回する権利、およびデータの移植性に対する権利) を有します。
- 場合によっては、これらの権利は制限されることがあります。たとえば、お客様のデータを処理する法的義務があると表明できる場合、または情報の提供により、別の人物に関する個人データが開示される場合、もしくは法律によりそれらの情報の開示が禁止される場合です。

- 場合によって、同意を撤回されたとしても、当社は関係データを保持できる場合があります。
- データ処理やデータ保護、およびお客様の権利についての詳細については、マルチメディアシステムで最新版のプライバシーポリシーをご覧ください（→システム設定→更に表示→プライバシーポリシー）。

個人情報およびプライバシー保護

- 当社は個人のプライバシーを尊重し、その保護を重視しています。個人情報の重要性を深く認識しており、プライバシー保護の理念を製品設計プロセスに組み込み、適切な技術的措置を講じる最大限の努力を払い、お客様の個人情報を保護します。
- 当社はスマートフォンアプリと車載システムを通じて詳細なプライバシーポリシーを提供しています。お客様は以下の場所からご確認いただけます。
  - スマートフォンアプリ：設定→プライバシーセンター
  - 車両システム：設定→DiLink→システム→プライバシーポリシー

お願い

- なお、上記の場所は、スマートフォンアプリや車載システムの実際の場所と若干異なる場合があります。詳細は実際の場所に準じてください。

- 特に注意が必要なのは、当社が提供する自動車製品には、当社が開発したもの、第三者と共同で開発したもの、または第三者単独で提供する製品やサービスが含まれる可能性があるため、自動車製品の特定機能を使用する前に、必ず該当する機能に対応する利用規約、プライバシーポリシー、その他の説明をよくお読みになり、その内容を十分にご理解いただきますようお願い申し上げます。
- 通常、当社はお客様の個人情報を以下の方法で収集・処理いたします。詳細は、お客様の車両に対応するスマートフォンアプリ、車載システム、または特定の機能ごとの利用規約、プライバシーポリシー、その他の説明・注意事項を参照してください。

個人情報の収集方法について

- データ収集の方法には、能動的収集とバックグラウンド収集が含まれます。当社は、アプリのプライバシーポリシーおよび車載端末のプライバシーポリシーに基づき、お客様から明確な許可と同意を取得した場合に限り、関連する情報の処理を開始します。個人の機密情報を収集する前には、明示的なポップアップを通じて、ユーザーからの個別同意を得ます。個人情報の処理目的、処理方法、または取り扱う個人情報の種類などに変更が生じた場合、改めて個人の同意を取得します。個人は、簡単な方法で同意を撤回することができます。当社が収集する情報の量、種類、頻度は、いずれも最小限の範囲に限定されています。

個人情報の使用方法について

- 当社は、プライバシーポリシーに記載された目的または法令に基づく監督機関への報告が必要な場合にのみ個人情報を使用します。個人情報をプライバシーポリシーに記載されていない他の目的に使用する場合、または特定の目的で収集した情報を他の目的に使用する場合は、事前にお客様の同意を取得します。

個人情報の共有、移転、開示方法

- 共有：お客様から明確な同意をいただいた場合、または法令で定められている場合を除き、当社はいかなる会社、組織、個人ともお客様の個人情報を共有しません。また、当社が個人情報の共有先となる会社、組織、個人に対しては、当社の指示、プライバシーポリシー、その他関連する全ての機密保持および安全対策に従って個人情報を処理するよう求めています。
- 移転：お客様が指定する個人情報処理者への移転を明確に要請した場合、または

合併、買収、破産清算に関連する場合を除き、当社はお客様の個人情報をいかなる会社、組織、個人にも移転しません。個人情報の移転が行われる場合、当社は受領者の名称、連絡先、処理目的、処理方法および個人情報の種類をお客様に開示し、お客様の個人情報を受領する会社、組織が関連するプライバシーポリシーを引き続き遵守するよう求め、また必要に応じて当該会社、組織が改めてお客様からの許可や同意を求めるよう要求します。

- 開示：当社は、お客様の個別の同意を得た場合、または法律・法的手続き・訴訟・政府当局の強制的要求がある場合に限り、個人情報を開示します。

個人情報の保存方法について

- 当社は、製品・サービスの提供目的に必要な最短期間、または法律で定められた期間のみ個人情報を保持します。お客様がご利用になる製品・サービスによって、個人情報の保存期間は異なる場合があります。
- お客様の個人情報は中国本土に所在するクラウドサーバーに保存され、お客様の個別の同意なしに国外へ転送されることはありません。

未成年者の個人情報の取り扱いについて

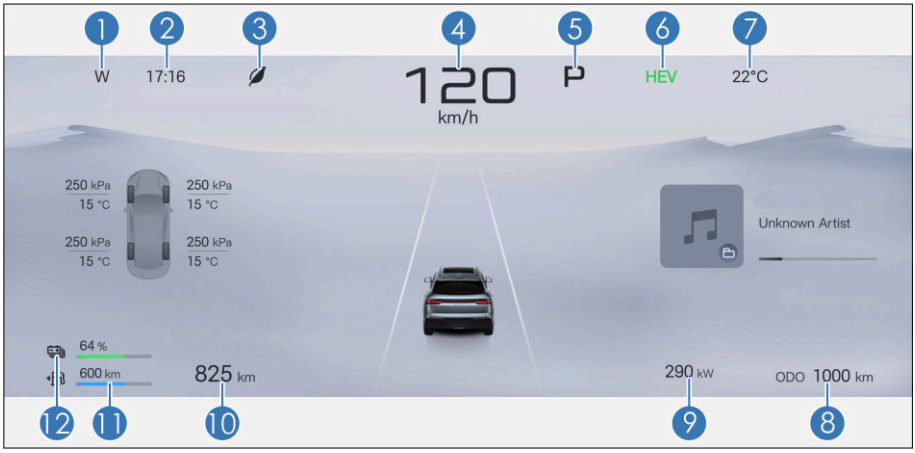
- 当社は未成年者の個人情報保護を非常に重視し、その保護に取り組んでいます。当社の製品およびサービスは成人向けであり、未成年者が保護者または法定後見人の同意なしに自身のユーザーアカウントを作成することはできません。14 歳未満の未成年者の個人情報を法定後見人の同意を得て収集する場合、当社は法令で認められている場合、法定後見人の明確な同意がある場合、または 14 歳未満の未成年者の正当な権益を保護するために必要な場合にのみ、このデータを使用します。

02 メータークラスター

コンビネーションメーター.....44

コンビネーションメーター

コンビネーションメーターイメージ



1	方位	7	外気温度
2	時間	8	オドメーター
3	運転モード	9	パワーメーター
4	スピードメーター	10	走行可能距離
5	シフトポジション	11	燃料残量計
6	パワーモード	12	バッテリー残量

お願い

上記はイメージ図であり、参考用です。

メーター表示灯

表示灯/警告灯の標識

	方向指示表示灯		ポジションランプ表示灯

	給電表示灯		ナビゲーションパイロット表示灯*
	ヒルディセントコントロール表示灯		自動緊急ブレーキ表示灯*
	オートビークルホールド表示灯	OK	OK 表示灯
ECO	ECO モード表示灯		ロービーム表示灯
SPORT	SPORT モード表示灯		アダプティブクルーズコントロール表示灯*
NORMAL	NORMAL モード表示灯		ブラインドスポットインフォメーション表示灯*
EV	EV モード表示灯	HEV	HEV モード表示灯
	ハイビームアシスト表示灯*		ハイビーム表示灯
	燃料レベル低下警告灯		アダプティブクルーズコントロール故障表示灯*
	自動緊急ブレーキ故障警告灯*		スノーモード表示灯
	リアフォグランプ表示灯		ヘッドライト故障警告灯
	ESC 故障警告灯		ESC OFF 警告灯

	タイヤ空気圧故障警告灯		リモートキーシステム警告灯
	マスターウォーニング表示灯		パワーバッテリー残量低下警告灯
	ABS 故障警告灯		駆動パワー制限表示灯
	エンジン故障表示灯		オイルライフインフォメーション表示灯*
	ヒルディセントコントロール故障警告灯*		DMS セルフチェック故障警告灯
	CPD 故障警告灯		ドア状態表示灯*
	シートベルト非着用警告灯		電動パーキングブレーキ表示灯
	充電接続表示灯		SRS 故障警告灯
	パーキングシステム故障警告灯		パワートレイン故障警告灯
	パワーバッテリー故障警告灯		パワーバッテリー過熱警告灯
	モーター過熱警告灯		けん引モード表示灯
	ステアリングシステム故障警告灯		モーター冷却水オーバーヒート警告灯
	交通標識認識システム表示灯		オイル圧力低下警告灯

	モーター故障警告灯*		低電圧給電システム故障警告灯
	エンジン冷却水オーバーヒート表示灯		

コンビネーションメーター故障/警告灯説明

リモートキーシステム警告灯

- リモートキーが車内にない状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯が数秒間点灯すると同時にスピーカーから音が 1 回鳴り、ディスプレイに「キー検出不可。車内にキーがあるか確認してください」と表示されます。
- リモートキーを所持した状態で「スタート/ストップ」ボタンを押すと、警告灯は点灯せずに車両が始動します。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押したときに警告灯が点滅している場合は、キーのバッテリー残量が少ないことを表します。

ABS 故障警告灯

- 車両の電源ポジション「ON」時に警告灯が点灯します。ABS が正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障などが発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- ABS 故障警告灯が点灯 (パーキングシステム故障警告灯は消灯)している場合は、ABS は作動していませんが、パーキングブレーキは正常に作動します。
- ABS 故障警告灯が点灯 (パーキングシステム故障警告灯は消灯)している場合は、ABS が作動しないため、急ブレーキや滑りやすい路面でブレーキを踏むと、ホイールがロックします。
- 下記状況のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、車両の点検を依頼してください。
  - 電源ポジションが「ON」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
  - 運転中に警告灯が点灯する。

お願い

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。このようなときは、ブレーキをかけても ABS が機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になります。

- ABS 故障警告灯とパーキングシステム故障警告灯が同時に点灯し、かつ EPB が完全に解除された場合は、前後タイヤの制動力配分システムも効かなくなったことを表します。

タイヤ空気圧故障警告灯

- 車両の電源ポジション「ON」時に警告灯が点灯します。タイヤ空気圧モニタリングシステムが正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故

障が発生したときは、警告灯が再度点灯します。

- タイヤ空気圧故障警告灯が点灯または点滅すると同時に、コンビネーションメーターに「チェック TPMS」と表示され、タイヤ空気圧表示画面の数値部に「---」が表示された場合は、タイヤ空気圧モニタリングシステムが故障しています。
- タイヤ空気圧故障警告灯が高速で点滅すると同時にコンビネーションメーター内のインフォメーションディスプレイに表示されるタイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が赤くなった場合は、該当タイヤに急激な空気圧の減少があります。
- タイヤ空気圧故障警告灯が常時点灯すると同時に、コンビネーションメーター内のインフォメーションディスプレイに表示されるタイヤ空気圧表示画面の数値表示部の一部が黄色になっている場合は、該当タイヤの空気圧が少ない状態を表します。

上記のいずれかが発生した場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。



ESC 故障警告灯

- 車両の電源ポジション「ON」時に警告灯が点灯します。ESC システムが正常に作動しているときは、数秒後に消灯します。システムに故障が発生したときは、故障が解消されるまで警告灯が再度点灯します。
- 走行中に ESC 故障警告灯が点滅している場合は、ESC システムが作動していることを表します。
- ESC 故障警告灯が点灯(ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、ESC の車両安定性制御が無効になりますが、ABS およびブレーキシステムは正常に作動します。
- ESC 故障警告灯が点灯(ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯は消灯) している場合は、横滑り防止装置が作動しないため、急ハンドルや前方障害物の緊急回避時に、車両姿勢が極めて不安定な状態になります。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
  - 電源ポジションが「ON」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。
  - 運転中に警告灯が点灯し続ける。
  - 走行中に故障警告灯が点滅している場合は、システムが作動していることを表します。

お願い

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- ABS 故障警告灯、パーキングシステム故障警告灯、ESC 故障警告灯が同時に点灯した場合、ただちに安全な場所に停車して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。このとき、ブレーキを掛けると車両姿勢が極めて不安定な状態になり、ABS も機能しません。



ESC OFF 警告灯

- ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が点灯し横滑り防止装置が機能しなくなります。再度 ESC OFF を操作すると、ESC OFF 警告灯が消灯し、横滑り防止装置が機能します。

注意

- ESC OFF 警告灯が点灯した場合は、急ハンドルや突然の障害物を緊急回避する時などに注意し、低速で走行してください。このようなときは、ブレーキをかけても ESC システムが機能せず車両姿勢が不安定になります。

マスターウォーニング表示灯

表示灯が点灯している場合は、注意が必要であることを表します。また、インフォメーション表示部に故障や警告のメッセージが表示されます。

ヘッドライト故障警告灯

警告灯が黄色く点灯している場合は、ヘッドライトが故障していることを表します。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

駆動パワー制限警告灯

車両のパワーが制限された場合に点灯します。早めに BYD 指定サービス工場に連絡してください。

エンジン故障表示灯

- 電源ポジションが ON にある場合、この故障表示灯はセルフチェック中に常時点灯します。それ以外の状況で点灯した場合、車両全体のいずれかの制御システムに故障が発生している可能性があります。車両の性能に異常が見られない場合であっても、このような状態で運転を続けると、車両に重大な損傷を与える可能性があります。
- セルフチェック時以外でこの指示灯が点灯した場合は、車両を安全に路肩に停車させ、電源を「OFF」に切り替え、再度「OK」に戻してエンジンを始動し、この警告灯を確認してください。この警告灯が依然として点灯している場合は、できるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で車両を点検してください。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場が故障を確認するまでは、アクセルを全開にしたり高速で走行したりせず、慎重に運転してください。
- この故障指示灯が頻繁に点灯する場合や、上記の手順に従って処理した後でも消灯しない場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で車両を点検してください。

注意

- 排出ガス異常表示灯が点灯した後も運転を続けると、排出ガス浄化システムまたはエンジンを損傷するおそれがあります。

燃料レベル低下警告灯

この警告灯は燃料計にあります。この警告灯が点灯している場合は、燃料タンク内の燃料が少なくなっていることを表しており、燃料がなくなる前に、速やかに給油する必要があります。斜面やカーブでは、燃料タンク内の燃料が揺れ、燃料レベル低下警告灯が通常より早く点灯する場合があります。



パーキングシステム故障警告灯

- ブレーキフルード量が低下している、またはブレーキシステムに故障があるとき、この警告灯が点灯します。
- 下記のいずれかが発生した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

・車両の電源ポジションが「ON」の状態で、ブレーキフルード量が低いときに警告灯が点灯します。

お願い

・ブレーキフルード量が低下している状態での運転は非常に危険なため、運転を止めてください。

・モーター作動中、ブレーキフルード量に問題がなく、かつ電動パーキングブレーキシステムが正常に動作している（電動パーキングブレーキスイッチを作動させたり、解除したりすることができ、「電動パーキングブレーキシステムを点検してください」というメッセージが出ていない）場合、この故障警告灯は常時点灯します。

・パーキングシステム故障警告灯と ABS 故障警告灯は同時に点灯します。

お願い

・作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。



シートベルト非着用警告灯

電源ポジション「ON」で、いずれかのシートベルトが未着用の場合に点灯します。シートベルトを着用するまで点灯し続けます。



低電圧給電システム故障警告灯

・充電時は、充電システムの故障を知らせます。

・給電時は、給電システムの故障を知らせます。

・充電または給電時以外は、DC モジュールおよびバッテリーモジュールの作動状態を知らせます。

・運転中に警告灯が点灯している場合は、DC システムまたはバッテリーシステムに不具合があることを表します。エアコンやファンをオフにして、最寄りの BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理してください。



エアバッグ故障警告灯

・電源ポジションを「ON」にしたとき点灯します。エアバッグシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。エアバッグ ECU、衝突センサー、インフレーター、警告灯、結線および電源をモニタリングしています。

・下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。

  ・電源ポジションが「ON」のときに警告灯が点灯しない、または点灯し続ける。

  ・運転中に警告灯が点灯する。



モーター冷却水オーバーヒート警告灯

この警告灯が点灯している場合、モーター冷却水の温度が高すぎることを表しています。駐車して車両を冷却してください。



ステアリングシステム故障警告灯

・ステアリングシステム警告灯が常時点灯している場合は、ステアリングシステムが故障しているため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

お願い

- ステアリングシステムは、モーターによりステアリングホイールを回す力を軽減するものです。
- ステアリングホイールを回すとき、モーターの動作音(「ぶんぶん」のような音)が聞こえることがありますが、故障ではありません。
- ステアリングホイールを 5 秒以上全切り(限界位置を保持)のままにしないでください。5 秒を超えると、過熱保護機能が作動し、操舵力が重くなる、または損傷します。

- 長時間頻繁に据え切りをした場合、ステアリングシステム故障警告灯が点灯していないのに操舵が重く感じられることがありますが、故障ではありません。
  - 長時間頻繁に据え切りした場合、ステアリングシステムの過熱を防ぐため、アシストカが低下して操舵が重く感じられることがあります。このようなときは、頻繁なハンドル操作を避ける、または停車してください。システムは、10 分以内に正常な状態に戻ります。

警告

- ステアリングシステム故障警告灯が点灯している場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

パワートレイン故障警告灯

- パワートレインが故障した場合に点灯します。
- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。
  - 電源ポジションを「ON」にしたとき、警告灯が点灯し続ける。
  - 運転中に警告灯が点灯する。

注意

- 作動中に警告灯がしばらく点灯することがありますが、異常ではありません。
- 警告灯が点灯している場合は、可能な限り運転しないでください。速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検および異常の確認を依頼してください。

パワーバッテリー過熱警告灯

- 警告灯が点灯している場合は、パワーバッテリーの温度が高すぎることを表します。車両を止めてパワーバッテリーの温度を下げてください。パワーバッテリー過熱警告灯が点滅しているときは、ただちに停車し、速やかに車両から離れてください。
- 下記の条件で走行した場合、パワーバッテリーが過熱することがあります。
  - 炎天下や長時間・長距離で上り坂を走行したとき。
  - 長時間にわたり発進・停止、急加速・急ブレーキを頻繁に繰り返す交通状況、または長時間連続で走行するとき。

パワーバッテリー故障警告灯

- 車両の電源ポジションを「ON」にしたときに点灯します。パワーバッテリーシステムが正常に作動している場合は、数秒後に消灯します。システムの故障があるときは、警告灯が再度点灯します。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検をしてください。

- 下記のいずれかが発生した場合は、警告灯システムで監視している対象部品が故障していることを表します。ただちにBYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、点検を依頼してください。
  - 電源ポジション「ON」時に警告灯が点灯し続ける。
  - 運転中に警告灯が点灯し続ける、または時々点灯する。



モーター過熱警告灯

警告灯が点灯している場合、モーターの温度が高すぎることを表します。車両を停車し温度を下げてください。



油圧低下警告灯

- エンジンオイル圧力が低下した時、この警告灯が点灯します。
- 走行中に、この警告灯が点滅または点灯し続ける場合は、車両を安全な場所に停車し、P レンジに入れて電源を「OFF」にしてください。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



注意

- 警告灯が点灯している状態では、たとえ短い距離であっても運転しないでください。そうしないとエンジンが損傷するおそれがあります。
- この警告灯は、エンジンがアイドリング状態のときに時々点滅したり、緊急ブレーキの後で短く点灯する場合があります。エンジンの回転数が徐々に上がる過程で消灯した場合、油圧は正常で問題ありません。



交通標識認識システム表示灯*

表示灯が点灯している場合は、システムが現在走行中の道路の制限速度を認識しています。



自動緊急ブレーキ表示灯*（赤）

表示灯が点灯または点滅している場合は、先行車の距離に注意しつつ、衝突を避けるために適切な車間距離を保ってください。



ドア状態表示灯

ドア、テールゲートまたはボンネットが閉まっていない場合、ドア状態表示灯とそれに関連する情報が表示されます。速度が一定値を超えると、「ドア、テールゲートまたはボンネットが閉まっていません」という文字が表示されます。

03 コントローラーの操作

ドアとキー.....54
シート.....68
ステアリングホイール.....72
ワイパー.....75
リアビューミラー.....78
スイッチ.....80

ドアとキー

キー

キーには、リモートキー、メカニカルキー（リモートキー内）、Bluetooth キー、NFC デジタルキーおよび NFC カードキーがあります*。

リモートキー

リモートキー：リモートキーを携帯した状態で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの施錠/解錠ができます。リモートキーでは、リモート施錠/解錠に加えて、ワンタッチ起動、リモートテールゲートコントロール、インテリジェントエントリー、電池レスモードで起動、リモート車両検索、リモートテールゲート、バッテリー低残量アラートなどの機能があります。



リモートキーを携帯した状態で左/右フロントドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアの施錠/解錠ができます。リモートキーのボタン操作では、ドアの施錠/解錠に加えて、テールゲートを開いたり、リモートスタートなどができます。

型番：D0-92/D1-92

動作電源：ボタン電池

電池型番：CR2032

公称電圧：3V

作動電圧：2.9V～3.3V

通常作動電流：8mA（公称電流）

低周波共振周波数：125KHZ

キー作動周波数：315MHz

FCC ID：2A5DH-DAEA-92

R 214-118832

本デバイスは、有害な妨害から保護する対象外であり、また、正規認証を取得しているシステムに妨害を与えることはありません。

警告

ボタン電池に関する警告

- リモートキーの中に入っているボタン電池は危険なため、電池の種類を問わずお子様の手の届かないところに置いてください。
- ボタン電池を誤って飲み込んだり身体の一部に電池が入ったりした場合は、2 時間以内に重傷または致命傷を引き起こすおそれがあります。
- ボタン電池を誤って飲み込んだ、または身体の一部に入ったと疑われる場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。

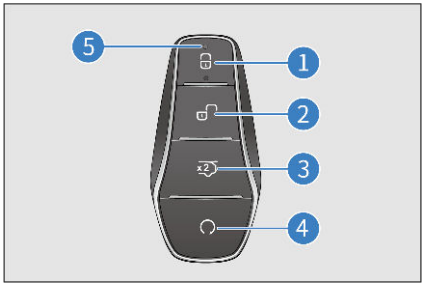
①「ロック」ボタン

②「アンロック」ボタン

③「テールゲートオープン」ボタン

④「スタート/ストップ」ボタン

⑤表示灯



注意

- リモートキーは電子部品です。リモートキーの破損を防ぐため次の説明に従ってください。
  - リモートキーをインストルメントパネルなどの温度が高いところに置かないでください。
  - リモートキーを勝手に分解しないでください。
  - リモートキーで他のものを強く叩いたり、キーを落としたりしないでください。
  - リモートキーを水に浸けたり、超音波洗浄機で洗浄しないでください。
  - リモートキーを携帯電話などの電磁波が発生する装置と一緒に置かないでください。
  - リモートキーに電磁波を遮断するものを付けないでください（例：金属シール）。
  - 同一の車両に工マージェンシーキーを登録することができます。詳細な説明については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- リモートキーの作動範囲内でドア操作ができない、またはキーの表示灯が暗く点灯しない場合：

注意

- 近くにリモートキーの動作を干渉するラジオ局や航空無線発信機がないかを確認してください。
- リモートキーの電池が切れている可能性があります。リモートキーの電池を点検してください。電池の交換が必要な場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

- リモートキーを紛失した場合は、車の盗難事故や予期せぬ事故がないようにできるだけ早く BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡するようおすすめします。
- 送信周波数の変更、送信電力の増加（送信周波数アンプの追加を含む）、アンテナの外付けや他の送信アンテナの流用をしないでください。
- 使用時に、合法的な様々な無線通信業務に干渉がないようにしてください。干渉が見つかった場合は、ただちに使用を停止し、干渉の解消措置を取ってから使用するようにしてください。
- 小電力無線機を使用する場合は、さまざまな無線通信業務の干渉、または産業用、研究用および医療用設備の放射干渉を避けてください。
- 飛行機や空港の近くで使わないでください。
- 電磁波による電子機器への影響があるため、植え込み型心臓ペースメーカーまたは植え込み型除細動器を使用されている方は、スマートエントリー＆スタートシステムのアンテナから遠く離れてください。
- 植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器、またはそれ以外の医療電子機器を使用されている方は、電磁波がそうした機器におよぼす影響を製造メーカーに確認し

注意

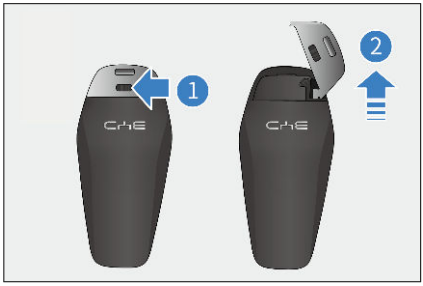
てください。電磁波は、そのような医療機器の使用に予測できない悪影響をおよぼすおそれがあります。

メカニカルキー

メカニカルキー（リモートキー内蔵）で運転席側ドアの解錠/施錠ができます。使わないときは、メカニカルキーをリモートキーに確実に格納してください。

メカニカルキーの取り出し

- リモートキーに格納されているメカニカルキーを使用する場合は、図のようにロック解除バックルを矢印①の方向に引き、矢印②の方向に押してリモートキーの裏蓋を外すと、メカニカルキーを取り外すことができます。
- メカニカルキーを使用した後は、矢印②の反対方向にメカニカルキーを挿し込んでリモートキー本体後部の蓋を閉めてください。



スマートフォン用 Bluetooth キー*

スマートフォン用 Bluetooth キーは、近距離にあるスマートフォンの Bluetooth を通じて車両に接続し、ドアの施錠/解錠などができます。

- アプリストアで BYD APP の最新バージョンをダウンロードしてインストールしてください。このアプリには、スマートフォン用 Bluetooth キー機能を集約しています。
- スマートフォン用 Bluetooth キーの装備がある車両で Bluetooth キーを設定するには、車のそばで以下の操作手順を実行してください。
  - BYD アプリケーションを開きます。
  - スマートフォンの Bluetooth を ON にします。
  - 該当の車種を選択します。
  - 愛車ページの「Bluetooth キー設定ボタン」をタッチし、Bluetooth キーを有効にします。
- スマートフォン用 Bluetooth キーを ON にして車両に近づきアプリを開くと、アプリがスマートフォン用 Bluetooth キーに自動で接続します。また、スマートフォン用 Bluetooth キーを手動で接続することもできます。Bluetooth 接続が成功すると、スマートフォン用 Bluetooth キーを使用できるようになります。
- スマートフォン用 Bluetooth キーで対応可能な機能は、車両の構成によって異なります。スマートフォン用 Bluetooth キー機能はスマートフォンのモバイルネットワークの状態に依存せず、Bluetooth 接続を介して車両側に制御コマンドを送信します。
- 車両の連携を解除した場合、またはクラウドサービスを解約した場合、Bluetooth キーは削除されます。

注意

- スマートフォン用 Bluetooth キーを有効にする前に、車両ネットワーク信号が良好であることを確認してください。有効にできなかった場合はネットワークが良好な場所に車両を移動し、アプリでスマートフォン用 Bluetooth キーを再度有効にしてください。

⚠ 注意

- スマートフォン用 Bluetooth キーのロック解除後すぐに車両を操作しない場合、ドアが自動的に施錠されます。
- スマートフォン用 Bluetooth キーが複数回接続に失敗する、または複数回操作に失敗した場合は、システムの Bluetooth を OFF にしてから再度 ON にするか、アプリを再起動してください。
- スマートフォン用 Bluetooth キーの使用可能距離は、車両環境とスマートフォンの性能により制限されます。車両が密集している場合は、使用可能距離が短くなることがあります。
- スマートフォン用 Bluetooth キーを使用するには、スマートフォンの Bluetooth と位置情報サービスを ON にしてください。使用中に問題が発生した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

NFC カードキー

NFC カードキーは、NFC 通信規格に基づいたキーです。車両の施錠/解錠および車両の始動ができます。

- NFC カードを運転席側ドアミラーにある NFC マークの感知エリアに近づけると、車両を解錠/施錠できます。

⚠ 注意

- NFC カードは電子機器です。NFC カードが機能しなくなったり、破損したりしないように、次の説明に従ってください。
  - NFC カードを車載ワイヤレス充電エリアに置かないでください

⚠ 注意

(*(174 ページ)* を参照してください)。

- NFC カードを使用するときは、電磁波を遮断するもの (金属シール、携帯電話の金属製バックカバーなど) の影響を避けてください。
- NFC カードをインストルメントパネルなどの高温部に置かないでください。
- NFC カードを強く曲げないでください。
- NFC カードキーを他の固いものと一緒に置かないでください。

- 安全のために適切な場所で保管してください。紛失した場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で紛失手続きを行い、カードを再設定してください。

NFC デジタルキー

NFC デジタルキーについて

NFC デジタルキーは、BYD が提供するデジタルキー機能です。ドライバーは自分のスマートフォンやウェアラブルデバイスを車両のキーとして登録し、安全かつ便利に車両の施錠/解錠、および始動を行うことができます。

- NFC デジタルキーを使用するには、次の条件を満たす必要があります。各条件を確認してから有効化操作を行ってください。
  - 車両の BYD クラウドサービスが有効になっている。
  - 車両に NFC デジタルキー機能が装備され、対応している。
  - スマートフォンまたはウェアラブルデバイスが、BYD NFC デジタルキー機能に対応している (対応しているデバイ

スモデルについては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください)。

スマートフォンの NFC デジタルキーを有効にする

BYD APP でキーを有効化することができます。有効にする場合は、有効な物理キーを使用して車両に乗り込み、車両を始動して「P」レンジにします。

アプリストアから BYD APP をダウンロードし、登録してログインします。「デジタルキー」をタッチし、画面に従って有効にします。

ウェアラブルデバイスの NFC デジタルキーを有効にする

ウェアラブルデバイスは Apple Watch に対応しています (その他のウェアラブルデバイスについては、BYD 正規ディーラーまでは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください)。以下のいずれかの方法で有効化できます。

- iPhone 有効化後に Apple Watch と同期
  - iPhone の NFC デジタルキーを有効化する前に、Apple Watch を装着して、ロックを解除してください。iPhone の NFC デジタルキーを有効化した後、近くにある同期した Apple Watch にデジタルキーを追加する画面が表示されるため、画面に従い有効化してください。
- Watch App で有効化
  - iPhone の NFC デジタルキーが有効化されていて、Apple Watch に同期されていない場合に行います。iPhone の Watch App を開いて「ウォレット」を選択し、対応するキーを見つけて「追加」をタッチし、画面に従って有効化します。

NFC デジタルキーの使用

使用する場合、NFC 機能スイッチを ON にし、以下の説明に従って使用してください。

- NFC デジタルキーを有効化したスマートフォンまたはウェアラブルデバイスを携帯し、デバイスの NFC 感知エリアを運転席ドアミラーの NFC マークに近づけると、車両を施錠/解錠できます (NFC 感知エリアの詳細については、デバイスの提供者にお問い合わせください)。

NFC デジタルキーの削除

以下のいずれかの方法で NFC デジタルキーを削除することができます。

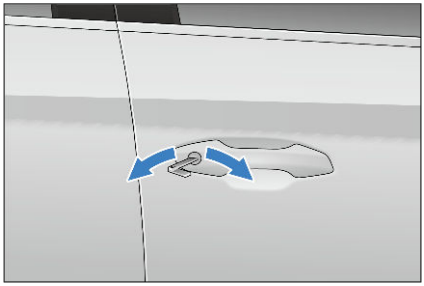
- BYD APP で削除
  - BYD APP を開き、デジタルキー管理画面に進んで、削除するデジタルキーをタッチし、パスワードを入力すると完了します。
- 車両のマルチメディア設定項目で削除
  - 物理キーを携帯して車内に入り、車両のマルチメディア端末で車両設定→ドア、ウィンドウ、ロック→デジタルキー管理のページに進み、削除するデジタルキーをタッチした後、説明に従って削除します。
- スマートフォンのウォレットアプリで削除
  - スマートフォンのウォレットアプリを開き、削除するデジタルキーを選択し、画面に従って削除します。

ドアの施錠/解錠

メカニカルキーでの施錠/解錠

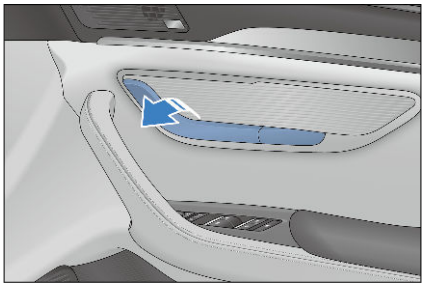
メカニカルキーを鍵穴に挿し込んで回します。

- 反時計方向にメカニカルキーを回すと、ドアが解錠します。
- 時計回りにメカニカルキーを回すと、ドアが施錠します。



ノブ操作でドアを開ける

- 解錠している場合は、ノブを 1 回引くと車内からドアが開けられます。
- 施錠している状態でドアを開ける場合は、2 回連続でノブを引きます。



注意

- 冬季の厳寒環境下では、低温によりドアを閉めることが難しくなる場合があります。このような状況では、ドアが完全に閉まるまで手で押し続け、閉まったら押すのをやめてください。
- 極めて低温の条件下では、まず エアコンの暖房を一定時間作動させてから、上記の方法でドアを閉めてください。

リモートキー操作での施錠/解錠

- ワイヤレスリモートコントロール機能は、作動範囲内であればすべてのドアの解錠や施錠、付加機能が操作できます。
- 登録済みのリモートキーを携帯し、作動範囲内でリモートキーのボタンを押すと、すべてのドアの施錠/解錠ができます。

施錠：

- 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：
  - 車両の電源ポジションが「OFF」で、すべてのドアおよびボンネットが閉まっているときに「ロック」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。同時に、ドアミラーが格納され(ドアミラー「自動」でスイッチ「ON」の場合)、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。作動後は、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。



  - ドア、ボンネット、またはテールゲートが開いている場合、「ロック」ボタンを押すと、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。
- 車両の電源ポジションを「ON」にした場合：
  - 車両の電源ポジションが「OFF」で、すべてのドアおよびボンネットが閉まっているときに「ロック」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。車両の電源ポジションを「OFF」に

していないときはドアミラーが格納されず、ターンシグナルランプも点滅せず、約 2.5 秒後にホーンが 1 回鳴ります。

解錠：

- 「アンロック」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に解錠されて、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- 任意の電源ポジションにおいて、「ロック」または「アンロック」ボタンの操作でドアを施錠/解錠できます。
- リモートキーを操作してすべてのドアを同時に解錠した場合、ドアが開いていなくても「DOOR」スイッチをＯＮにすると、ルームランプが 15 秒間点灯してから消灯します (ドライバーは、マルチメディアディスプレイのトップ画面のステータスバーをドロップダウンし、「ショートカット」画面で「DOOR」スイッチの ON または OFF を操作することができます)。
- イモビライザーが作動している状態で、リモートキーを使って解錠したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動的に施錠されます。
- 「ロック」または「アンロック」ボタンを押し続けても、施錠または解錠することはできません。ボタンから指を離し、再度「ロック」または「アンロック」ボタンを押してください。
- 施錠した状態でリモートキーを車内に置いたままテールゲートを閉めると、閉じ込め防止機能が作動し、自動でドアを解錠してターンシグナルランプを 2 回点滅させます。

リモートキー操作によるウィンドウガラスの開/閉*

- 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：
  - リモートキーの施錠ボタンを長押しすると、すべてのドアガラスを自動で閉じることができます。
  - リモートキーの解錠ボタンを長押しすると、すべてのドアガラスを自動で開けることができます。
- ドライバーはコントロールパネル→設定 ⚙ →ドアと窓→ウインドウ設定画面から前述の機能を ON/OFF することができます。システムのデフォルト設定では、ウィンドウガラス開機能は ON、閉機能は OFF になっています。

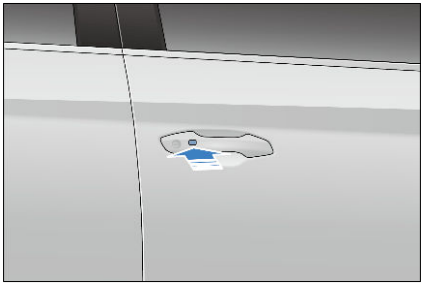
⚠ 警告

- リモコン操作でウィンドウガラスを閉じる際は、ウィンドウガラスに乗員の身体が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。

マイクロスイッチ操作での施錠/解錠

施錠

- 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：
  - ドアを施錠していない状態でリモートキーを携帯し、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが施錠されます。同時に、ドアミラーが格納され (ドアミラー「自動」でスイッチ「ON」の場合)、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。作動後は、すべてのドアが確実に施錠されていることを確認してください。



- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、マイクロスイッチ操作で閉まっているドアを施錠することができます。ただし、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。

- 車両の電源ポジションを「ON」にした場合：

  - すべてのドアおよびボンネットが閉まっている状態でリモートキーを携帯し、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に施錠できます。このとき、ドアミラーは格納されず、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。

解錠

- イモビライザーが作動している状態でリモートキーを携帯し、作動範囲内で運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押すと、すべてのドアが同時に解錠されます。このとき、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。

- イモビライザーが作動している状態で、リモートキーを使用して解錠した場合は、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動で再度施錠されます。

- 以下の場合は、マイクロスイッチを押しても施錠/解錠はできません。

  - ドア開閉時に、マイクロスイッチを押したとき。

  - リモートキーが車内に置いてあるとき。

お願い

- リモートキーがアウトドアハンドル、またはウィンドウに近すぎる場合は、この機能が有効にならず操作ができないことがあります。

マイクロスイッチ操作によるウィンドウガラスの開/閉

- 車両の電源ポジションが「OFF」で、リモートキーを携帯したまま運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを長押しすると、すべてのウィンドウガラスの自動開閉ができます。

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 →ドアと窓→ウィンドウからウィンドウの設定画面に入り、マイクロスイッチ長押しによる施錠/解錠およびウィンドウガラス開閉機能の施錠/解錠の設定ができます。

NFC デジタルキーの施錠/解錠*

施錠：

- 車両の電源ポジションを「OFF」にした場合：

  - ドアを閉め、施錠していない状態で NFC デジタルキーを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠します。この時、ドアミラーは折り畳まれ（ドアミラーの「自動」スイッチが ON の場合）、ターンシグナルランプが 1 回点滅します。全てのドアが確実にロックされているか確認してください。

- ドア、ボンネット、テールゲートのいずれかが開いている状態でも、NFC デジタルキーで閉まっているドアを施錠することができます。ただし、ターンシグナルランプは点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。

- 車両の電源ポジションを「ON」にした場合：

  - すべてのドアとボンネットを閉じた状態で NFC デジタルキーを右フロントドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に施錠します。この時、ドアミラーは格納されず、ターンシグナルランプも点滅せずにホーンが 1 回鳴ります。

解錠：

- イモビライザーが作動している状態で、NFC デジタルキーを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざすと、すべてのドアが同時に解錠し、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。
- イモビライザーが作動している状態で、NFC デジタルキーを使って解錠したときは、30 秒以内にドアを開けてください。そうしないと、すべてのドアが自動で再度施錠されます。
- NFC デジタルキーで解錠した場合、4 分間は NFC デジタルキーで車両を始動することができます。4 分以上経過すると、NFC デジタルキーで車両を始動できなくなります。この機能は、電源ポジションを「OFF」にしたときに解除されます。
- NFC デジタルキーでロックを解除後、4 分以内に車両を始動しない場合、この権限は解除されます。この状態で車両を始動する必要がある場合、NFC デジタルキーのセンサー部分をドアミラーの NFC 感知エリアに 4 分以内に接触させることで、ユーザーの始動権限が付与されます。この権限は「OFF」位置でロック解除されます。
- 以下の場合は、NFC デジタルキーを右フロントドアミラーの感知エリアにかざしても、施錠/解錠ができません。
  - ドアの開閉操作と同時に、NFC デジタルキーを運転席側ドアミラーの感知エリアにかざしたとき。

⚠ 注意

- キーレス操作権限の有効時間は最大 4 分間です。
- 一部のスマートフォンモデルでは、電源 OFF 状態での使用には対応していません。

⚠ 注意

- スマートフォンの電源を OFF にした状態で長時間および高頻度の使用は避けてください。

テールゲートの施錠/解錠

リモートキーでテールゲートを開/閉する場合*

リモートキーの「テールゲートオープン」ボタンを 2 回連続で押すと、テールゲートが開きます。このとき、ターンシグナルランプが 2 回点滅します。テールゲート作動中に「テールゲートオープン」ボタンを 1 回押すと、テールゲートが現在の位置で停止し、もう一度 2 回連続で押すとテールゲートが反対側に動きます。



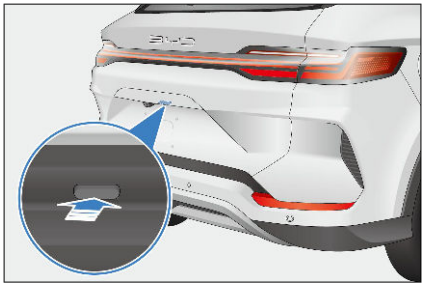
車内からテールゲートを開/閉する場合*

- テールゲートが閉まっている状態で運転席側ドアのスイッチを一回引くと、テールゲートが解錠され設定高さまで作動します（初期設定は最大高さ）。
- 車両の電源が入っていて、テールゲートが開いている場合、このスイッチを引くとテールゲートが閉まります。手を離すとテールゲートは現在の位置で止まります。



テールゲートオープンスイッチでテールゲートを開ける場合

リモートキーを携帯している、または車両が解錠されている場合、テールゲートオープンスイッチを押すとテールゲートが開きます。

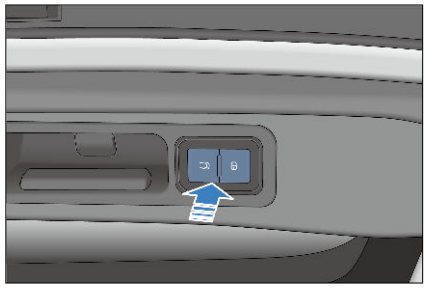


お願い

- テールゲート作動中にテールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートが止まります。テールゲートが止まった状態で再度テールゲートオープンスイッチを押すと、テールゲートが反対側に動きます。

①テールゲートクローズスイッチ*

- テールゲートが開いて止まっている場合、テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが自動で閉まります。
- テールゲートを閉めている途中に再度テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが現在の位置で止まります。テールゲートが止まった状態で再度テールゲートクローズスイッチを押すと、テールゲートが反対側に動きます。



②施錠スイッチ*

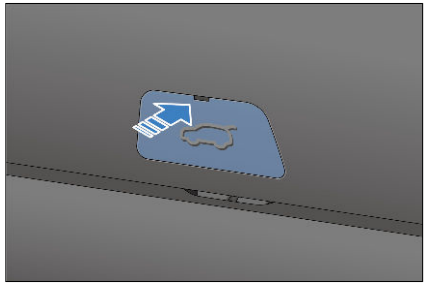
- 車両の電源ポジション「OFF」時にテールゲートが開いている場合、リモートキーを携帯したまま施錠スイッチを押すと、テールゲートが閉まって車両全体が施錠されると同時にイモビライザーが作動します。

お願い

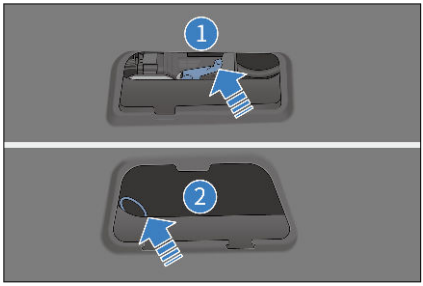
- 電動操作でテールゲートを閉める前に、物的損害がないようにドア、ウィンドウ、サンルーフなどが閉まっていることを確認してください。

車内からのテールゲート緊急解錠

1.テールゲートトリムからテールゲートロックのサービスカバーを外します。



2.レバー①*またはリング②*を引くと、テールゲートが解錠されます。



お願い

- 車両が停電した場合は、車内からテールゲートの緊急解錠を行ってください。

テールゲート開放位置の設定

- 手動または自動でテールゲートを希望の位置まで開けて維持したまま、テールゲートクローズスイッチを 3 秒以上長押しします。スピーカーから音が 1 秒間鳴ると、テールゲート開放位置の設定が完了します。
- コントロールパネル→設定 →ドアと窓の設定画面から「テールゲートオープン高さ」でテールゲートの開口位置を設定できます。

挟み込み防止機能

- 電動操作でテールゲートを閉める途中に一定以上の力が加わった場合、テールゲートが自動で反対側へ動きます。
- また、電動操作でテールゲートを開く途中に一定以上の力が加わると、テールゲートは現在の位置で停止します。

テールゲートのモーターが動かない場合

手動でテールゲートを閉めると、モーターの機能を復旧させることができます。

起動バッテリーを再接続する場合

電動でテールゲートが作動しないため、手動でテールゲートを閉めてください。

警告

テールゲートを操作する場合は、下記の注意事項を守ってください。そうしないと、身体の一部が挟まれて生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

- 身体の一部で、挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- 近くに人がいるときは、安全を確認してからテールゲートを開閉してください。
- テールゲートを閉めるときは、指などを挟まないように注意してください。
- テールゲートを開閉するときは、周りの安全を十分確認してください。
- 発進するときは、テールゲートを確実に閉めてください。
- テールゲートを開ける前に、付着している雪や氷などを取り除いてください。そうしないと、開けたテールゲートが突然閉まるおそれがあります。
- 電動操作でテールゲートを開閉している途中に、手動でテールゲートを操作しないでください。
- 風が強いときに開閉すると、風にあおられ急に動くことがありますので特に注意してください。
- テールゲートが閉まり切る直前に挟まれるものによっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。
- テールゲートが最後まで開いていない場合、突然閉まるおそれがあります。坂道でテールゲートの開閉操作をするときは、平らな地面より力がかかるため、テールゲートの思わぬ開閉に注意してください。また、トランクルームを使用する前に、テー

警告

ルゲートが最後まで開いて止まっていることを確認してください。

- 挟まれたものの形状によっては、挟み込み防止機能が作動しない場合があります。指などが挟まれないように注意してください。

集中ドアロックの施錠/解錠

集中ドアロックスイッチでの車両の施錠/解錠

本章の運転席側スイッチユニットを参照してください。

ドアの自動施錠/解錠

- 速度が約 8km/h 超えると、すべてのドアを自動で施錠します。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押して車両の電源ポジションを「ON」から「OFF」にすると、すべてのドアを自動で解錠します。

すべてのドアを同時に施錠/解錠する

- イモビライザーが作動していない状態で施錠すると、集中ドアロックの施錠ボタンのバックライトが点灯します。車両を解錠すると、バックライトが消灯します。
- 集中ドアロックの施錠ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠されます。この場合、車外からの解錠操作はできなくなります。ドアを開けるときは、車内のドアノブを 1 回引いてロックが解錠されてから、もう一度車内のドアノブを引くとドアを開けることができます。

お願い

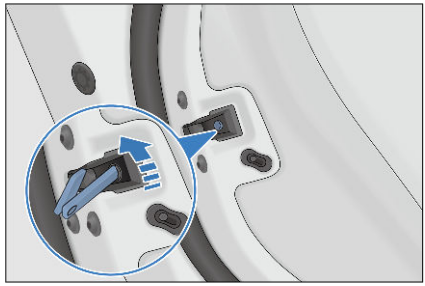
- 車両が強い衝突を受けた場合は、すべてのドアを自動で解錠します。自動で解錠する判定は、衝撃の強さや事故のパターンにより決定されます。

メカニカルキーでの全ドア緊急施錠

集中ドアロックシステムやリモートキーが作動しない場合は、メカニカルキーで施錠/解錠ができます。

施錠：

1. 集中ドアロックが機能しない場合は、メカニカルキーで運転席側のドアを施錠してください。残りの 3 つのドアは、緊急施錠ノブを矢印の方向に回して施錠状態にした後、ドアを閉めてください。これにより、全ドアが施錠され、外側からは開けられなくなります。



解錠：

1. 解錠する場合は、メカニカルキーで運転席側のドアを解錠します。解錠したら車両に乗り込んでから他のドアのインナードアノブを 2 回連続で引くと解錠されます。

お願い

- 緊急施錠時は、メカニカルキーの変形や折れがないようにカを控えてください。

スマートエントリー＆スタートシステム

リモートキーを使用して、ドアの施錠/解錠および車両の始動ができます。

機能を ON にする場合

リモートキーの「ロック/アンロック」ボタンを押すと、ドアの施錠/解錠ができます(詳細は「リモートキー操作での施錠/解錠/車両検索」および「マイクロスイッチ操作での施錠/解錠」を参照してください)。

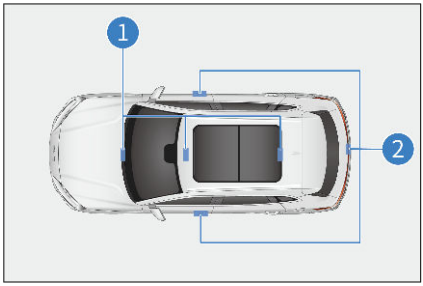
車両を始動する場合

リモートキーを携帯した状態でブレーキペダルを踏みながら「スタート/ストップ」ボタンを押すと、車両を始動できます (詳細は「使用と運転」の章の「車両の始動」を参照してください)。

アンテナの搭載位置

①室内用アンテナ

②室外用アンテナ



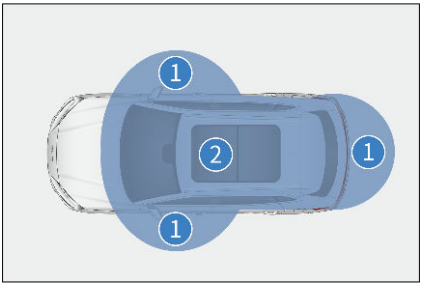
作動範囲

登録済みのリモートキーが作動範囲内にない場合は、スマートエントリー＆スタートシステム機能を使用できません。

①機能が ON になる作動範囲――両側のドアハンドルおよびテールゲートオープンスイッチから約 1.2m の範囲内。

②機能が ON になる作動範囲――室内。

他車のリモートキーが、本車両のリモートキーの近くにある場合は、ドアの解錠時間が通常より長くなりますが異常ではありません。



お願い

次の場合は、スマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しない場合があります。

- 近くにテレビ塔、発電所、ラジオ放送局などの強い電磁波を発生する施設があるとき。
- リモートキーを、双方向無線電話や携帯電話などの通信装置と一緒に携帯しているとき。
- リモートキーが金属に接触したり、覆われているとき。
- ドアハンドルを素早く操作しているとき。
- リモートキーがドアハンドルに近づいたとき。
- 近くにある別の車両の中で、ワイヤレスリモートコントロール機能を操作しているとき。
- バッテリーが切れているとき。
- リモートキーが、高電圧設備またはノイズが発生する設備の近くにあるとき。
- リモートキーを他車のスマートエントリー＆スタートシステムのキーや、無線電波を発する他の装置と一緒に携帯しているとき。
- 作動範囲内であっても、一部の場所 (インストルメントパネルの上、グローブボックスの中、床) では、リモ

お願い

ートキーが正常に作動しないことがあります。

- スマートエントリーシステムが正常に作動せず車両に乗り込めない場合は、リモートキーに内蔵されているメカニカルキーで運転席側ドアの施錠/解錠を操作する、またはワイヤレスリモートコントロール機能ですべてのドアの施錠/解錠を操作できます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを押してもスタート機能が正常に作動しない場合は、下記の要因が考えられます。
  - リモートキーが作動せずコンビネーションメーター内のリモートキーシステム警告灯が点灯すると同時に、コンビネーションメーターに「キーのバッテリー残量が少なくなっています」とメッセージが表示されたときは、リモートキーのバッテリーが切れている可能性があります。
  - 駆動モーターが短時間内に繰り返し起動します。10 秒待ってから車両を再起動します。
- スマートエントリー＆スタートシステムが故障で正常に作動しない場合は、すべてのリモートキーをお持ちいただき、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で修理してください。

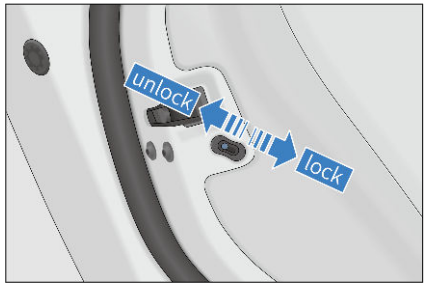
節電

- 運転していない場合でも、リモートキーと車両は常に通信を行っています。そのため、リモートキーを車内または車両から 2m 以内に置かないでください。
- リモートキーは長時間強い電磁波を受信すると、バッテリーを急速に消耗するため、以下のような機材から 1m 以上離してください。
  - テレビ
  - パソコン
  - ワイヤレス充電器
  - 電気スタンド
  - 蛍光灯デスクライト

チャイルドロック

チャイルドロックは、リアシートに座っているお子様が不注意でリアドアを開けるのを防ぐ機能で、チャイルドロックスイッチは、左リアドアおよび右リアドアの側面にあります。

チャイルドロックスイッチを ON にすると、乗員は内側からリアドアを開けることができません。ドアを開けるときはドアハンドルを使用してください。



注意

- 特にお子様を乗せている場合は、運転前にドアが閉まり、かつチャイルドロック機能が作動していることを確認してください。
- シートベルトを正しく着用してチャイルドロックを作動させることで、交通事故によってドライバーや乗員が車外に投げ出されることを防ぎます。また、ドアが不意に開くことも防止します。

シート

シートについて

- ペダル、ステアリングホイールおよびインストルメントパネル上のコントローラーなどが、ドライバーの操作しやすい範囲にあるように運転席シートを調節してください。
- 走行中は、シートバックを垂直に立てることが最も効果的な安全対策です。シートバックにもたれるように座り、シートベルトを適切な位置に調節してください。
- 車両走行中は、リアシートの折りたたみ操作を行わないでください。
- 走行中に荷物が動かないよう適切に固定してください。また、荷物の積み込み高さはシートバックを超えないようにしてください。

警告

- 格納されているシートバックの上やトランクルームの中、荷物の上に座らないでください。緊急ブレーキ時や衝突発生時に、シートに正しく着座していない、またはシートベルトを正しく着用していないために、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- シートの下にものを置かないでください。シートロック機構の機能に影響をおよぼしたり、不意にシート調節レバーを持ち上げたりすることでシートが急に動き出し、車両を制御できなくなるおそれがあります。
- 手や指が挟まれるおそれがあるため、シート調節時は手をシートの下に入れたり動作中の部品に近づけたりしないでください。
- シートバック調節後は、後ろへ身体を倒してシートバックがロックされていることを確認してください。確実にロックされていないと、事後や急ブレーキ時に傷害を受けるおそれがあります。
- 運転中または走行中はシートバックを倒さないでください。シートベルトの肩ベルト部分が正しく着用できていない場合、事故発生時にドライバーや乗員が肩ベルト部分にぶつかって頚部などに重大な傷害を受けたり、腰ベルトから滑り出して重大な傷害を受けたりするおそれがあります。
- 車両走行時、座席が折りたたみ位置にある場合、トランクエリアまたは折りたたまれた座席に乗車しないでください。適切な保護装置なしにこれらのエリアを使用すると、事故や急ブレーキ時に重傷を負うおそれがあります。
- シートの思わぬ移動によって車両が制御不能にならないように、走行中に運転側のシート調節をしないでください。
- 乗員が正しく着座するまで、車両を発進させないでください。
- リアシートを倒す際は、ヘッドレストおよびフロントシートの前後位置を確認し、リアシートとフロントシートまたはセンターコンソールに干渉して破損しないように注意してください。

お願い

- リアシートを折りたたむ際は、シートベルトを損傷しないように注意し、バックルが座面のバックルスロットに正しく収まっているか確認してください。
- シートを調節する前にシートベルトを締めないでください。

お願い

- シートを調節するときは、シートが乗員または荷物に当たらないように注意してください。
- シートクッションの深さを測定する際、シートの前後位置はスライドレールの最終位置で、バックレストの角度は 25°にしてください。
- シートクッションの幅を測定する際､バックレスト角度を設計状態(第 2 列バックレスト角度 28°) にし、シートスライドレール*を最後端位置に調整します。分割･ 組み合わせ可能な同列シートの場合、シートクッション幅は 1 列全体として測定します。

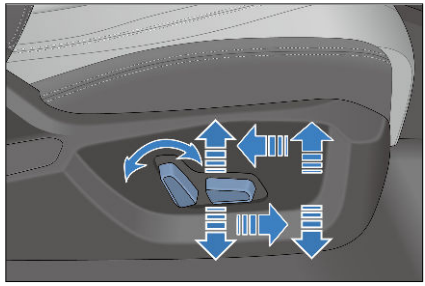
フロントシートの調節

フロントパワーシートの調節*

フロントパワーシートの位置調節は、シートの前後位置、シートクッションの高さ*、シートクッションの角度*、シートバック角度の調節を含みます。車両に搭載されている機能に応じて、次の方法で調節してください。

シートポジション調節スイッチ

- 前後方向にシートポジション調節スイッチを操作すると、シートポジションを前後方向に調節することができます。
- スイッチの先端を上下方向に操作すると、シートクッションの角度を調節することができます。
- スイッチの後部を上下方向に操作すると、シートの高さを調節することができます。



シートバック角度調節スイッチ

- 前後方向にシートバック角度調節スイッチの上端を操作すると、シートバックの角度を調節することができます。

お願い

- スイッチから手を離すとシートは現在の位置に止まります。また、シートの動作を妨げるおそれがあるため、シートの下にはものを置かないでください。

シートヒーター･ ベンチレーションシステム*

ドライバーは、マルチメディアの上部のステータスバーをドロップダウンして、「ショートカット」画面でシートヒーター･ ベンチレーションの ON/OFF を設定することができます。

ヒーターシステムの調節

- シートヒーター：ドライバーは、マルチメディア内のヒーターアイコンの操作から、シートヒーターの動作を制御できます。ヒーター機能には 3 段階の設定があります (高温モード、中温モード、低温モード)。
  - 電源投入後の加熱表示灯の初期状態は消灯です。
  - 1 回スイッチを押すと､シートヒーターは高温モードで作動し､3 つの加熱表示灯が同時に点灯します。

- 2 回スイッチを押すと、シートヒーターは中温モードで作動し、2 つの加熱表示灯が同時に点灯します。
- 3 回スイッチを押すと、シートヒーターは低温モードで作動し、1 つの加熱表示灯が点灯します。
- 4 回スイッチを押すと、加熱機能が OFF になり、3 つの表示灯がすべて消灯します。

ベンチレーションシステムの調節

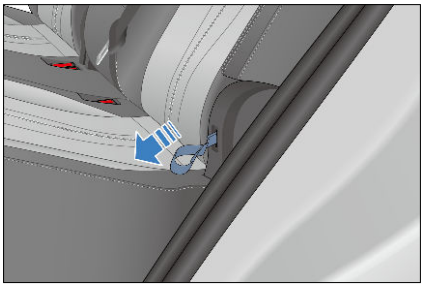
- ベンチレーション：ドライバーは、マルチメディア内のシートベンチレーションアイコンの操作から、シートベンチレーションの動作を制御します。ベンチレーション機能は 3 段切り替えです（高速、中速、低速換気）。
  - 電源投入後の換気表示灯の初期状態は消灯です。
  - 1 回スイッチを押すと、シート換気は高速モードで作動し、3 つの換気表示灯が点灯します。
  - 2 回スイッチを押すと、シート換気は中速モードで作動し、2 つの換気表示灯が点灯します。
  - 3 回スイッチを押すと、シート換気は低速モードで作動し、1 つの換気表示灯が点灯します。
  - 4 回スイッチを押すと、換気機能が OFF になり、3 つの表示灯がすべて消灯します。

ベンチレーション機能とヒーター機能を同時に使用した場合

- ベンチレーションが作動している状態でシートヒーターを ON にすると、ベンチレーションは停止してシートヒーターが作動します。
- シートヒーターが作動している状態でベンチレーションを ON にすると、シートヒーターは停止してベンチレーションが作動します。

リアシートの収納

シートバック上の格納用ノブを持ち上げると、リアシートのシートバックを倒すことができます。



お願い

- シートバックの倒し方や起こし方が速すぎると、リアシートおよびシートバック上のシートベルトの破損や機能の異常が発生するおそれがあるため、リアシートを倒すまたは起こすときは、ゆっくりと操作してください。
- リアシートを展開させるときは、勢いよくシートバックを後方へ押し付けないようにしてください。シートバックに力がかかり解錠できない場合があります。
- シートバックを起こすときは、バックルがシートの開口部から正しく出ていることを確認してください。
- シートベルトのタングプレートがバックルに挿し込まれた状態で、シートを倒したり起こしたりしないでください。

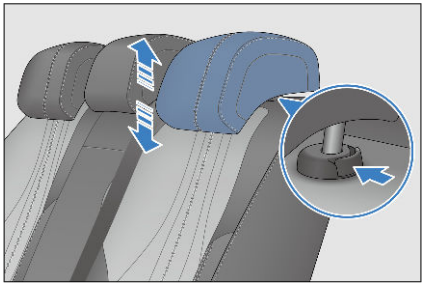
ヘッドレストの調節

1. ヘッドレストを高くする

ヘッドレストを適切な位置まで引き上げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

2. ヘッドレストを低くする

ヘッドレストの高さ調節ノブを押したまま ヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。



3. ヘッドレストの取り外し

ヘッドレストの高さ調節ノブを押したまま ヘッドレストを抜き出してからノブを離します。

4. ヘッドレストの取り付け

ヘッドレストの脚を元の位置に差し込み、切り欠きが前に向くように保ちます。ヘッドレストの高さ調節ノブを押したままヘッドレストを適切な位置まで下げ、ロック音が聞こえたら手を離します。

お願い

- ヘッドレストは、首や頭部のけがを防ぎます。後頭部がヘッドレストの中心となるように調節すると、ヘッドレストの効果を最大限に発揮できるため、乗員の身長に合わせてヘッドレストを適切な位置に調節してください。
- ヘッドレストの中心が耳の上部になるように位置を調節します。
- ヘッドレストの調節後、調整した位置で確実にロックされていることを確認してください。
- ヘッドレストが装着されていない状態で運転しないでください。
- ヘッドレストのステーにものをかけないでください。

ステアリングホイール

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ



左側ボタン

アダプティブクルーズコントロールボタン

***** 

- アダプティブクルーズコントロールシステム（ACC）の ON/OFF を操作します。

+/RES

- レバーを上方向に操作し、短押しすると車速が一定量増加します。長押しすると、車速が継続的に増加します。
- ACC を有効にして、前回のシステム設定値を呼び出します。

-/SET

- レバーを下方向に操作し、短押しすると車速が一定量減少します。長押しすると、車速が継続的に減少します。
- 現在の速度を ACC の設定速度として設定します。

車間距離 - 

・ACC 追従走行機能作動中に、先行車との車間距離を調整できます。1 回押すと 1 段下がります。

車間距離 + 

・ACC 追従走行機能作動中に、先行車との車間距離を調整できます。1 回押すと 1 段上がります。

インテリジェントクルーズコントロールボタン 

・このボタンを押すことでインテリジェントクルーズコントロールを ON/OFF にすることができます (この機能を有効化するには事前に ACC 機能を有効化する必要があります)。

お願い

・アダプティブクルーズコントロール機能の使い方については、「4-使用および運転」のアダプティブクルーズコントロールシステム*を参照してください。

カスタマイズボタン 

・カスタマイズボタンは、カスタマイズされていない状態では、短押しすると工場出荷時のデフォルト機能が有効化されます。長押しするとカスタムインターフェースに進みます。カスタマイズ機能はドライブレコーダー撮影 (ドライブレコーダー*) およびロック機能*を含みます。

・カスタマイズボタンが既に特定の機能にカスタマイズされている場合、短押しするとその機能が有効化され、長押しするとカスタムインターフェースに進み、再設定または解除できます。

BYD アラウンドビューシステム 

・BYD アラウンドビューシステムボタンを押すと、マルチメディアはアラウンドビューモードに入ります。

・BYD アラウンドビューモードの場合は BYD アラウンドビューシステムを OFF にします。BYD アラウンドビューモード以外の場合は、BYD アラウンドビューシステムを ON にします。

右側ボタン

ホイールボタン 

マルチメディア

・上方向にホイールを回す：最大音量になるまで音量を 1 段ずつ上げます (1 周で 12 段)。

・下方向にホイールを回す：最小音量になるまで音量を 1 段ずつ下げます (1 周で 12 段)。

・ホイールを押す：ミュートモードになります。

・ミュート機能を ON にすると、マルチメディアはミュートモードに入ります。この場合、音量を調整してもミュートモードを解除できません。解除するには、再度ホイールを押すか、タッチスクリーン内のミュートスイッチを操作してください。

メーター

・上方向にホイールを回す：

・メーターメニューモードでは、スクロールアップで第 2 階層/第 3 階層メニューを選びます。

・下方向にホイールを回す：

・メーターメニューモードでは、スクロールダウンで第 2 階層/第 3 階層メニューを選びます。

左矢印/右矢印ボタン 

マルチメディア

・ラジオモードの場合：

・◁ ボタンを押すと、前の放送局を再生します。

- ▷ ボタンを押すと、次の放送局を再生します。

- マルチメディア USB/Bluetooth 音楽/サードパーティ音楽 APP などのモードの場合：

  - ◁ ボタンを短く押すと、前の曲を再生します（曲番号 - 1）。

  - ◁ ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。スクロールアップで希望の項目を選びます。

  - ▷ ボタンを短く押すと、次の曲を再生します（曲番号 + 1）。

  - ▷ ボタンを短く押すと、Bluetooth 通話記録、電話帳画面が表示されます。スクロールダウンで希望の項目を選びます。

メーター

- メーターメニューモードの場合：

  - ◁ ボタンを押すと、メインメニューおよびそのサブメニューを左に切り替えます。

  - ▷ ボタンを押すと、メインメニューおよびそのサブメニューを右に切り替えます。

- 予約充電開始時間を設定する場合：

  - ステアリングホイールの「◁ / ▷」を押すことで時間と分の設定を切り替えます。

電話ボタン

- 電話をかける、または電話を受けます。（このボタンを押すと、オーディオシステムがミュートモードに入ります）

- システムが Bluetooth と関係のない画面を表示しており、Bluetooth を接続していない場合、ボタンを短く押すと Bluetooth 接続画面に切り替わります。Bluetooth に接続されている場合は、ダイヤル画面に切り替わります。

- ダイヤル画面に電話番号を入力するか、通話記録、電話帳画面で電話番号を選んでボタンを短く押すと、ダイヤル機能が作動します。

- Bluetooth に接続した状態で、ダイヤル画面に番号が入力されていない場合、ボタンを短く押すと通話記録画面の発信履歴画面に直接切り替わります。再度押すと、発信履歴画面の一番上の電話番号を自動的にダイヤルします。

音声制御ボタン

- ボタンを押すと、マルチメディアタッチスクリーンが音声制御画面に切り替わり、音声機能を操作できます。

メーター/リターンボタン

- コンビネーションメーターがメニューモード以外の場合、メーター/リターンボタンを押すと、メーターメニューが表示されます。

- コンビネーションメーターがメニューモードの場合、メーター/リターンボタンを押すと、前の画面に戻ります。前の画面がないときは、メニュー画面が閉じます。

- Bluetooth 通話画面の場合は、短く押すと通話を終了できます。

MODE ボタン

- モード選択：モードボタンを押すと、メディア APP、周辺機器、プリインストール APP を切り替えることができます。

ホーンボタン

ホーンのパッド面を押すと、ホーンが鳴ります。手を離すと、ホーンが止まります。

お願い

- 交通ルールを守り、ホーンを適切に使ってください。

注意

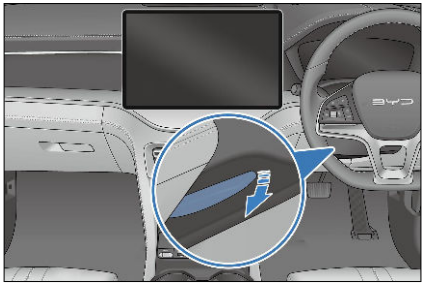
- ホーンのパッド面を長時間押さないでください。ホーンの破損につながるおそれがあります。

ステアリングホイールの調節

ステアリングホイールの手動調節

ステアリングホイールの角度を調整するときは、ステアリングホイールを握りながら次の操作を行います。

- ステアリングホイールの調節レバーを下に押し、ステアリングホイールを任意の角度と軸方向の位置に調節した後、調節レバーを元の位置に戻します。



警告

- 走行中にステアリングホイールを調節しないでください。ドライバーが車の操縦を誤り、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- ステアリングホイールを調節した後、上下方向に動かして確実に固定されていることを確認してください。

パワーステアリングモードの設定

- パワーステアリングの感触は、人によって異なります。ドライバーにより、パワーステアリングの感触の評価やニーズも異なります。
- ドライバーは、コントロールパネル→設定→車両制御→運転制御から「ステアリングアシスト」設定画面に入り、「コンフォート」または「スポーツ」のモードを選択できます。

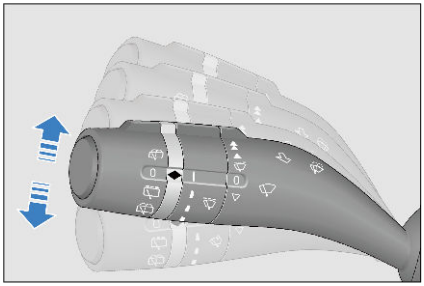
お願い

- 高速走行時にステアリングの操作力が軽く感じる場合は、ステアリングアシストの設定をスポーツモードに設定することをおすすめします。

ワイパー

ワイパースイッチ

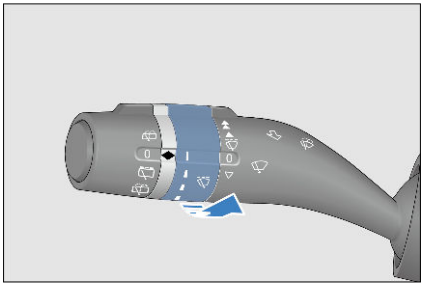
- ワイパースイッチを動かしてワイパーとウォッシャを操作します。レバーは 5 段階で切り替えできます。
  - ：高速モード
  - ：低速モード
  - ：オートワイパー/間欠モード
  - ：停止
  - ：ミストモード



- モードを切り替える場合は、上または下にレバーを操作します。
- 低速および高速モードの場合、ワイパーは連続的に作動します。
- ミストモード ▽ でワイパーを作動させるには、 0 の位置からレバーを押し下げます。レバーを離すまで低速でワイパーが連続作動します。

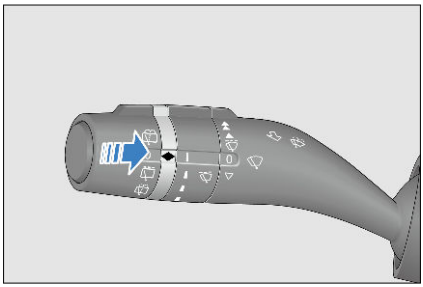
オートワイパー/間欠モード

- 雨量センサーは、雨量に合わせて自動でワイパーの作動を制御します。センサーはフロントガラス室内側のルームミラー前側に搭載しています。
- オートワイパーを使用するときは、レバーをオートワイパー/間欠モードの位置に切り替え、コントロールパネ→設定 ⚙ →車両制御の「オートワイパー」設定画面から、オートワイパーを ON にしてください。
- 間欠モードを使用するときは、レバーをオートワイパー/間欠モードの位置に切り替え、コントロールパネル→設定 ⚙ →車両制御の「オートワイパー」設定画面から、オートワイパーを OFF にしてください。
- ドライバーは、オートワイパーの感度を 4 段階で調整することができ、数字が大きいほど感度が高いです。雨の強さに合わせてスイッチを操作して感度を調整し、ワイパーの反応が早いときは感度を下げ、ワイパーの反応が遅いときは感度を上げてください。



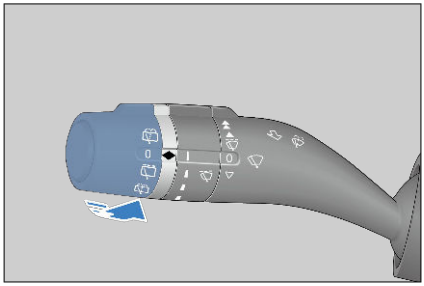
フロントウォッシャー

- フロントガラスを洗浄する場合は、レバーを手前 (ステアリングホイールに近づける方向) に引きます。ウォッシャ液が噴射すると同時にワイパーが作動します。
- レバーの操作時間が 1 秒以下のときはワイパーが 1 回作動します。1 秒以上のときはワイパーが 2 回作動します。

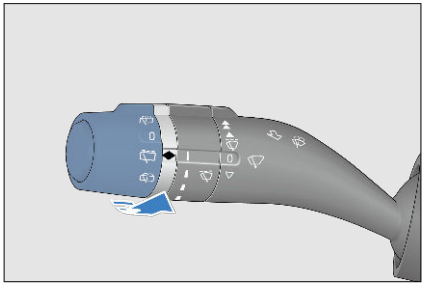


リアワイパーおよびウォッシャ

- ワイパースイッチのツマミを ▭ の位置に回すと、リアワイパーが作動します。ツマミを 0 に回すと、ワイパーが止まります。
- ツマミを ▭ の位置に回すと、リアワイパーとウォッシャが同時に作動します。



- ワイパースイッチのツマミを の位置に回して手を離すと、ウォッシャ液が噴射された後にワイパーが 2 回作動します。



お願い

- 定期的にワイパーブレードを点検し、汚れを除去してください。
- 雨が降り出した直後にワイパーを作動させると、雨水に土砂やほこりが混じっていて、ウィンドウガラスをきれいに拭き取らないばかりか、視野も一瞬で悪化し、安全運転に影響します。
- ガラス洗浄液を使ってください。水や他の洗浄液を使うと、ワイパーモーターの破損につながるおそれがあります。
- テールゲートが開いている、または確実に閉まっていない場合は、ワイパースイッチでリアワイパーを操作できません。テールゲートをしっかり閉めると、リアワイパーの操作が可能になります。

お願い

ワイパーの交換

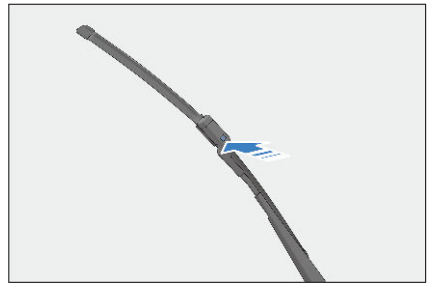
少なくとも 6 か月毎にフロント/リアワイパーブレードを点検し、ゴム部に割れや部分的な硬化がないかを確認してください。割れや硬化がある場合は、ただちにブレードを交換してください。そのまま使用すると、スジ状の線または拭きムラが残ります。

ワイパーブレードの交換

フロントワイパーブレードの交換

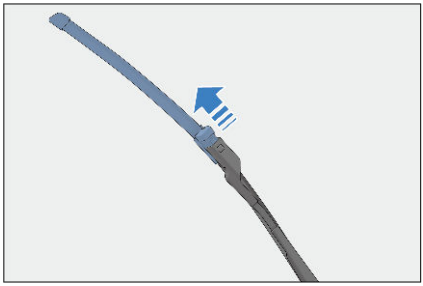
コントロールパネル→設定 →車両状況→メンテナンスの設定画面から、フロントワイパーメンテナンスモードを ON にすると、点検やワイパー交換作業をしやすくするため、ワイパーが一番高い位置に動きます。作業完了後にフロントワイパーメンテナンスモードを OFF にすると、ワイパーは自動で初期位置に戻ります。

1. 始めに運転席側のワイパーアームを立て、次に助手席側のワイパーアームを立てます。
2. ブレードロックボタンを押します。



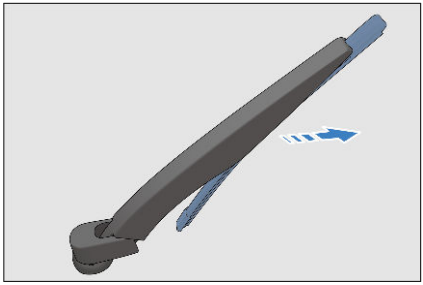
3. ブレード留め具を持ち、図に示す方向にブレードを取り出します。

4. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



リアワイパーブレードの交換

1. リアワイパーアームをリアガラスから持ち上げます。
2. ワイパーアームを持ち、図に示す方向にブレードを真っすぐに抜き出します。
3. 新しいブレードを取り付けるときは、ブレードの外し方と逆の手順で作業します。



注意

- ボンネットおよびワイパーアームが破損するおそれがあるため、ワイパーアームを立てている状態でボンネットを開けないでください。
- 洗車後にワイパーブレードを戻す際は、ワイパーアームを押し倒してブレードがフロントガラスに衝突しないようにしてください。

注意

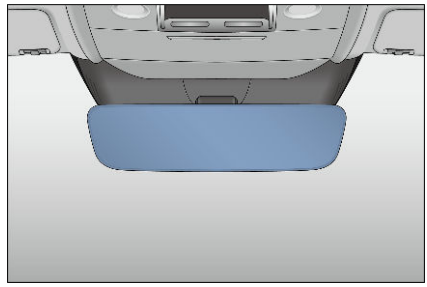
- ワイパー作動時、ワイパーブレードを折り曲げたり、手などでワイパーブレードの動きを阻止したりしないでください。

リアビューミラー

ルームミラー

自動防眩機能*

自動防眩ルームミラーは自動防眩機能を搭載しているため、車両周囲の環境に合わせてルームミラーのガラス色を自動的に調整し、強い反射光による眩しさを軽減します。

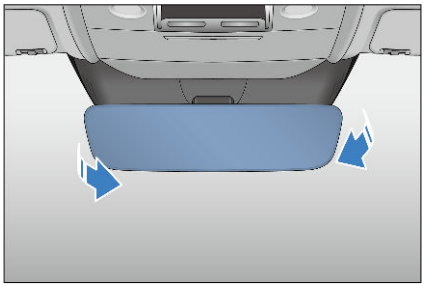


警告

- ルームミラーに重量物を掛ける、強い力で揺らしたり引っ張ったりしないでください。
- 手動でルームミラーを調節する際に引っかかりがある場合は、ルームミラーが脱落するおそれがあるため、無理に調整しないでください。
- ドライバーは、走行中にルームミラーを調節しないでください。運転に集中できず、死傷につながる思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

ルームミラーの手動調節

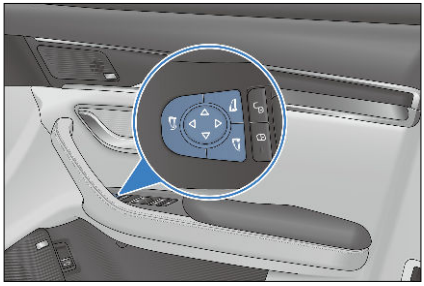
上下左右にルームミラーを動かし、適切な位置に調整します。



ドアミラー

電動ドアミラースイッチを操作して、ドアミラーから車両の両側が見えるよう適切な角度に調整してください。

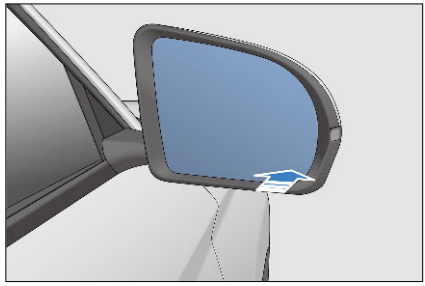
- ドアミラー選択ボタン：調節するドアミラーを選択します。
  - ：左側ドアミラーボタン
  - ：右側ドアミラーボタン



- ドアミラー調整ボタン ：ドアミラーを適切な位置に調節することができます。希望の方向に合わせスイッチを押します。

手動調節

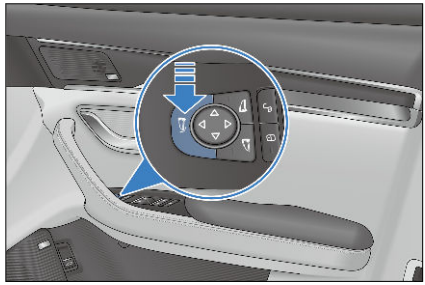
手でミラーの縁を押さえ、ミラーの中心を軸に回転させて、適切な位置に調整します。



可倒式ドアミラー

電動可倒式ドアミラー

- ボタンを押すと、電動ドアミラーが格納されます。再度ボタンを押すと、電動ドアミラーが展開します。
- イモビライザーが作動すると、ドアミラーが自動的に格納されます。イモビライザーを解除すると、ドアミラーが自動的に展開します。



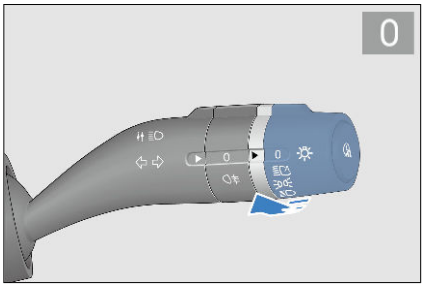
お願い

- 走行中にドアミラーを調節しないでください。運転操作を誤る原因となり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 長時間ドアミラー内蔵のヒーターで除霜機能を使う場合は、ガラスの早期劣化につながるおそれがあるため、不要なときは早めにデフロスターを OFF にしてください。

スイッチ

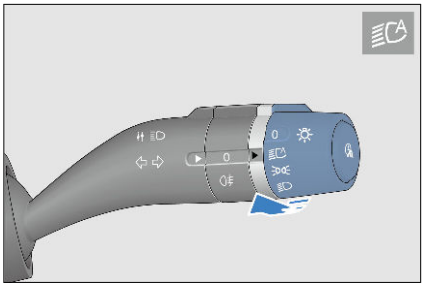
ライトスイッチ

ライトスイッチを 0 に回すと、デイタイムランニングライト以外のすべてのライトが消灯します。



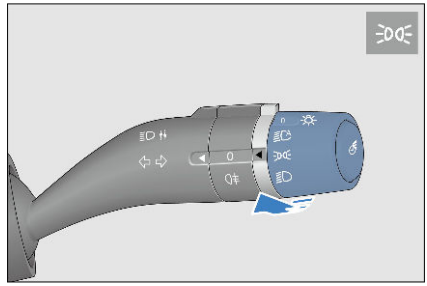
オートライト

ライトスイッチを に回すと、BCM(ボディーコントロールモジュール) が照度センサーで周囲の明るさを取得し、自動的にポジションランプやロービームの ON/OFF を制御します。



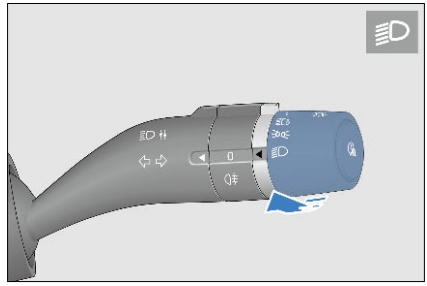
ポジションランプ

ライトスイッチを に回すと、ポジションランプが点灯します。



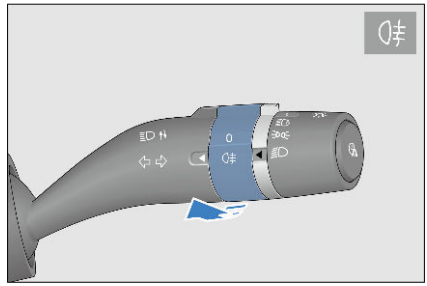
ロービーム

ライトスイッチを に回すと、ロービームが点灯します。



リアフォグランプ

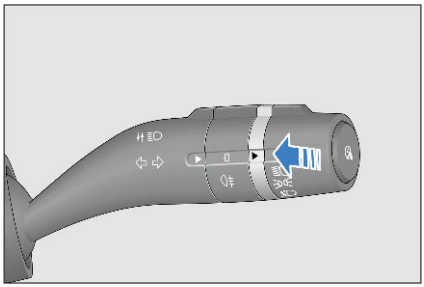
ライトスイッチを に回し、リアフォグランプスイッチを に回すと、リアフォグランプが点灯します。



パッシングライト

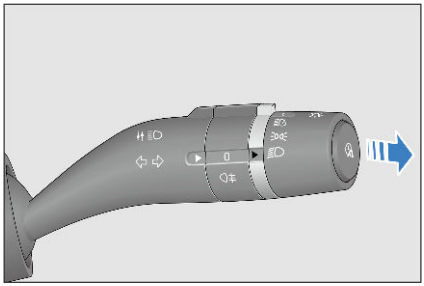
ライトスイッチのレバーを手前 (ステアリングホイールに近づける方向) に引くと、パッシングライトが点灯し、手を離すとラ

イトスイッチは自動的に戻り、パッシングライトが消灯します。



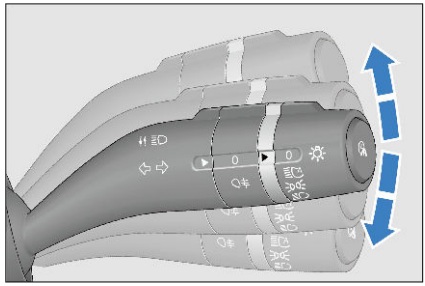
ハイビーム

ライトスイッチを に回し、ライトスイッチのレバーを前方に押すと (ステアリングホイールから離れる方向)、ハイビームが点灯します。ライトスイッチのレバーを手前に戻すと、ハイビームが消灯します。



ターンシグナルランプ

- コンビネーションスイッチのレバーを上方向に上げると、左ターンシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。
- コンビネーションスイッチのレバーを下方向に下げると、右ターンシグナルランプとコンビネーションメーターの方向指示表示灯が同時に点滅します。



- ターンシグナルランプをつけた後に手を放しても、ターンシグナルランプは点滅し続けます。曲がり切ると、自動的に消灯します。ドライバーの運転の違いにより、特別なケースでは、ハンドルを 1 回転させないと消灯しない場合があります。

オート OFF 機能

- オート OFF 機能の作動条件 : ライトスイッチを または に回し、電源を「スタート」から「ストップ」に切り替えると ON になります。
- オート OFF 機能が ON の状態で右側フロントドアが閉まっていると、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが 10 秒後に消灯します。
- オート OFF 機能が ON の状態で右側フロントドアが開いていると、点灯中のヘッドライトおよびポジションランプが 10 分後に消灯します。
- 自動で消灯した後にライトスイッチのポジションを切り替えた場合、切り替えたポジションに応じてライトが点灯します。このとき、オート OFF 機能の作動条件が揃うと、再度オート OFF 機能が作動します。
- オート OFF 機能の解除 : 車両の電源を入れると機能が OFF になり、ライトスイッチは通常通り操作できます。
- オート OFF 機能によりランプが消灯し、イモビライザー作動後に再度イモビライザーを OFF にすると、消灯したランプが自動的に再度点灯します。右側フロント

ドアを開けていなければ、オート OFF 機能により、10 秒後にランプが再度消灯します。ドアを開けると、オート OFF 機能によりランプが 10 分後に消灯します。

機能

- 降車後のヘッドライト点灯機能：
  - ドライバーは、コントロールパネル→設定 ⚙ →照明→ウェルカムライトで「降車後のヘッドライト点灯機能」の設定画面に入り、降車後のヘッドライト点灯時間を設定することができます。点灯時間の初期値は 10 秒です。ライトスイッチを ≡D、≡DC または ≡D に切り替え、電源ポジションを「OFF」にして、すべてのドアを施錠した状態で車両から離れると、該当ライトが 10 秒間（または設定時間）点灯します。

⚠ 注意

- ライトの点灯時間および消灯時間は、マルチメディアの画面で設定値を変更することができます。

運転席側スイッチ

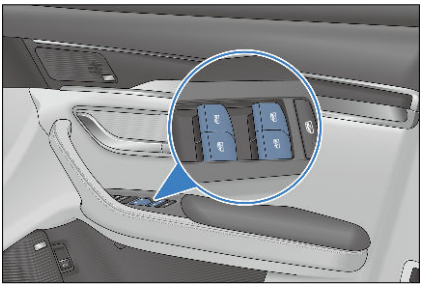
- 各ドアのスイッチでパワーウィンドウを操作できます。
- 電源ポジションは「OK」位置または「OFF」位置にあり、電源オフ遅延時間内でなければなりません。

パワーウィンドウスイッチ

- 運転席側のウィンドウスイッチは 4 つあり、それぞれのウィンドウガラスの開閉を操作できます。
  - 下降：スイッチを押す。
  - 上昇：スイッチを引き上げる。

自動操作（挟み込み防止機能装着時）

- 自動下降：2 段階までスイッチを押し込んでから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で下がります。



- 自動上昇：2 段階までスイッチを引き上げてから手を離すと、ウィンドウガラスが自動で上がります。
- 途中で止めたい場合は、反対方向に軽く押してください。

手動開閉

- 自動下降：1 段階までスイッチを押している間、ウィンドウガラスは下がり続けます。
- 自動上昇：1 段階までスイッチを引いている間、ウィンドウガラスは上がり続けます。

挟み込み防止機能*

ウィンドウガラス上昇中に人やものが挟まれると、ウィンドウガラスの上昇が止まり、自動的に下がります。

挟み込み防止機能の初期化*

- ウィンドウガラスの上昇または下降中に起動バッテリーの接続を解除すると、ウィンドウガラスの自動上昇および挟み込み防止機能が無効になり、表示灯が点滅します。次の操作で初期化してください。
  - ガラスを全閉にしてから 0.5 秒間パワーウィンドウスイッチを引き上げ続けます。
  - 自動でウィンドウガラスを全閉する場合、ウィンドウガラスが窓枠のシーリ

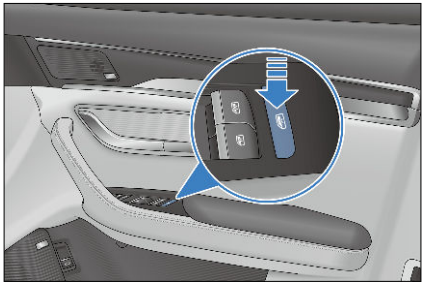
ングストリップ上部付近に上昇している際に、一定の抵抗が検知されるとウィンドウガラスは挟み込み防止のために下がります。

注意

- 挟み込み防止機能の初期化を頻繁に行うと、パワーウィンドウモーターの過熱保護機能が作動します。
- 身体の一部で挟み込み防止機能を故意に作動させないでください。
- ウィンドウガラスが閉まり切る直前に挟まれた場合、状況によっては挟み込み防止機能が作動しないおそれがあります。
- ウィンドウガラス自動上昇機能と挟み込み防止機能が作動しない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に点検を依頼してください。

ウィンドウロックキー

- ウィンドウロックキーを押すとウィンドウロック表示灯が赤色に点灯し、ドライバー側のスイッチだけですべてのウィンドウガラスの開閉を操作することができます。リアウィンドウスイッチでは各席のウィンドウガラスの開閉はできません。
- 再度ウィンドウロックキーを押すとウィンドウロック表示灯が消灯し、リアウィンドウスイッチで開閉を操作することができます。



集中ドアロック

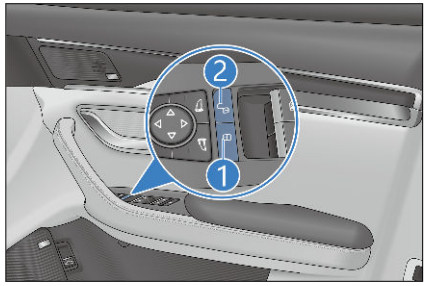
運転席側のドアには電動ドアロックを搭載しています。2 つのボタンですべてのドアの施錠や解錠ができます。

①施錠

「集中ドアロック施錠」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に施錠され、施錠の赤色表示灯が点灯します。

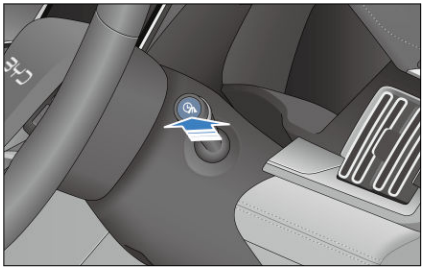
②解錠

「集中ドアロック解錠」ボタンを押すと、すべてのドアが同時に解錠され、施錠の赤色表示灯が消灯します。



走行距離切替

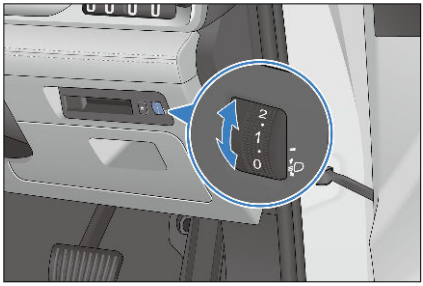
- 「走行距離切替」スイッチを押すと、「ODO」――「TRIP A」――「TRIP B」――「HEV TRIP」――「EV TRIP」――「ODO」の切り替えができます。同時に、コンビネーションメーターには切替状態が表示されます。
- 「TRIP A」、「TRIP B」を長押しすると、走行距離がリセットできます。



フロントコンビネーションランプの調節

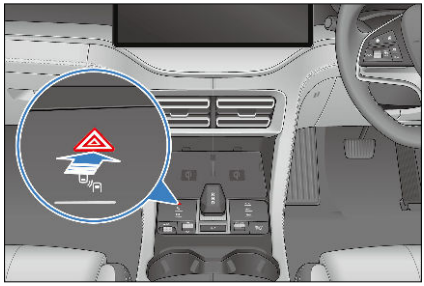
ヘッドライト高さ調節スイッチ

- このスイッチでヘッドライトの光の上下方向の照射角度を調整します。ロービームを点灯させると、このスイッチは作動可能となります。
- ヘッドライト高さ調節スイッチが「0」ポジションにある場合、ヘッドライトの光の照射高さは最も高くなります。ヘッドライト高さ調節スイッチが「5」ポジションにある場合、ヘッドライトの光の照射高さは最も低くなります。ドライバーのニーズに応じて、スイッチを 0 から 5 のいずれかのポジションに調整すると、ヘッドライトの照射高さが変化します。



ハザードランプ

⚠ スイッチを押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅すると共に、コンビネーションメーター内の方向指示表示灯が点滅します。再度 ⚠ スイッチを押すと、点滅が止まります。

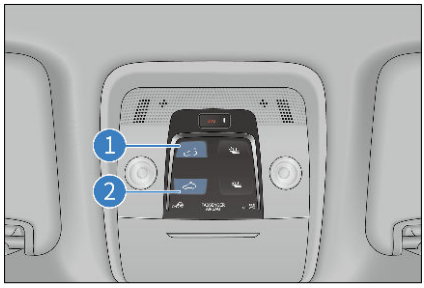


サンルーフスイッチ*

サンルーフを操作する場合は、電源ポジションを「OK」にする、または「OFF」にしてから作動できる時間内に操作してください。

サンルーフを開ける

- サンルーフオープンボタン①を押し続けると、サンルーフが開きます。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンルーフオープンボタン①を押した直後に離すと、サンルーフはチルトアップして換気をします。再度押すと、サンルーフが自動で 2/3 まで開きます。もう一度押すと、サンルーフが全開になります。開いている途中に、ボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

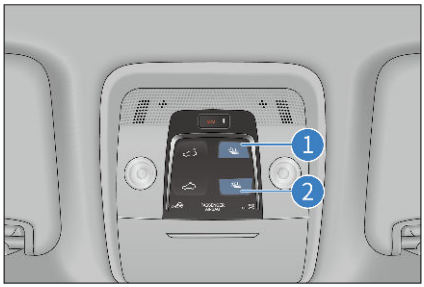


サンルーフを閉める

- サンルーフクローズボタン②を押し続けると、サンルーフが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンルーフを初期化している場合、サンルーフクローズボタン②を押した直後に離すと、サンルーフが自動で全閉します。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

サンシェードを開ける

- サンシェードオープンボタン①を押し続けると、サンシェードが開きます。途中でボタンを離すと、サンシェードは現在の位置で止まります。
- サンシェードオープンボタン①を押した直後に離すと、サンシェードが自動で開きます。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。



サンシェードを閉める

- サンシェードクローズボタン②を押し続けると、サンシェードが閉まります。途中でボタンを離すと、現在の位置で止まります。
- サンシェードを初期化している場合、サンシェードクローズボタン②を押した直後に離すと、サンシェードが自動で閉まります。途中でボタン①またはボタン②を押すと、現在の位置で止まります。

注意

- サンルーフのサンシェード開閉中に、サンシェードの破損を防ぐため、強い力を加えないでください。

サンシェード連動開閉機能

サンルーフを開けると、サンシェードはサンルーフに連動して開きます。

挟み込み防止機能

サンルーフまたはサンシェードを閉める途中で人やものが挟まれた場合、サンルーフまたはサンシェードが自動的に止まり、反対方向に少し開きます。

警告

- サンルーフを開閉する場合は、手や頭部を挟まないように注意してください。サンルーフに挟まれると、重大な傷害につながるおそれがあります。
- 走行中にサンルーフから頭部、手など身体の一部を出さないでください。生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

注意

- 気温が 0°C以下のとき、または雪や霜が積もっている状態でサンルーフを開けると、サンルーフまたはモーターを破損させるおそれがあります。

初期化方法

車両の電源ポジションが「OK」で、サンルーフを初期化していない場合、下記の手順で初期化します。

1. サンルーフクローズボタンを押し続け、サンルーフを全閉位置にした状態で 0.4 秒保持すると、サンルーフの初期化が完了します。
2. サンルーフ初期化完了かつ全閉状態にある場合、サンシェードクローズボタンを押し続け、サンシェードを全閉位置にした状態で 0.4 秒保持すると、サンシェードの初期化が完了します。

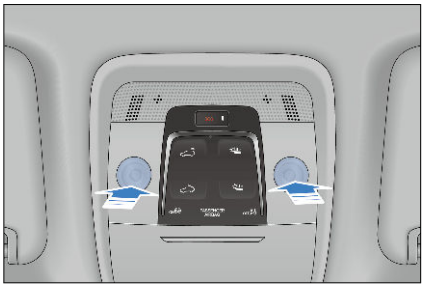
注意

- 初期化の過程においては、サンルーフ/サンシェードが全開または全閉になるまで、サンルーフ/サンシェードのオープンまたはクローズボタンを押し続ける必要があります。

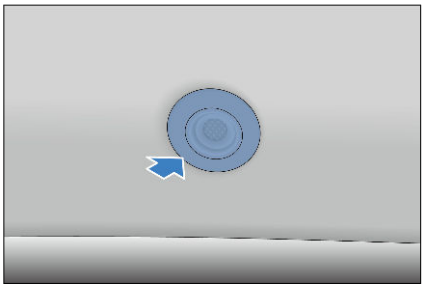
ルームランプ

フロント/リアルームランプ

- フロントルームランプ



- サイドルームランプ



お願い

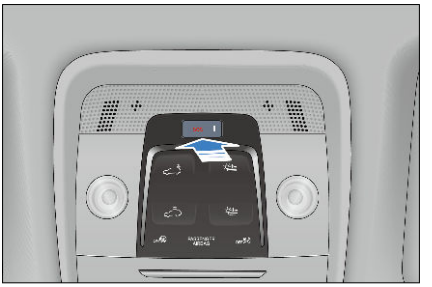
- 車両の電源ポジションが「OFF」以外で、DOOR スイッチを ON にしている場合は、ドアが開いている状態でスイッチに触ると、ルームランプの高照度・低照度を切り替えることができます。電源ポジションを「OFF」にして DOOR スイッチを ON にしている場合は、ドアが開いている状態でしばらくすると、ルームランプが消灯します。この間に他の操作があった場合は、新たに時間を力ウントします
- ドライバーは、マルチメディアディスプレイのトップ画面のステータスバーをドロップダウンし、「ショートカット」画面で「DOOR」スイッチの ON または OFF を操作することができます。

アンビエントライト*

マルチメディア→ ⚙ →照明→アンビエントライトの設定画面から、アンビエントライトの色調、明るさ、対象場所を設定します。

E-Call スイッチ

E-Call とは緊急通報（Emergency Call）のことで、SOS ボタンを 1 秒～10 秒以内に操作することで E-Call が作動します。5 秒以内に再度 SOS ボタンが押さなければ、E-Call 通報が発信されます。



- 誤って SOS ボタンを押してしまった場合は、5 秒以内に再度 SOS ボタンを押すとキャンセルすることができます。
- エアバッグが展開した場合や、激しい衝突を検出した場合は、E-Call が自動で作動します。

- E-Call が作動すると自動で緊急通報を行い、関連の車両・事故情報を緊急通報受付センター（Public Safety Answering Point）に発信します。

注意

- SOS ボタンを 20 秒以上押し続けると、SOS ボタンがショートした（ボタン引っかかりの状態）と判断されるため、手動操作しても E-Call が作動しません。
- E-Call を発信すると、手動操作でキャンセルすることができなくなります。緊急通報受付センターが緊急通報を切る、または 10 回以上連続で発信しても繋がらない場合は、システムは 60 分間コールバック待ち状態に入ります。
- E-Call システムの通電時、自己診断中は表示灯が 2Hz で高速点滅します。E-Call システムが正常に動作し、故障がない場合は、表示灯が常時点灯（ON）状態を維持します。E-Call システムが作動し、音声通話中の場合は、表示灯が 1Hz で点滅します。E-Call システムの音声通話が終了すると、表示灯は常時点灯（ON）状態に戻ります。GPS 信号が弱い場合は、表示灯が 0.5Hz でゆっくり点滅し、GPS 信号が正常に復帰すると、表示灯は常時点灯（ON）状態となります。E-Call システムが深刻な故障を検出した場合は、表示灯が消灯（OFF）状態を維持します。

04 使用および運転

充電/放電について.....90
バッテリー.....104
ご利用要領.....107
発進と運転.....114
運転支援機能..... 125

充電/放電について

充電について

充電に関する警告

- 充電設備は高電圧が掛かっているため、お子様だけで充電をしたり充電設備を使ったりしないでください。また、充電中はお子様を充電設備に近づけないでください。
- 充電が医療電子機器や植え込み型電子機器に与える影響については、電子機器メーカーへ確認してから充電作業を行ってください。
- 安全な場所で充電してください (液体、火元、熱源などがある環境を避けるなど)。
  - 雨の中で充電するときは、水が掛からないように充電設備を保護してください。
- 充電前の設備点検および操作について
  - 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れまたはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
  - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆びや腐食で破損している、または緩みがある場合は、充電しないでください。
  - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが汚れたり濡れたりしている場合は、乾燥している清潔な布で拭いてください。
- 規格に適合する充電設備で充電してください。
  - 故障や火災を防ぐため、充電設備および関連ポートの改造や取り外し、修理はしないでください。故障しているときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
  - 安全基準を満たさない、または潜在的危険性がある充電設備で充電しないでください。また、充電中はお子様やペットを充電設備に近づけないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、手が濡れている状態で操作しないでください。
- 充電中に車両や充電設備に異常を見つけた場合は、ただちに充電を停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 車両の破損を防ぐため、充電時は下記の内容に注意して充電してください。
  - 車両側の充電ポートを破損するおそれがあるため、充電コネクタを揺らさないでください。
  - 雷雨時はバッテリーを充電しないでください。落雷による車両の破損につながるおそれがあります。
- 充電中は、モータールームを開ける必要がある修理をしないでください。
- 感電による傷害につながるおそれがあるため、濡れた手や水の中などに入った状態で充電設備を切り離さないでください。
  - 車両を発進させる前に、充電設備が充電ポートから切り離されていることを確認してください。

充電上のご注意

- すべての電源ポジションで AC/DC 充電* を行えますが、安全を確保するため、充電する前に、電源ポジションを「OFF」にすることをおすすめします。充電時に車両は「OK」ポジションに入ることはできません。
- 充電ポートフラップの故障を防ぐため、必要以上に充電ポートフラップを開閉しないでください。充電ポートフラップを

開閉する間隔は 1 秒以上にすることをおすすめします。

- 外部送電網がしばらく停電した後に電力供給が再開される場合、充電設備を再接続することなく BYD 充電装置が自動的に充電を再開します。
- 充電ポートフラップ、充電コネクタが天候などにより凍り付いた場合は充電ポートフラップを無理に開けたり、充電コネクタを無理に抜き出したりしないでください。
- 充電設備の破損を防ぐために (充電設備利用上のご注意):
  - 車両を始動する前に、充電設備が完全に抜き出されていることを確認してください。充電コネクタを最後まで挿し込まないと、車両の電源ポジションが OK になる可能性があり、充電コネクタをつないだまま車両を動かすと、充電設備および車両の破損につながるおそれがあります。
  - 充電ポートキャップを開けている状態で、充電ポートフラップを閉じないでください
  - 充電ケーブルを強く引っ張ったりねじったりしないでください。
  - 充電設備に衝撃を与えないでください。落下や外部からの衝撃などによる機械的破損がないように注意してください。
  - 温度が 55°Cを超える環境で充電設備を保管または使用しないでください。
  - 充電設備をヒーターや他の熱源の近くに置かないでください。
- 充電前のご注意 :
  - 充電ポートフラップが解錠されるまでは、充電ポートフラップを強制的に開けないでください。
  - 充電前に、充電コネクタと充電ポートに異物が付着していないこと、充電コネクタ端子の絶縁キャップに緩みや変形がないことを確認します。
  - 充電ポートフラップを解錠した後、充電ポートフラップを開け、充電コネクタを持ち、充電ポートに合わせてから押し込み、確実に取り付けます。
- 充電中のご注意 :
  - 充電時は車から降りることをおすすめします。
  - 充電中は、エアコンを使うことは可能ですが、充電電力が低下します。
  - 換気の良い場所に車両を止め、エアインテークグリルを遮らないでください。
  - バッテリー加熱システムが作動した場合、コンビネーションメーターやマルチメディアに表示される充電電力が一時的に変動することがありますが、異常ではありません。
  - バッテリー冷却システムが作動すると、コンプレッサーやファンなどの部品が作動してモータールームから作動音が聞こえますが、異常ではありません。
  - パワーバッテリーを長持ちさせるため、充電完了前にバッテリー補正機能が作動することがあります。バッテリー補正機能が作動すると、充電時間が長くなることがあります。
  - 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。
  - 低温の環境で充電する場合、バッテリー温度制御機能でバッテリー低温時の充電能力を改善させることができますが、充電時間が延びます。加熱による電力消費が増えますが異常ではありません。
    - 外気温度が低い場合は、暖房のついた屋内で充電するようおすすめします。
    - 外気温度が高い場合は、風通しの良い場所で充電するようおすすめします。

・コンビネーションメーターにフル充電の所要時間が表示されます。気温やバッテリー残量、充電設備などにより所要時間は多少増減しますが、異常ではありません。

お願い

・ 充電中、ドライバーがキー、ドアハンドルまたはドアノブで解錠操作を行った後、メーターの充電電力が 0kW に低下するのは正常な現象です。30 秒後に正常な充電に復帰します。

・ 充電完了時のご注意：

・満充電になっていない状況で充電を終了する必要がある場合は、充電設備の設定を使用して充電を終了させてください。負荷がかかった状態で電源を切断しないでください。

・充電を停止し、充電ポートが解錠されていることを確認します。

・充電コネクタを持ち、充電コネクタ上のボタン*を押しながら充電コネクタを抜き出します。

・充電終了後、ロックを解錠してから充電コネクタを抜き出してください。

・充電ポートを破損させるおそれがあるため、充電ポートがロックされたまま充電コネクタを抜き出さないでください。

・充電コネクタを抜き出した後、充電ポートキャップおよび充電ポートフラップを確実に閉じてください。水や異物が充電ポートに入ると正常に使用できなくなるおそれがあります。

・ 利便性向上のために、以下のことをおすすめします。

・コンビネーションメーター内のパワーバッテリー残量（SOC）表示が赤のエリアに到達した場合は、パワーバッテリー残量が低下していることを表します。残量が低下している場合は、パワーバッテリーの寿命に影響をおよぼすおそれがあるため、速やかに充電してください。

・車両を使用した直後に充電することをおすすめします。使用直後は、充電性能が優れています。

一般充電故障の診断

故障状態	考えられる原因	対処方法
充電されないとき：充電設備に接続して充電をスタートしている	充電カードの残高不足、または充電スタンドの故障	充電カードの残高を確認する、または充電場所のスタッフに連絡してください。
	AC 充電コネクタを正しく接続していない	充電装置の給電プラグの長さと接続位置の違いに注意してください。
	12V 起動バッテリーが過放電になっている	ブースターケーブルで他の車両の 12V 電源と接続し、車両を始動させた後、モータールームの起動バッテリーを充電してください。
	230V 50Hz 10A アース付き標準コン	電源の過電流保護が作動しているかを確認し、他のコンセントを使用してください。

故障状態	考えられる原因	対処方法
	セントが電力を供給していない	
	車両や AC 充電コネクタが故障している	コンビネーションメーター内のパワートレイン故障警告灯が点灯している場合、または充電システム故障メッセージが表示されている場合は、充電を停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
	パワーバッテリーの温度が低すぎる/高すぎる	パワーバッテリーが加熱、または冷却されるまで適切な場所に停車し、温度が正常になるのを待ってから充電してください。
	パワーバッテリーがフル充電になっている	パワーバッテリーがフル充電になっている場合は、自動で充電を停止します。
充電が途中で止まった	充電コネクタがきちんと接続されていない	充電コネクタが確実に接続されているかどうか確認してください。
	充電コネクタスイッチが押し込まれている	充電コネクタスイッチが押し込まれると、充電が停止するため、充電コネクタを再接続して充電を開始する必要があります。
	停電している	一定時間内に電源が復旧したら、充電コネクタを再接続して充電を開始してください。
	パワーバッテリーの温度が高すぎる	充電が自動的に止まります。バッテリーを冷却してから充電を再開してください。
	車両や充電スタンドが故障している	充電スタンドや車両に故障メッセージが表示されていないかを確認し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

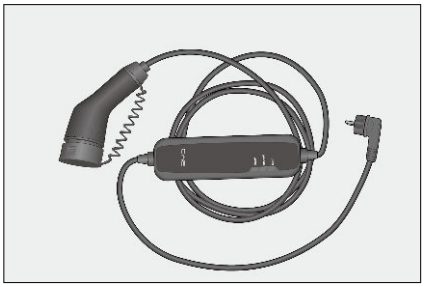
充電方法

- **充電前の点検**
  - 給電設備、充電コネクタ、充電ポート、車載充電ケーブルなどに、ケーブルの摩耗やポートの錆び、ケースの割れまたはポート内の異物付着などの異常がないことを確認してください。
  - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートの金属端子が錆び、燃焼や腐食で破損している、または緩みがある場合は、充電しないでください。
  - プラグやソケット、充電コネクタ、充電ポートが汚れたり濡れたりしている場合は、乾燥している清潔な布で拭いてください。
  - 上記のようなことがある場合は、充電しないでください。ショートや感電などにより身体に危害を与えるおそれがあります。
- 雨の中で充電するときは、水が掛からないように充電設備を保護してください。

家庭用 AC 普通充電

1. **充電器について**

- 車載された装置は現地の規格に適合する給電プラグ、AC 充電コネクタ、コントロールボックス、充電ケーブル、機能ボックスで構成されており、車載充電装置と呼ばれます。給電プラグを家庭用コンセントに挿し込み、AC 充電コネクタを車両の AC 充電ポートに挿し込みます。



- 高出力充電による回路焼損や自動保護ブレーカーが誤作動し、他の設備に影響を与えないよう、ソケットは規格に適合する家庭用コンセントを選択してください。
- 230V 10A の専用交流回路と電源ソケットを使用して充電してください。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

警告

- 最大周囲温度：最大 50℃までとし、充電装置を使わないときは乾燥した冷暗所に保管してください。
- 充電中、充電装置をトランクルームや車両前部の下、タイヤの近くに置かないでください。
- 使用中は、車両にひかれたり地面に落としたりする、または人に踏まれることがないようにしてください。
- 落下禁止。この充電装置を移動するために、直接ケーブルを引っ張らないでください。
- 後付けの電線やアダプター/コンバーターを使わないでください。
- 家庭用給電コンセントのコードが柔らかくなった場合や、充電コネクタケーブルの摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、充電設備を使用しないでください。
- 充電コネクタや給電プラグ、家庭用コンセントの断線や破裂、または表面の破損がある場合は、この設備を使用しないでください。
- 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。

- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、充電設備の要求事項にしたがって、適切な電源を選ぶことをおすすめします。
- 充電設備のアースについて：設備のアース工事を確実にしてください。装置には、装置の接地点と電源プラグの接地点を接続するアース線が装備されています。電源プラグを正しく設置し、適切に接地された電源ソケットに適合している必要があります。
- 車載充電装置で充電する場合は、充電中の盗難防止機能を ON にしてください。

注意

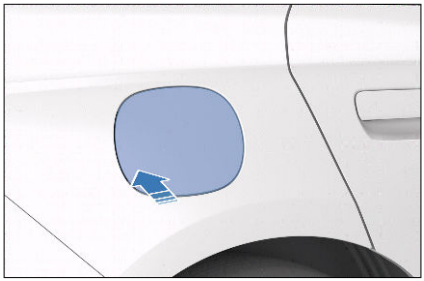
- 充電中の放熱性が悪くなるため、充電ケーブルを巻いたまま使用しないでください。

⚠ 注意

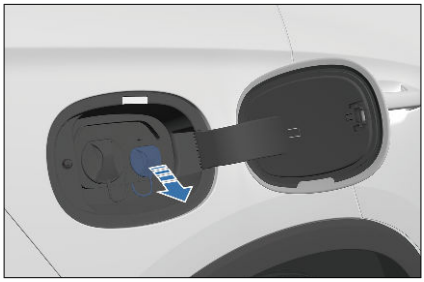
- 充電に関する注意事項の詳細は、「充電について」を参照してください。

2. **充電する**

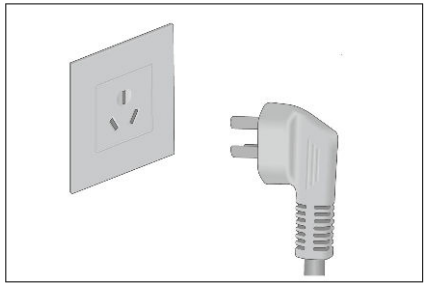
- 車両を解錠し、充電ポートフラップを開けます。
- 充電ポートフラップを開けます：
  - 車両を解錠し、充電ポートフラップを押し込むと、充電ポートフラップが自動で開きます。



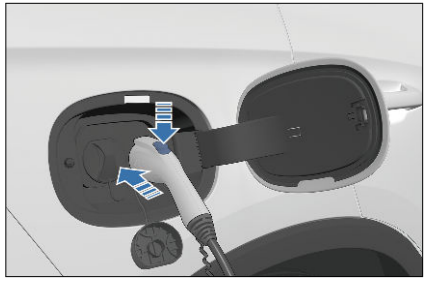
- 充電ポートキャップの右側キャップを開けて、左側キャップは閉じたままにします。



- 給電ポート側の接続：
  - 車載充電装置のプラグを家庭用コンセントに挿し込むと、車載充電装置の機能ボックスの電源表示灯が常時点灯します（赤色点灯）。



- 車両側の接続
  - 車載充電装置の充電コネクタを車両側充電ポートに確実に挿し込みます。
  - 充電コネクタを適切に挿し込むと、コンビネーションメーターの充電接続表示灯が点灯します。車載充電装置の表示灯は点滅します（緑色の灯）。



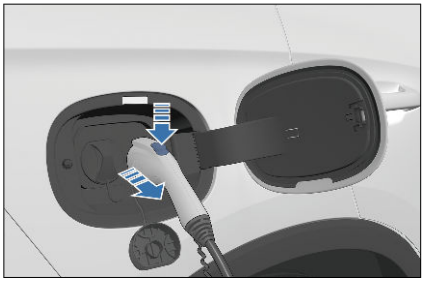
- 充電中は、コンビネーションメーターに関係充電パラメーターと充電画面が表示されます。

3. **充電を停止する**

- 充電が完了する：
  - フル充電になると、自動的に充電が完了します。
  - 早めに充電を終了する場合は、下記の手順を行ってください。
- 充電ポートの接続を切る：
  - PAD の電子ロックの作動モードが盗難防止ロック機能 OFF の場合、フル充電後は充電プラグを直接抜き出せます。まだフル充電になっていない場合、リモートキーのアンロックボタンまたは

ドアハンドルのマイクロスイッチを押し（キーが近くにある場合）、充電コネクタを抜き出し、給電プラグを外してください。

- PAD の電子ロックの作動モードが盗難防止ロック機能 ON 場合、フル充電になっているかどうかにかかわらず、リモートキーのアンロックボタンまたはドアハンドルのマイクロスイッチを押して（キーが近くにある場合）充電ポート盗難防止ロックを解錠し、充電コネクタを抜き出し、給電プラグを外してください。



お願い

- 車両を解錠するには、リモートキーの「アンロック」ボタンを押す（電源ポジション「OFF」で充電するとき）、または運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押します（リモートキーが近くにあるとき）。
- 充電ポート盗難防止ロック機能が作動している場合は、充電コネクタを抜き出す前に車両を解錠し、充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。抜き出さないと、充電ポート盗難防止ロック機能作動して再度施錠します。
- 充電ポート盗難防止ロックの作動モードは、マルチメディアから設定できます。設定手順の詳細は、「充電ポート盗難防止ロック機能」の設定を参照してください。

お願い

- ロック解錠操作をしても充電コネクタが抜き出せない場合は、解錠操作を数回繰り返してください。それでも抜き出せないときは、非常解錠の操作をしてください。操作手順は「充電ポート盗難防止ロック機能」を参照してください。

- 給電プラグを外します。
- 車両の充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます。
- 車載充電装置を収納バッグに入れ、適切に保管します。

DC 急速充電*

1. **充電器について**

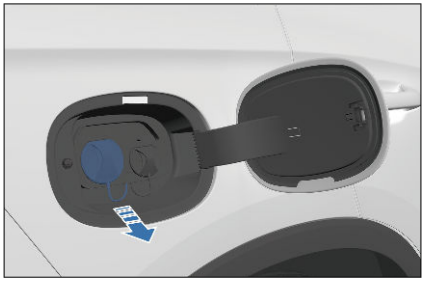
- 公共の DC 急速充電器で車両のバッテリーを充電します。DC 急速充電器は、特定の充電スポットに設置されています。
- 設備規格：充電スタンドに関する説明をご確認ください。
- 充電時間：コンビネーションメーターに表示される充電時間についてのご注意を参照してください。

2. **充電する**

CHAdeMO の充電コネクタを使って車両と DC 充電スタンドを接続し、DC 急速充電をします。

即時充電方法：

- 充電前に車両の電源ポジションを「OFF」にしてください。
- 車両を解錠し、充電ポートフラップを解錠して充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。
  - 「家庭用 AC 普通充電」の充電方法を参照しながら、まず充電ポートフラップを解錠して、上から下へ充電ポートキャップを開けます。



- 車両側の接続：
  - 充電スタンドの充電コネクタを車両の充電ポートに確実に挿し込みます。
- 充電設備の操作手順で操作し、充電を開始します。
- コンビネーションメーター充電接続表示灯 が点灯します。
- 充電中、コンビネーションメーターまたはマルチメディアには関係充電パラメーターが表示されます。また、充電画面も同時に表示されます。

3. **充電を停止する**

- 充電が完了する：
  - 予定の時間になる、または充電が完了すると、自動的に充電を終了します。
- 充電ポートの接続を切る：
  - コンビネーションメーターに充電完了のメッセージが表示されたら、充電コネクタを抜き出します。
- 充電器で DC 急速充電が完了したら、充電設備を整理して充電コネクタを指定の位置に戻します。
- 充電ポートキャップ（下から上へ）と充電ポートフラップを閉めます。

お願い

- 高温/低温の環境で充電を行う場合、バッテリー熱管理システムの性能がエアコンの影響を受け、充電時間が長くなる場合がありますが異常ではありません。

注意

- 充電完了後、充電コネクタが抜き出せない場合は、速やかに充電スタンドのカスタマーサービス担当者に連絡してください。
- 充電に関する注意事項の詳細は、「充電について」を参照してください。

警告

- 充電に関する警告の詳細は、「充電/放電について」を参照してください。

スマート充電

- マルチメディアまたはインテリジェント音声機能から充電モードを設定でき、次の方法で設定画面に進むことができます。
  - マルチメディアアプリケーションリストのスマート充電アプリから設定画面に進みます。
  - コントロールパネル→設定 →エネルギー→充電/放電設定の操作で「スマート充電」の設定画面に入ります。
  - 「ハイ、BYD。スマート充電をオンにして」、「ハイ、BYD。スマート充電したいです」、「ハイ、BYD。スマート充電をオンにしてくれませんか」などと声をかけると、クイックアクセスできます。
- や をタッチする、または BYD インテリジェント音声制御機能で、スマート充電画面を閉じることができます。
  - 「ハイ、BYD。スマート充電をオフにしてください」、「ハイ、BYD。スマート充

電を終了してください」などと声をかけると、すぐに終了します。

設定画面

①設定

②充電予約スイッチ

③充電開始時刻

④繰り返しサイクル

⑤充電待ち時間



- 初期設定では車両がすぐに充電できるように、充電予約は OFF になっています。
- 充電予約を行う必要がある場合は、充電予約スイッチ②をタッチし、充電開始時刻③および繰り返しサイクル④を設定します。設定後、「確定」をタッチして設定を保存します。
- 予約設定後、充電待ち時間⑤内に充電コネクタを接続するか、車両の電源ポジションを「OFF」にすると、マルチメディアは充電開始時刻を知らせます。必要に応じて即時充電に変更することができます。
- ドライバーは、設定 アイコン①をタッチし、充電予約通知画面で充電コネクタ接続通知およびパワー OFF 通知機能を OFF にすることができます。

お願い

- 通知画面の「即時充電に変更」は、今回の予約に限るものです。すべての予約をキャンセルする場合は、設定画面で充電予約を OFF にしてください。
- スマート充電は、BYD の AC 普通充電設備のみに対応しています。公共充電施設で使用する場合は、施設が予約充電に対応しているかを確認してください。
- パワーバッテリー残量が低下している場合は、充電予約に入る前に最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行います。最小限のバッテリー残量を確保するための充電を行うときは、マルチメディアからパワー OFF 通知および充電コネクタ接続通知を発信し、コンビネーションメーター下側にメッセージが表示されます。

注意

- スマート充電(予約充電を含む)は、BYD の AC 普通充電設備を対象に開発したものです。BYD 純正部品以外の AC 普通充電設備を利用する場合は、予約充電を OFF にしてください。そうしないと、充電設備が応答せず予約充電や即時充電ができなくなり、バッテリー残量の低下や電圧不足につながるおそれがあります。

充電ポート盗難防止ロック機能

充電コネクタの盗難を防ぐため、充電ポートには車両に対する充電・給電中の盗難防止機能が備わっています。初期設定は OFF のため、ON にするときは、コントロールパネル→設定 →エネルギー→充電/放電設定の設定画面から、「充電ポート盗難防止」の機能を ON にしてください。



- ON/OFF/インテリジェントで充電する場合、ドライバーは次の方法で盗難防止ロック機能を解除し、充電コネクタを抜き出すことができます。
  - OFF にした状態でリモートキーの「アンロック」ボタンを押して解錠します。
  - 運転席側ドアハンドルにあるマイクロスイッチを押して解錠します。
  - 運転席内側の下にある集中ドアロックを押して解錠します。
  - 車両がフル充電になっている場合、充電コネクタは自動的に解錠されます(「インテリジェント」モードのみ)。

番号	「充電ポート盗難防止ロック作動モード」設定状態	4 ドア盗難防止ロック状態	車両のフル充電状態	充電コネクタ抜き出しの可否
1	ON	施錠	/	不可
2	ON	ON	/	可能
3	インテリジェント/OFF	施錠	フル充電	可能
			フル充電	不可
4	インテリジェント/OFF	ON	/	可能

- 上記の表の通り、車両充電中に充電コネクタを解錠すると、メーターに「お知らせ：交流充電コネクタ電子ロックが施錠されていません。充電を一時停止します」と表示され、充電パワーは 0kW と表示されます。30 秒待機した後、または手動で施錠すると、充電プロセスが再開されます。

注意

- 充電ポート盗難防止ロック機能を解錠後、30 秒以内に充電コネクタを抜き出してください。30 秒経過すると、充電ポート盗難防止ロック機能が再度作動して施錠します。
- 車両を施錠した後にフル充電になると、「インテリジェント / OFF」モードでは電子ロックが自動的に解錠されます。

注意

れ、「ON」モードでは電子ロックを上記の方法で手動解錠する必要があります。

お願い

- 上記機能に異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

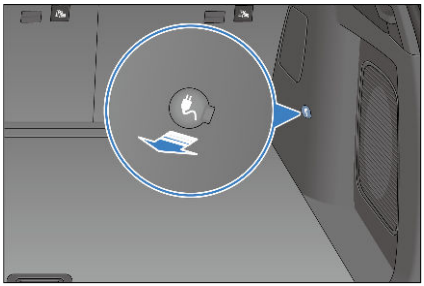
緊急解錠

- 充電ポート盗難防止ロックが故障して充電コネクタを抜き出せない場合、手動で非常解錠の操作をして、充電コネクタを抜き出せます。

- アクチュエーターの故障、または起動バッテリーの電圧不足で充電ポートフラップを開けられない場合、手動で非常解錠の操作をして、充電ポートフラップを開けられます。

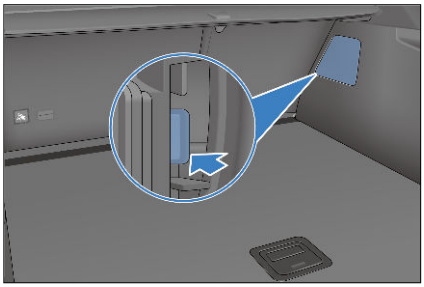
AC 充電ポート盗難防止ロック解錠用ワイヤー：

1. テールゲートを開けると、内側の右側トリムに充電ポート盗難防止ロック解錠用ワイヤーがあります。
2. ワイヤークリップを外してワイヤーを引っ張り、充電コネクタを解錠します。
3. 解錠後、ワイヤークリップを戻します。



充電ポートフラップ盗難防止ロックの緊急時解錠：

1. トランクからパネルを取り外します。
2. 手動でアクチュエーター解錠レバーを下に操作します。
3. 充電ポートフラップを押して解錠します。



お願い

- 上記機能に異常または故障がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

電力量バランス機能

- 本車両はデュアルモード走行時に電力量のバランス機能を有し、急加速などの状況に備えて電力を確保します。車両が比較的安定した状態で走行している場合、電力量は設定値付近で変動します。
- 車両制御装置は記憶機能を有しており、前回設定した電力量のバランスポイントを記憶します。

お願い

- エンジン始動後、車両が一定の速度で安定走行している時、エンジン出力の一部トルクが発電機を駆動し、パワーバッテリーを充電します。
- 現在の SOC と電力量のバランスポイントの差が大きい場合、バランス調整に時間がかかる可能性があります。

電力量バランス設定

電力量バランスは、車両の走行中にドライバーが期待するパワーバッテリー残量であり、ドライバーはマルチメディア →エネルギー→エネルギー管理画面で設定できます。

- 電力量強制維持モードを ON にする。電力量を優先的に保持し、目標電力量にできるだけ近づけます。目的地での充電が容易な場合は、目標電力量を低く設定し、蓄えられた電力を最大限に活用して、燃料消費を節約することをおすすめします。目的地での充電が困難な場合は、目標電力量を高く設定し、車両の電力を維

持して、快適性を向上させることをおすすめします。

- 電力量強制維持モードを OFF にする。燃料効率を優先しながら、バッテリー残量の維持も配慮します。

注意

- 電力量の強制維持は HEV モードでのみ有効です。EV モードで電力量の強制維持機能を ON にしても機能しません。快適なドライビング体験を確保するために、HEV モードに切り替えた後に電力量の強制維持機能を ON にすることをおすすめします。

お願い

- 快適なドライビング体験を確保するため、車両は標高や環境温度などに応じて電力量のバランスポイントの下限値を自動的に調整します。

回生ブレーキ強度の設定

エネルギー回生には「スタンダード」と「強」の 2 つのモードがあります。ドライバーは運転習慣に応じて、コントロールパネル→設定 ⚙ →エネルギー→エネルギー管理から「エネルギー回生強度」設定画面に進んで設定できます。

- ドライバーが設定を行わない場合、出荷時のデフォルト設定が維持されます。
- 記憶機能を備えており、設定後は毎回電源を入れるとその設定がデフォルトになります。

定置発電機能

駐車時、バッテリー残量が一定レベル以下になると、エンジンが発電機を駆動してパワーバッテリーに充電します。発電の際は、エンジン回転数が通常のアイドリング回転数よりも高くなりますが、これは正常な現象です。バッテリー残量が一定以上になると、定置発電モードを終了します。

モード記憶機能

- バッテリー残量が多い場合、車両は電源投入時に自動的に EV モードに切り替わります。EV モードの優先使用をおすすめします。
- バッテリー残量が中程度の場合、車両は電源投入時に前回の運転モードを記憶します。電源投入後、ドライバーはモードスイッチで希望のモードを手動選択できます。

アクセルペダル踏み込み発電機能

アクセルペダルを踏んで発電する機能は、ドライバーの高出力発電ニーズを満たすとともに、車両全体の NVH 性能も配慮しています。

操作方法：

- 「P」レンジ、HEV モードで、SOC が一定値以下になった場合、アクセルペダルを踏むことで発電機能が作動します。

お願い

- 長時間アクセルペダルを踏んで発電することはおすすめしません。
- 特殊な運転条件下（気温が低いまたは高いなどの状況）では、アクセルペダルを踏んだ際の発電出力は、バッテリーの充電能力またはモーターの発電能力によって制限され、メーター表示の発電出力に変化が生じます。

外部給電について*

- 本車両には外部給電機能があります。外部給電機能とは、車両に蓄えた電気を家電機器などに供給すること(V2L)です。

警告

- 外部給電中に、給電コンセントや車両側ポートの金属端子を触らないでください。
- 外部給電中に異臭や発煙等の異常が発生した場合は、直ちに使用を停止してください。給電に関係する警告は *(90 ページ)* を参照してください。
- 使わないときは、本製品を乾燥した冷暗所に保管してください。
- 外部給電しているときは、機器をトランクルームや車体下部、タイヤ付近に置かないでください。車両による踏みつけ、落下、人による踏みつけなどの事故を防ぐためです。
- 本製品を落としたり、ケーブルを引っ張って移動させたりしないでください。
- 給電コネクタ、ケーブルおよび給電コンセントに摩耗、絶縁層の破裂やその他の破損がある場合は、給電装置を使用しないでください。

お願い

- 外部給電は、可能な限り車両のパワーバッテリー残量が多い状態で使用してください。
- 電源ポジション「OFF」で、長時間 V2L 外部給電装置を車両に接続した状態で電気エネルギーを出力しない場合、車両の消費電力が多くなるため、給電コネクタを外すようおすすめします。

注意

- 給電装置の使用上の注意事項は *(90 ページ)* を参照してください。

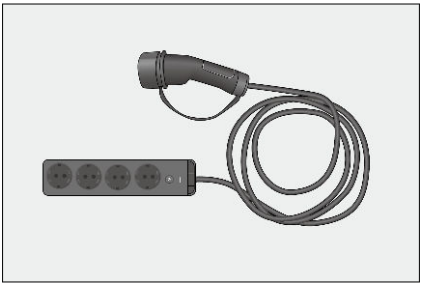
注意

- V2L 外部給電の前には、負荷が OFF になっていることを確認してください。
- 車両が外部給電機能を使用する際、車両のバッテリー残量が少ないとエンジンが始動します。密閉空間や可燃物· 爆発物の近くでは使用しないでください。
- V2L 外部給電時、許容放電電力を超えると給電を遮断します。この場合は使用機器の電力を減らし、給電装置を再接続してください。

V2L 外部給電方法*

1. 装置について：

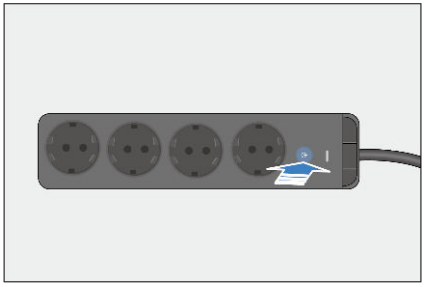
- 车辆对排插放电连接装置(V2L)：この装置は給電コネクタ、給電コンセント、ケーブル、および給電コネクタ保護カバーで構成されています。



2. 外部給電接続について

- 給電前に、イモビライザーが OFF になっているかを確認します。
- 充電ポートフラップのロックを解錠し、車両の充電ポートフラップと充電ポートキャップを開けます。
  - *(94 ページ)* の充電ポートフラップの解錠を参照しながら、充電ポートフラップおよび充電ポートキャップを開けます。

- 外部給電前の点検：
  - V2L 給電装置のキャビネットの割れ、ケーブルの摩耗、プラグの錆などの異常がないかを確認します。
  - 充電ポートに水分または異物がない、金属端子に錆びや腐食による破損などの異常がないことを確認します。上記に異常がある場合は、外部給電を中止してください。ショートや感電などにより身体に危害をおよぼすおそれがあります。
- 外部給電装置の接続：
  - V2L 給電コネクタを充電ポートにしっかり接続します。
- 外部給電を開始する：
  - 給電コンセントにあるスイッチを押して数秒待ち、給電コンセントの表示灯が常時赤色に点灯すれば外部給電装置の使用が可能になります。
  - 外部機器が接続されると、車両の放電が開始され、コンビネーションメーターには外部給電に関係する情報が表示されます。



3. 給電時間設定操作ガイド

- 車両に給電コネクタを接続すると自動的に外部給電機能が作動し、メーターとマルチメディア画面にカウントダウンが表示されます。マルチメディアのデフォルト設定では 1 回の放電時間は 5 時間です。
- コントロールパネル→設定 ⚙ →エネルギー→充電/放電設定の設定画面から、外部給電(V2L)の設定に入ります。
  - 車両に給電コネクタを接続後、「外部給電(V2L)」ボタンをクリックして機能の ON/OFF が可能です。



  - 車両が「OFF」状態で給電してバッテリー残量が低下した場合、エンジンを始動して給電を継続する必要があるときは「残量不足時にエンジンを始動して発電」ボタンをクリックして設定できます。

お願い

- 車両電源が「ON」または「OK」位置で放電し、バッテリー残量が低下すると、車両は自動的にエンジンを始動して発電を行います。特に設定は不要です。

- コントロールパネル画面で「設定」ボタンをクリックすると、給電時間設定画面に進み、必要な放電時間を設定できます。

注意

- 給電コネクタが接続されていない場合、給電機能を有効にできません。この時「外部給電 (V2L)」ボタンをクリックすると、一瞬点灯した後に再びグレー表示になりますが、これは正常な動作です。
- 給電開始時に車両のバッテリー残量が少なすぎてエンジンが始動できず発電できない場合、または給電時間

注意

設定が長すぎる場合、車両は設定時間通りの給電を保証できず、外部給電機能は早期に停止しますが、これは正常な動作です。

4. 外部給電を停止する

- 外部給電を終了する：
  - 給電コンセントのスイッチを押します。
  - 緊急の場合は直接次のステップに進むことができます（非推奨）。
- 外部給電装置を切り離す：
  - リモートキーのアンロックボタン、またはドアハンドルのマイクロスイッチを押して、給電コネクタを充電ポートから抜き出します。
- 充電ポートキャップと充電ポートフラップを閉めます（***(94 ページ)***を参照してください）。
- 外部給電装置を片づける：
  - 外部給電完了後、外部給電装置を収納バッグに入れます。

バッテリー

パワーバッテリー

- 車両の主要な動力源の一つであるパワーバッテリーは、車両のフロア下に設置されており、繰り返し充電が可能です。外部電源を使用してパワーバッテリーを充電する主な方法は以下の通りです。家庭用普通充電、AC 充電スタンドによる充電があります。また、車両は制動時、惰性走行時、またはエンジン作動時にも、モーターを通じてパワーバッテリーを充電することができます。

注意

- パワーバッテリーはボディーの底部にあるため、悪路を走る場合は慎重に運転してください。

お願い

- 車両の電源ポジションが「ON」のときは、高電圧回路が接続された状態になります。
- 新車でパワーバッテリーが正常な場合でも、運転習慣、道路状況、気温、電装品の使用状況などによって、EV 走行距離が増減することがあります。
- バッテリーの寿命やバッテリーの安全性確保の観点から、パワーバッテリーがフル充電に近づくとトリクル充電モードに切り替わるため、充電時間が長くなる場合があります。
- バッテリー自体の化学的特性により、一定の使用期間を経過した車両はバッテリー容量が自然に低下するため、電気での走行距離が短くなることがあります。走行距離の減少に気づいた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検を受けることができます。点検によって、EV 走行距離の減少が正常であるかどうかを確認できます。

パワーバッテリーのメンテナンス

- パワーバッテリーを最適な状態に維持するため、定期的に AC 車載充電装置でパワーバッテリーをフル充電してください。また、少なくとも週に 1 回はフル充電することをおすすめします。
- 車両を 7 日以上使用しない場合、その耐用年数を延ばすために、バッテリー残量を 40%～60%SOC の範囲内に保つことをおすすめします。3 か月以上使用しない場合は、バッテリー性能の低下や損傷を防ぐために、まず 100%まで充電し、

その後 40%～60%SOC まで放電してください。

パワーバッテリーの低温加熱機能

- 外気温が低い場合、パワーバッテリー加熱システムが作動し、バッテリーを加熱します。これにより、低温時の充電速度が向上し、車両の動力性能および航続距離が確保されます。

お願い

- パワーバッテリーの正常作動温度範囲は-35～60℃です。
- パワーバッテリーの動作温度が高すぎる場合や低すぎる場合、充電時間が延びることがあります。

注意

- パワーバッテリーに故障が発生した場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

警告

- 専門業者以外はパワーバッテリーパックユニットを開けないでください。バッテリーの取り外し、分解をすることにより、環境汚染や事故を起こした場合、相応の責任を負う必要があります。

パワーバッテリーの回収

電気自動車を廃車にする場合は、下記に示すプロセスに従って処理してください。

1. 車両を BYD の回収サービスセンターにお持ちください。パワーバッテリーの残価を評価します。
2. 評価済みの車両を回収· 解体業者に渡し、パワーバッテリーを取り外してもらいます。
3. 回収· 解体業者が取り外した古いパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡し、回収サービスセンターはパワーバッテリーを買い戻します。

警告

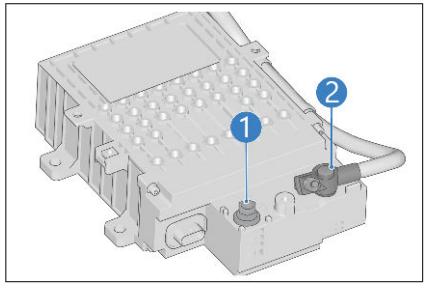
- 電気自動車の所有者は、不用となったパワーバッテリーを回収サービスセンターに引き渡す責任と義務があります。不要となったパワーバッテリーを他の業者や個人に勝手に引き渡す､パワーバッテリーを取り外す､分解を勝手に行うことで発生した環境汚染や事故については、相応の責任を負う必要があります。

低電圧バッテリー

- 本車両が使用する低電圧バッテリーは BYD 独自開発のリン酸鉄リチウムバッテリーであり、低電圧バッテリーにはインテリジェント充電機能が備わっています。パワーバッテリーの残量が十分な場合、車両は自動的にパワーバッテリーから低電圧バッテリーへの充電を開始し、低電圧バッテリーの持続時間を延長できます。

①正極端子

②負極端子



お願い

- 電源ポジションが「OFF」の状態で、スマート充電を行う際、車両は電源

お願い

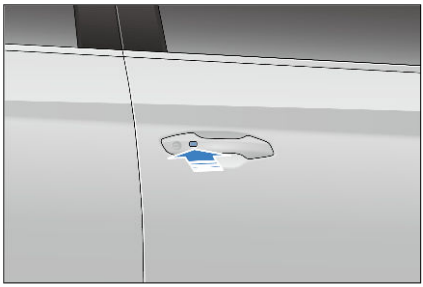
ポジションを「OK」にしたときの音を発しますが、異常ではありません。

- 車両から離れる際は、すべての電気機器をオフにし、ドアが確実に閉まっていることを確認してください。

起動バッテリー電圧不足時のスリープ解除機能

運転席側マイクロスイッチでのスリープ解除：

- 起動バッテリーのスリープ解除機能を搭載しています。車両を長期間保管し、リモートキーでの車両捜索や解錠を実行できないときは、起動バッテリーがスリープ状態になっている可能性があります。この時、運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチを押す（「*(60 ページ)*」を参照してください）ことで、起動バッテリーのスリープを解除できます。車両を解錠すると通常通り使用することができます。



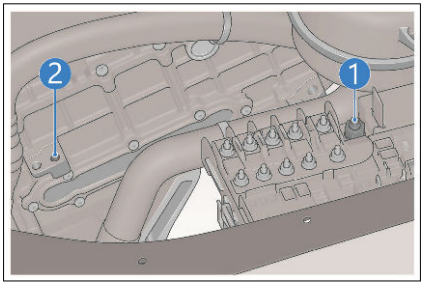
ジャンピングスタートによるスリープ解除：

- 運転席側ドアハンドルのマイクロスイッチで車両起動および解錠ができない場合は、メカニカルキーを使用してドアを開けることができます。このとき、2 本の特別な起動専用ケーブルと 12V 電源を介して車両を起動できます。起動バッテリーの残量が少ないと、コンビネーションメーターに「バッテリーの残量不足、車両の電源がもうすぐ切れます」と表示され、車両が再度スリープ状態になることがあります。ただちに車両を起動して起動バッテリーが完全に充電できるように、15 分以上車両を起動したままにしてください。

- 起動方法は、モータールームのフューズボックスの専用インターフェースを介してのみ実行できます。モータールーム内のフューズボックスの起動ポイントを右図に示します。

①モータールームのフューズボックス用の正極（ + ）端子

②ジャンピングスタート用の負極（ - ）端子



上記のいずれの操作を行っても車両を始動できない場合は、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にご連絡ください。

注意

- モータールームのフューズボックスでは、ジャンピングスタートのためのスペースが狭く感電などの危険があるため、専門家の指導によりジャンピングスタート作業を行うことをおすすめします。

警告

- 車両の電源ポジションを「OK」に入れずに他の車両と接続して起動することは、絶対にしないでください。

警告

起動バッテリーが損傷するおそれがあります。

- 起動バッテリーの電力不足や正常に使用できないなどで、ジャンピングスタート作業を行う場合は、オーナーズマニュアルの該当内容をよく読み、必ず記載にしたがってブースターケーブルを接続し、関連操作を行ってください。
- 起動バッテリー内部にはインテリジェントコントロールモジュールが内蔵されています。起動バッテリーの破損を防ぐために、緊急時以外では、無断で取り外したり破壊させたりしないでください。
- 部品交換や車両整備の前には、起動バッテリーの負極（ - ）端子を外してください。

注意

- モータールームのフューズボックスでは、ジャンピングスタートのためのスペースが狭く感電などの危険があるため、専門家の指導によりジャンピングスタート作業を行うことをおすすめします。
- 起動バッテリーは乾燥したウエスなどで拭き、水洗いはしないでください。

スマート充電機能

- 低電圧バッテリーの残量が低い場合、スマート充電機能が作動し、それによって低電圧バッテリーの持続時間を延長します。
- パワーバッテリーの残量が低い場合、車両はエンジンを始動して発電し、スマート充電機能の要求を満たすことがあります。
- 本車両はスマート充電機能を搭載しているため、長時間にわたり車両を駐車する場合に、低電圧バッテリーの負極（ - ）端子を取り外す必要はありません。

お願い

- 低電圧バッテリーの残量が低い場合、スマート充電機能が作動し、メーターに表示されるパワーバッテリーの SOC または電気のみの走行距離が減少することがありますが、これは異常な現象ではありません。
- 車両を施錠した後、パワーバッテリーの残量が低くなり、エンジンを始動して発電機能が作動すると、少量の燃料を消費し、少量の排気ガスが排出されます。

ご利用要領

慣らし運転期間

- パワーユニットが起動しにくい、または頻繁に停止する場合は、ただちに車両を点検してください。
- パワーユニットから異音が発生している場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットから冷却水やオイルが漏れている場合は、安全なところに停車してから点検してください。
- パワーユニットは慣らし運転が必要です。最初の約 2000km は高速走行を避け、「ECO」モードで可能な限り一定の速度で走行し、慣らし運転することをおすすめします。以下の操作を避けることで、車両を長持ちさせることができます。
  - 始動や運転時、アクセルペダルを強く踏み込まないでください。
  - スピードを出し過ぎないでください。

・最初の 300km までは、急ブレーキを避けてください。

・長時間、一定速度での高速走行や低速走行をしないでください。

・慣らし運転期間中の HEV 比率は 50%以上を維持してください。

トレーラーのけん引

・本車は乗用車として設計されています。ご自身や他者の安全のため、過積載やトレーラーのけん引を行わないでください。

・トレーラーのけん引は、車両の操縦、動力、制動、耐久性、エコ運転および電力消費などに悪影響を与えます。

・運転の安全性と快適性は、設備の正しい使い方や慎重な運転習慣により決まります。

・トレーラーのけん引による破損や故障は保証の対象外となります。

燃料

燃料の選択

・適切に燃料を選択することは、エンジン性能を最大限に発揮するための基礎で、排出ガスを抑制し、関連する部品を保護する重要なポイントでもあります。

・無鉛ガソリンを使用してください。エタノールの含有量は E10 以下であることが要求されます。

注意

・有鉛ガソリンを使用しないでください。有鉛ガソリンを使用すると、三元触媒コンバーターが故障し、排気ガス浄化装置が機能不全になり、メンテナンスコストも増加します。

注意

・不適切な燃料の使用によって生じたエンジンの損傷または排出ガス基準超過は保証の対象外です。

・低オクタン価のガソリンまたは低品質のガソリンを使用すると、エンジンの寿命が短くなります。

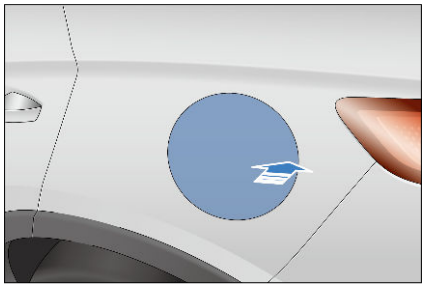
燃料の給油

・フューエルフィラーキャップは車両の左側にあります。給油する際は、車両の左側をガソリンスタンドの給油ポンプに近づけて駐車してください。

・車両の電源を OFF にしてエンジンを停止し、電源を切った状態にします。

1. フューエルフィラーキャップを開けます。

   ・車両の電源を OFF にしてエンジンを停止させた後、運転席下部にある圧力逃がしスイッチを押します。約 1～15 秒間待ち、メーターに「燃料タンクキャップ解錠済」と表示されたら、フューエルフィラーキャップを軽く押し込み、手動でキャップを開けます。

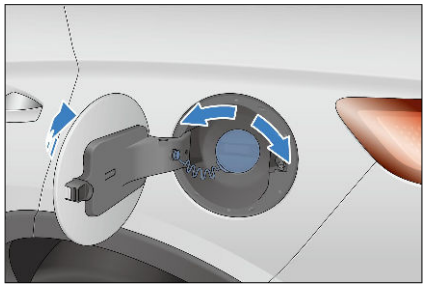


2. 燃料タンクキャップを、反時計方向に回しながら外します。

   ・5～10 秒間待ってから、ハンドルを反時計回りに回して燃料タンクキャップを取り外してください。待機中の燃料タンクキャップの空転は異常ではありません。燃料タンク内部が真空状態で外

気を取り込む過程で、シューシューという音が聞こえる場合があります。

- 燃料タンクキャップは、紛失を防ぐために、コードでフィラーネックと連結されています。給油する際は、燃料タンクキャップをフューエルフィラーキャップのブラケットに置いてください。



3. 燃料の給油が終了したら、燃料タンクキャップを時計回りにしっかり締め、フューエルフィラーキャップを閉めてください。

警告

- 燃料は引火しやすく爆発の危険性があるため、給油時には以下に注意してください。
  - 屋外で燃料を注入してください。
  - 給油する際は、火花や裸火の発生を防ぐために、喫煙しないでください。火花や裸火はやけどの原因になります。
  - 給油と充電は同時に行わないでください。充電コネクタを接続している間は給油を行わず、可燃物との間に十分な距離を確保してください。規定通りに充電コネクタを抜き差ししない場合、燃焼した燃料などによる機器の損傷や人身事故を引き起こすおそれがあります。

注意

- 燃料タンク内の圧力の違いにより、タンク自体の圧力逃がしプロセスからキャップ解錠までの時間が異なる場合があります。フューエルフィラーキャップ解錠までの待ち時間が異なるのは異常ではありません。
- 給油ノズルが自動停止したら、給油を停止してください。燃料タンクに過剰に燃料を入れることはしないでください。温度変化による燃料の膨張に備えて、スペースを残してください。
- 給油が終了したら、燃料タンクキャップとフューエルフィラーキャップがしっかり閉まっているか点検してください。
- 燃料タンクキャップがしっかり閉まっていないと、メーターの が点灯する可能性があります。
- フューエルフィラーキャップを開けてから 15 分以内に燃料の給油を完了しない場合は、一旦フューエルフィラーキャップを閉じてから再度開け、その後給油を再開してください。そうしないと、給油時に燃料が逆流して噴き出す可能性があります。
- 燃料タンクキャップが空回りして開かない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。緊急時にフューエルフィラーキャップを開けて給油する必要がある場合：まず、燃料タンクキャップのハンドル中心部にある小さなカバーをこじ開けてください。その後、細長い棒（ボールペンの芯など）を、露出した小孔に沿って挿入し、棒がこれ以上進まなくなるまで差し込んだ状態を保持したまま、燃料タンクキャップを反時計回りに回して取り外してください。

燃料の節約で車を長持ちさせる方法について

- 燃料の節約はシンプルで簡単、しかも車両の寿命を延ばすことにもつながります。燃料や修理代を節約する要領を次に示します。
  - 一定速度での運転は、燃料の節約に役立ちます。急アクセル、急ハンドルや急ブレーキは、より多くの燃料を消費します。
  - 交通状況に応じて一定速度で走行してください。車両の減速または加速を行うたびに、余分な燃料を消費します。
  - 適切な運転条件でクルーズコントロールを使用すると、より効果的に燃料を節約できます。
  - エアコンの作動によりエンジンに負荷がかかるため、より多くの燃料が消費されます。エアコンを OFF にすると、燃料の消費を減らすことができます。また、外気温度が快適なときは、外気導入モードで外気を取り入れてください。
  - 適切なタイヤ空気圧を維持してください。タイヤの空気圧不足は、タイヤの摩耗や燃料の消費につながります。
  - 不要な荷物を積まないでください。車両重量が重すぎるとエンジンへの負荷が増えるため、より多くの燃料が消費されます。
  - エンジンの損傷を防ぐために、エンジンが冷えているときは始動後すぐに高速回転させたり、アクセルを大きく踏んだりしないでください。
  - 連続して加速と減速をしないでください。ストップ＆ゴー運転は、燃料を浪費することになります。
  - 必要のない停車やブレーキを避けてください。一定の速度を維持しながら信号のタイミングに合わせて運転することで、停車回数を最小限に抑えることができます。また、信号のない道路を走行し、先行車両との車間距離を適切に保って急ブレーキを避けることで、ブレーキの摩耗軽減につながります。
  - 交通量の多い道路や渋滞している道路はなるべく避けてください。
  - ブレーキペダルに足を置いたままにしないでください。ブレーキの早期摩耗や過熱、大量の燃料消費の原因となります。
  - 高速道路走行時は適切な速度を維持してください。速度が速いほど燃料の消費が多くなります。エコ走行になる範囲内に車両速度を保つと燃料を節約できます。
  - フロントタイヤの正しいアライメントを維持してください。道路の縁石へ乗り上げないようにし、悪路はゆっくり走行してください。フロントタイヤのアライメントが正しくない場合は、タイヤの早期摩耗につながるだけでなく、エンジンへの負荷も大きくなり、燃料をより多く消費します。
  - 車体は清潔な状態に保ち、泥などの付着がないようにしてください。これにより、車両重量を軽減するだけではなく、腐食を防ぐこともできます。
  - 車両を調整し、最適な作動状態を維持してください。エアフィルターが過度に汚れている場合、スパークプラグにカーボンが過剰に付着している場合、オイルや潤滑油が汚れて劣化しているまたは粘度が高すぎる場合、ブレーキの調整が不適切な場合などは、いずれもエンジンの性能に影響を及ぼし、燃料を浪費することになります。すべての部品の寿命を延ばし、ランニングコストを削減するために、定期的なメンテナンスを実施してください。頻繁に悪条件下で走行する場合は、メンテナンスの間隔を短くしてください。

お願い

- 走行中にニュートラルギアで惰性走行することは厳禁です。

荷物の積み込み

- 本車両には、複数の便利な格納スペースを用意しています。
- グローブボックスやドアポケット、シートバックポケットなどは、小物や軽量物を格納するために設計されています。トランクルームは、比較的大きくて重たいものを収納するための空間です。
- 積み込む荷物が多い、または積み込み方が不安定な場合、車両の操縦性や安定性が悪くなり、安全性が低下することがあります。
- 荷物を積み込む場合は、車両本体、乗員全員および荷物の総重量が車両総重量を超えてはいけません。
- 荷物を積載する前に、必ず以下の内容をお読みください。

警告

- 積載オーバーや不適切な荷物の積み込み方は、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、衝突事故を招くおそれがあります。
- 本オーナーズマニュアルに記載の車両総重量や、その他の積載ルールを守ってください。
- 正常な走行を妨げるおそれがあるため、強い磁気を持つものを車両に搭載しないでください。

客室に荷物を積み込む場合

- 衝突時に車内へ投げ出されて乗員に怪我を負わせるおそれがあるものは、確実に収納または固定してください。
- フロントシート後部の床に置いているものは、ドライバーのペダル操作やシート調整の妨げにならないように、シートの下で転がらないようにしてください。また、荷物を積み込むときはフロントシートバックの高さを超えないでください。
- 運転時はグローブボックスをきちんと閉めてください。グローブボックスが開いていると、衝突時や急ブレーキ時に乗員の膝などに怪我を負わせるおそれがあります。

お願い

- お子様のおもちゃを車内に積み込まないでください。急ブレーキや衝突事故などが発生した場合、おもちゃが安全走行を妨げるだけではなく、お子様に怪我をさせるおそれがあります。

トランクルームに荷物を積み込む場合

- トランクアンダーボードには均一に荷物を積み込み、最も重い荷物は一番下の前方に置いてください。
- 走行中に移動しないように紐やチェーンで荷物をきちんと固定してください。荷物は、フロントシートバックの高さ以上に積み込まないでください。
- 大型の荷物を積載してテールゲートが閉まらない場合、排気ガスが乗員スペースに流入する可能性があります。一酸化炭素中毒を防ぐため、本マニュアルの（ページ）に関する説明を参照してください。

ルーフラック

- ルーフラックを取り付ける場合は、メーカーからの取扱説明書をよく読んで指示に従ってください。

注意

- 本車両のルーフラックは外観装飾用部品であり、貨物や荷物を載せることはできません。

一酸化炭素中毒の危険性

- エンジンの排気ガスには一酸化炭素が含まれています。車両を適切にメンテナン

スしていれば、通常の運転状況下で一酸化炭素が車内に侵入することはありません。

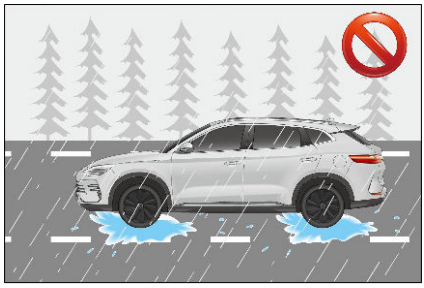
- 以下の状況では、排気システムの漏れがないか点検する必要があります。
  - 排気音に異常がある。
  - 車両の底部を損傷する可能性のある事故に遭ったことがある。

警告

- 一酸化炭素ガスは有毒です。このガスを吸入すると意識を失い、さらには生命に危険を及ぼすおそれがあります。一酸化炭素中毒を引き起こす可能性のある密閉環境や活動は避けてください。
- 高濃度の一酸化炭素ガスは、ガレージなどの閉鎖された空間で急速に蓄積します。そのため、ガレージのドアを閉めたままエンジンを始動しないでください。たとえガレージのドアが開いていても、エンジンの稼働時間は、車両をガレージから出すのに必要な時間に限定してください。
- テールゲートを開けた状態では、気流によって排気ガスが車内に流れ込み、危険な状態を引き起こす可能性があります。テールゲートを開けたまま車両を始動する必要がある場合は、すべての窓を開け、以下の指示に従って車内エアコンシステムを調整する必要があります。
  - 「外気循環」モードを選択する。
  - 「上半身· 足元送風」モードを選択する。
  - ファン速度を「高速」に設定する。

冠水路の走行

- 冠水路に進入する前に、水の深さをきちんと確認してください。水の深さは、ボディー下端を超えないようにしてください。
- 冠水路を通り抜ける場合は、発進前にエアコンをオフにし、シフトレバーを低速ギアに入れてください。その後、アクセルペダルを軽く踏み続けながら、足を離さないようにします。これを怠ると、排気の逆圧によって水がエンジンに逆流し、エンジンに深刻な損傷を引き起こす可能性があります。アクセルペダルを軽く踏み、安定した低速で冠水区間を通過してください。



- 車両を水の中で絶対に停車させないでください。また、水の中でバックしたり、エンジンを停止したりしないでください。
- 無事に冠水路を走り抜けた後は、ブレーキペダルを数回軽く踏んでブレーキローターに付着した水を落とし、できるだけ早く通常の制動性能に戻してください。
- また、深い冠水路を通り抜けるとブレーキが濡れることがあるため、慎重に運転してください。

警告

- ブレーキシステムに水や泥などが侵入すると、ブレーキの利きが悪くなり制動距離が長くなるため、事故につながるおそれがあります。
- また、冠水路を走り抜けた後は、可能な限り急ブレーキを避けてください。

警告

- エンジンに水が入らないように注意してください。くぼんだ冠水路を走る場合は、エンジンに水が入らないように注意してください。モーターの重大な破損につながるおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 冠水路を走り抜けた後は、ドライブトレインシステム、走行システム、電気システムなどの部品も大きな被害を受けているおそれがあります。これにより発生した車両故障および破損は、品質保証の対象外となります。
- 台風などの荒れた天候では、可能な限り雨が当たらない場所で充電してください。サイドシルの高さ以上の深さの水に浸かったり、冠水路を走行して浸水すると、高電圧部品の内部に水が浸入するおそれがあるため、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検や処置をしてください。
- タイヤの半分以上が水に浸かる冠水路は走行しないでください。

高電圧部品の内部に水が浸入した場合：

- 高電圧部品は電子部品のため、車両が浸水した場合は、高電圧部品を乾かしても水分が完全に蒸発する保証はありません。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、部品自体の絶縁性に大きな影響を与えます。また、水分に多く含まれる導電性物質により、高電圧部品の内部ショートや高電圧システムのショートを引き起こすおそれがあります。このような場合、車の安全性能や使用性能に重大な影響を与えます。
- 高電圧部品の内部に水が侵入すると、製品の IP 保護等級、耐電圧などの性能が大きな影響を受けるため、危険性が大きくなります。

火災の予防

車両火災を有効に防止するため、車両を使用する場合は下記の内容に注意してください。

- 車内に引火性・爆発性のあるものを格納しないでください。
  - 炎天下、日が当たるところに駐車する場合は、車内の温度が 70°C以上に達することがあります。車内にライター、洗浄剤、香水などの引火性・爆発性のあるものを置くと、火災や爆発が発生するおそれがあります。
- 喫煙後、吸い殻の火が完全に消えていることを確認してください。
  - 喫煙は、身体の健康を害するだけではなく、火災を引き起こすおそれもあります。吸い殻の火が完全に消えていないと火災を引き起こすおそれがあります。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で定期点検を依頼してください。
  - コネクタとワイヤーハーネスとの接続、絶縁、固定位置などに異常がないかを確認するため、車両全体の配線の定期点検も行ってください。不具合が見つかった場合は、早めに処置してください。
- 車両の配線の改造、電装品の後付けを禁止します。
  - 電装品（ハイパワーオーディオ、照明器具など）の後付けは、回路に過大な負荷がかかり、ワイヤーハーネスの発熱による火災の原因になります。基準外の電気機器・配線の改造により抵抗が大きくなり、異常に発熱して火災を引き起こすおそれがあります。

- 電装品の定格から外れたフューズや金属ワイヤーをフューズの代わりに使用することは絶対にしないでください。

- 正しい停車場所を選びます。
  - 車両を保管する場合は、車両の下に乾燥した藁や枯れた小枝、葉、麦わらなどの可燃物がないかをよく確認してください。特に夏場では、車両の下に可燃物があると火災につながるおそれがあります。
  - 走行中は枯れた小枝や葉、麦わら、雑草などの可燃物が堆積している道路を可能な限り避けてください。走る必要があるときは、走り抜けた後に車両を止めて車両の下部に可燃物がないかを確認してください。停車時、直射日光が当たる場所は可能な限り避けてください。

- 車載用の消火器を車両に搭載することをおすすめします。
  - 車両の安全を確保するため、車内に消火器を装備し、定期的に点検と交換を行う必要があります。また消火器の使用方法を熟知し、非常時に迅速に対応できるようにしてください。

- 車両の修理やメンテナンスを行う場合、起動バッテリーの負極（ - ）端子を外します。

- 車両火災が起きた場合は、迅速、冷静に効果的な方法で対処し、被害を最小限にしてください。
  - 火災の発生は、ボディーからの異音や異臭などのような前兆があります。異常を感じたら、ただちに停車し、実際の状況に応じて積極的に消火を行ってください。
  - 火元を特定します。モータールームから煙があがっていることを発見した場合は、すぐにボンネットを開けないでください（ボンネットを開けると大量の空気が入り、火の勢いが強くなるためです。モータールームには可燃物が少ないため、ボンネットを閉めておくことで火の勢いを抑え、消火を助けることができます）。
  - ただちに消防に電話で通報すると同時に、該当の保険会社にも通報し現場対応を要請します。
  - 消防隊が消火した後は、出動証明書を請求して発火原因についての報告書の発行を依頼します。

- 事故発生後、早めに保険会社に対応などを依頼します。

お願い

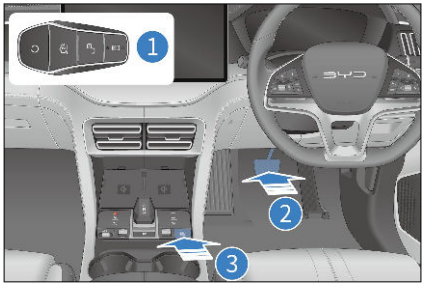
- 車両事故による損害を防ぐため、車両自然発火損害保険への加入をおすすめします。

発進と運転

車の始動

通常の始動方法：

- パーキングブレーキを確実に掛けます。
- 必要のないランプやアクセサリーを OFF にします。
- シフトレバーを「P」または「N」に入れます。
- リモートキー①を携帯します。
- ブレーキペダル②を踏み込んだ状態で「スタート/ストップ」ボタン③を押します。



- メーターの「 OK 」表示灯が点灯すると、車両は走行できる状態になります。

車両が始動できない場合：

- 次の場合は安全に始動できません。
  - 「スタート/ストップ」ボタンを押すとリモートキーシステム警告灯が点灯してスピーカーから警告音が鳴り、コンビネーションメーターに「キー検出不可」と表示されたとき（リモートキーが車内にない、または干渉によりキーが検知できない）。
  - リモートキーは車内にあるが、正しい位置に置かれていないとき（例えば、床面、トランクルーム内または右側の収納ボックス内などに置かれている場合は、車を始動することができません）。

緊急時の始動方法：

- パーキングブレーキを確実に掛けます。
- 必要のないランプやアクセサリーを OFF にします。
- シフトレバーを「P」または「N」に入れます。
- 車両の電源ポジションを「OFF」にします。
- リモートキーを車内に置きます。
- 「スタート/ストップ」ボタンを 15 秒以上長押しすると、始動します。

お願い

- 走行中は、「スタート/ストップ」ボタンを触らないでください。

車の運転

- 走行中、車両が減速すると回生ブレーキにより、エネルギーを回収できます。より効率的に工ネルギーを使用するため、不必要な加速や減速をしないでください。
- ドライバーはマルチメディアタッチスクリーンから関連設定画面に進み、運転習慣に応じて適切なエネルギー回生モードを選択できます。
  - スタンダード:アクセルペダルを離すと、通常の回生工ネルギー量を回収します。このとき、車両の減速度は標準です。
  - 強：アクセルペダルを離したとき、スタンダードに比べてより多くの回生工ネルギー量を回収します。このとき、車両の減速度はスタンダードより大きくなります。
- ドライバーは、アクセルペダルから足を離したときの回生ブレーキの強さを、ニーズに合わせて自由に選択できます。
- アクセルペダルから足を離したときの回生ブレーキ強度設定には記憶機能があり、車両の電源ポジションを「OFF」にして再度「ON」にした場合、前回の回生モードを維持します。

お願い

- 高速走行中は、回生ブレーキ強度の設定を変更しないでください。注意が散漫になり、思わぬ事故を起こすおそれがあります。

- HEV モードでは、エンジンは必要に応じて自動的に始動・停止し、それによって

バッテリー充電または追加の動力供給を行います。

- 車両の動力は、パワーバッテリー残量が多い状態より、少ない状態の方が弱くなります。

キックダウン機能

走行中、坂道登坂時や急加速が必要な場合、またはアクセルペダルを深く踏み込む必要がある場合、ペダルをほぼ全開まで踏み込むと抵抗が増加し、この機能が作動します。これによりエンジン回転数が上昇し、車両に大きな駆動力を供給します。

注意

- バッテリーの残量が多いほど、パワーバッテリーの放電電力が十分であり、エンジンが正常に作動するため、より優れた加速性能を発揮します。
- バッテリー故障、発電機故障、エンジン故障などがキックダウンの動力出力に影響を及ぼします。
- キックダウン機能を頻繁に作動させると、車両のバッテリー残量が急速に減少します。

運転前の点検

車両外部

- タイヤ：タイヤの空気圧、タイヤトレッドに割れ、破損、異物の噛み込みがないか、タイヤに異常、過度な摩耗がないかを点検します。過度な摩耗や偏摩耗がある場合は、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でホイールのアライメント調整および関連する点検を行ってください。
- ホイールナット：ナットの緩みや外れがないかを点検します。
- 水漏れ：車を止めてからしばらく待ち、車両の下部に燃料やオイル、冷却水、その他の液体が漏れていないかを点検します（エアコンの作動により発生する水は異常ではありません）。
- 照明：ヘッドライト、ポジションランプ、ターンシグナルランプおよび他のライトの動作を点検します。ヘッドライトの明るさを点検します。

車両内部

- シートベルト：バックルがしっかりロックできることを点検します。シートベルトに摩耗や擦り傷がないことを点検します。
- コンビネーションメーター：メンテナンス表示灯、コンビネーションメーター照明とデフロスターの作動に異常がないことを点検します。
- ブレーキ：ブレーキペダルの操作に必要なスペースがあることを点検します。

モータールーム内部

- バックアップ用フユーズ：それぞれのフユーズのバックアップがあることを点検します。フユーズボックスには、各種の定格電流に対応したフユーズを備えておく必要があります。
- 冷却水の量：冷却水の量が適切であることを確認します。
- ブレーキフルードレベル：ブレーキフルードの液量が適切であることを確認します。
- 起動バッテリーとケーブル：つなぎ目に腐食や緩み、外れがないか、起動バッテリーのケースに割れ目がないかを点検します。
- 燃料パイプ：配管の油漏れや接続の緩みを点検します。

始動後の点検

- コンビネーションメーター：メンテナンス警告灯およびスピードメーターの作動に異常がないことを確認します。
- ブレーキ：安全な場所でブレーキを掛けたときに片側へ偏らないことを確認します。
- その他の異常な現象：緩んだ部分や漏れ、異音がないかを点検します。

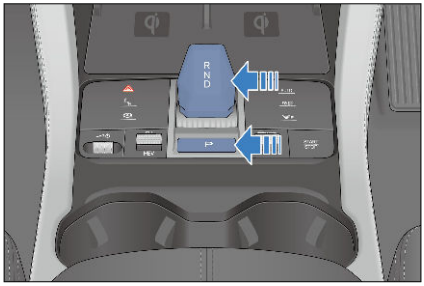
運転前の準備について

- 車両に乗り込む前に、車両周辺の状況を確認してください。
- シートポジション、シートバック角度、シートクッションおよびヘッドレストの高さ、ステアリングホイールの角度と高さを調節します。
- ルームミラーとドアミラーを調節します。
- すべてのドアを閉めます。
- シートベルトを確実に締めます。

シフトコントロール機構

シフトレンジマークは、図のようにシフトパネルに表示されます。

- 「R」レンジ：リバースレンジで、車両が完全に止まってから使用してください。
- 「N」レンジ：ニュートラルレンジで、車両を一時的に停止したり牽引したりする場合に使用します。何らかの理由で車両から降りる場合は、必ず「P」レンジに切り替えてください。
- 「D」レンジ：ドライブレンジで、走行時に使用します。



- 「P」レンジはパーキングレンジで、ボタンを押すと駐車できます。車両をスタートまたはストップする場合は、シフトレバーを「P」レンジに入れてください。ブレーキペダルを踏み込むと、「P」レンジからその他のレンジに切り替えることができます。
- シフトチェンジ後に手を離すと、シフトレバーは自動的にセンターポジションに戻ります。



車両の電源ポジションが「OK」以外のときは、「D」レンジに切り替えることができません。

「P」レンジから他のレンジに切り替える、または「D」レンジに切り替える場合は、ブレーキペダルを踏み込む必要があります。

注意

- 「P」レンジから他のレンジに切り替える、または「R」レンジに切り替える場合は、安全を確保するために、まずブレーキペダルを踏み込む必要があります。
- 怪我を防ぐため、「P」ボタンは車両が完全に止まってから押してください。

警告

- 制動力不足による事故を避けるため、エンジンまたはモーターを OFF にしている場合は、絶対にシフトを「N」レンジに切り替えた状態で車両を移動させないでください。
- エンジンまたはモーターが作動していて、かつシフトレバーを「R」/「D」レンジに入れるときは、必ずブ

警告

レーキペダルを踏み込み、車両を停止させてください。ニュートラルの状態でも、トランスミッションがまだ動力を伝達しているため、車両がゆっくり動きます。

- 事故を防ぐために、前進時にシフトポジションを切り替えるときは、絶対にアクセルペダルを踏まないでください。
- 事故を防ぐため、走行中はシフトを「R」または「P」レンジにしないでください。
- エンジンまたはモーターが作動していない状態で、「N」レンジのままで坂を下ることはしないでください。
- 自然発車を防ぐために、車両がしっかり止まってからパーキングブレーキをかけ、「P」ボタンを押してください。

電動パーキングブレーキ（EPB）

電動パーキングブレーキスイッチ

駐車時や車両から離れるときは、必ず電動パーキングブレーキ (EPB)を作動させてください。



手動で EPB を掛ける

車両が停止していて、「P」レンジ以外の場合、マルチメディアのシーンモードまたはマルチメディアコントロールパネル→設定 ⚙ →車両制御→運転制御設定画面の電動パーキングブレーキシステム設定項目*から、電動パーキングブレーキスイッチを作動させることができ、EPB は適切なブレーキを掛けます。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点滅してから点灯状態になり、EPB が ON になったことを示します。また「電動パーキングブレーキが作動しました」というメッセージが表示されます。

注意

- 電動パーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点滅している場合は、EPB が作動しています。坂道では自然発車を防ぐため、電動パーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点灯してからブレーキペダルを離してください。

自動で EPB が掛かる

自動で EPB が掛かる機能は、車両の自主安全性を上げるためのものであるため、機能を過信したり、頻繁に使用しないでください。安全を確保するために、車両から降りるときは、必ずシフトレバーを「P」レンジにし、EPB が掛かっていることを確認してください。

- 車両の電源ポジションを「OK」から「OFF」にすると EPB が自動で作動し、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点灯します。
- ブレーキペダルを踏み込んで車両を止めてから「P」レンジに入れると、EPB が自動的に掛かります。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 Ⓟ が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

- ブレーキペダルを踏んで車両が停車し、シフトポジションが「D」または「R」のときに運転席側ドアを開けると、シフトポジションが「P」に切り替わり、EPB が自動的に掛かります。コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓟ) が点滅から点灯状態になり、「電動パーキングブレーキ ON」の文字が表示されたらブレーキペダルを離します。

注意

- 車両のレッカー移動、立ち往生でレッカー移動やブレーキペダルの修理交換が必要な場合は、コントロールパネル→設定 ⚙ →車両制御→運転制御から EPB トレーラーモードを ON にします。

発車時に自動的に EPB を解除する

- 「P」レンジで車両を始動し、ブレーキペダルを踏み続けながら「P」または「N」レンジから、「D」または「R」などのレンジに切り替えると、EPB が自動で解除されてコンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯が消灯し、「EPB が解除されました」と表示されます。

注意

- 正しくシフトチェンジしてください。シフトチェンジ中は最後までブレーキペダルを踏み続け、コンビネーションメーターに目的のレンジが表示されてから、ブレーキペダルを離してください。
- 電源ポジションを「OK」にしてからの数秒間は、EPB システムが電源投入時のセルフテストをしている状態のため、すべての機能に応答しません。

- 車両を始動し、シフトレバーが「D」または「R」などのレンジに入っているとき、マルチメディア設定画面の「電動パーキングブレーキ (EPB)」で EPB を ON にした後に、アクセルペダルをある程度までゆっくり踏み込むと、EPB は自動で解除され、電動パーキングブレーキ表示灯が消灯し、「EPB が解除されました」と表示されます。

フットブレーキが利かない場合の緊急ブレーキ機能

- 走行中にブレーキが利きにくい、または掛からない場合は、「P」ボタンを 2 秒以上押し続けることで、緊急ブレーキを作動させることができます。

警告

- EPB は、路面の摩擦力の物理限界を超えることはできないため、カーブや危険な道路、渋滞、悪天候などの走行時に緊急ブレーキ機能を作動させると、スリップや横滑り、またはコースアウトを引き起こすおそれがあるため、事故につながらないように注意してください。

注意

- 正常に走行している場合は、走行中の安全を確保するために「P」ボタンによる緊急ブレーキを避けてください。インテリジェントパワーブレーキシステムの故障やフットブレーキが利きにくいなどの緊急時は、車両に対する制御を常に維持しながら正常運転状態で緊急ブレーキ機能を利用するようにしてください。

EPB を解除できない場合

- EPB を解除できない場合は、マルチメディア ⚙ →車両制御→運転制御から EPB トレーラーモードを ON にしてください。

- EPB が解除できた場合は、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡し点検してください。
- それでも解除できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

EPB トレーラモード

電動パーキングブレーキのけん引モードは、主に EPB が OFF になっている場合の自動開閉機能が考慮されています。車両の電源を「OFF」にしてけん引する場合や故障が発生した場合にトレーラモードを ON にして EPB を解除できます。

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 ⚙ →車両制御→運転制御→EPB トレーラモードの設定画面から、EPB トレーラモードを ON にできます。
- EPB トレーラモードの開始条件(同時に満たすこと):
  - シフトを「P」レンジに入れる。
  - ブレーキペダルを踏む。
  - 車両が充電コネクタに接続されておらず、充電されていない。

⚠ 注意

- EPB トレーラモードの開始条件が満たされていない場合は、マルチメディアの画面に対応するプロンプトが表示されます。
- トレーラモードになると、トレーラモードを終了しない限り、マルチメディアディスプレイは常時トレーラモード画面になります。
- 坂道で EPB トレーラモードにする必要がある場合は、坂道による自然発車を避けるため、運転中はブレーキペダルを放さないでください。

⚠ 注意

- 車両が故障して救援が必要な場合は、*(204 ページ)* に記載のけん引車両の使用方法を参照してください。

- EPB トレーラモードの終了条件(いずれか 1 つを満たすこと):
  - マルチメディアタッチスクリーンをタップして、トレーラモードを OFF にする。
  - 「P」ボタンを押す。
  - 車両に充電コネクタを接続して充電する。

EPB システム表示灯

- EPB 作動状態で車両の電源ポジションを「ON」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓟ) が常時点灯します。
- EPB 作動状態で車両の電源ポジションを「OFF」にすると、コンビネーションメーターの電動パーキングブレーキ表示灯 (Ⓟ) が点灯状態から数秒後に消灯します。
- 車両の電源ポジションを「ON」にすると EPB がセルフテストを行い、コンビネーションメーターのパーキングシステム故障警告灯 (!) が点灯してから数秒後に消灯します。消灯しない場合は、EPB に不具合があるおそれがあります。ただちに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

EPB 作動音

- EPB が掛かるまたは解除されると、EPB モーターの作動音が聞こえます。
- 緊急ブレーキ機能を有効にしてから、焦げた臭いがするまたは異常な音がする場合は、すぐに BYD 正規ディーラーまたは

BYD 指定サービス工場に連絡してください。

警告

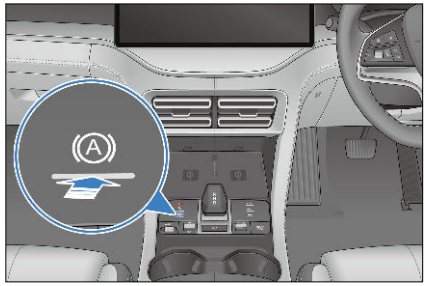
- 車両が坂道で下がることを防ぐために、車両から離れるときは、EPB の代わりにシフト機構で駐車しないでください。必ず EPB を使用して駐車し、シフトレバーを「P」レンジに入れてください。
- 重大な事故の発生を避けるため、走行中は EPB スイッチを操作しないでください。
- EPB の制動力不足時の自然発車や、それによるシフト引っかかりなどの異常を防ぐため、EPB を掛けるまたは解除するときは、できるだけブレーキペダルを踏んでください。

オートビークルホールド（AVH）

オートビークルホールド (AVH) : 渋滞や信号待ちなどの長い間停車する必要がある場合、自動的にブレーキが掛かり停車状態を維持します。

オートビークルホールド（AVH）待機状態

- 車両の電源ポジション「OK」時にオートビークルホールドスイッチを押して機能を ON にすると、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 Ⓐ が点灯します。
- 再度オートビークルホールドスイッチを押すと、機能が OFF になります。



オートビークルホールド(AVH)の有効化

- コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 Ⓐ が点灯している状態でブレーキペダルを踏み停車すると、オートビークルホールドが作動します。このとき、車両は自動で停車してオートビークルホールド表示灯 Ⓐ が点灯します。

注意

- オートビークルホールドの作動に必要な条件（同時に満たす必要があります）:
  - ドライバーがシートベルトをきちんと締め、かつドアが閉まっていること。
  - インテリジェントパワーブレーキシステムおよび電動パーキングブレーキ（EPB）システムに故障がないこと。
- アクセルペダルを踏む、「P」レンジに切り替える、または EPB スイッチを引き上げると、オートビークルホールドが解除されて待機状態に戻ります。
- オートビークルホールド機能は、工場出荷時は OFF に設定されています。
- 次に電源を ON にしたとき、前回の電源 OFF 前の ON/OFF 状態を維持します。

オートビークルホールド（AVH）の作動

- オートビークルホールドが作動すると、ブレーキランプとハイマウントストップランプが点灯します。コンビネーションメーターのオートビークルホールド表示灯 Ⓐ が常時点灯していれば、オートビークルホールドが正常に作動しています。
- 車両が 10 分以上停車していると、システムが自動でオートビークルホールドを解除して待機状態になります。このとき、コンビネーションメーターのオートビークルホールドスタンバイ表示灯 Ⓐ は点灯し、自動で「P」レンジに切り替わります。
  - オートビークルホールド (AVH) を有効にするには、「D」レンジに切り替えて走行した後、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

オートビークルホールド (AVH) 機能のキャンセル

- オートビークルホールド作動中に以下の操作を行うと、自動で「D」から「P」レンジに切り替わります。
  - 運転席のドアを開ける。
  - 運転席のシートベルトを外す。
  - 「D」レンジで停車中に、電動パーキングブレーキ (EPB) を ON にする。
  - ブレーキペダルを離したときにオートビークルホールド (AVH) スイッチを押して、オートビークルホールド (AVH) 機能を OFF にする。

オートビークルホールド (AVH) 機能の抑制

- 「R」レンジに切り替えて低速での移動状態になると、オートビークルホールドが移動モードに入ります。「R」レンジで低速で後退する、または「R」から「D」レンジに切り替え低速で走行すると、オートビークルホールドの作動が抑制されるため移動しやすくなります。
- 速度が 10km/h を超えるか、または AVH を解除してからもう一度 AVH を有効化すると、移動モードは自動的に終了します。

注意

- 車両の輸送中 (トレーラー、船、列車などを使用して輸送する場合) は、AVH 機能で駐車しないでください。車両の揺れにより制動力が不足して車両が動くリスクがあるため、「P」レンジに入れ、EPB を ON にしてから電源を切り、車両をロックしてください。

運転要領

運転上のご注意

- 向かい風の中では、車のコントロールができるようにゆっくり走行してください。
- 敷石が設置されている道路を走行する場合は、ゆっくりと走行しながら正しい角度を保ってください。尖っているものや障害物の上を走らないでください。タイヤを大きく破損させるおそれがあります。
- 悪路を走行する場合はスピードを落としてください。衝撃でホイールを大きく破損させるおそれがあります。
- 車両を洗浄した後、または深い水たまりを走行した後は、ブレーキが濡れていないか確認してください。周囲の安全を確認した上で、軽くブレーキペダルを踏んでください。通常の制動力が感じられない場合、ブレーキが濡れている可能性があります。その場合は、電動パーキングブレーキスイッチを使用しながら、慎重に運転し、ブレーキペダルを軽く踏むことをおすすめします。
- 車両が正常に走行している際に、起動ボタンを 3 秒以上長押しすると、車両は動力出力を遮断し、緊急パワーオフ状態に

なります。この場合、ハザードランプを点灯させ、ゆっくりと路肩に移動してください。ブレーキペダルを踏んだり、低速時にＰレンジを長押ししたり、周囲の障害物を利用したりといった方法で、徐々に減速して停車させてください。

注意

- 運転前、電動パーキングブレーキが完全に解除され、電動パーキングブレーキ表示灯が消灯していることを確認してください。
- エンジン作動中は、車両から離れないでください。
- 走行中はブレーキペダルに足を置かないでください。危険な過熱現象や摩耗、燃料の浪費につながります。
- 長い距離の下り坂を走行するときは、スピードを落としてください。また、ブレーキを頻繁に踏むと、ディスクローターが高温になり正常に機能しないおそれがあります。
- 滑りやすい路面で加速したり、ブレーキを掛けたりする場合は、注意してください。車両がスリップや横滑りを引き起こすおそれがあります。
- 交通事故を防ぎ、生命に関わる危険をを避けるため、走行中は窓から頭や手を出さないでください。特にお子様を乗せている場合は十分に注意してください。
- 濡れた路面を走行するときは、深い水たまりを避けてください。
- エンジンルームに大量の水が侵入すると、パワートレインや電気部品の破損につながります。

警告

- ドライバーは、お子様などの乗員が誤った操作をするのを防ぐため、乗員に各機能の使い方を伝え、乗員の安全確保を心がけてください。

警告

冬期の運転について

- 冷却水が凍結防止の保護機能を発揮していることを点検します。
  - 車両に使用されている冷却水と同じ型番のものを使用してください。冷却システムに冷却水を補充する場合、周囲の温度に応じて、適切な型番の冷却水を選んでください。
  - 不適切な冷却水を使うと、エンジンの冷却システムの破損につながります。
- 起動バッテリーやケーブルの状況を点検します。
  - 寒い時期は起動バッテリーの電圧が低下するため、冬場の始動に備えて、起動バッテリーは十分な充電状態を維持してください。
- エンジンオイルの粘度が冬季運転に適していることを確認します。
- 氷雪によるドアロックの凍結を避けてください。
  - 凍結を防ぐために、ドアロックの鍵穴の中に除氷剤やグリセリンを吹き付けます。
- 不凍液を含んだウォッシャ液を使います。
  - このような製品は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場やすべての自動車部品販売店で販売されています。
  - 水と不凍液の混合比は、メーカーの指示に従ってください。

注意

- エンジン冷却水や他の代替品をウォッシャ液として使わないでください。車両の塗装が損傷するおそれがあります。

- マッドガード下側に氷雪が付着するのを避けてください。
  - マッドガード下側に氷雪が付着すると、ハンドル操作が難しくなります。厳冬期の走行時はこまめに停車し、マッドガード下側に氷雪が付いていないかを点検してください。
- 走行道路によっては、必要な非常用装備やアイテムを用意しておくことをおすすめします。
  - タイヤチェーン、ウィンドウ用ヘラ、砂 1 袋分、塩、誘導灯、車載用スコップ、ジャンピングケーブルなどはできるだけ積載してください。

冬用タイヤ

- 冬用タイヤは積雪路面でのグリップ力に優れています。特殊なゴムトレッド設計により、低温環境の影響を受けにくく、優れた制動性能を発揮することで運転の安全性を向上させます。

使い方

- 氷雪路や気温が 7°C以下の場合は、冬用タイヤの使用をおすすめします。気温が 7°C以上のときは、運転の安全性と性能を確保するために、夏用タイヤまたはオールシーズンタイヤに交換してください。
- 冬用タイヤを使用する場合は、車両の工場出荷時の設計と同じ仕様、荷重指数、速度記号のタイヤを選択してください。
- 冬用タイヤは十分な溝の深さが必要です。溝の深さが 4mm 以上ないと、冬場の適応性が制限されることがあります。
- 冬用タイヤと夏用タイヤは、それぞれの季節に合わせて設計されているため、対応する季節に使用することをおすすめします。そうしないと、タイヤの密着性が悪くなったり、制動能力が低下したりするおそれがあります。
- 冬用タイヤが走行できる最高速度は比較的低いため、タイヤの速度記号が示す最高速度を超えないでください。
- 冬用タイヤを装着した後は、タイヤ空気圧が適正値になっていることを確認してください。

タイヤチェーン使用上のご注意

- タイヤチェーンは、緊急時対応、またはチェーン規制が実施されている道路を通行するときに使用するものです。
- タイヤチェーンは、フロントタイヤ (前輪駆動) または 4 つのタイヤ (四輪駆動) に装着します。凍結路面や雪道でタイヤチェーンを装着して運転するときは、細心の注意を払って運転してください。タイヤチェーンによっては、車両のタイヤ、ホイール、サスペンションおよびボディを破損させることがあるため、適切なサイズのタイヤチェーンを選定し、タイヤとホイールハウス内の部品の間に十分なスペースを確保してください。
- 部品組立図およびタイヤチェーンメーカーの他の取扱説明書をよく読んでください。
- タイヤチェーンの購入やタイヤへの装着前に、お買い上げの BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。
- タイヤチェーンを装着した状態で雪道を走行する場合は、30km/h 以下の速度で走行してください。
- タイヤとタイヤチェーンの摩耗を軽減するため、タイヤチェーンを装着したまま積雪路や凍結路以外の道路を走行しないでください。

お願い

- 走行速度は、30km/h またはタイヤチェーンメーカーが推奨する制限速度のいずれか低い方を超えないでください。
- 路面の凹凸や穴、急カーブに注意しながら慎重に運転してください。乗り上げた場合、車両が跳ね上がるおそれがあります。
- タイヤチェーン装着時は、制御不能による事故を防ぐため、急ハンドルや急ブレーキを避け、カーブに入る前にスピードを落としてください。
- タイヤチェーンは左右対称に使用し、積雪路を抜けたら、直ちに取り外してください。

エンジンシリンダークリーニング

寒冷地では、エンジンの始動失敗によりフラッディング（シリンダー内への燃料過剰供給）が発生する場合があるため、エンジンのシリンダークリーニング作業が必要です。

1. 車両の OK 表示灯が点灯し、強制 EV モードになり、エンジンが停止状態になります。その後ギアを N レンジに入れてください。
2. PAD で「電動パーキングブレーキシステム」の起動を選択します。
3. またブレーキペダルとアクセルペダルを完全に踏み込み、数秒待つと、シリンダークリーニング機能が作動します。

運転支援機能

アダプティブクルーズコントロール（ACC）システム*

- アダプティブクルーズコントロール（ACC）システムは、従来のクルーズコントロールをベースに、レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーで先行車と本車の相対距離、および相対速度を計測して本車の走行速度を自動で調整し、先行車との車間距離を一定に保ちながら走る追従走行を可能にした機能です。先行車の有無により、システムはクルーズコントロールと追従型クルーズコントロールを自動で切り替えます。
- ボタンで本車の巡航速度および先行車との車間距離を設定することができます。本車と先行車との車間距離、30～150km/h の範囲内で巡航速度を設定し、0～150km/h の範囲内で車間距離を一定に保ちながら追従走行することもできます。

作動状態説明

- ACC 待機の場合：
  - システム ON 後はデフォルトで待機状態となり、ドライバーの操作によってシステムを有効にできます。有効にするための条件が揃っていないときは、ドライバーが車両を点検して有効にする条件を揃えてください。このとき、コンビネーションメーターに アイコンが表示されます（巡航速度は変数）。
- ACC が有効になっている場合：
  - システムは作動状態であり、車両が設定速度で走行する、または先行車との車間距離を自動で調節しながら追従走行します。このとき、コンビネーションメーターに アイコンが表示されます。（巡航速度は変数）。

- 追い越し時の加速の場合：
  - システムを有効にした状態でアクセルペダルを踏むと、追い越しモードになります。システムを一時的に停止し、操作に応じて速度を上げ、アクセルペダルを離すと自動で元のモードに戻ります。
- ACC 故障の場合：
  - 故障している場合は、いかなる操作もできず、コンビネーションメーターのアダプティブクルーズコントロール故障警告灯が点灯します。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

ACC の作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 速度が≦150km/h のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON になっていない状態。

使い方

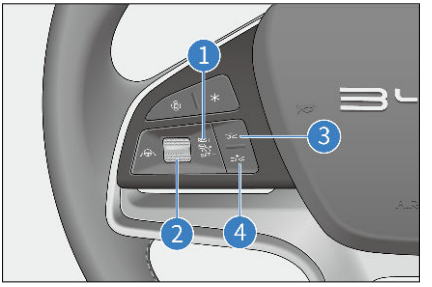
ACC 機能スイッチボタン

① アダプティブクルーズコントロールボタン

② マルチファンクションレバー（上方向：巡航速度の加速または復帰、下方向：巡航速度の減速または設定）

③ 車間距離を狭くする

④ 車間距離を広くする



ACC 作動/解除

- ボタン①を押すと（作動条件を満たしているとシステムは作動状態に入ります）、システムの ON/OFF の切り替えができます。（ボタン①を押して有効にすると、デフォルトとして現在の速度が巡航速度として設定されます。速度が 30km/h 未満の場合は、30km/h に設定されます）。

ACC リセット

- 走行中、システムがスタンバイ状態の場合は、最後に設定した巡航速度を記憶します。このとき、上方向にレバー②を操作すると、前回システム OFF 時に記憶した速度に戻すことができます。

設定速度の + / -

- システム ON の状態でレバー②を操作すると、30～150km/h の範囲内で巡航速度を設定できます。上下方向にレバー②を操作すると、設定速度は 5km/h ずつ加速または減速します。

ACC の解除

・システム作動中に再びボタン①を押す、またはブレーキペダルを踏むと、作動状態からスタンバイ状態に入ります。

車間距離の設定

・ドライバーは、安全な車間距離を選択する責任があります。

・このシステムは、同一車線を走行する先行車と適切な距離を保つように速度を調整することができます。ドライバーは、ステアリングホイールの③または④ボタンを操作することで、車間距離を 4 段階で調整することができます。車間距離は速度に比例して変化し、速度が速いほど選択する車間距離が広くなります。

ACC 使用時の自動加速/減速

・システムが作動している状態でアクセルペダルを踏み込みスピードを上げることで、早めに設定速度を達成することができます。このとき、システムは追い越し時の加速状態になります。設定速度で走行中にアクセルペダルを踏み込みスピードを上げ、かつ他の操作を行わないときは、スピードを上げた後にアクセルペダルを離すと、設定されていた速度に自動で戻ります。システムが作動している状態でブレーキペダルを踏み込むと、システムはスタンバイ状態になるため、ブレーキペダルを離して再度システムを作動する必要があります。

先行車に追従しての停止/発進

・システムは、通常の走行モードで先行車に追従して車両を停車することができます。30 秒以内の停車時は、自動で先行車に追従して発進します。

・30 秒 ~ 3 分以内の停車では、ドライバーがアクセルペダルを踏み込むか、レバーを上方向へ操作するとシステムが作動します。

・3 分以上停車すると、システムがスタンバイ状態になり EPB が作動します。

システムの限界

・車両前部に設置されているフロントミリ波レーダーおよびマルチファンクションビデオコントローラーは、汚れにより視界が遮られると本来の機能を発揮できなくなります。特に、積雪でセンサーが覆われるとシステムが OFF になります。システムは HMI (ヒューマンマシンインターフェース) を通じて、ドライバーにシステム OFF のメッセージを伝えます。このような場合は、汚れをきれいに取り除いて車両を再始動させる、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。

・円形駐車場やトンネルなどの特殊な道路を長時間走行した場合は、フロントミリ波レーダー検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このようなときは、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。

・カーブに進入する、またはカーブを抜けたときは、対象先行車の選定が遅れたり干渉を受けたりすることがあります。このようなときは、システムが期待通りに作動しない、または作動が遅れることがあります。

・曲がりくねった道などの急カーブでは、センサーが感知する前方の車両が数秒間消えることがあるため、速度が上がるおそれがあります。

・ドライバーは、先行車の流れ、雨や霧などの現在の状況に合わせて追従走行時の車間距離を調整し、システムを適切に設定してください。また、適切に設定した後は、いつでも減速できるようにしてください。

・システムは、車両、渋滞の最後尾、料金所、自転車や歩行者など静止している物体やゆっくり移動している物体を認識できずに衝突事故を引き起こすおそれがあります。そのため、ドライバーは常に周りの状況を確認してください。

・システムの制動力が限られているため、急ブレーキには対応できません。

・フロントミリ波レーダーは、レールや道路工事用金属板などの金属物が中距離レーダーと干渉すると、正常に作動しないことがあります。

・フロントミリ波レーダーが振動や衝突の影響を受けると、性能が低下することがあります。このような場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

ご注意

・システムはセーフティシステム、障害物検知システム、または衝突警告システムではなく、快適な運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。

・システムはライバーを支援するためのシステムであり、ドライバーの代わりに運転するものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。

・安全上の理由から、ESC を ON にしていない状態では、システムを有効にすることができません。

・システムは、高速道路や状況が良好な公道で走行する場合に適しています。複雑な市街地や山道での走行には適していません。

・先行車との車間距離を保つことはドライバーの責任です。システムの車間距離は、現地の運転環境に要求される最小車間距離に適合しています。

・システム作動時、ドライバーがアクセルペダルまたはブレーキペダルを踏むと、車両のコントロールはドライバーに引き継がれます。このとき、車間距離制御機能は作動しません。

・先行車が急ブレーキを掛けた場合（緊急停車）は、システムが反応できない、または反応が遅れてブレーキが遅れるおそれがあります。このようなときは、ドライバーに車両制御へ介入を要請するメッセージが届きません。

・状況（本車の速度に対して先行車が遅い、車線変更速度が速い、安全距離が短いなど）によっては、システムが相対速度を落とすのに必要な時間がない場合があります。このようなときは、ドライバーが適切な操作をする必要があります。システムはどのような状況でも音声や映像で警告を出すことができるわけではありません。

・ACC 付き車両が、隣接車線を走行する他車との車間距離が狭い（隣接車線を走行する他車が ACC 付き車両に近すぎた）場合は、システムが作動することがあります。

・本車が ACC 付き車両の進路に車線変更し、フロントミリ波レーダーの検知範囲内に入った場合は、この車両を対象車両として認識し反応するため、強力な制動力が掛かったり、ブレーキが遅れたりすることがあります。

・環境によっては、検知が影響を受けたり遅れたりすることがあります。対象物のフロントミリ波レーダー反射断面積が小さすぎる（自転車、バイク、4 輪馬車、歩行者など）場合は、システムが前車との距離を判断できないおそれがあります。このようなときは、ドライバーが速度をコントロールしてください。また、ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、検知の遅延や干渉が発生することがあります。

・本車が先行車と一直線上に走行していない場合、ACC は先行車を対象車両として認識できません。このようなときは、ドライバーが常に車両をコントロールしてください。

・先行車に追従し停止する場合、まれに先行車の後端を検知できずに下端（車高の高いトラックの後軸や車のバンパーなど）を検知することがあります。このとき、システムは適切な停止距離を確保できなくなるため、ドライバーは常に注意を払ってブレーキを掛けられる準備をしてください。

・車両が停止している状態でシステムを有効にすると、前方にある静止物を対象車

両として認識し、停止状態を維持します。これは、発進時の安全を確保して予期せぬ発進による衝突を避けるためです。ただし、この機能はすべての障害物に対応できるわけではありません。そのため、ドライバーは車両真正面に障害物や他の車両がないことを確認してください。

- 車高を下げたりナンバープレート取り付けブラケットを変更したりするなど、車両の構造的な改造はシステムに影響を与えるおそれがあります。
- 視界が悪い場所、坂道やカーブが続く道路、滑りやすい路面（雪道、凍結路、濡れた道路や水浸しの道路など）を走行する場合は、本システムを使用しないでください。
- けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード（運転モードが搭載されている場合）では、システムが作動しません。
- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でフロントミリ波レーダー、マルチファンクションビデオコントローラーの校正、点検をしてください。
  - フロントミリ波レーダー、フロントバンパー、フロントガラス、マルチファンクションビデオコントローラーを取り外すとき。
  - 車輪の振れによりホイールアラインメント調整を行ったとき。
  - 衝突したとき。
  - システムの性能低下、またはコンビネーションメーターからのシステム異常のメッセージに気づいたとき。

警告

- アダプティブクルーズコントロールはドライバーを支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。

警告

- アダプティブクルーズコントロールは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの要望、交通状況や道路環境に応じて、アダプティブクルーズコントロール機能を使うかどうかを判断してください。

ナビゲーションパイロット（ICC）*

- ナビゲーションパイロット（ICC）は、アダプティブクルーズコントロール（ACC）の速度制御と車間距離維持機能に加え、車両を現在の車線の中央に保持する補助機能を追加したものです。速度が 0～130km/h の範囲で車両の縦方向と横方向の補助制御をドライバーに提供することで、運転負担を軽減して安全で快適な運転環境を実現します。
- システム作動中、ドライバーは常にステアリングホイールを握り、必要なときに車両をコントロールしてください。
- 前後方向制御支援はアダプティブクルーズコントロールによって行われ、速度および先行車との車間距離を一定に保ちながら走行することができます。

作動状態説明

- ICC 待機の場合：
  - ナビゲーションパイロットはデフォルトの待機状態となり、ドライバーの操作で有効にすることができます。アクティブ状態に必要な条件が揃っていない場合は、ドライバーが車両を確認して条件を揃えてください。このとき、コンビネーションメーターには アイコンが表示されます。
- ICC が有効になっている場合：

- ナビゲーションパイロットは通常の作動状態にあります。車両が設定速度で走行する、または先行車との車間距離を自動で調節しながら追従走行します。このとき、コンビネーションメーターには アイコンが表示されます。

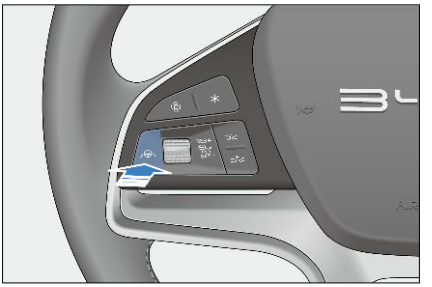
- ICC 故障の場合：
  - システムが故障すると、コンビネーションメーターにナビゲーションパイロット故障警告灯 が点灯し、使用できなくなります。

ナビゲーションパイロットの作動条件

- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。
- 速度が≦130km/h のとき。
- 速度が 0km/h のときは、ブレーキペダルを踏み込んだ状態。速度が 0km/h 以外のときは、ブレーキペダルを踏み込んでいない状態。
- コンビネーションメーターに車両ネットワーク通信故障のインフォメーションが表示されていない状態。
- 自動緊急ブレーキ機能が ON になっていない状態。
- 双方向車線が明瞭に表示され、かつ本車が車線の中央部を走行している状態。

使い方

- ドライバーは、ステアリングホイールのボタンでナビゲーションパイロットの ON/OFF を操作できます。機能が ON になると、初期設定として巡航速度が設定され、現在の速度を設定速度にします。また、速度が 30km/h 未満のときは、30km/h に設定します。
- クルーズ速度および車間距離の設定は、アダプティブクルーズコントロールの使い方を参照してください（詳細は前章を参照）。



- ドライバーは、→ADAS→運転アシスト の設定画面から、ナビゲーションパイロットを ON/OFF することができます（ソフトスイッチング機能が ON になっているとき、「P」レンジのときにのみ OFF にできます）。車両始動時の設定は、前回の状態を維持します。
- 現在の車速が 30～120km/h の場合は、ステアリングホイールの「RES+」と「SET-」ボタンで車速を設定できます。短押しで 5km/h ずつ速度調整ができ、長押しで 1km/h ずつ調整できます。

ご注意

- ナビゲーションパイロットは、アダプティブクルーズコントロールの速度制御と車間距離維持機能に加え、車両を車線中央に保持する補助機能を追加しているため、使用時にはアダプティブクルーズコントロールの注意事項（詳細は前章を参照）を遵守してください。

- ナビゲーションパイロットを作動させる際は、車両をできるだけ車線の中央に保持し、車両中心軸線と車線が平行になるようにしてください。そうしないと、機能作動時の快適性と滑らかさに影響が出るおそれがあります。
- 機能を ON にして作動させた後、本車の速度が 0～120km/h の範囲内の場合：
  - 前方に車線境界線がない場合は、システムの横方向制御が抑制されてアダプティブクルーズコントロールのみが機能します。このとき、コンビネーションメーターのナビゲーションパイロット作動状態表示灯が灰色に点灯します。
  - 前方の車線境界線が明瞭に認識できるときは、システムの横方向制御が自動で作動し、コンビネーションメーターにシステム作動状態表示灯が有効状態になります。
- ナビゲーションパイロットは、運転を支援するための機能であり、自動運転ではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、長時間ステアリングホイールから両手を離さないでください。そうしないと、警告メッセージが表示された後にシステムが OFF になります。
- ナビゲーションパイロットは、天候や照明の明るさ、車線境界線の鮮明さの影響を受けるため、逆光、日没時、路面の積雪および著しい摩耗がある路面では、性能が著しく低下します。
- 急カーブが連続する道や凍結して滑りやすいカーブ、または悪天候 (濃霧、大雨、大雪など) により、フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラーの視野が遮られている場合は、ナビゲーションパイロットは使用しないでください。
- けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード (運転モードが搭載されている場合) では、ナビゲーションパイロットは作動できません。
- 機能が使えない場面：
  - センサーが遮られているとき。
  - 悪天候のとき。
  - 能動的安全システムが機能しているとき。
  - 走行速度の範囲を超えているとき。

警告

- ナビゲーションパイロットは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- ナビゲーションパイロット機能は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーのニーズ、交通状況や道路環境に応じて、ナビゲーションパイロットを使うかどうかを判断してください。

予測緊急ブレーキシステム*

予測緊急ブレーキシステムは、予測性碰撞报警系统(PCW)と自動緊急ブレーキ (AEB) の 2 つの機能を備えています。本システムは、フロントミリ波レーダーとフロントビューにより本車線上の先行車や歩行者を検知します。システムは、本車が先行車または歩行者と正面衝突するおそれがあると判断した場合、音声・視覚警告を発してドライバーへ回避行動を取るように促すと同時に、潜在的な制動力を強くして、ドライバーが対応するための反応時間を確保します。衝突の可能性が高くなりつつあると判断した場合は、ブレーキを自動で作動させてドライバーが衝突を回避できるようにアシストし、衝突の被害を軽減します。

使い方

- ドライバーは、⚙ → ADAS → アクティブセーフティ の設定画面から、PCW と AEB システムの機能の ON/OFF を設定

することができます。始動時の初期設定は ON です。

- 衝突予測警告の警告方法は、音声による警告、文字による警告、ポンピングブレーキ警告があります。
- 衝突予測警告が作動した場合は、緊急度合いによりコンビネーションメーターの警告灯が緑または赤で点滅してメッセージが表示されます。
- 自動緊急ブレーキが作動した場合は、コンビネーションメーターの警告灯が赤で点灯してメッセージが表示されます。
- 機能に故障がある場合は、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。
- ドライバーが自動緊急ブレーキを OFF にした場合は、コンビネーションメーターにアイコンが表示されます。

衝突予測警告（PCW）の作動条件

衝突予測警告を作動させるには、以下の条件を満たす必要があります。

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、16km/h ~ 150km/h の範囲。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。

自動緊急ブレーキ（AEB）の作動条件

自動緊急ブレーキを作動させるには、以下のすべての条件を満たす必要があります。

- 車両設定から機能を ON にする。
- 速度が、4km/h-150km/h の範囲。
- 電動パーキングブレーキ（EPB）が解錠されている状態。
- シフトポジションは、「D」レンジ状態。
- 車両がバックしない状態。
- すべてのドア、ボンネット、テールゲートは閉まっている状態。
- ドライバーがシートベルトを着用している状態。
- ESC システムは ON で、なおかつ作動していない状態。

システムの限界

- 次の場合は、システムが影響を受ける、または機能しないことがあります。
  - 雨、雪、霧、または大きな水しぶき、反射光、直射日光、照明の明るさの急激な変化。
  - センサーの汚れ、曇り、破損、または遮断。
  - 立体駐車場での強いレーダー反射など、他のフロントミリ波レーダー源の干渉によるフロントミリ波レーダーの故障。
- 交通状況が複雑な場合、システムは下記の場面に正しく対応できないことがあります。
  - ハイスピードでセンサーの検知範囲に現れた歩行者や車両。
  - 他のものに遮られている歩行者。
  - 背景と見極めができない歩行者の輪郭。
  - 特殊な衣服、または他のものに覆われているなどで検知されない歩行者。
  - 半径が小さいカーブ。

ご注意

- 予測緊急ブレーキシステムは、いかなる状況でも衝突を回避できるわけではありません。交通状況が複雑な場合は、システムが車両と歩行者を正確に認識できないことがあります。また、マンホールカバーや鉄板、道路標識に反応して、誤って警告を発したりブレーキを掛けるおそれがあります。

- 必ず安全運転を心掛け、周辺の交通状況に注意してください。いかなる場合も、通常のブレーキ操作の代わりに自動緊急ブレーキを使用しないでください。
- 事故の発生や生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあるため、予測緊急ブレーキシステムを過信しないでください。このシステムは運転を支援するためのものであるため、ドライバーは自己責任で先行車との車間距離を適切に保って速度を制御してください。また、必要に応じてブレーキやハンドル操作ができるよう常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 自動緊急ブレーキの作動は、走行速度が一定速度より速い場合に限られます。このシステムは、いかなるモードでも正しく作動できるわけではないため、慎重に運転してください。
- ESC システムが OFF または警告灯が点灯している場合は、自動緊急ブレーキが正常に作動しません。
- 予測緊急ブレーキシステムが警告を出している場合、ドライバーは交通状況に応じてブレーキ操作で速度を落とす、またはハンドル操作で障害物を回避してください。
- 車間距離が近い状態で長時間走行すると、安全距離警告システムが車間距離を取るように警告を出します。先行車が急ブレーキを掛けると衝突は避けられません。
- 緊急警告時にドライバーが気づいている場合は（ドライバーがハンドルを切る、アクセルペダルやブレーキペダルを踏むなど）、自動緊急ブレーキは作動しません。
- 円形駐車場やトンネルなどの特別な道路を長時間走行した場合は、フロントミリ波レーダーの検出特性の限界により一時的に機能しないことがあります。このようなときは、車両を再始動する、または通常の道路を一定距離走行すると機能が回復します。
- フロントミリ波レーダーやマルチファンクションビデオコントローラー表面に汚れや異物が付着すると、衝突予測警告および自動緊急ブレーキが作動しないおそれがあるため、速やかに汚れや異物を除去してください。
- 歩行者保護システムは、克服できない物理的な条件の制限があるため、ドライバーは危険モードに対して車両制御に素早く介入してください。
- 歩行者保護システムでは、事故や重傷を完全に防ぐことはできません。
- 歩行者保護システムは、曲がっている幹線道路などの複雑な状況では、不必要な警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- 歩行者保護システムに機能上の故障がある場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの角度ずれなどにより、間違った警告発信やブレーキ操作を行うことがあります。
- 自動緊急ブレーキが作動すると、ブレーキペダルの操作フィーリングが重くなります。また、短時間でブレーキキャリパーを動かすのに大きな油圧が必要となるため、「ズズズ」という音が聞こえることがあります。
- 予測緊急ブレーキシステムは、ドアを閉めてシートベルトを着用している場合に限り作動します。次の場合は、システムが機能しないことがあります。
  - ドアが閉まっていない、または走行中にドアが開いたとき。
  - シートベルトを着用していない、または走行中にシートベルトを外したとき。
  - ドライバーが急アクセルまたは急ブレーキ操作をしたとき。
- 次の場合は、システムが常に最適な性能を発揮することができないおそれがあります。
  - 事故や他の原因により、フロントバンパーに強い衝撃を受けたとき。

- タイヤ空気圧の過不足、またはタイヤの過度な摩耗があるとき。
- 規定に合わないタイヤを装着したとき。
- タイヤチェーンを装着したとき。
- 小型スペアタイヤ、または緊急用パンク修理キットを使ったとき。

- 次の場合は、必ず BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でマルチファンクションビデオコントローラーの校正を行ってください。
  - フロントミリ波レーダーまたはマルチファンクションビデオコントローラーを取り外したとき。
  - ホイールアライメント調整中に、トーインやリアタイヤのキャンバー角を調節したとき。
  - 衝突事故発生後に、マルチファンクションビデオコントローラーの位置が変わったとき。
- 紙箱、鉄板、ダミー人形などで予測緊急ブレーキシステムの作動試験を勝手に行わないでください。システムが正常に機能せず事故を引き起こすおそれがあります。
- けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード（運転モードが搭載されている場合）では、自動緊急ブレーキは作動できません。

警告

- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- 衝突予測警告および自動緊急ブレーキは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの希望、交通状況や道路環境に応じて、衝突予測警告および自動緊急ブレーキを使うかどうかを判断してください。

フロントクロストラフィックアラートおよびフロントクロストラフィックオートブレーキ

フロントクロストラフィックアラート（FCTA）およびフロントクロストラフィックオートブレーキ（FCTB）は、フロントバンパーの左右両側に搭載されるフロントミリ波レーダーで本車の先方を横切る車両を検知すると、ドライバーに知らせるとともに、必要に応じて自動でブレーキを掛けます。本車が低速走行中に先方を横切る車両と衝突する危険を検知すると、視覚・音声警告でドライバーに知らせます。また、衝突事故が発生しそうなときは、自動でブレーキを作動させて衝突事故の発生を防ぎます。

使い方

- ドライバーは、コントロールパネル→設定→ADAS→アクティブセーフティの設定画面から、FCTA/FCTB の ON/OFF を設定することができます。
- FCTA を有効にしたときは、ドアミラー警告灯が点滅して音声警告を出します。
- FCTB を有効にしたときは、コンビネーションメーターの警告灯が赤で点灯し、音声警告を出すと同時に自動で緊急ブレーキを作動させます。
- FCTA/FCTB が故障したときは、コンビネーションメーターにが表示されます。

ご注意

- システムは前方の監視を支援しますが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。
- 対象車両が側面からハイスピードで本車に接近してきた場合、システムは警告機能を発揮できないことがあります。
- ドライバーは、システムが正常に作動するように泥や雪などの付着物を早めに取り除き、フロントバンパー左右両側のフロントミリ波レーダーの設置部位を良好な状態に維持してください。
- ノイズや電磁波による干渉などの影響を受けると、システムの検知が遅れたり干渉を受けることがあります。
- 状況によっては、感知システムが影響を受けたり遅れることで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。
  - 側面から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えたとき。
  - 対象車両が遮られたとき。
  - 対象物のレーダー反射断面積が小さすぎる (自転車、バイクなど) とき。
  - 雨、雪などの悪天候のとき。
  - フロントミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
  - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- 次の場合は、システムが機能しなくなります。
  - 対象物がミリ波レーダーの検知範囲外にあるとき。
  - FCTA/FCTB スイッチが OFF になっているとき。
  - シフトポジションが「D」以外のレンジに入っているとき。
  - 4 つのドアが閉まっていないとき。
  - システムの初期化が完了していないとき。
  - ミリ波レーダーに故障があるとき。
  - 急カーブや坂道などで横前方から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
- ミリ波レーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下するおそれがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード (運転モードが搭載されている場合) では、FCTB は作動できません。

警告

- フロントクロストラフィックアラート/フロントクロストラフィックオートブレーキ機能は、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で安全に運転してください。
- フロントクロストラフィックアラート/フロントクロストラフィックオートブレーキ機能は、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの要望や交通状況、道路環境に応じてフロントクロストラフィックアラート/フロントクロストラフィックオートブレーキ機能を使うかどうかを判断してください。

ハイビームアシストシステム (HMA) *

インテリジェントハイビームアシストシステム (HMA) は、マルチファンクションビデオコントローラーセンサーにより現在の運転環境を判断し、速度が 35km/h 以上に

なるとハイビームを自動で ON/OFF します。

作動状態説明

- HMA 待機の場合：
  - HMA 機能は ON になっているが作動していない状態のとき、コンビネーションメーターに  が表示されます。
- HMA が有効になっている場合：
  - 機能を ON にしてライトスイッチが Auto の位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たしていれば自動で作動します。このとき、コンビネーションメーターに  が表示されます。
- HMA 故障の場合：
  - 故障が発生した場合は、コンビネーションメーターに  が表示されます。

使い方

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 →ADAS→ドライビングアシストの設定画面から、HMA の ON/OFF を設定することができます。車両を再始動した時の設定は前回の設定になります。
- 機能を ON にしてライトスイッチが Auto の位置にある場合、速度が 35km/h を超えて明るさの条件を満たすと、システムは実際の走行状況に応じてロービーム/ハイビームを自動で切り替えます。

ご注意

- インテリジェントハイビームアシストシステム（HMA）はライトを制御するための支援システムで、高速走行時の利用をおすすめします。ただし、このシステムはドライバーに取って代わるものではないため、常に道路交通規則を遵守し、道路環境の変化に合わせてハイビームとロービームを適切に切り替えてください。
- ABS や ESC の作動など、車両が高い動的状態にある場合は、ライトの切り替えを制限します。
- ドライバーがフォグランプを点灯したとき、ターンシグナルランプを作動させたとき、ワイパーを高速作動モードに切り替えたとき、バックで走行させたとき、ライトスイッチをオート以外に切り替えたとき、周囲の光が強すぎるときは、HMA システムが OFF になります。
- ハイビームが ON で作動している場合でも、環境要素や条件によって誤って作動したり作動しなかったりすることがあるため、ドライバーが対応してください。代表的な状況は次の通りです。
  - ドライバーがレバー操作でハイビームを選択したときは、ドライバーの操作を優先します。
  - 濃霧や大雨、大雪など、運転に極めて不利な天候のとき。
  - 照明が弱い交通参加者（歩行者や自転車など）や、鉄道や水路に近隣する道路または野生動物が出没する道路を走行するとき。
  - 光を強く反射するものがあるとき（高速道路上の交通標識、路上の水たまりなど）。
  - フロントガラスに霧や汚れが付いている、またはラベルやアクセサリーなどで遮られているとき。
- 衝突事故が発生した、またはカメラセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にセンサーの校正を依頼してください。

警告

- インテリジェントハイビームアシストシステムは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。

警告

- インテリジェントハイビームアシストシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの要望、交通状況や道路環境に応じて、ロービームアシストシステムを使うかどうかを判断してください。

レーンサポートシステム（LDA）*

レーンサポートシステム（LDA）は、車線逸脱警告（LDW）と車線逸脱防止（LDP）の 2 つの機能を備えています。

車線逸脱警告（LDW）

- 車線逸脱警告（LDW）は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、システムがステアリングホイールの振動、音声、コンビネーションメーターへの表示などにより、車線の逸脱をドライバーに知らせます。

車線逸脱防止（LDP）

- 車線逸脱防止（LDP）は、マルチファンクションビデオコントローラーにより前方車線を検知します。速度が 60km/h ~ 150km/h のときにドライバーの不注意で車線から逸脱すると、電動パワーステアリングシステム（EPS）制御により、反対方向にステアリングホイールを軽く回して車線のはみ出しを防ぎます。
- 車線逸脱防止が作動を開始してから 5 秒を超えると、5 秒後に警告を出します。警告の出し方は音声警告と視覚警告があり、警告はシステムが作動状態を終了するまで続きます。180 秒の間に 2 回以上連続してシステムが作動し、さらに作動期間にドライバーのステアリング操作がない場合は、2 回目以降のすべての作動期間に警告を出します。また、3 回目の作動以降は警告時間が前の警告より 12 秒長くなります。ドライバーがステアリング操作やブレーキ操作などの積極的な操作を行うと、警告が終了します。

使い方

- ドライバーは、→ADAS→アクティブセーフティ の設定画面から、レーンサポートシステムの ON/OFF を設定することができます。
- レーンサポートシステムの警告パターンは、ステアリングホイール振動のみ、音声警告のみ、ステアリングホイール振動+音声警告の 3 パターンがあります。
- 車線逸脱警告や車線逸脱防止を ON にすると、コンビネーションメーターに アイコンが表示されます。
- 車線逸脱警告が作動すると警告（警告の出し方：音声警告、視覚警告、ステアリングホイール振動による警告）を出して、コンビネーションメーターの仮想車線境界線が赤色になります。
- 車線逸脱防止が作動すると警告（警告の出し方：音声警告、視覚警告）を出して、コンビネーションメーターの アイコンが 2 回点滅して仮想車線境界線が青色になります。
- システムに故障があった場合は、コンビネーションメーターに アイコンが表示されます。

システムの限界

- 複雑な道路環境では、レーンサポートシステムが誤った検知をしたり車線を検知できなかったりすることがあります。次の場合は、システムが機能しない、または性能が著しく低下するおそれがあります。

・雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。

・フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物の付着。

・直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。

・トンネルの出入口など周辺環境の明るさが急激に変化したとき。

・直射日光が路面を照らす際、木陰によって車線が見えにくくなったとき。

・道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。

・システムが頻繁に作動して操作を妨げないように、狭い車線を走るときは機能が抑制されることがあります。

ご注意

・ドライバーがターンシグナルランプを点灯させて指示した方向に車線を切り替える場合、システムは無効になります。

・車線境界線上を走行中、車線境界線が目立たない、細すぎる、摩耗、不明瞭、汚れや氷雪が付着している場合、システムは無効になることがあります。

・車線が広いまたは狭い、車線の数が多くなる、少なくなる、誘導路や高速道路の出口などの短時間で境界線が切り替わる、または複雑な車線を切り替える場合、システムは無効になることがあります。

・坂道や曲がった道路を走行中、先行車との距離が近すぎる、または車線境界線が先行車に遮られた場合、システムは無効になることがあります。

・道路事情により激しい凹凸路がある場合や、急アクセルや急ブレーキ、または急ハンドル操作をした場合、システムは無効になることがあります。

・マルチファンクションビデオコントローラーの視界範囲内のガラス割れ、フロントガラスの着色、規則に適合しない塗装、インストルメントパネルの上にある光を反射する物体、マルチファンクションビデオコントローラーの視界を妨げる後付け部品は、システムの正常な作動に影響を与えるおそれがあります。

・安全運転のために、自らレーンサポートシステムの作動試験を行わないでください。また、マルチファンクションビデオコントローラーの視界が遮られたり、強い光と干渉したりしないようにしてください。視界が一時的に遮られたり強い光と干渉したりすると、システムが一時的に OFF になり、視界が正常に戻ると自動で復帰します。自動で復帰しないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

・下記の場合は、レーンサポートシステムを OFF にすることをおすすめします。

・スポーティーな走りのとき。

・悪天候のとき。

・悪路を走行するとき。

・以下の場合は認識される保証がありません。ただし、以下に限定されるものではありません。

・不明瞭な車線。

・部分的に消えている車線。

・以下の場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。次のシーンを含みますがそれらに限りません。

・マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。

・雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。

・マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。

・けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード（運転モードが搭載されている場合）では、レーンサポートシステムは作動しません。

警告

- レーンサポートシステムは、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- レーンサポートシステムは、天候や道路環境などにより、機能しないおそれがあります。
- ドライバーのニーズ、交通状況や道路環境に応じて、レーンサポートシステムを使うかどうかを判断してください。

緊急時車線維持支援（ELKA）*

緊急時車線維持支援（ELKA）は、マルチファンクションビデオコントローラーで前方の車線を検知し、リアコーナー部のミリ波レーダーで隣接車線を走行する後続車を検知します。速度が 50km/h～150km/h の範囲内で、本車が実線の車線境界線から逸脱して道路をはみ出す、または対向車や隣接車線を走行する車両と衝突するおそれがあると判断すると、システムが電動パワーステアリングシステム（EPS）を操作して反対方向にステアリングホイールを軽く回し、現在の車線を維持しようとします。

使い方

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 →ADAS→ドライビングアシスト→レーンサポートシステムの設定画面から、ELKA の ON/OFF を設定することができます。
- ELKA を ON にすると、コンビネーションメーターの アイコンが点滅します。
- ELKA が故障すると、コンビネーションメーターに アイコンが表示されます。
- ELKA を OFF にすると、コンビネーションメーターに が表示されます。

システムの限界

- 複雑な道路環境では、システムが誤って検知する、または車線を検知できないことがあります。また、次の場合は、システムが機能しなかったり性能が著しく低下したりするおそれがあります。
  - 雪、雨、霧により、視界が悪くなったとき。
  - フロントガラスの汚れや曇り、またはマルチファンクションビデオコントローラー前方への異物の付着。
  - 直射日光、路面の水たまりの反射、対向車などからの反射光。
  - トンネルの出入口など周辺環境の明るさが急激に変化したとき。
  - 直射日光が路面を照らす際、木陰によって車線が見えにくくなったとき。
  - 道路と道端の草・土壌・縁石などとの境界線が認識できないとき。
- システムが頻繁に作動して操作を妨げないように、狭い車線を走るときは機能が抑制されることがあります。

ご注意

- 以下の場合は認識される保証がありません。ただし、以下に限定されるものではありません。
  - 歩行者、動物、特殊車両、または異形車。
  - 不明瞭で、部分的に消えている車線。
- 以下の場合は、マルチファンクションビデオコントローラーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。ただし、以下に限定されるものではありません。
  - マルチファンクションビデオコントローラーの緩みや外れ、干渉があるとき。
  - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。

- マルチファンクションビデオコントローラーのレンズの一部、または全部が遮られているとき。

- 以下の場合は、ミリ波レーダーの機能障害または機能の作動遅れにつながるおそれがあります。だたし、以下に限定されるものではありません。
  - ミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
  - 雨、雪、PM2.5 など極端な気象のとき。
  - 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- けん引/雪道/ぬかるみ/砂道/山地などの特別な運転モード (運転モードが搭載されている場合) では、ELKA は作動できません。

警告

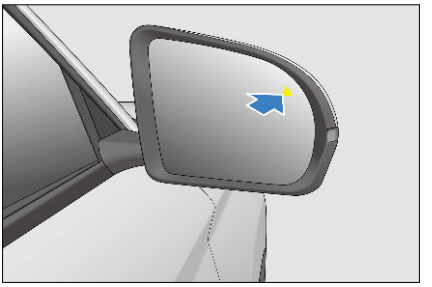
- 緊急時車線維持支援機能は運転を支援するための機能です。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- 緊急時車線維持支援機能は、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーの要望、交通状況や道路環境に応じて、緊急時車線維持支援機能を使うかどうかを判断してください。

ブラインドスポットアシストシステム

ブラインドスポットアシストシステムは、ブラインドスポットインフォメーション (BSD)、リアクロストラフィックアラート (RCTA)、リアクロストラフィックブレーキ (RCTB)、後方衝突予測警告 (RCW)、ドアオープンワーニング (DOW) 機能を備えています。主にリアバンパーの左右両側にあるミリ波レーダーで車両後方の交通状況を判断し、ドライバーに安全運転を心掛けるように知らせます。

ブラインドスポットインフォメーション (BSD)

- 速度が 15 ~ 150km/h の状態で、リアコーナー部のミリ波レーダーにより隣接車線の死角領域内に車両がいる、または隣接車線から急接近する車両を検知した場合は、該当ドアミラーの警告灯が点灯します。このとき、同じ方向のターンシグナルランプを点灯させると、危険を知らせるためにドアミラーの警告灯が点滅し、注意を促します。



リアクロストラフィックアラート (RCTA) *

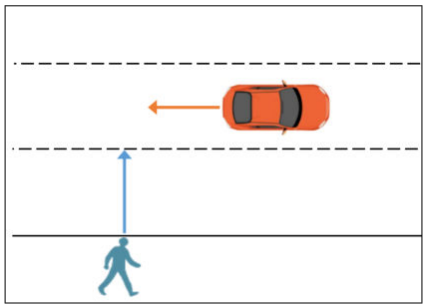
- 速度が 15km/h 以下で後退中に、リアコーナー部のミリ波レーダーにより後方の死角領域を走行する車両を検知し、後方から接近してくる車両が本車と衝突するおそれがあると判断した場合は、ドアミラーの警告灯を点灯させると同時に音声警告を出してドライバーに注意喚起し、衝突の可能性を低減します。

リアクロストラフィックブレーキ (RCTB) *

- 速度が 9km/h 以下の状態で、リアコーナー部のミリ波レーダーにより斜め後方の死角領域を走行する車両を検知し、後方から接近してくる車両が本車と衝突するおそれがあると判断した場合は、緊急ブレーキが自動で作動します。

作動パターンの説明

- リアクロストラフィックブレーキは、以下のような場面で作動する可能性があり、本車、対象車両、周辺環境などのさまざまな要因によって作動するかが決まるため、すべての場面で作動するわけではありません。
- 車両が低速で後退中に、システムが後方を横断する歩行者を検知すると、リアルタイムで衝突リスクの有無を判定します。衝突するリスクがある場合は、緊急ブレーキを作動させて衝突事故の被害を軽減または防止します。
- システムの制限事項：システムの作動は、本車や対象物の状態、環境などのさまざまな要因によって決まるため、必ず緊急ブレーキが作動することを保証するものではありません。



後方衝突予測警告（RCW）*

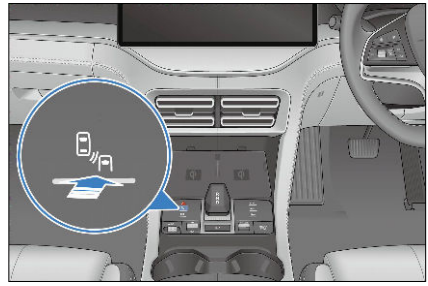
- 速度が 5～146km/h で走行中に後方車両が急接近し、リアコーナー部のミリ波レーダーが衝突するおそれがあると検知すると、ハザードランプを点滅させて注意するように後方車両に知らせます。

ドアオープンワーニング（DOW）*

- 停車時にドアを解錠している場合、リアコーナー部のミリ波レーダーで、自転車や自動車などの移動物が後方の隣接車線から本車に接近すると、ドアミラーの警告灯を常時点灯させて自動車などの存在をドライバーに知らせます。このとき、ドライバーがドアを開けようとするとドアミラーの警告灯が点滅すると同時に音声警告を出します。

使い方

ドライバーは、ボタン操作または → ADAS → セーフティアシストの設定画面から、ブラインドスポットインフォメーション、リアクロストラフィックアラート、リアクロストラフィックブレーキ、後方衝突予測警告、ドアオープンワーニングの ON/OFF を設定することができます。



ブラインドスポットアシストシステム OFF：コンビネーションメーターの関係機能の表示灯が消えます。

ブラインドスポットアシストシステム待機：速度、シフトポジションなどの作動条件を満たしていないと、コンビネーションメーターの表示灯 が灰色になり機能しません。

ブラインドスポットアシストシステム故障：コンビネーションメーターに黄色 のアイコンが表示されます。

ブラインドスポットアシストシステム ON：コンビネーションメーターの表示灯が緑色 に点灯して機能が有効となり、いつでも作動できる状態になります。

システムの限界

- 状況によっては、感知システムが影響を受けたり遅れることで、システムが運転を支援できない場合があります。考えられる状況は次に示す場合を含みますが、それらに限りません。

- 後方から接近してきた車両が最後のタイミングで車線を切り替えたとき。
- 急カーブや坂道などで後方から接近してきた車両の感知が遅れたとき。
- 対象車両が遮られたとき。
- 後方から接近してきた車両の相対速度が 80km/h を超えたとき。
- カーブの半径が小さすぎる、またはカーブを出入りするとき。
- 雨、雪などの悪天候のとき。
- リアコーナー部のミリ波レーダーの緩みや外れ、干渉があるとき。
- 金属製ガードレールがあるなど、道路環境が複雑なとき。
- 次の対象物に反応しないおそれがあります。以下を含みますが、それらに限りません。歩行者、動物。
- 周りに電磁波による干渉などの影響が存在している。

- リアコーナー部のブラインドスポットアシストシステムレーダーセンサーの校正が振動や衝突の影響を受けたことにより、システム性能が低下することがあります。このようなときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

ご注意

ブラインドスポットアシストシステムは、左右ドアミラーの死角領域の監視を支援するものですが、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは常に車両をコントロールし、自己責任で運転してください。

対象車両が後方から高速で本車に接近してくる場合は、ブラインドスポットインフォメーションの警告機能が十分に発揮できないことがあります。

ドライバーは、ブラインドスポットアシストシステムが正常に作動するように、泥や雪などの付着物を速やかに取り除き、リアコーナー部のブラインドスポットインフォメーションレーダーの設置部を良好な状態に維持してください。

道路工事中の道路脇の大型防護柵、大型看板、トンネル内の反射板、反射断面積が大きい物体など、後側方や後方にある無関係の対象物を誤って対象車両として認識し、ブラインドスポットインフォメーションが警告を出すことがあります。

警告

- ブラインドスポットアシストシステムは、運転を支援するための機能です。ドライバーは自己責任で安全運転してください。
- ブラインドスポットアシストシステムは、天候や道路環境などにより機能しないおそれがあります。
- ドライバーのニーズ、交通状況や道路環境に応じて、ブラインドスポットアシストシステムを使うかどうかを判断してください。

交通標識認識システム (TSR)*

交通標識認識システム (TSR) は、マルチファンクションビデオコントローラーおよび地図 (装備した場合) により道路の速度制限標識を認識します。また、コンビネーションメーターに認識した速度制限標識を表示して、速度が制限速度を超えたときはドライバーへ警告情報 (ISLI : インテリジェントスピードリミットインフォメーション) を発信します。

使い方

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 →ADAS→ドライビングアシスト→交通標識認識の設定画面から、交通標識認識システムの ON/OFF を設定することができます。

- TSR が交通標識を認識すると、コンビネーションメーターに赤色の  が表示されます。
- TSR により認識した制限速度が、現在の道路環境に適しているかを判断できない場合は、コンビネーションメーターに赤色の  アイコンが表示されます。
- TSR の性能が低下した場合は、コンビネーションメーターに黄色の  アイコンが表示されます。
- TSR の性能が低下し、認識された制限速度が現在の道路環境に適しているかを判断できない場合は、コンビネーションメーターに黄色の  が表示されます。
- TSR が故障している場合はコンビネーションメーターに黄色の  が表示されます。
- TSR を OFF にした場合は、コンビネーションメーターに  が表示されます。
- 上記の数字は、実際の交通標識に合わせて表示されます。
- 速度制限値は電源 OFF 時の記憶機能を備えており、車両の電源を再度入れると、システムは前回の電源 OFF 前に記憶した速度制限状態および数値を復元します。

ご注意

- TSR は制限速度標識のみを認識するため、車両のアクティブ制御には関与しません。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールできる適切な速度で運転してください。
- 定められたサイズに一致していない、または国の寸法要求を満たしていない重量制限標識の場合は、誤って制限速度標識として認識されることがあります。
- 標識が不明瞭で、歪み、傾き、反射、部分的な遮蔽などがある場合は、カメラの認識能力が低下したり認識できなくなる可能性があります。
- TSR の性能は、天気や照明の明るさ、道路標識の明瞭さなどに影響を受けます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して標識を認識できないことがあります。
- 衝突事故が発生した、またはカメラセンサーを脱着した場合は、システム性能への支障がないように BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でセンサーの校正を依頼してください。

警告

- TSR は、運転を支援するためのシステムです。ドライバーは自己責任で運転してください。
- TSR は、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの要望や交通状況、道路環境に応じて、TSR を使うかどうかを判断してください。

インテリジェントスピードリミットコントロール（ISLC）*

- インテリジェントスピードリミットコントロール（ISLC）は、アダプティブクルーズコントロール（ACC）システムと速度制限標識認識システム（TSR）を組み合わせたシステムです。システムを ON にすると速度制限標識を認識し、速度制限値が現在の ACC 設定巡航速度に一致していない場合は、認識した制限速度に ACC 巡航速度を調節するかを知らせます。ドライバーが操作（下方向へ ACC 速度制御レバーを操作）すると、システム

は ACC 巡航速度を認識した制限速度に自動で設定します。

- ドライバーは、速度 30～150km/h の範囲内でシステムを ON にすることができます。

使い方

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 →ADAS→ドライビングアシスト→交通標識認識システムの設定画面から、インテリジェントスピードリミットコントロール（ISLC）の ON/OFF を設定することができます。
- 速度制限標識認識システムを OFF にした場合、ISLC のアイコンが灰色になり操作できなくなります。このとき、ISLC は OFF になります。再度、速度制限標識認識システムを ON にすると、ISLC 機能スイッチを操作することができます。
- インテリジェントスピードリミットコントロール機能を作動させる前提条件は、ACC 機能が ON になっていることです。

ご注意

- インテリジェントスピードリミットコントロールは、運転を支援するための機能です。そのため、ドライバーは常に車両をコントロールしてください。
- インテリジェントスピードリミットコントロールの性能は、天候や照明の明るさ、道路標識の明瞭さなどに影響されます。夜間、日陰、夕暮れ、雨天、霧、もや、氷雪の付着、砂塵、明るさの急激な変化などにより、認識能力が低下して、制限速度標識を認識できない場合があります。
- インテリジェントスピードリミットコントロールシステム（ISLC）は、アダプティブクルーズコントロール（ACC）と速度制限標識認識システム（TSR）を組み合わせたシステムであるため、使用時はアダプティブクルーズコントロール（ACC）および速度制限標識認識システム（TSR）にかかわる注意事項を守ってください。

警告

- インテリジェントスピードリミットコントロールは運転を支援するためのシステムです。そのため、ドライバーは自己責任で運転してください。
- インテリジェントスピードリミットコントロールは、天候や道路環境などにより機能しない、または作動が遅れるおそれがあります。
- ドライバーの要望、交通状況や道路環境に応じて、インテリジェントスピードリミットコントロールを使うかどうかを判断してください。

ドライバー眠気注意力警告システム*

ドライバー眠気注意力警告システムは、ステアリングホイールの角度、ブレーキ、シフトチェンジおよび車線変更など、車両に対するドライバーの操作状態からドライバーの疲労度合いを評価します。ドライバーが疲労状態にあると識別された場合、コンビネーションメーターおよび音声でドライバーに注意喚起し、運転の安全性を高めます。車両起動時のドライバー眠気注意力警告は、デフォルトで ON に設定されています。

使い方

車両の電源ポジションが「ON」の状態で、ドライバーは、コントロールパネル→設定 →車両制御→ドライビングアシストの設定画面から、ドライバー眠気注意力警告（DAW）を設定することができます。設定は今回のみ有効で、次回始動時には乗員の安全を確保するためデフォルトである ON に戻ります。

注意

- この機能は補助的なシステムであり、いかなる場合でも危険を認識して警告を出すことができるわけではないため、ドライバー自らの目視確認や判断に取って代わるものではありません。ドライバーは、常に車両をコントロールしながらすべての道路法を遵守して自己責任で運転してください。

警告

- 運転で疲れている場合は、早めに車両を止めて休憩を取ってください。

幼児置き去り検知

幼児置き去り検知システム(CPD)は補助的なリマインダー機能です。車両のエンジン停止後、ドアが閉まるか口ックされると、システムは車内に生命体が残されていないかを検知します。生命体が検出されると、システムはライトの点滅とクラクションで警告し、エアコンを作動させて温度を調節します。警告はドアを開けることでキャンセルできます。

使い方

- ドライバーは、コントロールパネル→設定→車両制御→キャビン感知→幼児置き去り検知から設定画面に進むことができます。
- 設定は「OFF」、「ON」、「遅延」の 3 つがあります。
- 車両の電源を入れるたびに、システムは前回選択した設定を記憶します。
- 「OFF」を選択すると、幼児置き去り検知機能は無効になります。
- 「遅延」を選択すると、警告機能は今回の運転のみ遅延して作動します (約 5 分)。

ご注意

- 機能が有効で「遅延」の場合：
  - 車両の電源ポジションを「OFF」にしてドアを閉めた場合、お子様などが車内に置き去りにされていることをシステムが検知すると、5 分以内に初期警告を約 6 秒出します (ランプの点滅およびホーンを鳴らします)。
- 初期警告がキャンセルされていない場合：
  - 90 秒以内に警告レベルを上げて (ランプの点滅およびホーンを鳴らす)、警告を約 25 分間出し続けます。
  - 警告レベルを上げてから約 3 分後、エアコンを約 30 分間作動させます。
- 警告作動時に、PAD の壁紙の通知ボタンから、今回の警報を解除することができます。
- 初期アラーム、アップグレードされたアラーム、および介入措置が開始されると、システムはリマインダー情報と SMS によるリマインダーをユーザー APP にプッシュ通知します。

警告

- システムはライトの点滅、クラクション、アプリによるプッシュ通知、SMS 通知、エアコンの作動などにより車内の生命体への危害を軽減させることができますが、幼児置き去り検知システムは補助システムであるため、警告漏れが発生する可能性があり、いかなる状況においても有効な識別と通知を保証するものではありません。ドライバーは常に車内の生命体に注意を払い、その安全に対して全責任を負う必要があります。
- 事故を避けるため、システムが警告を出したときは早めにお子様などが車内に閉じ込められていないかを確認してください。

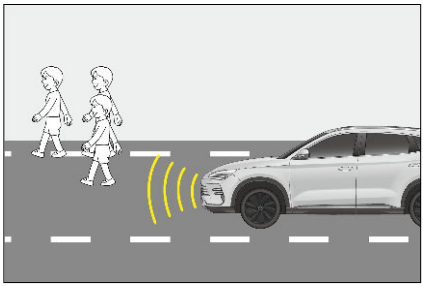
注意

- システムが成人/ペットなどの生命体を検知した場合、警告を発します。
- システムは、携帯用 APP によるリモート解錠で警告を消すことはできません。
- システムは、バッテリー残量が少ないと警告を出せず、エアコンも作動できないおそれがあるため、十分なバッテリー残量を確保してください。

車両接近通報装置（AVAS）*

車両接近通報装置（AVAS）は、低速走行するときに歩行者に車両の接近を知らせるものです。

- 前進時：
  - 速度が 0km/h < V≤30km/h の場合、通報音は変わりません。
  - 速度が V>30km/h の場合、通報音は自動的に止まります。



- 後退中は、車両から一定間隔で通報音を出し続けます。

使い方

この機能のデフォルトは ON です。

警告

- 車両接近通報装置を OFF にした状態で車両が低速走行する場合、車両の接近を歩行者に知らせることができず、車両の安全性が低下します。
- 低速走行中に車両接近通報装置の通報音が聞こえない場合は、安全で静かな場所に車両を停車し、ウィンドウを開けてから、シフトレバーを「R」レンジに切り替え、車両の前方から警告音が聞こえるか確認してください。通報音が聞こえないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

BYD アラウンドビューシステム*

マルチメディアタッチスクリーンを車両イメージ画面以外の状態にし、ステアリングホイールの BYD アラウンドビューシステムを押す、またはシフトレバーを「R」レンジに入れると、BYD アラウンドビューシステムが ON になります。

- 横画面表示の場合：
  - マルチメディアタッチスクリーン左下のフロント側、リア側、ライト側、レフト側を表示するアイコンをタッチすると、左側の画面にフロントビュー、リアビュー、ライトビュー、レフトビューのシングルビューが表示されます。
  - フロントビュー、リアビューのシングルビューで映像領域をダブルタップすると、180°視角の全画面表示に切り替わります。
  - レーダーボタン をタッチすると、レーダー機能の ON/OFF ができます。レーダーが ON の状態で障害物に接近すると、映像に障害物が映って警告音が鳴ります。

- 縦画面表示の場合：
  - マルチメディアディスプレイ下側のフロント、リア、レフト、ライトのいずれか 2 つの領域に表示されるアイコンをタッチすると、上側と右下の映像領域に選択された 2 つのシングルビューが表示されます。
- 右側のボディービューをタッチすると、透明ボディーと現物ボディーの切り替えができます。
- 始動後、透明の全景画面には前回電源ポジション「OFF」時の画像が表示されます。このとき、車両の底部や周辺の死角領域にある物体は、実際のものと異なることがあります。発進すると画像がリアルタイムに更新され、ボディーの長さ以上の距離を走行すれば更新が完了します。

警告

- システムは広角魚眼カメラを搭載しているため、表示画面に映っているものには若干の歪みが発生することがあります。
- BYD アラウンドビューシステムは駐車や走行を補助するためのものであり、車両前後には死角領域が存在するため、システムだけに頼るのは危険です。駐車または走行中の事故を避けるために、必ず他の方法で車両周辺の状況を確認してください。
- ドアミラーが最後まで展開されていない場合は、システムを使用しないでください。システムを通じて車両を操作するときは、すべてのドアが閉まっていることを確認してください。
- BYD アラウンドビューシステムの画面に映っている距離は、目視で確認した距離とは異なることがあります。特に障害物が車両近くにある場合は、複数の手段で車両と障害物の距離を判断してください。

警告

- カメラは、フロントバンパー、左右ドアミラーの下側およびリアライセンスプレートの上側に搭載されています。カメラの視界が異物などで遮られないようにしてください。
- カメラ性能への影響を避けるため、高圧洗浄機でボディーを洗浄する場合は、可能な限りカメラに直接噴射しないでください。また、カメラに水分やほこりが付着しているときは、早めに拭き取ってください。
- カメラの故障や破損につながるおそれがあるため、カメラを叩かないでください。
- 車両始動直後のマルチメディアシステムが完全に立ち上がっていない状態では、BYD アラウンドビューシステムのスイッチ操作やシフトレバーを「R」レンジに入れたときに、BYD アラウンドビューシステム表示画面への出力が遅れたり画面がちらつくことがあります。これは、カメラ起動時の電源投入プロセスで正常な現象です。
- 低速走行中、透明全景機能は速度の変化やブレーキ操作の繰り返しによる影響を受けるため、車両底部の画像位置が車外の画像と一致しないことがあります。

駐車支援システム*

- 駐車支援システムは、駐車時にスピーカーの警告音で、車と障害物の距離をドライバーに伝えます。このシステムは、センサーで障害物を検知します。
- 駐車支援システムはバック駐車を支援するための機能です。バック時は、車両後部や周辺の状況を目視で確認してください。

警告

- 「D」レンジに入れる、または速度が10km/h(6mph)を超えると、駐車支援システムの作動が停止します。
- センサーの作動範囲内に他のものを取り付けないでください。
- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。

後方レーダーの電源スイッチ

- ドライバーは、コントロールパネル→設定 ⚙ →ADAS→パーキングアシスト→後方レーダーの設定画面から、ON/OFF を設定することができます。
- 電源ポジションを「OK」にすると、駐車支援システムが自動的に立ち上がります。
- 駐車支援システムを ON にし、シフトレバーを P 以外のレンジに入れ、EPB、AVH を解除すると、駐車支援システムは障害物検知モードに入ります。車両周辺に障害物があると警告メッセージが表示されます。システムを OFF にすると警告メッセージは表示されません。

センサータイプ

- センサーが障害物を検知すると、障害物の方位や車両と障害物の距離により、関連画像がマルチメディアディスプレイ*に表示されます。
- 縦列駐車や車庫入れをする場合、センサーが車両と障害物の距離を検知して、マルチメディアディスプレイおよびスピーカーでお知らせします。当該システムを利用するときは、必ず周辺の環境に注意してください。

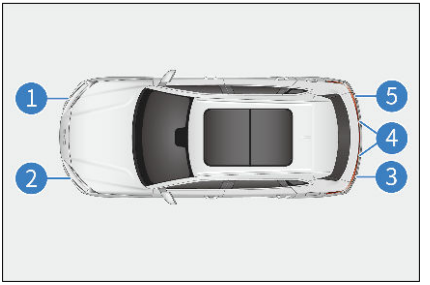
① 右前側面センサー*

② 左前側面センサー*

③ 左後側面センサー

④ 左後中央センサーと右後中央センサー

⑤ 右後側面センサー



距離表示ブザー

センサーが障害物を検知した場合、マルチメディアディスプレイに障害物の向きおよび車両と障害物との距離が表示されてブザーが鳴ります。

中央部センサーの作動例

おおよその距離	マルチメディア表示例	警告音
約 700～1200mm 約 28～47 インチ		低速
約 400～700mm 約 16-28in		高速

おおよその距離	マルチメディア表示例	警告音
約 200～400mm 約 8-16in		鳴り続ける

角度センサーの作動例

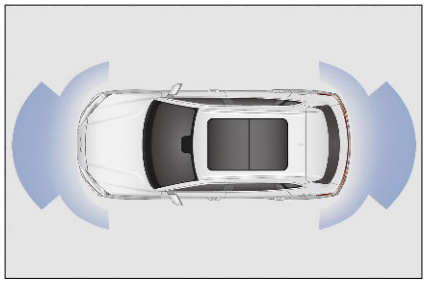
おおよその距離	マルチメディア表示例	警告音
約 400～600mm 約 16-24in		高速
約 200～400mm 約 8-16in		鳴り続ける

注意

- 0～200mm はシステムの死角領域のため検知精度が悪く、警告メッセージの表示が正確ではありません。そのため、この距離上の警告メッセージは参考としてください。

作動センサーおよびその検知範囲

- 車両がバックすると、すべてのセンサーが作動します。
- センサー作動時の検知範囲は図示の通りです。検知範囲は限られているため、車両周辺の状況を観察して慎重にバックしてください。



お願い

- 駐車支援システムはドライバーの駐車操作を支援するためのものであり、ドライバー自らの判断に取って代わるものではありません。ドライバーは車両周辺を確認したうえで操作してください。
- システムの正常な作動に影響を与えるため、センサーが障害物を検知する場所にアクセサリーやその他のものを置かないでください。
- 状況によっては、システムが正常に作動せず障害物に接近しても検知しないことがあります。そのため、常に車両周辺の状況を確認してシステムだけに頼らないでください。
- バックソナーシステム故障時は、コンビネーションメーターに故障メッセージが表示されてブザーが 1 回鳴ります。このようなときは、早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して点検を依頼してください。

センサーからの検知情報

- 車両状況や周辺の環境によっては、障害物を正しく検知するセンサー性能に影響を与える場合があります。影響を与えるおそれがある状況を以下に示します。
  - センサーに汚れ、水分や曇りがあるとき。
  - センサー上に雪や氷が付着しているとき。
  - センサーが何かに覆われているとき。
  - 車両が明らかに傾いたり、最大積載量を超えているとき。
  - 凹凸が激しい道路、坂道、砂利道、草原を走っているとき。
  - センサーを再塗装したとき。
  - ホーンの音、バイクのエンジン音、大型車両のエアブレーキの作動音や超音波が発生するその他の騒音、車両付近が非常に騒がしいとき。
  - 近くに駐車支援システムを搭載した車両があるとき。
  - 車両にけん引フックを取り付けたとき。
  - バンパーやセンサーが強い衝撃を受けたとき。
  - 高い縁石または湾曲した縁石に車両が接近したとき。
  - 炎天下や厳しい寒さのとき。
  - 純正品でない、車高の低いサスペンションキットを取り付けたとき。
- 上記の他に、障害物の形状により、センサーが実際の距離を感知できないことがあります。
- 障害物の形状や材料は、センサーの検知を妨げることがあります。特に下記に示す障害物に注意してください。
  - 電線、柵、ロープなど。
  - 綿、雪、その他の電波を吸収する材料。
  - 角が尖っているもの。
  - 低い障害物。
  - 上部が外側に向き、車両の方に伸びている高い障害物。
  - バンパーの下にあるもの。
  - 車両の近くにあるもの。
  - 車両近くにいる人（服装のパターンによる）。
- マルチメディアディスプレイ*に画像が表示されたり、スピーカーが鳴ったりしている場合、センサーが障害物を検知している、またはセンサーが外部からの干渉を受けている可能性があります。このような現象が続くときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- センサーの故障につながるおそれがあるため、洗車時は水や蒸気でセンサー部位を洗浄しないでください。

タイヤ空気圧モニタリング

- 直接式タイヤ空気圧モニタリングシステムは、タイヤの空気圧をリアルタイムにモニタリングすることで走行中の安全性や快適性を向上させ、空気圧不足によるタイヤの早期摩耗や エネルギー消費量の増加を低減する支援システムです。
- ドライバーは、ステアリングホイール上の ボタンを操作してメーターメニューに入ることができます。また、ホイールボタン上の ◁ および ▷ を操作して走行情報画面を切り替え、ホイールボタン操作でタイヤ空気圧の表示画面を選択することができます。

システム機能

1. 電源ポジション「ON」時の警告について

電源ポジションを「OFF」にするときにタイヤ空気圧が不足していると、次に電源ポジションを「ON」にしたとき、タイヤに空気を補充してから走行するように低圧警告が表示されます。

2. タイヤ空気圧不足時の警告について

- いずれかのタイヤの空気圧が、適正空気圧の 85%以下になると、タイヤ空気圧警告灯が点灯してタイヤ空気圧の値が黄色になります。ドライバーは、車両を止めて該当のタイヤから工アが漏れていないかを点検したうえで、空気圧が適正な範囲に入るように空気圧を補充してください。
- タイヤ空気圧が適切空気圧の 90%を超える場合、低圧警報が解除されます。

3. タイヤ空気急速漏れ警告

システム作動中に 1 つまたは複数のタイヤから、30Pa/分以上の速度で空気が漏れている場合、タイヤ空気圧警告灯が常時点滅して空気圧の値が赤色になります。タイヤ空気急速漏れ警告が表示されたときは、速やかに安全な場所に停車して警告が表示されたタイヤを点検し、タイヤに問題がないことを確認してから運転を再開してください。

4. シグナル異常警告機能

システム作動中に故障が発生した場合、タイヤ空気圧故障警告灯が点滅した後に常時点灯し、コンビネーションメーターに「信号異常」が表示されます。関係するモニタリングモジュールが正常であるか、長時間強い電界範囲に囲まれていないかを点検してください。

5. リアルタイムでタイヤ空気圧を表示

タイヤ空気圧モニタリングシステム(TPMS)は、作動状態で各タイヤの空気圧情報をリアルタイムで表示します。

ご注意

- タイヤ空気圧モニタリングモジュールの使用時間は、毎日の走行距離などの要素に関係します。
- タイヤ空気圧モニタリングモジュールは、タイヤ空気圧などの情報を定期的にコンビネーションメーターに送信しています。そのため、走行中に発生したタイヤ空気圧の急激な低下やバーストなどは、次にシステムが立ち上がるまでデータをコンビネーションメーターに送信することができないため、運転が制御不能になる場合があります。また、タイヤ破損と共にモニタリングモジュールも破損して情報が発信できない、またはタイヤの破損が疑われるときは、コンビネーションメーターに警告が表示される前に、車両を安全な場所に停車させてください。
- モニタリングモジュールの取り付けを誤るとタイヤの気密性に影響を与えるため、モニタリングモジュールの取り付けや交換は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤの装着位置やモニタリングモジュールを交換した場合は、システムが作動できなくなるおそれがあるため、タイヤ空気圧モニタリングシステムに対するキャリブレーションを行う必要があります。キャリブレーション作業は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に依頼してください。
- タイヤ空気圧は外気温度により変化するため、コンビネーションメーターに表示されている空気圧および適正空気圧に合わせて、空気圧の調整をしてください。
- タイヤ空気圧モニタリングシステムはワイヤレスでデータを送信しているため、電波干渉が強い環境では、タイヤ空気圧モニタリングシステムの受信能力が低下することがあります。

注意

- タイヤ空気圧に異常がある状況でも、本システムは車両の走行を妨げることはありません。そのため、ドライバーは電源ポジションを「ON」にした状態でタイヤ空気圧がメーカー推奨の適正空気圧になっていることを運転前に点検してください。メーカー推奨の適正空気圧になっていないと、車両の破損、自身や他人に怪我を負わせるおそれがあるため、必ず空気圧を調整してから運転してください。
- 運転中にタイヤ空気圧の異常が見つかった場合は、ただちに空気圧を点検してください。タイヤ空気圧警告灯が点灯しているときは、急ハンドルや急ブレーキを避けながら速度を落とし、安全な場所に停車してください。空気圧不足のまま走行し続けるとタイヤが破損し、タイヤの交換が必要になる場合があります。タイヤを大きく破損すると死傷者が出るほどの交通事故につながるおそれがあります。

ヘッドアップディスプレイ（HUD）*

ヘッドアップディスプレイシステム*

ヘッドアップディスプレイ*は、速度、制限速度、アダプティブクルーズコントロール（ACC）、車線逸脱、ブラインドスポットインフォメーションなどの重要な情報をフロントガラスに投影します。ドライバーの視界に情報を表示することで、わき見運転などを避けて運転の安全性を向上させます。

使い方

ドライバーは、コントロールパネル→設定 ⚙ →音声設定の設定画面から、HUD 機能の ON/OFF を設定することができます。初期設定は ON に設定されており、HUD が表示されます。OFF をタッチすると HUD が消えます。再始動の時は前回の設定となります。

HUD 設定

- 高さ調整：HUD 表示の明るさを調整します。-10～10 の計 21 段階で調整でき、初期設定は 0 です。
- 輝度調整：HUD 表示の上下位置を調整します。0～10 の計 11 段階で調整でき、初期設定は 5 です。
- 回転数調整：HUD 表示の角度を調整します。計 11 段階で調整でき、初期設定は 0°です。
- モード設定：使用環境に合わせて、クラシック、または雪モードの選択ができます。初期設定はクラシックです。
- オプション表示内容：安全運転支援を選択できます。初期設定は ON に設定されています。再度タップして選択を解除すると、この機能は OFF になります。

注意

- ヘッドアップディスプレイの上にものを置かないでください。
- カバーに付いているほこりは、柔らかい布やティッシュで拭き取ってください。
- 水などの液体をヘッドアップディスプレイの開口部に入れないでください。

安全運転支援システム

安全運転支援システムは、走行中の安全性を向上するためにさまざまな走行条件に合わせて自動で作動します。ただし、これらのシステムは補助的なものであり、車両を運転するときはシステムに過度に頼るべきではないことに注意してください。

インテリジェントパワーブレーキシステム

インテリジェントパワーブレーキシステムは、先端的な分離型電気油圧式ブレーキシステムで、マスターバック、電子真空ポンプおよび ABS、ESC などの機能を集積しています。インテリジェントパワーブレーキシステムは、ドライバーの制動操作上の必要性に応じて制動を支援し、ABS、EBD、TCS、VDC、CST、CRBS などの高度な制動を提供して、車両の安定性や快適性を改善し、制動エネルギーの回収効率を向上します。

ビークルダイナミクスコントロール (VDC)

走行中に突然方向を切り替えた場合、VDC がステアリングホイールの角度や走行速度などの情報をもとにドライバーの意図を判断し、車両の実際の状況と比較します。車両がドライバーの目的の車線から外れると VDC がサイドスリップの制御を支援し、方向安定性を保つために関係するタイヤに制動力を加えることで修正を行います。

トラクションコントロールシステム (TCS)

TCS は、エンジンのパワーを弱めることで加速走行時の駆動輪のスリップを防止します。また、必要な場合は制動力を加えることで駆動輪の空転を防止します。走行条件が悪いときは TCS が作動することで、発進や加速、上り坂の走行が容易になります。

警告

- 下記の場合は、TCS が効果的に発揮できないことがあります。
  - 滑りやすい路面では、TCS は正常に作動しますが、方向が制御できない、または必要な駆動力が出ないことがあります。
  - 安定性や動力が維持できなくなる状況では、車両を運転しないでください。

ヒルスタートホールドコントロール (HHC)

勾配が 3%以上の坂道でブレーキペダルを離した後、HHC は約 1 秒間ブレーキ油圧を保持して車両の後退を防止します。

ハイドロリックブレーキアシスト (HBA)

ドライバーが素早くブレーキペダルを踏んだとき、HBA が緊急ブレーキと認識し、最大値になるまでブレーキ油圧を急速に高めることにより、ABS をより早く介入させ、制動距離を効果的に短くすることができます。

減速度制御 (CDP)*

電動パーキングブレーキスイッチを ON にすると、CDP 機能が作動します。車両が停止するまで一定の減速度 (ブレーキを踏まずに電動パーキングブレーキスイッチを ON にする場合の減速度が 0.4g、電動パーキングブレーキスイッチを ON にすると同時にブレーキペダルを踏む場合の減速度が 0.8g)で制動します。ドライバーが電動パーキングブレーキスイッチを離すと、CDP 機能が停止します。

陡坡緩降系统(HDC)

- 作動原理：HDC は、ESC システムの付加機能として車両の快適性を向上させるものです。ドライバーは、 → 車両 → インテリジェントアシスト の設定画面から、ヒルディセントコントロールの ON/OFF を設定できます。HDC の主な役割は、能動的に制動力を加えることで、低速で下り坂を走行できるように車両の速度を制御することです。HDC 作動中、車輪のスリップ率が ABS 作動しきい値を超えると、ABS が作動します。これにより、車両が安全に下り坂を走行できるようになり、さらにはバック走行もできます。
- HDC ON：
  - 速度が 38km/h 未満の場合は、HDC を ON にすると、コンビネーションメーターのヒルディセントコントロール表示灯が常時点灯します。
- HDC 速度の制御：

- HDC は速度が約 11～38km/h の範囲内で機能します。範囲内の場合はアクセルペダルやブレーキペダルを操作して速度を調整し、アクセルペダルやブレーキペダルを離したときの速度を維持します。HDC 作動中にコンビネーションメーターのヒルディセントコントロール表示灯が点滅しているときは、HDC が機能していることを示します。

- HDC OFF：

  - 使用しないときは HDC を OFF にします。このとき、コンビネーションメーターの表示灯が消灯します。

  - 速度が約 65km/h を超えると、HDC は自動で OFF になります。

- HDC 機能故障：

  - 長い下り坂を走行するなどの特別な状況では、ブレーキが高温になり HDC が一時的に使えなくなります。このような場合は、安全運転を心がけて車両を操作し、機能を復帰させるときは、安全な場所に停車しブレーキが冷えるまでお待ちください。

横滑り防止装置システム（ESC）について

- ESC 作動時

  - 坂道で発進するとき、車両が滑るまたは後退しいずれかの駆動輪が空転する可能性がある場合は、ESC 表示灯が点滅し ESC が作動していることを表します。

- ESC の使用禁止

  - 車両が積雪やぬかるみでスタックすると、ESC はモーターからホイールへの出力を下げることがあります。そのため、スタックなどを脱出するときはスノーモードを ON にしてください。

- ESC を OFF にする

  - → 車両 → 運転管理 の設定画面から ESC OFF を ON にすることで、ESC を作動しなくなります。また、ESC はリアルタイムで作動状態を確認しています。ESC 作動中に ESC を OFF にしても、システムはすぐに「OFF」にはならず能動的に制御に介入します。制御介入が完了するまでは、システムがコマンドを実行しません。

- マルチメディアで ESC OFF を ON から OFF にする、または速度がしきい値 80km/h を超えると、OFF になった ESC の一部機能が再度 ON になります。ESC が突然 ON になることがないように、システムが車両走行の制御に介入していない場合のみ、再度 ESC を ON にすることができます。

- ESC OFF スイッチの誤操作

  - ESC OFF スイッチを 10 秒以上押し続けると、ESC は誤操作と判断し、すべての内部機能の正常作動を保ちます。

- 電源ポジション「OFF」後の ESC 再開

  - ESC を OFF にしてから再度車両の電源ポジションを「ON」にすると、ESC が自動で ON になります。

  - 速度連動による ESC の作動

  - ESC が OFF の状態で速度がしきい値 80km/h を超えると、車両の姿勢が極めて不安定になるため、ESC が自動で ON になります。

- ESC 起動時

  - ESC 故障警告灯 が点滅しているときは、事故につながるおそれがあるため、慎重に運転してください。また、表示灯が点滅しているときは特に注意してください。

- ESC を OFF にする

  - 細心の注意を払いながら、道路状況に応じた速度で運転してください。ESC は車両安定性と駆動力を確保してくれるため、必要がない状況を除き OFF にはしないでください。

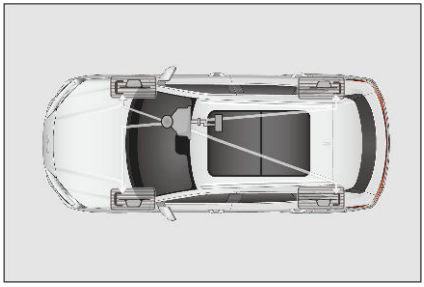
- タイヤの交換

- すべてのタイヤは、寸法、ブランド、トレッドパターン、輪荷重を同一にしてください。また、推奨空気圧になるまでタイヤに空気を入れてください。
- 異なる種類のタイヤを装着すると、ABS と ESC が正常に作動できなくなります。
- タイヤやホイールの交換については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

- タイヤおよびサスペンションの処置
  - 不具合があるタイヤの使用やサスペンションの改造は、安全運転支援システムに影響を与えてシステムの故障を引き起こすおそれがあります。

ABS (アンチロックブレーキシステム)

- アンチロックブレーキシステム (ABS)の油圧システムは、それぞれ独立する 2 つの回路があります。それぞれの回路は対角線上になっています (左側フロントタイヤブレーキと右側リアタイヤブレーキとの接続など)。1 つの回路が故障しても、残り 2 つのホイールに制動力を加えることができます。



- ABS は、急ブレーキや滑りやすい路面でのブレーキ操作時に、車輪のロックやスリップを防止してステアリング制御の維持に役立ちます。
- フロントタイヤがスリップしたときは、ハンドル操作ができずにハンドルを回しても車両が直進します。急速かつ脈動的なブレーキは、人間の反応よりもはるかに速いため、ABS は車輪のロックを防いでステアリング制御の維持に役立ちます。
- ABS が効かないおそれがあるため、ポンピングブレーキをしないでください。危険回避のためにハンドルを操作する場合は、ABS が作動するようにブレーキペダルを強く踏み続けてください。
- ABS 作動時には異音が聞こえる場合があります。これは、ABS の急速かつ脈動的なブレーキによるものであり、異常ではありません。

⚠ 注意

- ABS 故障警告灯とブレーキシステム故障警告灯が同時に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- このようなときは、ブレーキをかけても ABS が機能せず、車両姿勢も極めて不安定な状態になります。
- ABS (アンチロックブレーキシステム) は、車両を停止させるのに必要な時間および距離を短縮させることができません。この機能は、ブレーキを掛けたときのステアリング制御を支援するものであるため、ドライバーは常に安全な車間距離を保ってください。
- ABS は、急旋回や急な車線変更などのハンドル操作によるスリップを防ぐことはできません。路面状況および天候を問わず、常に安全な速度で慎重に運転してください。
- ABS は、安定性の低下を防ぐことはできません。急ブレーキ時は適切なハンドル操作を行ってください。また、大きなカーブや急カーブでは、対向車線に飛び出したり道路からはみ出たりするおそれがあります。

注意

- 軟弱な路面や凹凸路（砂利道や積雪路面）を走行するとき、ABS 搭載車は ABS が搭載されていない車両と比べると長い制動距離が必要です。この場合は、速度を落として他の車との車間距離をさらに取ってください。

警告

- 下記の場合は、ABS を効果的に発揮できません。
  - グリップ力が弱いタイヤを使っているとき（雪が積もっている路面で過度な摩耗があるタイヤを使うなど）。
  - 高速で滑りやすい路面を走行するとき、または車両がスリップしたとき。
- ABS は、制動距離の短縮を目的として設計されたものではありません。次のような場合は、必ず先行車との車間距離を確保してください。
  - ぬかるみ、砂利道や積雪路面を走行するとき。
  - へこみが多い道路、または平坦でない道路を走行するとき。
  - 凹凸路を走行するとき。

05

車内装置

マルチメディアシステム..... 158
エアコンシステム..... 161
BYD APP について..... 168
収納ボックス..... 169
その他の装置..... 172

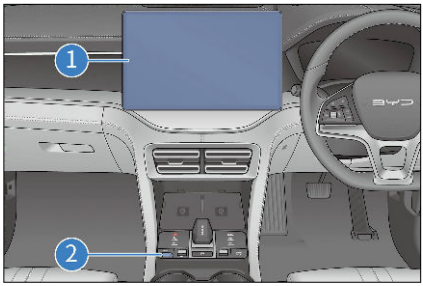
マルチメディアシステム

マルチメディアコントロールパネル

電源ポジションを「OK」にすると、初期画面を数秒表示してからシステムが作動します。

①マルチメディアタッチスクリーン

②マルチメディアスイッチボタン/音量調節ホイール



工場出荷時設定に戻す場合：

- ドライバーはコントロールパネル→設定 ⚙ →システム設定→バージョン管理→工場出荷時設定に戻す→戻すボタンをタッチすることで、工場出荷時設定に戻すことができます。
- 工場出荷時設定に戻すをタッチすると、マルチメディア機器に設定されているすべてのデータが工場出荷時の状態に戻ります。
  - 工場出荷時の状態に戻している間は、車両の電源を切らないでください。また、エラーの発生を防ぐためマルチメディア機器のアイコンに触れないでください。
  - 工場出荷時の状態に戻す作業は、2～5分掛かるためしばらくお待ちください。

⚠ 警告

- マルチメディアシステムの異常につながるおそれがあるため、車内でハイパワーインバーターを使わないでください。
- オペレーティングシステム入れ替えや Root 化は禁止です。マルチメディアシステムや車両の異常につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- タッチスクリーンの破損を防ぐために
  - 指でタッチスクリーンを軽くタッチしても反応がないときは、タッチスクリーンから指を離し、再度タッチしてください。
  - タッチスクリーンを拭くときは柔らかい布を使用し、洗剤は使わないでください。
- タッチスクリーンを使うとき
  - タッチスクリーンの温度が低いと、表示された画像が暗く見えたり、システムの作動がいつもより遅いときがあります。
  - サングラスをかけてタッチスクリーンを見ると、暗く見えたりきれいに見えないときがあります。タッチスクリーンの角度を変えるか、サングラスを外してください。
  - 灰色のアイコンは操作できません。
- タッチスクリーンの表示は参考表示であり、実際の車両が基準となります。
- 安全運転のために、運転中はマルチメディアタッチスクリーンを横向きにして使ってください。

お願い

- マルチメディアシステム関連の機能（BYD インテリジェント音声制御機能、APP など）を活用するときは、インターネットに接続してから使用してください。

ナビゲーションバー

ナビゲーションバー

：前の画面に戻る、またはプログラムを終了します。

：メイン画面に戻ります。

：車両設定画面になります。

：画面分割に対応する APP が画面分割状態になります。

：アプリケーションリスト画面になります。

ジェスチャーおよび応答

ジェスチャー操作および応答は次の通りです。

- タッチ：APP を立ち上げる、機能を選択する、タッチスクリーン上のキーを押す、タッチスクリーン上で文字を入力する場合は、タッチスクリーンをタッチしてください。
- ドラッグ：アイコン、サムネイル、またはプレビューを移動する場合は、押しながら目的の位置にドラッグして離してください。
- スワイプ：メイン画面、または APP の画面でこの操作を行うことができます。
- ダブルタップ：ダブルタップで写真を拡大したり、映像を全画面表示できます。再度ダブルタップすると戻ります。
- ピンチアウト/ピンチイン：指 2 本で画面をタッチして間隔を広げると、画像の一部分を拡大表示できます。間隔を縮めると縮小表示できます。
- 3 本の指でタッチして左/右にスワイプ：エアコンの風量を調整します。
- 3 本の指でタッチして上/下にスワイプ：エアコンの温度を調整します。
- 画面の上から下にスワイプ：ショートカットメニューを開きます。
- 画面の下から上にスワイプ：タスク管理センターを開きます。
- 画面の左側/右側を内側にスライド：戻ります。

OTA アップデート

- この車両にはソフトウェアのアップデート機能を搭載しています。システム設定→バージョン管理→車両バージョン→アップデートをタッチすることで車両システムをアップデートし、車両の機能を最新の状態に保つことができます。
- 車両のソフトウェアアップデートが必要な場合は、ソフトウェアアップデートを促すメッセージが表示されます。車両の利用状況に合わせて、即時アップデート、予約アップデートまたは携帯アップデートを選択し、システムソフトウェアのアップデートを開始することができます。

注意

- OTA でのアップデートプロセス中に車両を移動させないでください。
- OTA でアップデートするには、車両を安全な場所に駐車してから「P」レンジに入れ、モバイル通信ネットワークが正常に接続できる状態でのみ実行できます。

注意

- OTA でのアップデート前に、十分なバッテリー残量があることを確認してください。
- OTA でのアップデート前およびアップデートプロセス中は、車両の OBD ポートにサードパーティ製デバイスを取り付けないでください。
- アップデート中は車両を充放電できません。そのため、アップデートを実行する前に車両が完全に充電されていることを確認してください。
- OTA でのアップデートプロセス中は、リモートキーおよびマイクロスイッチによる施錠/解錠、ルームランプスイッチ、緊急警告灯、パワーウィンドウスイッチ以外のすべての機能が操作できなくなります。
- OTA でのアップデートに失敗した場合は、アップデートを再試行してください。再試行にも失敗したときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にお問い合わせください。

お願い

- アップデート操作の手順は、車載システムやスマートフォンアプリの実際の手順と若干異なる場合があるので、実際の手順に従って操作してください。
- OTA アップデート完了後、車両の一部の機能が変更されることがあります。新しいバージョン番号をタッチすることでアップデート内容を確認し、更新された機能を再度チェックすることができます。

BYD インテリジェント音声制御機能

BYD インテリジェント音声制御機能は、ナビゲーション起動、音楽再生、ラジオ放送、DAB 放送、電話発信、エアコンなどの車内装置の制御を音声指示で実現できます。

- 音声制御による起動方法：
  - ステアリングホイール上の を短く押す
  - タッチスクリーン上の をタッチする
  - 音声起動ワード：「ハイ、BYD。」
- ドライバーが BYD インテリジェント音声制御機能を起動した後、ドライバーの音声指示の認識を開始します。
- このとき、ドライバーは音声で任意の指示を出すことができます。
  - 例：「目的地を家にする（家の場所を事前登録する必要があります）」、「音楽を聞きたい」、「○○に電話して（アドレス帳を登録して携帯電話の Bluetooth に接続する必要があります）」、「エアコンの温度を 23 度に調整して」、「運転席のシートベンチレーションを ON にして」などを指示できます。BYD インテリジェント音声制御機能が音声指示を識別した後に該当の操作を行います。

Bluetooth 電話

Bluetooth 接続

1. Bluetooth 電話画面に入り Bluetooth 接続アイコンをタッチすると、接続画面に移動します。
2. 「デバイスを検索」をタッチして、利用可能なデバイスを検索します。
3. 接続可能な機器を選択してペアリングします。携帯電話とマルチメディアタッチ

スクリーンのペアリングコードが合っていることを確認します。

4. 接続完了後、Bluetooth に対してさまざまな設定を行うことができます。

Bluetooth 電話

Bluetooth に接続した後、ダイヤル画面に入ります。

- 連絡先、最近の通話記録および不在着信記録をタッチして発信することができます。また、キーパッドで電話番号を入力して電話をすることもできます。
- 通話カードを上にスワイプするか空白スペースをクリックすると、ダイヤル画面を縮小することができます。
- 映像画面が表示されている状態で着信がある場合は、着信画面が最小化ウィンドウで開きドライバーに知らせます。

外部アプリケーション

本マルチメディアシステムは Android 開発システムを採用しており、外部アプリケーションのインストールおよび利用が可能です。

- 外部アプリケーションのインストール：

  1. 必要なアプリケーションをダウンロードします。
  2. アプリケーションファイルをタッチし、「外部アプリのインストールを許可する」を選択し、インストールを行います。
  3. インストールが完了したら、アプリケーションリストでインストール済みのアプリをタッチすると利用できます。

注意

- 公式に認証されていないアプリケーションは、正常に動作しない場合があります。

注意

- 必要のないソフトウェアを大量にインストールすると、システムが正常に使用できなくなるおそれがあります。慎重にこの機能を使ってください。

- 外部アプリケーションのアンインストール：

  1. 設定→アプリケーション管理→アプリケーションの画面で、インストール済みのアプリが表示されます。アンインストールするアプリケーションを選択します。
  2. 「アンインストール」をタッチし、確定します。

注意

- 本マルチメディアシステムに付属するデフォルトのアプリケーションは削除できません。

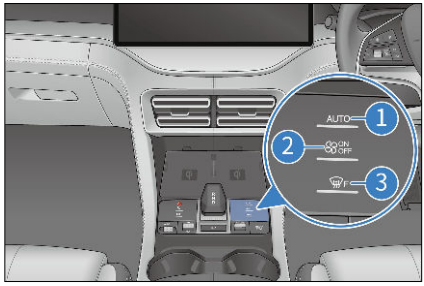
エアコンシステム

ファン ON/OFF

①オートボタン

②エアコン ON/OFF ボタン

③フロントガラスデフロスターボタン



お願い

- エアコンリモートスタート機能
  - ユーザーは車両のリモートキーまたは BYD APP でエアコンを作動させることができ、事前に快適な室内環境を整えることができます。

エアコン操作画面



1 ファン ON/OFF

2 オートモード

3 換気

4 エアコン ON/OFF

5 外気導入/内気循環切り替え

6 リアガラスおよびドアミラーデフロスター

7 フロントガラスデフロスター

8 最大エアコン

9 エアコン設定

10 運転席側温度調節

11 吹き出しモード選択

12 助手席側温度調節

13 DUAL

14 風量調節

機能定義

オートモード

- オートモードボタンを押すと、シフト機構パネル上のオートモードボタン表示灯が点灯し、コンプレッサーの状態、風量の強さ、吹き出しモードを自動的に調節します。

・風量の強さや吹き出しモード、コンプレッサーの状態を設定すると、フルオート制御が OFF になります。その操作した機能を除き、その他の機能はオートモードのままです。

ファン ON/OFF

・エアコンが ON の状態でファン ON/OFF ボタンを押すと、エアコンを OFF にすることができます。

・エアコンが OFF の状態でファン ON/OFF ボタンを押すと、エアコンを ON にすることができます。

風量調節

・押すと風量アイコンが点灯します。設定段階が高いほど風量が強くなります。

フロントガラスデフロスター

・フロントガラスデフロスターボタンを押すと、エアコンがフロントガラスデフロスター制御に入り、吹き出しモードがフロントガラスデフロスターモードに切り替わります。再度このボタンを押すと、エアコンのフロントガラスデフロスター制御が OFF になります。再度このボタンを押すと、エアコンのフロントガラスデフロスター制御が OFF になります。

・このボタンを押すと、フロントガラスデフロスター制御が ON になると同時にエアコンが作動します。このとき、エアコン ON/OFF は自動で ON になります。

温度調整

・運転席側温度調節

・独立モードの場合：運転席側の温度を調節します。

・連動モードの場合：運転席側、助手席側の温度を調節します。

・エアコン操作画面内の上側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。

・温度を最低にする場合は「Lo」、温度を最高にする場合は「Hi」にします。

・助手席側温度調節

・独立モードの場合：助手席側の温度を調節します。

・連動モードの場合：助手席側の温度を調節し、連動モードを OFF にして独立モードに切り替わります。

・エアコン操作画面内の上側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら下へスライドすると、温度が高くなります。下側の矢印をタッチ、または温度表示部を押しながら上へスライドすると、温度が低くなります。

・温度を最低にする場合は「Lo」、温度を最高にする場合は「Hi」にします。

DUAL

・DUAL ボタンをタッチすると、独立モードと連動モードを切り替えます。

・独立モード：運転席側と助手席側の温度を個別に設定できます。独立モードを選択するとアイコンが点灯します。

・連動モード：運転席側温度調節ボタンで、運転席側と助手席側の設定温度を同時に調節できます。連動モードの場合は、アイコンが灰色になります。

・連動モードで助手席側温度調節ボタンを操作すると、自動的に独立モードに切り替わります。

最大エアコン

・最大エアコンボタンをタッチすると、エアコンが最大冷房制御に入り、コンプレッサーが ON になり、温度が LO、風量が最大、外気導入/内気循環状態が内気循環、吹き出しモードが上半身送風になります。

・再びこのボタンを押すと、エアコンの最大冷房制御が OFF になります。

エアコン ON/OFF

エアコン ON/OFF でエアコンを ON にすることができます。アイコンが点灯してコンプレッサーが作動し、冷房または暖房を行います。再度タッチすると、コンプレッサーが停止してアイコンが消灯します。

外気導入/内気循環切り替え

- 外気導入/内気循環切り替えボタンをタッチすると、アイコン  が表示されて内気循環になります。再度外気導入/内気循環切り替えボタンをタッチすると、アイコン  が表示されて外気導入になります。
- 駐車時オートリサーキュレーションの設定が ON になっている場合は、車内の空気の質を確保するため、排気ガスが車内に入らないように駐車時オートリサーキュレーションモードが内気循環に切り替わります。

リアデフロスター

- リアデフロスターアイコンを押すと、リアガラスおよびドアミラーデフロスター機能を ON にすることができます。また、再度操作しない場合は、15 分作動するとシステムが自動で OFF になります。再度タッチすると、リアガラスおよびドアミラーデフロスターを OFF にすることができます。
- この機能は、雨滴を乾燥させたり、雪を溶かしたりするものではありません。

警告

- ドアミラーの表面が熱くなるためリアガラスおよびドアミラーデフロスターボタンを ON にした後は、鏡面を触らないでください。

注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線や接続部を傷付けたり破損させたりしないように注意してください。

換気

- 換気ボタンを押すと、エアコンの換気制御が ON になり外気が送り込まれます。
- 再度ボタンを押すと、エアコンの換気制御が OFF になりオートモードに入ります。

吹き出しモード選択

エアコン画面から、希望の吹き出しモードを選択できます。吹き出しモードはマルチメディアで自由に組み合わせることができ、希望に応じて吹き出しモードを 3 つまで同時に ON にすることができます。

➡ : 主に上半身へ送風します。

⬇ : 主に足元へ送風します。

 : 主にフロントガラスおよびウィンドウガラスに送風します。

操作要領

- 炎天下に駐車した車両をできるだけ早く冷却したい場合は、窓を開けて数分間走行することで熱気を排出し、エアコンによる冷却効果を高めることができます。
- 車内の温度を素早く下げるには、温度を「Lo」に調節し、内気循環モードで一定時間エアコンを稼働させます。
- 急速冷却が必要な場合は、最大エアコンをオンにすると、エアコンは自動的に最適な冷房運転状態になり、車内環境を迅速に快適な状態にします。
- エアコンの効果が期待通りでない場合は、エアコンの自動モードをオンにすることをおすすめします。このモードでは、エアコンは自動的に適切な吹き出し温度、モード、および風量を調整し、乗員の快適性に関するニーズを満たします。
- フロントガラス前のエアインレットグリルが、(落ち葉や雪などで) 詰まっていないことを確認してください。

- 湿気の多い天候では、冷気がフロントガラスに当たらないようにしてください。フロントガラスの内側と外側の温度差により、フロントガラスが曇ることがあります。
- 車内の空気が循環できるように、フロントシートの下に荷物を置かないでください。
- ウィンドウガラスの曇りを低減するため、寒いときはファンの回転数を強に設定して 1 分間稼働すると、吸気経路にある雪や湿気を取り除くことができます。
- 寒いときは、車内の温度を素早く上げるために内気循環で数分間エアコンを稼働します。車内が温まった後、窓の曇りを防ぐために、外気循環を選択できます。
- ほこりが多い道路で他の車両に追従して走行する、または風とほこりがある状況で走行するときは、すべてのドアガラスを閉めてエアコンを内気循環に設定し、エアコンのファンを ON にすることをおすすめします。
- 暖房運転時、エアコン ON/OFF アイコンを押してアイコンが点灯 (エアコンを ON) すると、空気中の湿気を減らすことができます。
- 換気モードでは、車外の自然な空気を車内に導入するため、春や秋の運転に適しています。

お願い

- エアコンの異臭について：
  - エアコンを初めて作動させた際、送風にカビ臭さを感じることがありますが、これは異常な現象ではありません。エアコン使用中、エバポレーターにはエアコンの結露水や、フィルターで除去されなかった車内の乗員の汗や煙の粒子などが付着しやすく、湿ったエバポレーター表面には細菌が繁殖しやすく、長時間発酵すると異臭が発生しやすくなります。

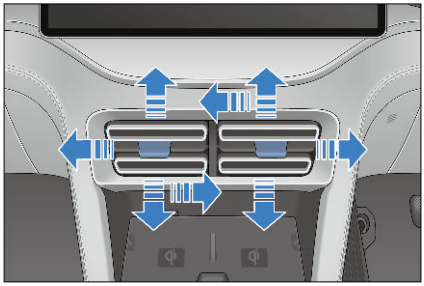
お願い

- 異臭の防止、減少について：
  - 停車前にエアコンを消し、外気導入で換気することにより、比較的乾燥した状態を保つことができます。
  - エアフィルターを定期的に点検、清掃、交換します。
  - できるだけ車内を清潔にし、車内の空気をきれいに保ちます。
- 上記の対策を行ってもエアコンの異臭が改善されない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡して修理を受けることをおすすめします。
- エアコンからの異臭を改善するために、エアコンが作動している状態で車両の電源ポジションを「OFF」にしてから施錠すると、エアコンのブロワーがしばらく作動し続けることがありますが、異常ではありません。これは、エバポレーター表面の結露を乾燥させてエバポレーター表面のカビ発生による異臭を防ぐためです。

吹き出し口

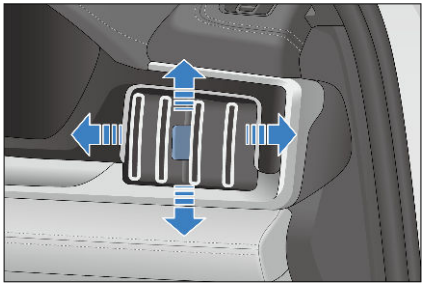
フロント中央吹き出し口

吹き出し口中央のノブを動かすと、風の向きや風量を調節できます。ノブを左右に限界まで動かすと、吹き出し口を閉じることができます。



フロントサイド吹き出し口

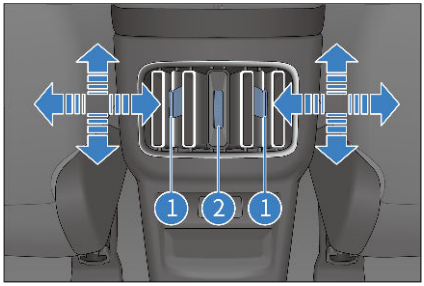
左/右の吹き出し口中央にあるノブを動かすと、風の向きや風量を調節できます。ノブを上下に限界まで動かすと、吹き出し口を閉じることができます。



リア吹き出し口

吹き出し口のノブを動かすと、風の向きを調節できます。

ホイールを回すと風量や吹き出し口の開度を調節できます。



エアコン設定項目

- ドライバーは、マルチメディア→エアコンボタン →設定 から、エアコン調節画面に入ることができます。

Bluetooth 通話中風量自動低下設定

- このアイコンをタッチすると、Bluetooth 通話中の風量低下の設定が ON になります。

駐車時オートリサーキュレーション設定

- このアイコンをタッチすると、駐車時自動内気循環の設定が ON になります。
- 再度このアイコンをタッチすると、駐車時自動内気循環の設定が OFF になります。

リモートコントロールによるエアコン運転時間の設定

- リモートコントロールによるエアコンの起動時間を設定できます。

エアコン自動モードの設定

- エコノミーまたはコンフォートモードを設定することができます。

BYD APP について

BYD APP の紹介

- BYD APP は、BYD が開発した車両のインターネット関連モバイル APP で、遠隔制御や車両状況チェックなどの機能を手軽に実現し、お客様を車載ネットワークのクラウド時代に導いてくれます。
- Google Play または App Store で「BYD」と検索し、BYD APP をダウンロードしてインストールしてください。

アカウント登録

BYD APP をダウンロードしてインストールした後、携帯電話の案内または次の手順に従って、登録およびアカウントへのサインインを行います。

1. APP を立ち上げて登録をタッチし、登録画面に入ります。
2. ご購入時にディーラーで登録したメールアドレスを入力して「メール送信」をタッチし、キャプチャ認証文字を取得します。その後、APP に戻りキャプチャ認証文字を入力します。
3. サインインパスワードの設定画面に入ってパスワードを設定した後、「登録完了」をタッチするとメイン画面に入ります。

注意

- 必ずディーラーで登録したメールアドレスを入力してください。そうしないと、登録を完了することができません。
- APP 右上で地域を選択できます。初期設定は、お客様の携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域となっています。ご購入先の地域が携帯電話のオペレーティングシステムに設定された地域と一致していない場合は、ご購入先の地域を選択してください。そうしないと、お客様のデータを取得できません。

車両状態および車両制御システム

車両状態および車両制御システム

APP トップページに入ると、車両に関連する情報や該当の制御項目を調べることができます。

1. トップページでは、車両の航続可能距離、バッテリー残量、異常情報、走行状態、充電状態、エアコン作動情報、ドア・ウ

ィンドウガラスの状態、シートヒーターの状態、タイヤ空気圧の異常有無などを調べることができます。

2. 施錠、解錠、パッシング· ホーン鳴らし、パッシングのアイコン 4 つのいずれかをタッチすると、該当の機能を直接操作できます。

3. エアコンは、トップページで ON/OFF することができ、カードをタッチすることでエアコン制御画面に入り、温度などを設定することもできます。詳細はエアコン操作画面を参照してください。

4. シート、ドアとウィンドウ、タイヤ空気圧は、トップページ下側の各制御項目をタッチして該当の画面に入り、状態を調べることができます。

5. お客様の同一アカウントに複数台の車両が登録されている場合は、車両名称をタッチすることで車両を切り替えることができます。

注意

- APP の制御機能は主に遠隔制御シーンに対応するものであり、当該機能を利用する際は、携帯電話と車両をインターネットに接続している状態にしてください。

個別センターおよび車両管理

個別センターおよび車両管理

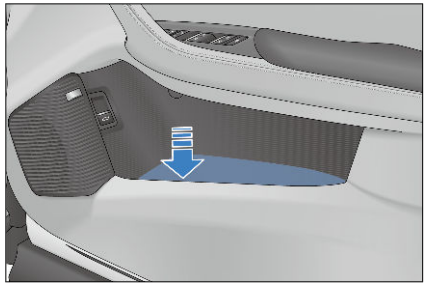
トップページ右上のアイコンをタッチすると、個別センター画面を表示することができます。

- 車両管理にアクセスすると車名とナンバーを変更できます。
- アカウントとセキュリティに入ると、パスワードのリセットまたは変更ができます。
- プッシュ通知の対象項目選択や自動ログインなどの機能を ON/OFF できます。
- 当社についてでプライバシーポリシーをご覧いただき、ご意見のフィードバックをお願いします。

収納ボックス

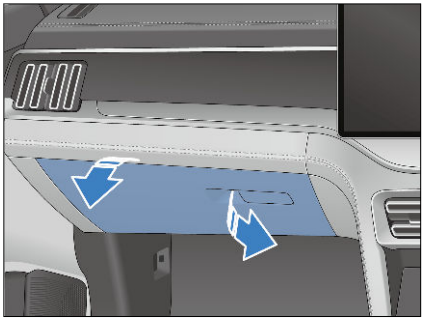
ドアポケット

それぞれのドアには、ペットボトルや小物などを格納するためのドアポケットが付いています。



グローブボックス

- ハンドルを引くと、グローブボックスを開けることができます。開けるとグローブボックスのライトが点灯します。
- グローブボックスを上に押し上げると閉まります。完全に閉めると、グローブボックスのライトが消灯します。

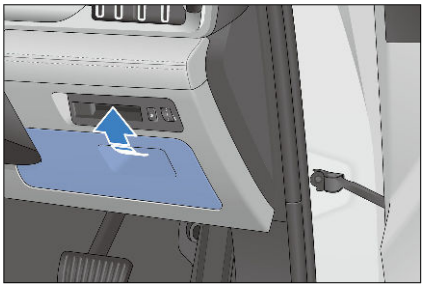


注意

- 事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、運転時はグローブボックスを閉めてください。

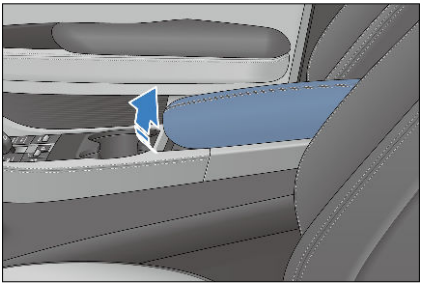
駐車券収納ボックス

- 駐車券収納ボックスを開けるには、ノブを引いてください。
- 駐車券収納ボックスには、領収書や名刺などを入れることができますが、大型のものや過度に重いものを入れないでください。収納ボックスが閉まらなくなるおそれがあります。走行中は、収納ボックスを閉めてください。



センターコンソールボックス

- 図中の矢印方向に沿ってセンターコンソールボックスカバーを引き上げると、センターコンソールボックスを使用することができます。
- センターコンソールボックスカバーを下に押し込むと閉じることができます。



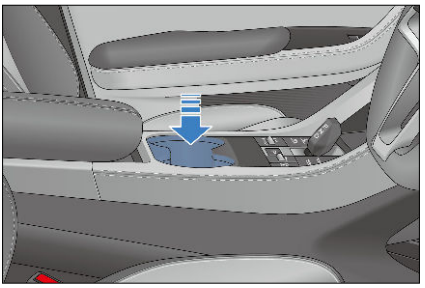
お願い

- 思わぬ事故や急ブレーキ時に怪我をする可能性を減らすため、走行中はセンターコンソールボックスを閉めてください。

カップホルダー

フロントカップホルダー

フロントシートのカップホルダーは、センターコンソールにあります。



注意

走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと

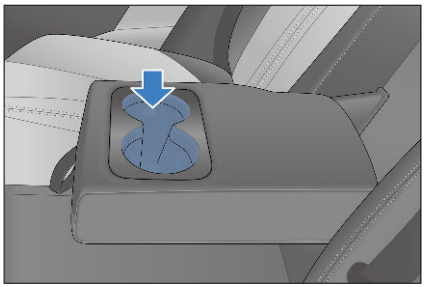
⚠ 注意

蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れないでください。

- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れないでください。
- 安全運転のため、運転中はカップホルダーからコップの出し入れをしないでください。

リアカップホルダー

リアカップホルダーはリアシートセンターアームレストに設置されています。リアシートセンターアームレストを倒すことで使用できます。



⚠ 注意

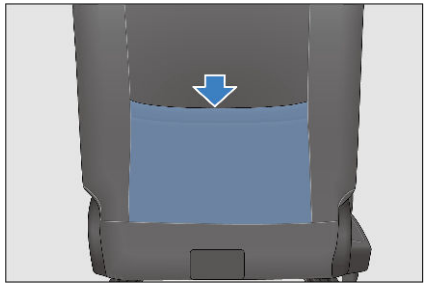
- 液体がこぼれて火傷するおそれがあるため、カップホルダーを使う場合は、急発進や急ブレーキをしないでください。
- 走行中に飲み物がこぼれないように、蓋が付いていないカップやしっかりと蓋をしていないボトルは、カップホルダーに入れないでください。

⚠ 注意

- 安全運転のため、運転中はカップホルダーからコップの出し入れをしないでください。

シートバックポケット

- フロントシートバックには、雑誌、新聞などを入れるためのシートバックポケットが付いています。



サングラスホルダー

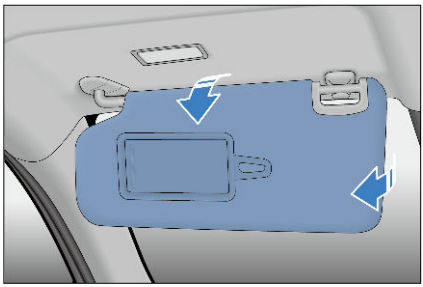
- カバーを押すとサングラスホルダーが開きます。



その他の装置

サンバイザー

- 前方からの光を遮るには、サンバイザーを下げます。
- 側方からの日差しを遮るには、サンバイザーを下げた状態でフックから外し、横へ回します。

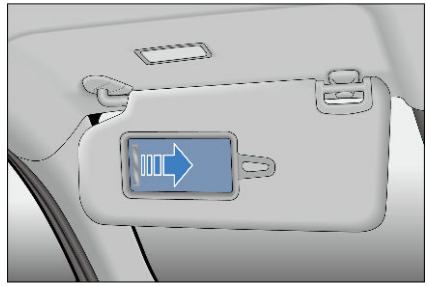


お願い

- 正しく適切にサンバイザーを使うと、運転時の快適性や安全性を向上させることができます。

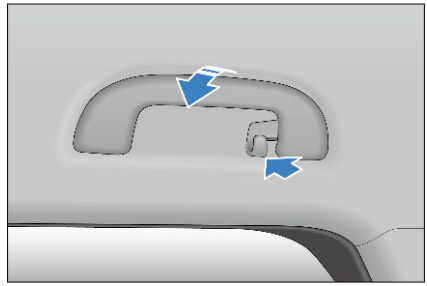
バニティーミラー*

- バニティーミラーは運転席側および助手席側サンバイザーにあります。
- サンバイザーを下げ、ミラーカバーをスライドさせるとバニティーミラーを使用できます。このときバニティーミラーランプが点灯します。ミラーカバーを閉じるか、サンバイザーを元の位置に戻すと、ランプは消灯します。



アシストグリップ

- アシストグリップを使うときは下に引き、使わないときは手を離すと自動的に戻ります。
- アシストグリップ（リアシート）の横にはコートハンガーがあり、服や帽子を掛けることができます。



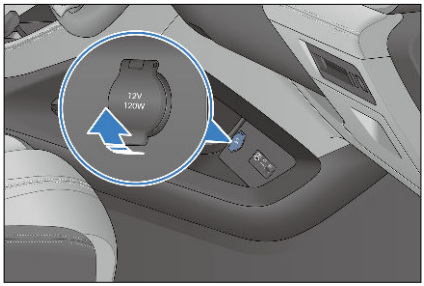
注意

- 怪我やアシストグリップ/コートハンガーの破損を避けるため、アシストグリップおよびコートハンガーに重量物を掛けないでください。

12V アクセサリー電源

- 作動電圧 DC12V、かつ作動電流が 10A までのアクセサリーに対応します。

・12V アクセサリー電源を使う場合は、カバーを開けて車両の電源ポジションを「ON」にしてください。

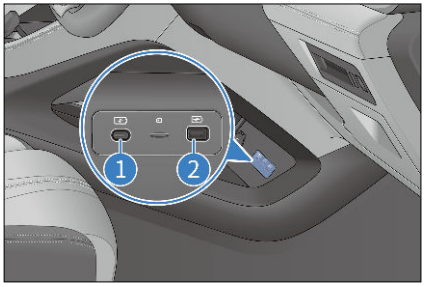


USB ポート

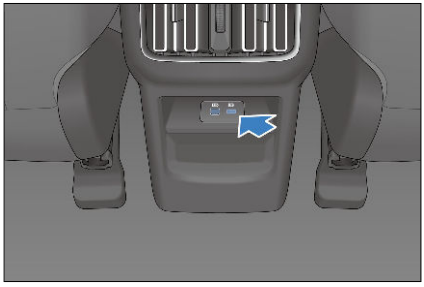
・フロント側 USB ポートは、センターコンソール下の運転席側にあります。

①USB 充電ポート

②USB データ伝送インターフェース

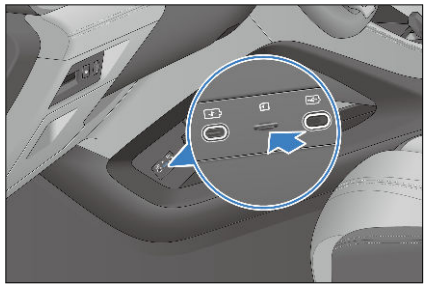


・リアシート充電ポートは充電用で、マルチメディアに接続することはできません。



SD カードスロット*

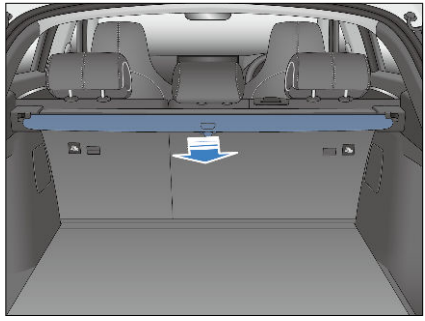
・センターコンソール下の運転席側に SD カードスロットが設置されています。



リアシェルフ*

・リアシェルフで荷物を覆うことで、プライバシーを守り、直射日光を避けることができます。

・シートを倒し、リアシェルフの一端を C ピラーリアトリムの凹部に置き、奥まで押し込みます。その後、シートのロックリング上部から、もう一方の端を反対側の C ピラーリアトリムの凹部に差し込みます。使用時にはカバーを引き出し、後部両側のガイド溝に掛けます。



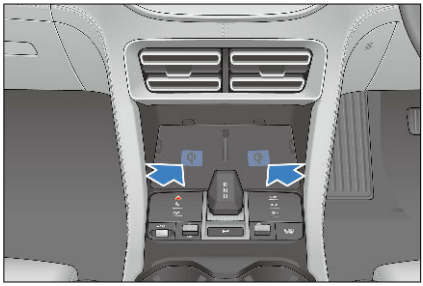
・リアシェルフの取り外し方は取り付けと逆の手順です。

警告

- リアシェルフを取り付けるときは、しっかり取り付けられていることを確認してください。
- リアシェルフにものを置かないでください。
- お子様をリアシェルフに乗せないでください。リアシェルフの破損やお子様の生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

ワイヤレス充電

- スマートフォン用のワイヤレス充電エリアはセンターコンソール前部にあります。ドライバーはマルチメディア上部のステータスバーをドロップダウンして「ショートカット」画面を開き、ワイヤレス充電機能を ON/OFF できます。システムはデフォルトで ON 状態に設定されており、車両起動後、スマートフォンの画面を上向きにしてワイヤレス充電エリアの滑り止めゴムマットに置くと、自動的にワイヤレス充電が開始され、マルチメディア画面に充電アイコンが表示されます。



-  充電時はスマートフォン内の緑色のアイコン「」が点滅します。
-  充電異常時にはアイコン「が点滅します。

お願い

- スマートフォンのワイヤレス充電設定アイコンは、マルチメディアの「ショートカット」画面編集バーで追加または削除できます。
- ワイヤレス充電機能は、すべてのスマートフォンではなく、QI 認証取得済みのスマートフォンのみに対応しています。
- プログラムのアップグレード中、充電エリアに異物を置かないでください。
- 一度に 2 台のスマートフォンを同時に充電できます。
- 携帯電話ケースが厚すぎる場合は、充電できないことがあります。
- 悪路走行中は、ワイヤレス充電機能が充電停止と充電再開を繰り返すことがあります。
- スマートフォンがワイヤレス充電エリアからずれて充電が止まった場合は、スマートフォンをワイヤレス充電エリアに戻す必要があります。
- スマートフォンが正常に充電できない場合は、まずワイヤレス充電エリアに異物がないか確認し、ワイヤレス充電エリアが冷えてから充電を再開してみてください。それでも充電できない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

注意

- ワイヤレス充電機能が作動しているときは、リモートキーをワイヤレス充電エリアから 25cm 以内に置かないでください。
- 事故にかかわるワイヤレス充電機能の異常を避けるため、コインや金属キー、金属リング、金属成分を含ん

注意

でいる他のものは、携帯電話と一緒にワイヤレス充電エリアに置かないでください。

- 充電エリアの破損を避けるため、充電エリアには重量物を置かないでください。
- ワイヤレス充電機能が故障して正常に使えないときは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 誤った使い方による問題について、当社はいかなる責任も負いません。製品の解体や改造があった場合、無償保証サービスが受けられなくなります。
- 火災などにつながるおそれがあるため、ドライバーが車内にいない状態で携帯電話を充電しないでください。
- 運転中は、携帯電話の充電状況を確認しないでください。交通事故につながるおそれがあります。
- ワイヤレス充電時に携帯電話とゴムパッドの間に金属製の異物が入っている場合、やけどのおそれがあるためすぐに異物を素手で取り除かないでください。
- より良い充電効果を得るためには、充電エリアのガイドに従ってスマートフォンを中央に配置してください。(充電エリア文字位置)
- 充電エリアに水がかからないようにしてください。水がゴムパッドの隙間からワイヤレス充電器に侵入し、充電器が故障するおそれがあります。
- 温度が高すぎると携帯電話の充電が止まることがあります。温度が下がると充電が再開します。
- 外付けのワイヤレス充電コイルによる不具合について当社は一切保証できません。

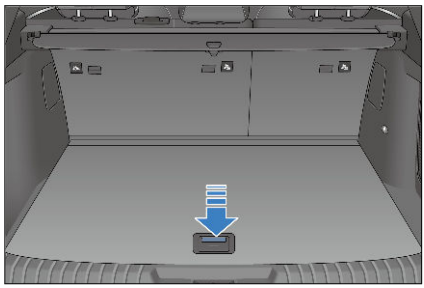
注意

きませんので、注意してご使用ください。

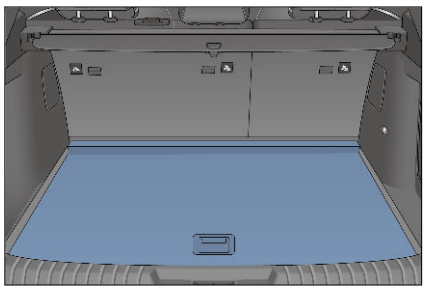
トランクアンダーボード

トランクアンダーボードには 2 段階の高さ調整機能があります。トランクアンダーボードのノブを押してボードを取り外すことで、高さの位置を切り替えることができます。

1. 上段位置では、トランクアンダーボードとサポートプレートの上面が同一平面となります。リアシートを倒した際には、トランクアンダーボードと座席背面が比較的平らになります。



2. 下段位置では、トランクアンダーボードがサポートプレートの下段段差面に収まります。この取り付け位置にすることで、トランクの収納スペースを拡大できます。



06 お手入れとメンテナンス

メンテナンスについて.....178
定期メンテナンス.....183
セルフメンテナンス.....188

メンテナンスについて

メンテナンス周期およびメンテナンス内容

車両メンテナンス計画

- メンテナンス計画は、安定した走行、故障の低減、安全運転および工コ運転を実現するために設計されています。
- メンテナンスの間隔は、周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれか早い方に準じます。
- 期限を過ぎたメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。
- ホース (冷暖房システム、ブレーキシステムなどに使われるホース) は、メンテナンス周期表に従い、整備士に点検を依頼してください。
- これらは、特に重要なメンテナンス項目であるため、それぞれのメンテナンス間隔がメンテナンス周期表に記載されています。ホースに何らかの劣化や破損があれば、ただちに交換してください。
- メンテナンス周期表には、車両を常に最適な状態に保つために必要なすべてのメンテナンス項目を記載しています。

メンテナンス計画について

通常のメンテナンス周期表に従って、車両のメンテナンスを実施してください。

下記の状況が 1 つ以上当てはまる場合は過酷な使用条件となるため、一部項目のメンテナンス周期が異なります。

- 路面状況
  - 悪路、ぬかるんだ路面、融雪路を走行するとき。
  - ほこりの多い路面を走行するとき。
- 運転状況
  - キャンピングトレーラーやルーフラックを含むトレーラーの使用。
  - 外気温が 0 度以下で、8km 以内の短距離走行を繰り返す。
  - パトカー、タクシーまたは荷物を輸送する車両等の長時間のアイドリングまたは低速での長距離走行。

メンテナンス周期表

初回エンジンオイルオイル・エンジンオイルフィルター交換

車両は 3 か月以内に初回エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルター交換を実施し、以降は使用期間や走行距離に準じ定期的に交換します。

詳しくは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

通常メンテナンス

通常メンテナンス項目は車両基本メンテナンス、他の項目のメンテナンス、エンジン項目のメンテナンスを含みます。

車両基本メンテナンス：初回メンテナンス後、車両基本メンテナンスは以下の使用時間と走行距離 (総走行距離) に従って行い、いずれか早い方に準じます。

メンテナンス項目	使用時間間隔と走行距離間隔
冷却水ホースに損傷がないかを点検し、接続部分がしっかり締め付けられているかを確認します。	12 ヶ月または 20000km ごと
ブレーキパッドとディスクの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
シャーシ各部固定ネジの確認および締付	12 ヶ月または 20000km ごと
ブレーキペダルと電動パーキングブレーキスイッチの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
ブレーキシステムのラインおよびホースを点検	12 ヶ月または 20000km ごと
ステアリング、タイロッドの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
ドライブシャフトダストブーツの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
ボールジョイントダストブーツの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
前後サスペンションの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
前後輪アライメントの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
タイヤの摩耗状況を点検	点検時に必要に応じてタイヤのローテーションを実施します。過酷な運転条件の場合、点検の頻度を増やし、必要に応じてタイヤのローテーションを行ってください。
タイヤ空気圧モニタリングシステムのリセット (間接式タイヤ空気圧モニタリングシステム搭載車)	メンテナンス後にタイヤ空気圧モニタリングシステムをリセットします。
ホイールベアリングの遊びを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
EPS グラウンドに異物や焼損がないかを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
EPS コネクタの緩みがないか、コネクタのピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
EPS ECU が腐食していないかを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
EPS ECU とモーターの接続に異物や腐食がないかを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
ドアストッパーの点検。湿らせた柔らかい布でチェックロッドのほこりを取り除き、チェックロッド、リベットジョイント、回転軸に 0.3～0.8g のグリスを塗布	12 ヶ月または 20000km ごと

メンテナンス項目	使用時間間隔と走行距離間隔
ボンネットロックおよびストライカーを点検	12 ヶ月または 20000km ごと
サブタンクのクーラントレベルを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
ブレーキフルードの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
車両モジュールの故障コードを確認(記録後にクリア)	12 ヶ月または 20000km ごと
パワーバッテリートレイ、クラッシュバー、ガード、防爆バルブ*、断熱綿、取り付けトルクの点検	12 ヶ月または 20000km ごと
パワートレインに液漏れや衝突などがないかを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
高電圧配電ボックス、DC 充電配電ボックスなどの締結部品を点検	12 ヶ月、または 20000km ごとに点検を行い、特殊な使用条件や過酷な使用条件は点検頻度を増やす。
高電圧ワイヤーハーネスまたはコネクタの緩みがないか、ピンが焼損していないかを確認	12 ヶ月、または 20000km ごとに点検を行い、特殊な使用条件や過酷な使用条件は点検頻度を増やす。
高電圧モジュールの外観部品の変形、油の付着の有無を確認	12 ヶ月、または 20000km ごとに点検を行い、特殊な使用条件や過酷な使用条件は点検頻度を増やす。
各充電コネクタのインターフェースに異物、焼損などがないかを確認	12 ヶ月、または 20000km ごとに点検を行い、特殊な使用条件や過酷な使用条件は点検頻度を増やす。
高電圧部品に浸水の痕跡がないかを確認	12 ヶ月、または 20000km ごとに点検を行い、特殊な使用条件や過酷な使用条件は点検頻度を増やす。
車両モジュールのソフトウェア更新をチェックし、未更新であれば更新	12 ヶ月または 20000km ごと
電球と LED が正常に点灯しているかを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
ハイビームアシストが正常かを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
ロービームの高さ調整が適切かを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
標準エアコンフィルターを点検*	最初の保証期間の後、12 ヶ月または 20000 キロごとに、悪い環境や風が減少した場合は、タイムリ

メンテナンス項目	使用時間間隔と走行距離間隔
	ーにチェックし、必要な場合はエアコンのフィルターを交換することをお勧めします。
HEC エアコンフィルターを点検*	最初の保証期間の後、12 ヶ月または 20000 キロごとに、悪い環境や風が減少した場合は、タイムリーにチェックし、必要な場合はエアコンのフィルターを交換することをお勧めします。
ワイパーアームロックナットのトルクを確認	12 ヶ月または 20000km ごと
車両のガラス接着剤の貼り付け状況を確認	12 ヶ月または 20000km ごと
排気管の接続部に漏れがないかを確認	24 ヶ月または 40000km ごと
三元触媒コンバーターにへこみや損傷がないかを確認	24 ヶ月または 40000km ごと
燃料タンクキャップ、燃料パイプや接続部を点検	24 ヶ月または 40000km ごと
チャコールキャニスターを点検	24 ヶ月または 40000km ごと

他の項目のメンテナンス：以下の使用時間と走行距離（総走行距離）に従って行い、いずれか早い方に準じます。

メンテナンス項目	使用時間間隔と走行距離間隔
パワーバッテリーパックユニットの密封性検査	2 年または 40000km ごとに点検し、必要に応じて通気バルブを交換します。
エアコン冷却水の交換*	4 年、または 100000km ごとにロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる。
高電圧（低温）側の冷却水の交換	4 年、または 100000km ごとにロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる。
エンジン（高温）側の冷却水の交換	4 年、または 100000km ごとにロングライフ有機酸系クーラントを入れ替える。いずれかの早い方に準ずる。
ブレーキフルードの交換	メンテナンス時に点検し、2 年または 40000km ごとに交換します。

メンテナンス項目	使用時間間隔と走行距離間隔
後輪駆動電動 ASSY の減速機オイルの点検と交換*	最初の 24 ヶ月または 40000km、次の 24 ヶ月または 48000km
EHS ハイブリッドシステム専用ギアオイルの点検と交換	メンテナンス時に EHS ギアのオイル量をチェックし、4 年または 60000km ごとにオイルとフィルターカートリッジを交換します。
パワーバッテリーセルフキャリブレーション	6 ヶ月または 72000km ごとに実施します。
エンジン項目のメンテナンス：エンジン項目のメンテナンスは以下の使用時間および	走行距離（HEV 距離）に従って行い、いずれか早い方に準じます。
メンテナンス項目	**使用時間間隔と走行距離間隔**
エンジンオイルおよびエンジンオイルフィルターを交換	12 ヶ月または 10000km ごとに交換します。
クランクケースの通気システムを点検（PCV バルブと換気ホース）*	12 ヶ月または 10000km ごとに点検します。
エンジンアイドリングを点検	12 ヶ月または 10000km ごとに点検します。
洗浄系ガソリン添加剤(タービンスーパーチャージャー型エンジン)	12 ヶ月または 10000km ごとに注入します。
スパークプラグ	初回は 42 ヶ月または 35000km で点検、その後は 48 ヶ月または 40000km ごとに点検し、必要に応じて交換します。
燃料フィルター（フューエルポンプに統合）	点検結果に応じて交換します。
エアフィルターエレメントを交換	初回は 18 ヶ月または 13500km で点検、その後は 24 ヶ月または 20000km ごとに点検し、必要に応じて交換します；
カーボンキャニスターダストフィルターの交換*	点検結果に応じて交換します。

お願い

- 初回メンテナンスを除き、タービンスーパーチャージャー型エンジンに洗浄系ガソリン添加剤を注入する必要があります。1 回に 1 本を注入します（180ml/本）。

お願い

- まずは洗浄系ガソリン添加剤を注入し、そして満タンに給油します。メーターに給油のメッセージが表示されるまたは燃料表示灯が黄色に点灯するまでは、追加でガソリンまたは洗浄系ガソリン添加剤を注入しないでください。

お願い

- パワーバッテリーを最適な状態に保つため、定期的（最小 6 ヶ月、または 72000km で、いずれか早い方に準ずる）にフル放電とフル充電を行い、バッテリーの自己校正を行ってください。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場にバッテリー容量のテストおよび校正を依頼することも可能です。
- 以下の状況において、車両は過酷な使用状況にあります。車両を守るため、通常のメンテナンス間隔と走行距離を基本として実際の状況に応じてメンテナンス間隔を適切に短縮してください。長期的に低温環境下で使用し（環境温度が 5°C以下）、かつ HEV モードで使用する時、毎回の持続走行時間が短すぎる（15 分以下）または頻繁に長時間低速で徐行する(速度が 10km/h 以下)場合。

備考：

- 表中のメンテナンス周期は登録日から起算します。
- 車両を最適な使用状態に保つため、以下に従って正しく運転してください。
  - 2000km 走行するまでは、ECO（エコ）モードで慣らし運転をし、HEV（ハイブリッド）モードの使用割合が 50%以上であること。
  - 初回メンテナンス後は、HEV(ハイブリッド）モードの使用割合が 10%以上であること。
- エンジンオイルの汚れ度合いに応じてオイルフィルターの交換時間を短縮すること。
- 特に寒冷な環境下では、半分のメンテナンス間隔でメンテナンスを行うことをおすすめします。具体的には、5000km または 6 ヶ月ごとに行います。
- 過酷な使用条件：
  - ほこりの多い地域を走行する、または塩分を含む空気にさらされる場合。
  - 凹凸のある路面、冠水路、山道を頻繁に走行する場合。
  - 寒冷地を走行する場合。
  - 頻繁にブレーキをかける、または急ブレーキをかける場合。
  - 頻繁にトレーラーをけん引する場合。
  - タクシーとして使用する場合。
  - 32°C以上の気温で交通量の多い市街地を走行する時間が、総走行時間の 50%を超える場合。
  - 30°C以上の気温、120km/h 以上の速度で走行する時間が、総走行時間の 50%を超える場合。
  - 頻繁に過酷な使用環境で走行する場合。
- アフターサービスで新しいエンジンに交換した後、初回メンテナンスはエンジン交換後の 5000km（HEV 走行距離）または 6 ヶ月で、オイルおよびオイルフィルターを交換します（メンテナンスを行う走行距離と月数はいずれか早い方に準じます）。

定期メンテナンス

定期メンテナンス

- 車両が最適な性能を維持し、故障の発生を減らすため、メンテナンス周期表に従ってメンテナンスを実施してください。
- メンテナンスの間隔は、メンテナンス周期表を参照して走行距離や時間間隔に合わせて判断し、いずれかの早い方に準じます。
- 期限を過ぎたメンテナンス項目も、同じ時間間隔でメンテナンスを行う必要があります。

- メンテナンス作業は対応する基準および規格に従い、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で実施してください。
- メンテナンス周期表に記載されている点検項目および使用期間や走行距離は、車両を通常の交通手段として乗員や荷物の搬送に使用する用途を想定して設定しています。過酷な使用の場合は、必要に応じて点検し交換を実施してください。

注意

- BYD の「品質保証書およびメンテナンスノート」の記載内容に従って、車両メンテナンスを定期的に実施してください。

車両の防食について

車両腐食でよくある要因：

- 車両の下にアルカリ性の土壌、ほこりや湿気が付着する。
- 湿度の高い環境、または車両のある部位が長期間高湿高温にさらされる。
- 軽微な衝突、または小石や砂利で塗装や下地が傷付く。

車両腐食を防ぐために、下記のルールを守ってください。

- こまめに洗車する。
  - 冬場に塩分のある路上を走行する、または海沿いに住んでいる場合は、毎月 1 回以上、土や泥がよく付着する箇所を洗浄してください。高圧洗浄機や蒸気でシャーシとホイールハウスを洗浄することで腐食を軽減します。冬が終わったら、シャーシ部分を徹底的に洗浄してください。
- ボディーの塗装とアクセサリーを点検する。
  - 塗装の欠けや塗装割れがある場合は、腐食を防ぐためにただちに補修してください。塗装剥がれがある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で補修してください。
- 車内を点検する。
  - 水分やほこりがカーペット下に堆積すると腐食につながるため、カーペット下をよく点検し、乾燥した状態を保ってください。
  - 化学品、洗浄剤、化学肥料、塩などを運ぶ場合は、注意しながら適切な容器で運んでください。あふれたり漏れたりしたときはすぐに洗浄して乾かしてください。
- マッドガードを使用する。
  - アルカリ分が多い地域または砂利舗装路を走る場合は、マッドガードで車両を保護してください。マッドガードは、寸法が大きく地面に近いほど効果があります。
- 十分に換気された乾燥した場所に駐車する。

塗装メンテナンスのお願い

- 定期的に車両を洗浄してください。
- 色違いや配合不良を防ぐため、塗装に明らかな擦り傷がない場合は、安易に再塗装しないでください。
- 長期間車両を放置する場合は、車庫や風通しの良いところに駐車してください。また、冬場は専用のボディーカバーで覆ってください。一時的に駐車するときは、直射日光が当たらない涼しい場所を選んでください。
- ボディーの塗装への強い衝撃を避け、当たり傷や擦り傷などを防いでください。塗装に傷、へこみ、剥がれがあるときは、可能な限り早めに専門のカーケアショップで補修してください。
- 化学反応を避けるため、油が付いている手や布でボディー塗装の表面を触ったり塗装の表面を拭いたりする、または油が

付いている工具や有機溶剤を含んだ布をボディーの上に置かないように注意してください。

- 毎月１回、またはボディー表面の撥水性が落ちている場合は、車用ワックスを塗布して定期的に（四半期毎に１回）手入れを行い、ボディー塗装の輝きを取り戻してください。
- 高品質の艶出し剤とカーワックスを使用し、ボディーに艶がないときはカーワックスとは別にカークリーニング艶出し剤を使用してください。使用するときは、メーカーの指示と注意事項をきちんと守り、クロムメッキ面と塗装面には必ず艶出し剤と車用ワックスを塗布してください。

⚠ 注意

- 車両を再塗装し、高温の塗装ブースに保管する場合は、高温によりバンパーを破損させるおそれがあるため、車両の樹脂製バンパーを取り外してください。

車両外部洗浄

- 下記の場合は、塗装剥がれまたはボディーや部品の錆びを引き起こすおそれがあるため、早めに車両を洗浄してください。
  - 沿岸部を走るとき。
  - 凍結防止剤をまいている道路を走るとき。
  - コールタールが付いている道路を走るとき。
  - 樹脂、鳥の糞や虫の死骸が付いたとき。
  - 煙塵、石炭灰、ほこり、鉄くずや化学物質を大量に含んでいる地域を走るとき。
  - ほこりや泥で車両が明らかに汚れているとき。
  - 雨が降った後。

⚠ 注意

- 洗車する前に、すべてのドア、ボンネット、テールゲート、サンルーフおよびキャップが閉まっていることを確認してください。
- 車両を洗浄する時、充電ポートフラップおよびフューエルフィラーキャップを開けて内部を洗浄しないでください。
- 高温で直射日光が当たる環境で洗車しないでください。

手洗い洗車をするとき

日が当たらない涼しい場所に車両を止め、車両が十分に冷えてから洗車をします。

1. ホースで表面の汚れを洗い落とし、下回りやホイールの奥に付いているすべての泥や塩分汚れをきれいに洗い落とします。
2. 中性洗剤で洗浄する場合は、洗剤の取扱説明書に従って洗剤を混ぜ合わせてください。柔らかい布に洗剤を浸け、水が流れる方向に上から下へ拭きます。円を描くように拭いたり横方向に拭いたりしないでください。
3. 充分に洗い落とします――洗剤が乾くと、痕が残ります。夏場に洗車した際は、洗車後に水で各部分をきれいに洗い流します。
4. 水垢が残らないように、清潔な柔らかいタオルでボディーの水分を拭き取ってください。また、塗装が傷付くおそれがあるため、強く拭いたり押し付けて拭いたりしないでください。

高圧洗浄機で車両を洗浄する

- 高圧洗浄機で車両を洗浄する場合は、次の操作説明に従ってください。
  - 高圧ガンのノズルとボディーの洗浄面の距離が 30cm 以上であること。

- 高圧ガンの水圧は 60bar 以内で使用することを推奨し、最大で 100bar を超えないこと。
- ガンの吐水形式は扇形または霧状の噴射モードを選択すること（高圧の水柱を直接当てないでください）。
- 洗浄時はノズルを常に移動させ、特定の位置に止めて洗浄しないこと。

注意

- 洗車時は必ず以上の説明に従ってください。そうしないと車両および部品の損傷や破損につながるおそれがあります。
- 高圧洗浄機でウェザーストスリップに水を直接吹き付けないでください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながりやすく、車内への水漏れも起きやすくなります。

お願い

- 強アルカリ性の粉石鹸、石鹸水、洗剤、脱脂洗浄剤、有機物質（ガソリン、灯油、揮発油、または強溶剤）を使わないでください。
- ランプの清掃を行うときは、アルコール類（アルコール、ウォッシャ液など）、ケトン類（シンナー、虫取りクリーナーなど）、その他の化学溶剤（ガソリン、シンナー、四塩化炭素など）を使用してランプの表面を拭かないでください。ランプカバーに亀裂が入るおそれがあります。
- 沿岸部や汚染が深刻な地域で走る車両については、毎日 1 回の洗車をおすすめします。
- ボディーの汚れをカッターで削ったり、ガソリンで洗ったりしないでください。有機物質によってプラスチック製ホイール装飾部品が損傷します。有機物質がホイール装飾部品に付いた場合は、必ず水で洗い流して

お願い

から部品の傷みがないかを点検してください。著しい破損があるプラスチック製ホイール装飾部品は、移動中に外れて事故を起こすおそれがあるため、速やかに交換してください。

- 研磨剤を含んだ洗浄剤でバンパーを拭かないでください。
- メッキ処理の金属部品の洗浄は、専用の洗剤を使って定期的に車用ワックスを塗布することをおすすめします。
- 床下やシャーシを洗浄する場合は、手を切らないように注意してください。

自動洗車をするとき

塗装面が傷付くおそれがあるため、自動洗車機で洗車する場合は、ブラシのタイプ、ろ過されていない洗浄水、または洗車機に設定された洗浄プログラムに注意してください。特に色が濃い車両は、塗装表面の擦り傷により塗膜の耐久性や光沢度が低下します。洗車前に洗車場のスタッフに問い合わせるか、自動洗車機の指示を確認し、塗装面に最も安全な洗車プログラムを選んでください。

注意

- 自動洗車機を使用する前に、オートビークルホールド機能を OFF にしていることを確認してください。
- 車両を洗浄する前に、ドアミラーを内側に格納してください。また、運転する前にドアミラーを展開してください。

車内の清掃

お願い

- 内外装を洗浄する場合は、床やインストルメントパネルに水が流れ込まないようにしてください。近くの電気部品に水が入ると機能の異常につながるおそれがあります。

カーペット

- 高品質の泡タイプの洗剤でカーペットを洗浄してください。
- まずは、できるだけ掃除機でほこりをきれいに吸い取ります。泡タイプの洗剤は数種類あり、スプレー、水と混合して泡を発生させる粉末や液体のタイプもあります。泡立てたスポンジやブラシで、カーペットに円を描くようにこすりながら洗浄します。
- 水を使わず、できるだけカーペットを乾燥状態に保ってください。

シートベルトのメンテナンス

- シートベルトは、中性石鹸水やぬるま湯でクリーニングすることができます。
- スポンジや柔らかい布でシートベルトを拭きます。洗浄中に、シートベルトに過度な摩耗、破れや切れがないかを点検してください。

注意

- シートベルトの強度が落ちるおそれがあるため、染色剤や漂白剤でシートベルトを洗浄しないでください。
- シートベルトは、乾燥するまで使用しないでください。

ドアおよびウィンドウガラス

- ドアおよびウィンドウガラスは、一般家庭用の洗剤で洗浄できます。
- リアウィンドウの内側を拭く際は、力を入れすぎず、左右方向に沿って拭くようにしてください。内側にはリアデフロスターのヒーター線とアンテナ配線があるため、強く押したり上下に拭いたりすると損傷するおそれがあります。
- 定期的にドアチェッカーを点検してください。チェッカーの口ッドにほこりが明らかに付着しているときは、水で濡らした布でドアチェッカーの口ッドを拭き、表面のほこりを落としてください。ブラケットと口ッドのリベット軸との間、および口ッドとスライダーの間に 0.3～0.8g のグリスを塗布してください。

注意

- リアガラス内側のクリーニングを行うときは、熱線およびその接続部を傷付けたり破損させないように注意してください。

エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネルとスイッチ

- エアコンパネル、カーオーディオ、インストルメントパネル、コントロールパネル、スイッチは、水で濡らした柔らかい布で拭きます。
- 水やぬるま湯で濡らしたきれいな布でほこりを軽く拭き取ります。

注意

- 有機物質 (溶剤、灯油、アルコール、ガソリンなど) 、酸性やアルカリ性溶液を使用しないでください。使用すると、表面の変色、汚れ、または剥がれの原因となります。

注意

- 洗剤や艶出し剤を使う場合は、その組成に上記の物質を含んでいないことを確認してください。
- 新規の液体洗剤を使う場合は、液体を車内の表面にこぼさないでください。液体には上記の成分が含まれている可能性があります。液体をこぼした場合は素早くきれいに拭き取ってください。

車内の人工皮革部分

- 人工皮革部分は、ウールに使用できる中性洗剤で拭きます。
- 中性洗剤の溶液を浸けた柔らかい布でほこりを拭き取ってから、水で濡らしたきれいな布で残りの洗剤を完全に拭き取ります。
- 洗浄後または人工皮革が濡れている場合は、清潔な柔らかい布で水分を拭き取ります。皮革を風通しの良い冷暗所で乾燥させます。
- 車両の洗浄についてご質問がある場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

注意

- 中性洗剤で汚れが取れない場合は、有機溶剤を含まない洗剤で洗浄することができます。
- 揮発油、アルコール、ガソリン、酸性やアルカリ性溶液などの有機物質で、人工皮革を洗浄しないでください。人工皮革の色落ちの原因になります。
- ナイロンブラシや化学繊維製の布などを使うと、人工皮革表面の模様が傷付きます。
- 汚れている人工皮革部分はカビが生えることがあります。特に油汚れに

注意

注意し、人工皮革部分を常に清潔に保ってください。

- 長時間日光に当たると、人工皮革の表面が固くなったり縮むことがあります。特に夏場は、日が当たらない涼しい場所に駐車してください。
- 夏の暑い時期は車内の温度が上昇しやすいので、人工皮革部分の上には、ポリエチレン製やワックスを含む材料で作られたものを置かないようにしてください。これらのものは、高温になると人工皮革に固着します。
- 人工皮革部分の洗浄を誤ると、色が落ちたりまだらになったりします。

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス

セルフメンテナンス上のご注意

- メンテナンスをご自身で行う場合は、本章に記載されている手順で正しくメンテナンスしてください。
- 不適切で不完全なメンテナンスは、車両の正常な使用に影響を与えることがありますので、ご注意ください。
- 本章には、ユーザーが実施できるメンテナンスのみを記載しています。しかし、資格のある技術者が専用工具を使って作業する必要があるメンテナンス項目は、数多くあります。
- メンテナンスを実施する場合は、思わぬ怪我を防ぐために下記の注意事項を必ず守ってください。

注意

- 部品や塗膜の破損を防ぐため、冷却水があふれた場合はすぐに乾燥した

注意

布や紙できれいに拭き取り、速やかに冷却水を補充してください。

- ブレーキフルードがあふれた場合は、部品や塗膜の破損を防ぐために、水できれいに洗い流してください。
- エアフィルターを取り外した状態で車を運転しないでください。そうしないと、エンジンの過度な摩耗につながるおそれがあります。
- ワイパーブレードを交換するときは、ワイパーでガラス表面に傷が付かないようにしてください。
- ボンネットを閉めるときは、工具や布などがモータールーム内に残っていないかを確認してください。

お願い

- 発火の原因となる火花や裸火を避けるため、車内や車体の近くでは喫煙しないでください。
- 車内や車外を問わず、異物や液体が目に入らないように、作業時は保護メガネをかけてください。
- ブレーキフルードは皮膚や目を傷めるため、ブレーキフルードを注入する場合は注意してください。ブレーキフルードが皮膚や目に付着したときは、ただちに水で付着部位を洗い流してください。まだ、手や目に痛みなどがあるときは、ただちに医師の手当てを受けてください。

使用状況や推奨の走行距離に従い、下記の項目を点検してください。

- 冷却水レベル――充電のたびにラジエーターのリザーバタンクを点検してください。
- ウォッシャ液――毎月 1 回リザーブタンクのウォッシャ液の残量を点検してください。悪天候で頻繁にウォッシャ液を使った場合は、ウォッシャ液の残量を点検する回数を増やしてください。
- フロントガラスワイパー――毎月 1 回ワイパーを点検してください。ワイパーがフロントガラスをきれいに拭き取れない場合は、摩耗、亀裂やその他の損傷がないかを点検してください。
- ブレーキフルードレベル――少なくとも毎月 1 回レベルを点検してください。
- ブレーキペダル――ブレーキペダルがスムーズに操作できるかを点検してください。
- 電動パーキングブレーキスイッチ――スイッチが正常に機能していることを点検してください。
- 起動バッテリー――毎月 1 回バッテリーの状況および端子の腐食状況を点検してください。
- 空調システム――毎週エアコン装置の稼働状況を点検してください。
- タイヤ――毎月 1 回タイヤ空気圧を点検してください。タイヤトレッドの摩耗状況および異物の挟み込みがないかを点検してください。
- ガラスデフロスター――毎月、暖房装置やエアコンを使うときは、デフロスター装置の吹き出し口を点検してください。
- ライト――毎月 1 回照明システムを点検し、製品の状態を確認してください。
- ドア――テールゲートおよび他のドアのスイッチがスムーズに施錠できるかを点検してください。
- ホーン――ホーンに異常がないかを点検してください。

注意

- 未点検の車両を運転しないでください。車両が大きく破損したり、人に怪我を負わせるおそれがあります。

ヘッドライト

ヘッドライトの光軸調整

工場出荷時、ヘッドライトの光軸調整が行われています。重い荷物を運ぶことが多い場合は、再度ヘッドライトの光軸調整を行う必要があります。ヘッドライトの光軸調整については、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービスエ場に依頼してください。

ライトの曇り

- 大雨や洗車後、ヘッドライト、テールライト、またはドアミラーのターンシグナルランプに曇りが発生することがあります。これは、雨天時に車内側のフロントガラスが結露することと似ていますが、故障ではありません。
- ライトは、空間が相対的に密閉しており狭く、かつ点灯時の温度が高いため（レンズ、リフレクターなどが高温で変形しやすい）、放熱用の通気口が必要です。点灯時は放熱するため、ケースに設置された放熱用通気口を通じて周辺環境と対流が発生し、温度差が大きいほど対流が活発になります。対流中に空気中の水蒸気がライト内部に持ち込まれるため、日光、対流、ランプ発熱量などによって、温度が低い箇所の表面に結露や水滴が発生します。この現象は、ライト曇りと呼ばれています。

注意

- ヘッドライトの内側、ドアミラー内のターンシグナルランプの内側に曇りが発生する場合、空気の湿度が高い、または車と周辺環境との温度差が大きいことが考えられます。運転時、ヘッドライトやターンシグナルランプをつけてしばらく走ると、ライト内の水蒸気は消えます。
- ライト内に明らかに水が入っている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービスエ場で点検してください。

サンルーフのメンテナンスについて

パノラマサンルーフのメンテナンスについて*

1. 湿らせた布でサンルーフ外側のウェザーストリップに付いているほこりや砂を拭き取り、ウェザーストリップが傷付いて気密性が低下するのを防ぎます。
2. 湿らせた布でフロントルーフガラスの成型部に付いているほこりや砂を拭き取り、ウェザーストリップが傷付いて気密性が低下するのを防ぎます。
3. ほこり、砂、落ち葉などにより排水穴が詰まり、サンルーフの排水不具合が起きることを防ぐため、リアルーフガラスの先端部をよく掃除してください（フロントルーフガラスを全開にした後）。
4. ほこり、砂、落ち葉などにより排水穴が詰まり、サンルーフの排水不具合が起きることを防ぐため、両サイドのレールおよびフロント排水溝をよく掃除してください。
5. 洗車中は、高圧洗浄機でウェザーストスリップに水を直接吹き付けないでください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながりやすく、車内への水漏れも起きやすくなります。
6. 冬場はサンルーフがよく凍り付きます。この状態で強制的にサンルーフを開けると、ウェザーストスリップや他のサンルーフ部品を破損させるおそれがあります。そのため、しばらく暖機運転を行うと同時に、エアコンの暖房システムを使用してサンルーフの氷雪を溶かし、車内が一定の温度まで温まってから、サンルーフを開けてください。また、サンルーフの凍結を避けるため、サンルーフに残った水分を拭き取ってください。
7. 凹凸が激しい道路では、サンルーフを全開にしないでください。サンルーフとガイドレール間の強い振動により関係部品が変形し、モーターまで破損させるおそ

れがあります。また、雨天時や洗車時はサンルーフを開けないでください。

通常のサンルーフのメンテナンスについて

1. 湿らせた布でウェザーストリップに付いているほこりや砂を拭き取り、ウェザーストリップが傷付いて気密性が低下するのを防ぎます。
2. 湿らせた布でルーフパネル周りに付いているほこりや砂を拭き取り、サンルーフを閉める際にウェザーストリップが摩耗して気密性が低下するのを防ぎます。
3. ほこり、砂、落ち葉などにより排水穴が詰まり、車内への水漏れが起きるのを防ぐため、レールおよびフロント排水溝などの部品をよく掃除してください。
4. 洗車中は、高圧洗浄機でウェザーストストリップに水を直接吹き付けないでください。高圧洗浄機の圧力を受けると、ウェザーストリップの変形や破損につながりやすく、車内への水漏れも起きやすくなります。
5. 冬場はサンルーフがよく凍り付きます。この状態で強制的にサンルーフを開けると、ウェザーストスリップや他のサンルーフ部品を破損させるおそれがあります。そのため、しばらく暖機運転を行うと同時に、エアコンの暖房システムを使用してサンルーフの氷雪を溶かし、車内が一定の温度まで温まってから、サンルーフを開けてください。また、サンルーフの凍結を避けるため、サンルーフに残った水分を拭き取ってください。
6. 凹凸が激しい道路では、サンルーフを全開にしないでください。サンルーフとガイドレール間の強い振動により関係部品が変形し、モーターまで破損させるおそれがあります。また、雨天時や洗車時はサンルーフを開けないでください。

車両の保管

- 長期間（1ヶ月以上）車両を駐車する場合は、下記に示す準備を実施してください。適切な準備を行うことで、車両性能などの劣化を効果的に防止でき、車両の再使用も容易になります。また、可能な限り屋内に駐車してください。
- ボディーの外部を徹底的に洗浄し、乾かします。
- 車内を掃除し、カーペットやマットなどを完全に乾かします。
- シフトレバーを「P」レンジに切り替えます。
- ウィンドウガラスを 1 枚少し下げます（屋内駐車の場合）。
- フロントワイパーアームがフロントガラスと接触しないように、ワイパーアームの下に折りたたんだタオルや布を入れておきます。
- 固着を軽減させるために、すべてのドアおよびテールゲートのシール部にシリコン潤滑剤を塗り付け、ドアウェザーストリップおよびテールゲートウェザーストリップ接触部の塗膜表面にボディーワックスを吹き付けます。
- 布のような「多孔質材料」で作られた通気性カバーでボディーを覆います。ビニールシートのような無孔質材料では湿気が溜まるため、ボディー表面の塗膜を破損させるおそれがあります。

お願い

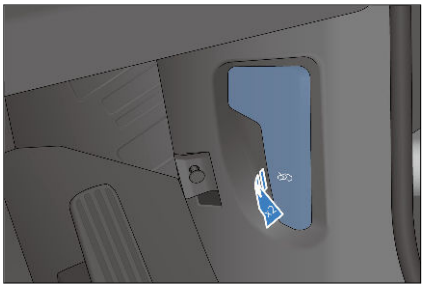
- 車両の輸送または保管中にパワーバッテリーの性能と起動バッテリーの正常な電力供給を確保するために、輸送または保管前に車両の SOC 値を 50%以上にしてください。

ボンネット

ボンネットを開けるとき

1. シフトレバーを「P」または「N」に入れ、電動パーキングブレーキを掛けます。インストルメントパネル下の右側にあるボンネットリリースレバーを 2 回連続で

引き上げると、ボンネットが解錠されて少し隙間ができます。

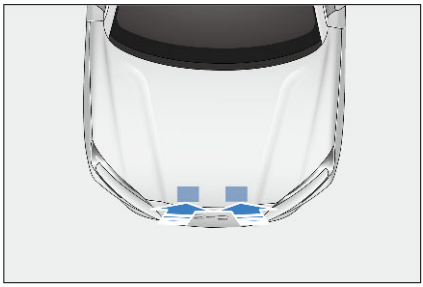


2. ボンネットを一定の高さまで持ち上げると、ボンネットが自動的に開きます。



ボンネットを閉めるとき

1. ボンネットを下に引き下げ、ボンネットストライカーとボンネットロックを接触させ、図で示したボンネット前部に両手を置き、強く押し下げてボンネットを完全にロックします。
2. ボンネットを閉めたら、確実にロックされていることをコンビネーションメーターで確認してください。



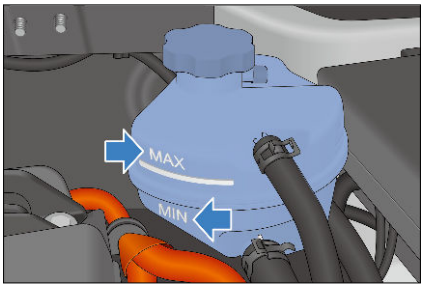
お願い

- 運転する前に、ボンネットが閉まり、確実にロックされていることを確認してください。ロックされていないと、運転中にボンネットが突然開いて事故につながるおそれがあります。

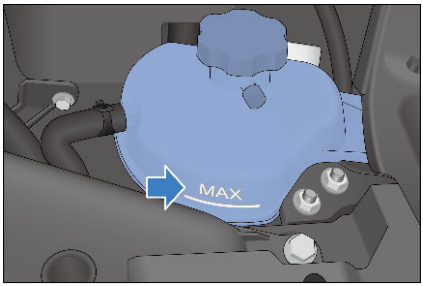
冷却システム

高電圧（低温）側のリザーバタンク

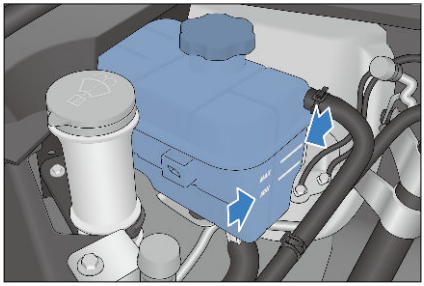
二輪駆動用



四輪駆動用



エンジン（高温）側のリザーバタンク



- 液面がリザーバタンクの「MAX」(最大値) と「MIN」(最小値) の間であれば、問題ありません。
- 冷却水は、BYD 指定の冷却水と同じ仕様のものを使ってください。添加剤を追加する必要はありません。異なるブランドや型番の冷却水を混ぜ合わせて使用しないでください。

お願い

- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でバッテリー冷却水を注入するようおすすめします。

注意

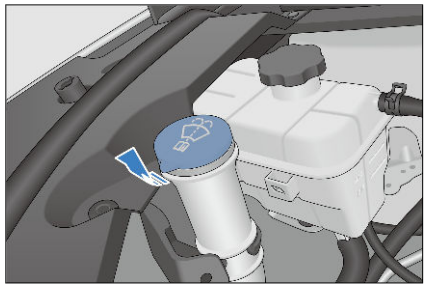
- 冷却システム内に防錆剤や他の添加物を絶対に追加しないでください。添加物が、冷却水やモーターの部品と相性が悪い場合があります。
- 冷却水リザーバタンクのキャップを開ける前に、エンジン、モーター、高圧電制御統合モジュール、冷却水リザーバタンクのキャップおよびラジエーターがすべて冷却されていることを確認してください。これを怠ると、冷却水が噴出し、深刻なやけどを負うおそれがあります。
- 冷却水を補充する際は、エンジンルームのフューズボックスのアッパーカバーを開けないでください。
- 冷却水を補充する際は専用工具を使用し、液体がフューズボックスに流

注意

れ込まないように注意してください。

ウォッシャ

- 通常使用中は、毎月 1 回以上ウォッシャ液タンクのレベルをチェックしてください。
- 悪天候でウォッシャをよく使う場合は、ウォッシャ液タンクのレベルを確認する頻度を増やしてください。
- 高品質のウォッシャ液を使用することで、汚れをよく落として凍結を防ぐことができます。



- ウォッシャ液が補充時にこぼれた場合は、清潔な布で拭き取ってください。拭き取った布でワイパーゴムを清掃すると、ゴムを良好な状態に保つことができます。

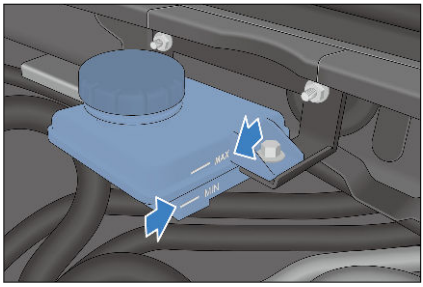
注意

- 絶対にウォッシャ液タンクに酢水溶剤を注入しないでください。
- 適合したウォッシャ液を使用してください。

ブレーキシステム

フルードレベルはリザーバタンクの壁にある最小値 (MIN)と最大値 (MAX)マークの間

にある必要があります。フルードレベルが「MIN」(下限) マーク以下の場合、ブレーキシステムを点検してください。ブレーキシステムからの液漏れやブレーキパッドの摩耗がないかを点検してください。



お願い

- 毎月 1 回以上、リザーバタンクのフルードレベルを点検してください。
- ブレーキフルードは、定期メンテナンス表に記載された走行時間と走行距離に従い交換してください。
- BYD 純正部品と同一型番の HZY6/DOT4 ブレーキフルードを使用してください。他の型番のブレーキフルードは本車のブレーキシステムに使用できません。

エンジンオイル

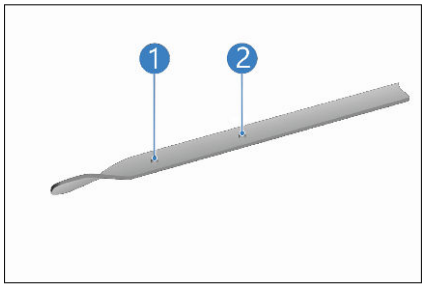
- 必ず正しい規格のエンジンオイルを使ってください。
- エンジンオイルを購入する際は、容器に記載されているオイルの仕様を確認してください。オイルの仕様は車両の使用規定に適合していなければなりません。

推奨のエンジンオイル

- エンジンオイルは、エンジンの性能維持と寿命延長に重要な役割を果たします。そのため、品質が良く不純物の少ないオイルを使ってください。BYD 純正エンジンオイルの使用をおすすめします。
- オイル消費量は運転習慣、気象条件および走行する道路状況によって異なります。新しいエンジンは、オイル消費率がやや高くなる可能性があります。

オイルの点検

1. 車を平らな場所に駐車し、エンジンを作動させて正常な作動温度に達した後、エンジンを停止します。
2. エンジンを停止してから 10 分後、右側の装飾カバーを取り外し、オイルレベルゲージを引き抜き、オイルの量と汚れ具合を確認します。オイルの量は、オイルレベルゲージの①と②の間にあるかどうかを確認します。必要に応じてオイルの補充、または入れ替えを行います。



3. オイルレベルゲージを元の位置に挿し戻します。

- 油圧低下警告灯が点灯した場合は、早めにオイルを補充してください。

警告

- 車両の部品にエンジンオイルが飛び散らないよう注意してください。
- エンジンオイル、エンジン部品、排気システムは高温になる部品であり、やけどを負う可能性があります。エンジンルーム内の作業を行う場合は常に注意し、防護服を着用してください。
- 使用済みエンジンオイルに長期間または頻繁に接触すると、皮膚病を引き起こす可能性があります。エンジ

警告

ンオイルが皮膚に付着した場合は、石鹸と水で洗い流してください。

エアコンシステム

空調システムはクローズドシステムです。大事なメンテナンス作業のすべては、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で行ってください。

空調システムを正常に機能させるため、下記の内容を確認してください。

- ラジエーターおよびエアコンコンデンサーを定期的に点検します。前面に詰まった落ち葉、昆虫、ほこりを取り除きます。これらの詰まった物が空気の流れを妨げ、冷却効果を低下させます。BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。
- 冷媒に含まれている潤滑油を循環させるため、寒い季節は週 1 回以上、毎回 10 分以上エアコンを作動させてください。
- 空調システムの冷房能力が通常より落ちている場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

注意

- 空調システムの点検では、冷媒の回収再生充填装置を確実に使用してください。
- この装置は、冷媒をリサイクルすることができ、冷媒を大気に出すことで発生する環境汚染を防ぎます。

ワイパーブレード

ワイパーブレードの材質は合成ゴムで消耗品です。車両の使用環境やドライバーの使用習慣により、ワイパーブレードが破損するおそれがあります。ワイパーブレードの寿命と安全を確保するため、下記の内容に注意してください。

- フロントガラスの表面に付いている氷をワイパーブレードで拭き取らないでください。氷は車両専用のアイススクレーパーを使ってください。
- 汚れや油、ワックスが付着しているフロントガラスの表面をブラシでこすらないでください。
- ガラスの表面をきれいに保ってください。また、ガラスの表面に付着しているほこりや砂、虫、異物などを取るときは、ガラスの表面をこすらないでください。
- 洗車やボディー塗装のメンテナンス時は、フロントガラスに車用ワックスを吹き付けないでください。夜間走行時にワックス層が光を反射して視界が悪くなり、安全な走行に影響を与えます。また、洗車後は水でワイパーブレードを洗い、専用のワックス除去剤でフロントガラスに付着したワックスを落としてください。
- 洗車時、強い水圧によるブレードの破損を防ぐために、高圧洗浄機でブレードに水を直接吹き付けないでください。

メンテナンス細則

- 定期的にフロントガラスとワイパーブレードを洗浄してください(1 週間 ~ 2 週間毎に 1 回を推奨)。
- 雨が降っていなくても、定期的にワイパーを使用することをお勧めします (1 ~ 2 日に 1 回が目安)。
- ワイパーを作動させる際は、フロントガラスを濡らしてください (雨が降っていないときはウォッシャ液をガラスに噴射してください)。
- フロントガラスを専用の洗剤で洗浄してください。
- フロントガラスに付着している泥や虫の死骸は、早めに布できれいに拭き取ってください。

- フロントガラスに飛び石などの傷が付いている場合は、早めに修理してください（フロントガラス修復用樹脂製品の使用を推奨。傷が多い場合や大きい場合は、フロントガラスの交換を推奨）。
- ワイパーブレードを定期的（半年に 1 回）に交換することをおすすめします。
- フロントガラスを洗浄するときは、事前にワイパーアームを立てておく必要があります。

タイヤのメンテナンスおよびお手入れ

- 安全運転のために、自車に適合するタイヤの型番やサイズを選定してください。また、トレッドパターンが良好で、空気圧を適正にする必要があります。
- 以下の記載では、タイヤ空気圧、タイヤの破損、摩耗の点検、およびタイヤローテーションの方法を詳しく紹介します。

警告

- 過度な摩耗、空気圧の不足、または空気圧が高すぎるタイヤを使うと、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 本マニュアルに記載されている空気圧調整およびメンテナンスに関する内容に従ってください。

空気を入れるとき

- タイヤ空気圧の適切な調整は、操縦性、タイヤトレッドの寿命および運転快適性の最適な組み合わせを実現します。
- 空気圧不足のタイヤを使用すると、タイヤの偏摩耗が起こったり操縦性や エネルギー消費に影響を与えたりするだけでなく、過熱による空気漏れにつながるおそれがあります。
- 空気圧が高すぎるタイヤを使うと車両の快適性が悪くなり、路面のデコボコによりタイヤが傷付くため、最悪の場合はバーストを引き起こすおそれがあります。また、タイヤの偏摩耗が起こりタイヤの寿命が短くなります。
- 車両にはタイヤ空気圧モニタリングシステムが装備されています。冷間時、メーターに表示されたそれぞれのタイヤ空気圧により、空気補充の必要性を判断することができます。
- タイヤ空気圧は冷間時に測定してください。冷間時とは、少なくとも停車してから 3 時間後に測定することを意味します。タイヤ空気圧を測定する前に走行する必要があるときは、走行距離が 1.6km を超えなければ冷間時と考えて問題ありません。
- 温間時（数 km ほど走った後）のタイヤ空気圧を点検する場合は、圧力計の測定値が冷間時より 30～40kPa(0.3～0.4kgf/cm^2)高くなりますが、異常ではありません。また、空気圧不足につながるため、測定値が推奨の冷間時空気圧になるまで空気を抜かないでください。

お願い

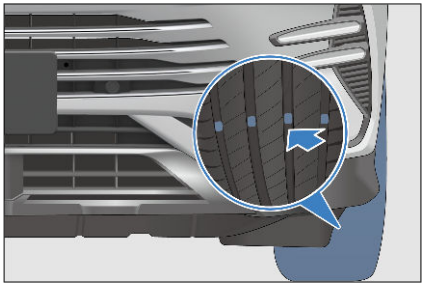
- 推奨するタイヤ空気圧のラベル（運転席側ドア開口部に貼ってあります）には、推奨の冷間時空気圧が明記されています。

- チューブレスタイヤは、パンク時に自己修復機能を有します。ただし、空気はゆっくりと漏れているため、タイヤの空気圧が下がり出したら空気漏れの位置を特定してください。

点検

- タイヤ空気圧を点検するときは、タイヤの傷や摩耗状態、異物などが刺さっていないかも合わせて点検してください。
  - タイヤトレッドや側面の傷および膨らみ。いずれかがあった場合は、タイヤを交換してください。

・タイヤ側面の擦り傷、割れや切れ。カーカスやビードワイヤーが見えた場合はタイヤを交換してください。



・タイヤトレッドの過度な摩耗。

・タイヤトレッド内部にはスリップサインが設けられています。タイヤトレッドがこの位置まで摩耗すると、トレッド全体にわたる帯状のマークが見えるようになり、溝の深さが 1.6mm 未満になったことを意味します。この程度まで摩耗したタイヤはウェット路面でのグリップ力が悪くなります。

・タイヤトレッドにスリップサインが現れるまで摩耗した場合は、タイヤ性能が著しく落ちるため、タイヤを交換してください。

メンテナンス

・適切な空気補充以外に、正確なホイールアライメントもタイヤトレッドの摩耗を効果的に軽減します。

・タイヤの偏摩耗が起きた場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でホイールアライメントの点検を行ってください。

・工場出荷前にホイールアライメント調整が行われていますが、一定時間走行後に、ホイールアライメント調整が新たに必要になる場合があります。

・比較的速い速度 (80km/h) では継続的に振動を感じるが、低速時では振動を感じない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でタイヤを点検してください。

・補修したタイヤが 1 つでもある場合は、必ずホイールアライメント調整を新たに行ってください。

・新しいタイヤや新しいホイールに交換した場合は、必ずホイールアライメント調整を行ってください。

⚠ 注意

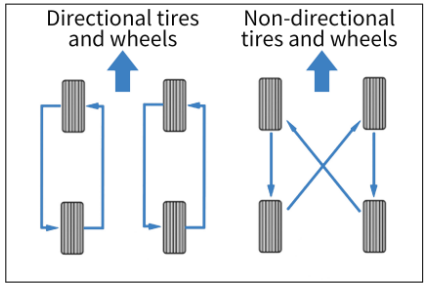
・バランスウェイトの取り付けを誤ると、ウェイトが脱落し、走行時に自車や周りのものを破損させるおそれがあります。

・バランスウェイトの取り付けを誤ると、アルミホイールを破損させるおそれがあります。バランスを確実に取るため、オリジナルバランスウェイトの使用をおすすめします。

タイヤローテーション

・タイヤの摩耗を一定に保って長持ちさせるため、タイヤの位置を定期的に入れ替えると同時に、ホイールアライメントの点検· 調整を行ってください。

・スペアタイヤを使用する場合は、タイヤローテーションをしないでください。



・タイヤを購入· 交換する際、「方向性」が決まっているタイヤがあります。このようなタイヤは、同じ回転方向で位置を入れ替えなければなりません。方向性が決まっているタイヤを使用する場合、タイヤローテーションは、フロントタイヤ、

リアタイヤの入れ替えしかできません。上の図に示す通りです。

タイヤとホイールの交換

- 本車両の純正タイヤは、車両性能を最大限引き出すために選定されたものであり、同時に操縦性や乗り心地の良さ、使用寿命の最適な組み合わせとなっています。
- BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で純正タイヤに交換してください。
- サイズ、荷重範囲、定格回転数および最大の冷間時空気圧（タイヤ側面に表示）が異なるラジアルタイヤに交換したり、ラジアルタイヤとバイアスタイヤを混用すると、制動能力や駆動力（グリップ力）、および操舵精度の低下につながります。
- タイヤを誤って装着すると、車両の操縦性や安定性に影響を与えるため、生命にかかわる事故につながるおそれがあります。
- 可能であれば 4 本のタイヤを同時に交換するのが最善です。それが不可能または必要ない場合は、前輪 2 本または後輪 2 本をペアで交換してください。タイヤ 1 本だけを交換すると、車両の操縦性に深刻な影響を与えます。
- ABS（アンチロックブレーキシステム）は、タイヤの回転数を比較することで機能するものです。そのため、タイヤを交換する場合は、純正タイヤと同じサイズのものを使用してください。タイヤのサイズおよび構造は、ホイールの回転数に影響を与え、システム動作の不一致につながるおそれがあります。
- ホイールを交換する必要がある場合は、純正ホイールの仕様と同じホイールを選定してください。新品ホイールは、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場から購入することができます。交換する前に BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に問い合わせてください。

お願い

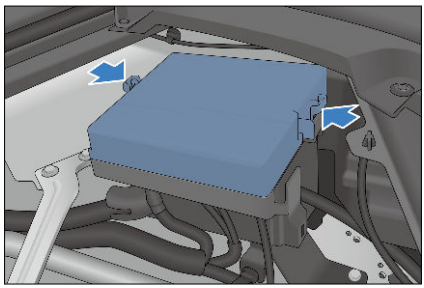
下記の内容を守ってください。典型的な操作上の危険を引き起こして、車両が制御できなくなるおそれがあります。

- ラジアルタイヤとバイアスタイヤを混用しないでください。
- メーカーの推奨サイズ以外のタイヤを使用しないでください。

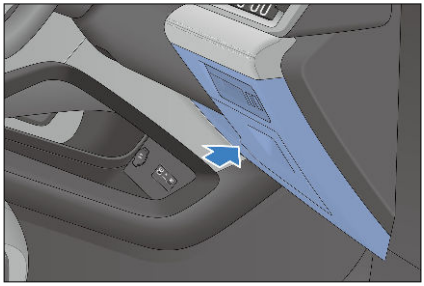
ヒューズ

ショートや過負荷を防ぐため、回路毎にフューズを設置しています。これらのフューズはそれぞれ 4 つのフューズボックスに取り付けられています。

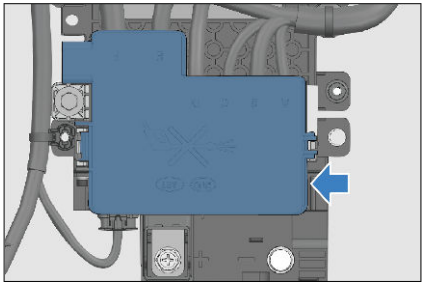
- エンジンルームのフューズボックスはエンジンルームの左フェンダー側にあります。
  - エンジンルームフューズボックスのカバーを外し、フューズボックスのカバーを裏返すとエンジンルームフューズボックスのラベルを確認できます。



- インストルメントパネルフューズボックスは運転席のインストルメントパネルリアカバーの内部にあります。
  - まずインストルメントパネルの右端カバーを取り外し、次にリアカバーを取り外すと、インストルメントパネルのフューズを確認できます。



- 正極フューズボックスは、運転席シートの下にあります。
  - まず運転席シートを取り外し、次に正極フューズボックスのアッパーカバーを開けると、正極フューズボックスのフューズを確認できます。



お願い

- 定格アンペア数より高いフューズを使わないでください。また、著しい破損を引き起こす、または火災を招くおそれがあるため、フューズの代わりに他のものを使わないでください。
- 冷却水を補充する際は、エンジンルームのフューズボックスのアッパーカバーを開けないでください。
- 冷却水を補充する際は専用工具を使用し、液体がフューズボックスに流れ込まないように注意してください。
- エンジンルームのジャンピングポイントは、短時間の通電によるジャンプスタート用です。長時間にわたって大電流を流さないでください。

お願い

- アンペア数が高いフューズで、切れたフューズを入れ替える場合は、対象電気システムを破損させる可能性が極めて大きくなります。
- 回路に適合するアンペア数の代替フューズがない場合は、代替品としてアンペア数が比較的小さいフューズを使ってください。

07 故障が発生した時

故障が発生した時..... 202

故障が発生した時

リモートキーのバッテリーが切れたら

お願い

- 故障で緊急停車する場合は、車載工具にある反射ベストを速やかに着用してください。

リモートキー表示灯が点滅せず、スタート機能で車両を始動することができない場合は、バッテリーが切れていることが考えられます。早めに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場でバッテリーを交換してください。この場合は、電池レスモードで車両を始動することができます。

注意

- 温度が高い場所にリモートキーを置かないでください。
- リモートキーを叩いたり、落としたりしないでください。
- 磁気を帯びた機器からリモートキーを遠ざけてください。
- ドアを施錠してイモビライザーが作動状態で車両を使わない場合は、リモートキーを車両から遠ざけてください。車両がリモートキーに電波を自動的に送信し続けるため、起動バッテリーの電気エネルギーが消費されます。

1. メカニカルキーで解錠します。
2. ブレーキペダルを踏み込んでから「スタート/ストップ」ボタンを押します。このとき、コンビネーションメーターのリモートキーシステム警告灯が点灯し、ブザーが 1 回鳴ります。
3. ブザーが鳴ってから 30 秒以内にフロアコンソールの電池レスモードのマーク（図の矢印方向）にリモートキーを近づけます。リモートキーシステム警告灯が消灯したら、5 秒以内に車両を始動させてください。



車両が始動しない場合

下記の点検を行う前に、正しい始動手順に従って車両を始動しているか（「使用と運転」の章の *（ページ）* を参照）、燃料が十分にあるかを確認してください。また、スペアキーを使用した場合は、車両が始動できるかも合わせて確認してください。スペアキーで始動できるときは、元のリモートキーが故障しているおそれがあるため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡し、リモートキーの点検を依頼してください。すべてのリモートキーが使用できないときは、リモートキーまたはリモートキーシステムの不具合の可能性があるため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

モーターがエンジンを通常回転数で回転させても、エンジンが作動しない場合：

1. 車両を再起動します。
2. エンジンが始動しないときは、繰り返し始動を試みるとエンジンの「フラッディング」現象が発生するおそれがあります。寒冷地では、エンジンの始動失敗によりフラッディング（シリンダー内への燃料過剰供給）が発生する場合があるため、エンジンのシリンダークリーニング作業が必要です。
   - コンビネーションメーターの OK 表示灯が点灯し、ECO モードでエンジンが

停止状態にあるときは、シフトポジションを「N」にします。

- P ボタンを押しながらブレーキとアクセルペダルを完全に踏み込み、数秒待つと、シリンダークリーニング機能が作動します。

3. エンジンがまだ始動しない場合は、調整または修理が必要なため、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

運転中にエンジンが停止した場合

- 進路を真っ直ぐに保ちながらゆっくりと速度を落とし、道路から離れた安全な場所へ車両を移動させます。
- ハザードランプを点灯させます。
- HEV モードで再度、シフトポジションを P レンジにした状態でアクセルを踏み、発電します。
- SOC 値を確認し、コンビネーションメーターの警告灯を確認します。コンビネーションメーターにエンジン故障表示灯が点灯している場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。
- 燃料不足により、頻繁に始動・停止を繰り返している場合
  - 燃料タンクが空の場合は、エンジンが始動・停止を繰り返す循環状態でも、正常な現象です。燃料タンクに燃料がないと認識されると、エンジンが始動と停止を繰り返し、エンジンの始動に失敗します。燃料タンクが空の状態で給油すると、しばらくの間、エンジンは頻繁に始動と停止を繰り返します。燃料パイプに燃料が満たされると、エンジンは通常の運転状態に入ります。

エンジンがオーバーヒートした場合

エンジンの冷却水温度が通常より高く、出力が落ちた場合は、エンジンがオーバーヒートしていることを示します。このようなときは、以下の手順で対応してください。

1. 交通量の多い道路から離れた安全な場所に停車した後、ハザードランプを点けて電動パーキングブレーキスイッチを引き、「P」ボタンを押してください。エアコンを使用している場合は OFF にし、車両後方の適切な位置に三角表示板を設置してください。
2. エンジンルームから蒸気が出ている場合は、リザーバタンクから冷却水が噴出または漏洩しているおそれがあるため、このようなときは、エンジンを停止して蒸気が収まるまで待ってからエンジンルームを開けます。冷却水の噴出がないときは、エンジンを始動した状態で冷却ファンが作動していることを確認します。ファンが作動していないときは、エンジンを停止し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

お願い

- 怪我を防ぐため、冷却水が流れ出なくなるまでエンジンルームのボンネットを閉めたままにしてください。冷却水が漏れ出ている場合は、冷却システム内に非常に高い圧力がかかっていることを示しています。

3. ラジエーター、ホース、車両の下に冷却水の漏れがないか確認します。

警告

- エンジンが始動している場合は、回転しているファンおよびエンジンプーリーから一定の距離を保ち、手や衣服を巻き込まれないようにしてください。

4. 冷却水が漏れている場合は、すぐにエンジンを停止して BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場まで連絡してください。

5. 明らかな漏れがない場合は、冷却水リザーバタンクを点検します。冷却水が不足しているときは、必ずエンジン冷却水の温度が正常温度まで下がってからリザーバタンクのキャップを開けます。エンジンを始動した状態でリザーバタンクに冷却水を上の目盛りに達するまで補充し、リザーバタンクのキャップをしっかりと閉めた後、エアコンを OFF にした状態でファンの起動を 2～3 回行います。エンジン冷却水の温度が正常温度まで下がったら、リザーバタンクの冷却水液面を再点検します。必要に応じて、適切な目盛りまで冷却水を補充します。冷却水が大幅に不足している場合は、冷却システムに漏れが発生しているおそれがあるため、速やかに BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で点検してください。

警告

- 高温の蒸気や液体が噴出して人体に深刻な傷害を与える危険を避けるため、エンジンおよびラジエーターが高温の場合は、リザーバタンクのキャップを開けないでください。

駐車中にパワーバッテリーの残量が少ない場合は、エアコンを長時間使用しないでください。エアコンはパワーバッテリーの電力を消費するため、パワーバッテリー残量が過度に低下するとエンジンが始動して発電を行うことがあります。これにより、事故の発生やエンジンのオーバーヒートによる火災につながるおそれがあります。

レッカー移動が必要なとき

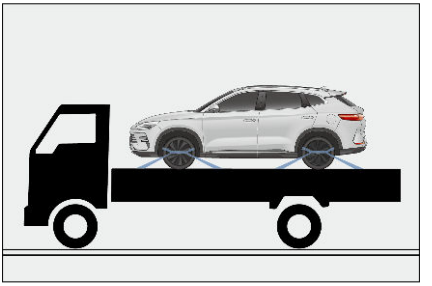
レッカー車でけん引して移動する必要がある場合は、BYD 指定サービス工場またはけん引サービス専門業者、もしくはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。

警告

- ロープやチェーンだけでのけん引はしないでください。

おすすめのけん引方法：

- 積載車
  - 車両故障でけん引が必要な場合は、積載車の利用をおすすめします。片側の前輪または後輪が路面に付いている状態では、回転により高電圧部品が破損するおそれがあります。

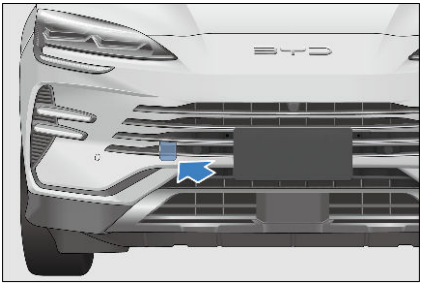


けん引フック

フロントけん引フックの取り付け位置は図の通りです。

1. マイナスドライバーでトリムカバーを開けます。

2. けん引フックを差し込み口に取り付けます。

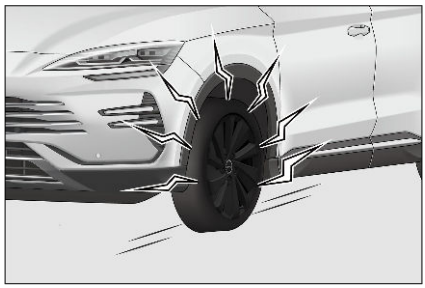


お願い

- けん引フックによる車両の搬送はおすすめしません。けん引サービス専門業者、またはご入会のロードサービスに救援を依頼してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、車載工具に入っているけん引フックのみ使用してください。
- 車両を破損させるおそれがあるため、4 輪接地で後部から車両をけん引しないでください。

タイヤの空気漏れが発生したら

- 直線走行を保ちながらゆっくりと速度を落とし、交通量の多い場所を離れて安全な場所に移動してください。その際、高速道路の中央分岐を避け、車両を堅固で平坦な地面に駐車してください。
- 電動パーキングブレーキスイッチを引き、「P」ボタンを押します。



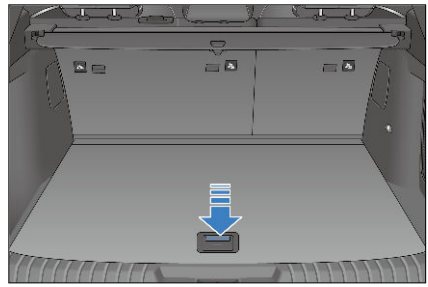
- パワースイッチを OFF にし、ハザードランプを点滅させます。
- 乗員全員が車両から降りて、ガードレールの外などの安全な場所に避難します。
- 自然発車を防ぐため、車両を確実に固定します。空気が漏れているタイヤの対角線上にあるタイヤに、輪留めを設置してください。

注意

- タイヤから空気が漏れたまま運転を続けないでください。短距離の走行でも、修復できないほどタイヤが破損するおそれがあります。

車載工具

車載工具は、トランクアンダーボードの下の工具箱に格納されています。



車載工具には、三角表示板、反射ベスト、ホイールナットキャップの取り外しクリップ、パンク修理剤、けん引フックなどを用意しています；

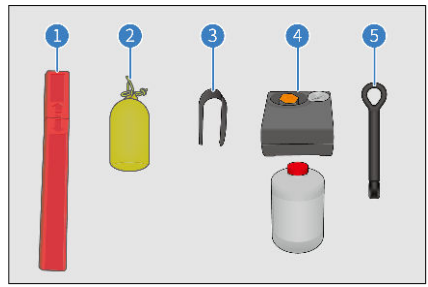
①三角表示板

②反射ベスト

③ホイールナットキャップ取り外しクリップ

④パンク修理剤

⑤けん引フック



三角表示板の設置

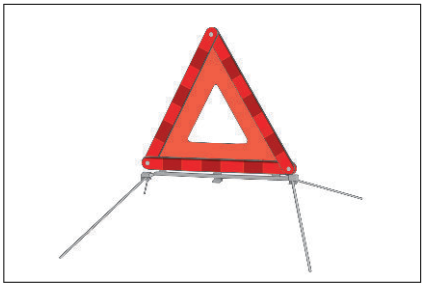
お願い

- 故障や電欠でやむなく道路上に駐停車する場合は、後方車両に危険を知らせるため、三角表示板の赤い反射部を車両が向かってくる方向に向け、車両後方 100～200m 離れた場所に設置してください。移動の準備ができたら、三角表示板を回収してください。

三角表示板は後方から近づく車両に危険を知らせることで、早めに速度を落として停止中や修理中の車両に衝突することを避けるためのものです。

三角表示板の使い方：

1. ケースから三角表示板を取り出します。
2. 正三角形となるように三角表示板を組み立てます。
3. 三角表示板の足を広げます。設置後の状態を図に示します。



パンク修理剤

- パンク修理剤は、小さいパンク穴、特にトレッドパターン内の穴を塞ぐことができます。パンク修理剤での補修は、最寄りのサービス工場まで走行できる状態まで復旧させるための応急処置にすぎません。タイヤから空気が漏れていないとしても、緊急時の短距離走行に対応するだけです。

警告

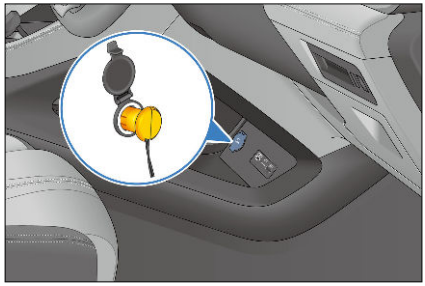
- タイヤ補修キットは、トレッドパターン内に開いた直径 6mm までの穴を補修することができます。直径が 6mm より大きい穴、またはタイヤの他の位置に開いた穴では、この補修キットが使えないため、ロードサービスを依頼してください。
- パンク修理剤は、引火性が高く、かつ健康に害をおよぼすため、蒸気を吸い込まないでください。修理中は、裸火の使用や喫煙を禁止し、皮膚や服、目に付着することを避けてください。また、お子様の手が届かないところに保管してください。

パンク修理剤に触れたとき

- パンク修理剤が皮膚や目に付着した場合は、ただちに多量の水で付着部位を洗い流してください。
- ただちに汚れた服を脱いでください。
- アレルギー症状が出た場合は、ただちに医師の手当てを受けてください。
- 誤ってパンク修理剤を飲み込んだ場合は、ただちにうがいで口の中をきれいに洗い、多量の水を飲んでください。その後、吐かせずに速やかに医師の手当てを受けてください。

パンク修理剤の使い方

- パンク修理剤の使い方の詳細については、コンプレッサーに貼付されたラベルの記載を参照してください。
- コンプレッサーに電源を接続する必要がある場合は、車内の 12V ソケットに電源プラグを挿し込み、車両を始動してコンプレッサーのスイッチを ON にします。コンプレッサーのホースを通して空気と共にパンク修理剤をタイヤ内に注入します。



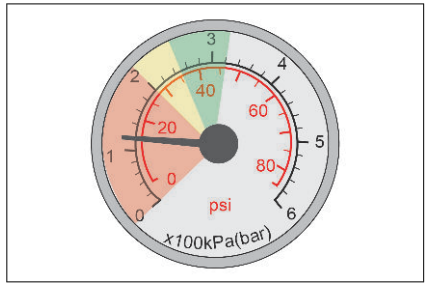
お願い

- 電源プラグをアクセサリー電源に挿し込む場合は、コンプレッサーのスイッチが OFF になっていることを確認してください。
- コンプレッサーは、最大 10 分まで稼働することができます。
- アクセサリー電源の動作電流は 10A 未満です。
- 電源プラグを使用する際は、アクセサリー電源に表示されている定格電圧 12V および定格電力 120W を超えないようにしてください。これを超えると、安全上の危険が生じる可能性があります。

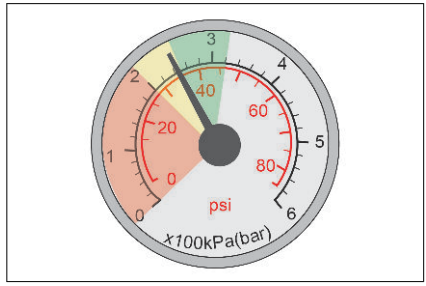
警告

- 車両を始動する際は、屋外または換気の良い場所（例：建物内）に車両を置いてください。換気が不十分な場所でエンジンを稼働させると、窒息を引き起こす危険性があります。

- コンプレッサーの空気圧計の指示値を確認します。
  - タイヤ空気圧が 10 分以内に 200kPa（2.0bar）にならない場合（図中の赤色のエリア）は、コンプレッサーを OFF にして BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。



- タイヤ空気圧が 200~320kPa（2.0~3.2bar）の範囲内にある場合（図中の黄色エリアと緑色のエリア）は、できるだけ早くパンク修理剤を取り外し、1 分以内に 80km/h 以下の速度で最大 10km まで走行して、タイヤ全体にパンク修理剤を広げてください。



- 車両を止めて修理後のタイヤを点検し、コンプレッサーの空気圧計を再度確認します。
  - タイヤ空気圧が 250kPa（2.5bar）を超えている場合は、80km/h 以内の速度で最寄りのサービス工場へお越しください。
  - タイヤ空気圧が 200～250kPa（2.0～2.5bar）の範囲内にある場合は、パンク修理剤を注入して空気圧計を確認する作業を繰り返してください。
  - タイヤ空気圧が 200kPa（2.0bar）にならない場合は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。

お願い

- パンク修理剤で破損したタイヤを補修するのは応急処置のみです。可能な限りお早めに専門のサービス工場でタイヤを交換し、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場に連絡してください。その際、タイヤの中にパンク修理剤が入っていることを整備士に伝えてください。
- パンク修理剤を使用した後は、BYD 正規ディーラーまたは BYD 指定サービス工場で新品のパンク修理剤を購入してください。
- 急発進や高速でカーブを曲がることは避けてください。
- 80km/h の最高制限速度を守って、できるだけ早く (最大走行距離 200km 以内)空気漏れのタイヤを交換してください。走行中に激しい振動や走行性能が不安定になったり騒音が聞こえたりした場合は、運転を止めてください。
- パンク修理剤の有効期限が切れたときは (有効期限はパンク修理剤の容器に付いているラベルを参照)、新品のパンク修理剤に入れ替えてください。

08 車両仕様

データ情報.....210
プロンプトメッセージ.....214

データ情報

車両諸元

車両寸法：

項目	諸元	
製品型番	SEALION 6 2WD	SEALION 6 4WD
全長（mm）	4775	4775
全幅（mm）（ドアミラーを含まない）	1890	1890
全高（mm）	1670	1670
ホイールベース（mm）	2765	2765
フロントトレッド（mm）	1630	1630
リアトレッド（mm）	1630	1630
フロントオーバーハング（mm）	1010	1010
リアオーバーハング（mm）	1000	1000
アプローチアングル（°）	19	19
デパーチャーアングル（°）	21	21

車両重量：

項目	諸元	
製品型番	SEALION 6 2WD	SEALION 6 4WD
車両重量（kg）	1940	2100
前軸荷重（kg）	1110	1160
後軸荷重（kg）	830	940
車両総重量（kg）	2250	2410
車両総重量前軸荷重（kg）	1195	1245
車両総重量後軸荷重（kg）	1055	1165
乗車定員（人）	5	5

駆動モーターの諸元：

項目	諸元	
製品型番	1.5L フル装備	1.5T フル装備
駆動モーター型番	TZ220XYE	フロント側 : TZ220XYG リア側 : TZ200XSV
駆動モーターの種類	永久磁石同期モーター	永久磁石同期モーター
駆動方式	二輪駆動	四輪駆動
駆動モーター定格出力/回転数/トルク（kW/rpm/N•m）	60/4775/120	フロント側 : 70/5570/120 リア側 : 80/5457/140
駆動モーター最高出力/回転数/トルク（kW/rpm/N•m）	145/15000/300	フロント側 : 150/15000/300 リア側 : 150/16000/340

エンジンの諸元 :

項目	諸元	
製品型番	SEALION 6 2WD	SEALION 6 4WD
エンジン型番	BYD472QA	BYD476ZQC
エンジン型式	直列 4 気筒	直列 4 気筒
排気量（mL）	1.498	1.497
エンジン最大正味出力/回転数（kW/rpm）	72/6000	96/5200
エンジン最大正味トルク/回転数（N·m/rpm）	122/4500	220/1500-3500

動力性能および経済性能の諸元 :

項目	諸元	
製品型番	SEALION 6 2WD	SEALION 6 4WD
最高設計速度(km/h)	≧170	≧180
EV/HEV 最大登坂能力	≥30/≥30	≥30/≥30

ホイールとタイヤの諸元 :

項目	諸元
タイヤサイズ	235/50R19
タイヤ空気圧（kPa）	前/後 250/250(R19)
ホイールバランス（g）	≤10(バランシングマシン片側表示)

ホイールアライメント調整値（装備質量時）:

項目	諸元	
製品型番	SEALION 6 2WD	SEALION 6 4WD
フロントタイヤキャンバー角（°）	-0.84±0.75	-0.85±0.75
フロントタイヤトーイン（°）	0.14±0.16	0.21±0.16
キングピン角（°）	11.1±0.75	11.13±0.75
キャスター角（°）	2.24±0.75	2.28±0.75
リアタイヤキャンバー角（°）	-0.62±0.75	-0.56±0.75
リアタイヤトーイン（°）	0.16±0.16	0.18±0.16

ブレーキシステム技術諸元：

項目	諸元
ブレーキペダルの遊び（mm)	3.4-10.2
フロントディスクローターの厚さ（mm)	26-28
リアディスクローターの厚さ（mm)	9-11
フロントディスクパッドの厚さ（mm）	2-8
リアディスクパッドの厚さ（mm）	2-6.5

パワーバッテリー諸元：

項目	諸元	
製品型番	SEALION 6 2WD	SEALION 6 4WD
パワーバッテリータイプ	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー	リン酸鉄リチウムイオンバッテリー
パワーバッテリー定格容量（AH）	54	54

シート諸元：

項目	諸元
フロントシートのシートバック角度	25°
フロントシートのシート前後位置	スライドレール前方へ 220mm、後方へ 20mm、レール角度 4.5
フロントシートバックの通常使用状態	シートバックが設計位置から前へ 24.3°、後ろへ 50.7°
リアシートのシートバック角度	28°
リアシートのシート前後位置	設計位置から前方へ 15°、後方へ 5.625°
リアシートバックの通常使用状態	28°

油脂類諸元（2WD）

メンテナンス項目	型番仕様	注入量
BYD472QA エンジンオイル	C5 0W-20 グレード以上のオイル	オイルフィルター不交換：3.1L；オイルフィルター交換：3.3L
EHS 専用ギアオイル	EHSF-2LV	交換時に 2.5L 給油（フィルターエレメント ASSY の交換不要） 交換時に 3.0L 給油（フィルターエレメント ASSY も同時交換） オーバーホール時に 3.6L 給油
ブレーキフルード	DOT4/HZY6	1100ml±50ml
冷却水	エチレングリコール系不凍液	高温：7.5L±0.5L 低温：4.5L±0.5L

油脂類諸元(4WD)

メンテナンス項目	型番仕様	注入量
BYD476ZQC エンジンオイル	C5 0W-20 グレード以上のオイル	オイルフィルター不交換：3.7L；オイルフィルター交換：3.9L

メンテナンス項目	型番仕様	注入量
EHS 専用ギアオイル	EHSF-2LV	交換時に 3.0L 給油（フィルターエレメント ASSY の交換不要） 交換時は 3.5L を注入（同時にフィルターエレメント ASSY を交換） オーバーホール時に 4.1L 給油
後輪駆動電動ユニット専用ギアオイル	Castrol BOT384	1.3±0.05L
ブレーキフルード	DOT4/HZY6	1100ml±50ml
冷却水	エチレングリコール系不凍液	高温：7.5L±0.5L 低温：7.0L±0.5L

注：

1. 燃料消費量は、車両の状況、道路条件、運転習慣などによって異なります。

2. 車両全幅はドアミラーを含まず、車両全高はルーフキャリアとアンテナベースを含み、アンテナ部分は含まれません。

プロンプトメッセージ

車両の表示

車両識別番号 (VIN)

VIN コードの貼り付け位置：

①トランスミッション本体

②フロントガラス下部のクロスビームカバーにある VIN コード溝

③左フロントドアの内側板金の表面

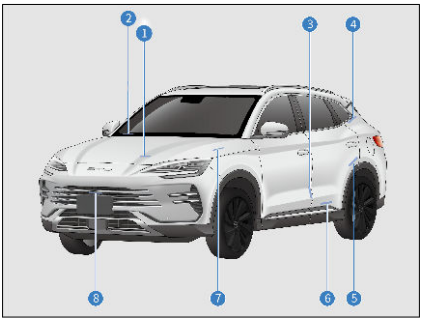
④テールゲート左側フレームの板金の表面

⑤左リアタイヤのフェンダ表面

⑥左リアドアのサイドシル内側板金の表面

⑦ボンネット内の板金表面

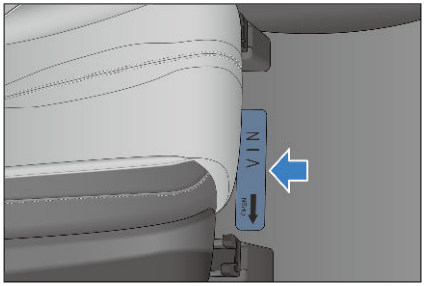
⑧フロントクロスメンバー



VIN コードの刻印位置

VIN コードは助手席側シート下部のクロスメンバーに刻印されています。

VDS に接続して車種を選定し、右上で車両識別番号（VIN）を読み出します。詳細は VDS 取扱説明書を参照してください。



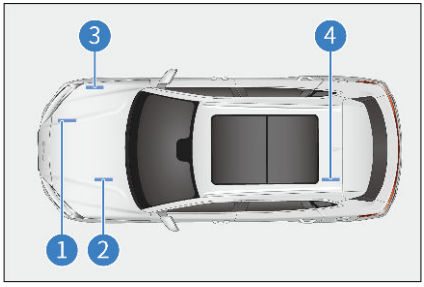
駆動モーターの型式および番号

①エンジンの型式および番号は、エンジンのシリンダーブロックに刻印されています。

②前輪駆動モーターの型式および番号は、前輪駆動モーターケースに刻印されています。

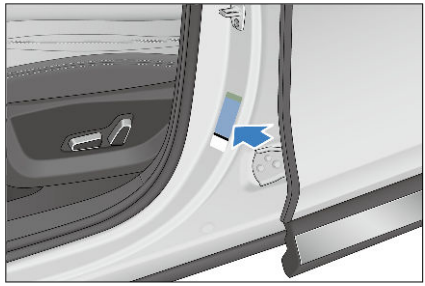
③前輪駆動モーターの型式および番号は、ボンネットインナーパネルに貼り付けられています。

④*後輪駆動モーターの型式および番号は、後輪駆動モーターケースに刻印されています。

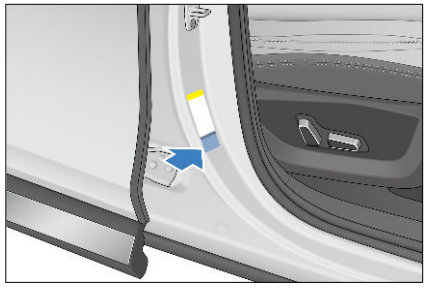


警告ラベル

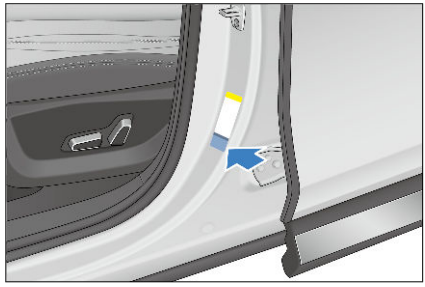
サイドエアバッグ警告ラベルは、左右 B ピラーの下側に貼られています。



タイヤ空気圧ラベルは、右側 B ピラーの下側に貼られています。



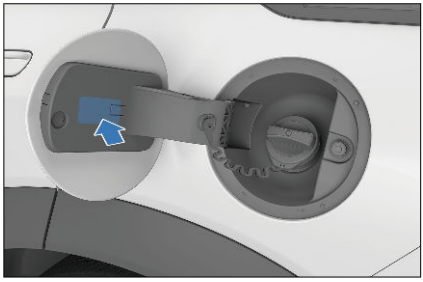
バッテリー位置ラベルは、左側 B ピラーの下側に貼られています。



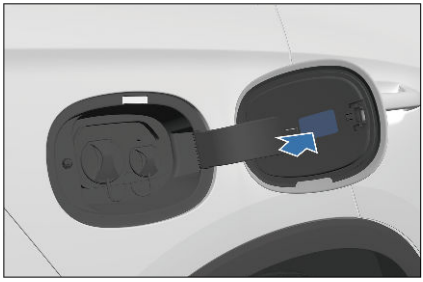
空調システムラベルは、ボンネット右側に貼られています。



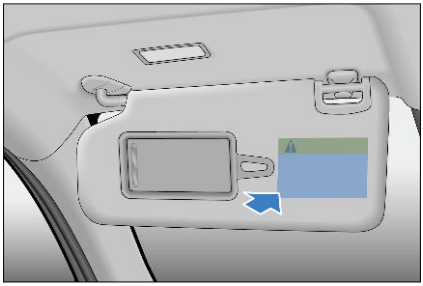
無鉛ガソリンラベルは、フューエルリッドの内側に貼ってあります。



充電警告ラベルは、充電ポートキャップの内側に貼られています。

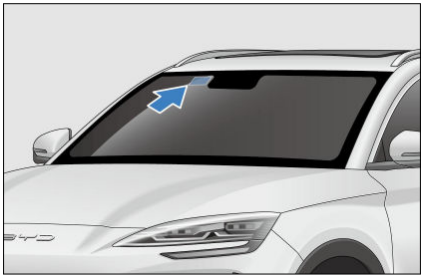


エアバッグ警告ラベルは、助手席側のサンバイザーに表示されています。



マイクロ波通信用ウィンドウ

マイクロ波通信用ウィンドウは、ウィンドウガラスの右上にあります。



注意

- 車検検査標章を貼り付けるときは、ガラスのプリント部や他の物体に重ならないようにしてください。

適合宣言書

リモートキーシステム法規表示

ウズベキスタン

型番：D0-92/D1-92

	EU 地域 型番：D0-92/D1-92
	ブラジル 型番：D0-92/D1-92 本デバイスは有害な干渉から保護されておらず、また、正規に認可されたシステムに干渉を与えることはありません。
	日本 型番：D0-92/D1-92

記号

安全運転支援システム..... 152
一酸化炭素中毒の危険性..... 111
運転席および助手席エアバッグ..... 16
運転席側スイッチユニット..... 82
運転中にエンジンが異常停止した場合
..... 203
火災の予防..... 113
荷物の積み込み..... 111
冠水路の走行..... 112
慣らし運転期間..... 107
機能定義..... 163
起動バッテリー..... 105
起動バッテリー電圧不足時のスリープ
解除機能..... 106
給電装置..... 101
緊急時車線維持支援..... 139
警告ラベル..... 215
交通標識認識システム（TSR）..... 142
自動洗車をするとき..... 186
車の始動..... 114
車内の清掃..... 187
車両が始動しない場合..... 202
車両の運転..... 115
車両の表示..... 214
車両の保管..... 191
車両の防食について..... 184
車両諸元..... 210
車両接近通報装置..... 146
充電に関する警告..... 90
充電ポート盗難防止ロック機能..... 98
充電上のご注意..... 90
充電方法..... 93
洗車..... 185
駐車券収納ボックス..... 170
駐車支援システム..... 147
定期メンテナンス..... 183
電動ドアミラー..... 79
電力量バランス機能..... 100
塗装メンテナンスのお願い..... 184
燃料..... 108
燃料の節約方法..... 110
予測緊急ブレーキシステム*..... 131
幼児置き去り検知..... 145
幼児用補助装置取り付け..... 22
冷却システム..... 192

数字

12V アクセサリー電源..... 172

B

Bluetooth 電話..... 160
BYD アラウンドビューシステム*... 146

E

E-Call スイッチ..... 86

S

SD カードスロット*..... 173

あ

アカウント登録..... 168
アダプティブクルーズコントロール
..... 125

い

イモビライザー..... 36
インテリジェントスピードリミットコ
ントロールシステム..... 143
インテリジェントハイビームアシスト
システム（HMA）*..... 135

う

ウォッシャ..... 193

え

エアコン操作画面..... 163
エアバッグの作動条件および注意事項
..... 18
エンジンオイル..... 194
エンジンがオーバーヒートした場合
..... 203

お

オートビークルホールドスイッチ. 121

き

キーについて..... 54

く

グローブボックス..... 169

さ

サイドカーテンエアバッグ..... 18
サングラスホルダー..... 171
サンバイザー..... 172
サンルーフのメンテナンスについて
..... 190

し

シートサイドエアバッグ..... 17
シートについて..... 68
シートバックポケット..... 171
シートベルトについて..... 12
シートベルトのプリテンショナー/ロードリミット機能*..... 12
シートベルトの着用..... 12
シフト機構..... 117

す

ステアリングホイールコンビネーションスイッチ..... 72
ステアリングホイールの手動調節... 75
スマートエントリー＆スタートシステム..... 65

せ

センターコンソールボックス..... 170

た

タイヤ..... 196
タイヤ空気圧モニタリング..... 150

ち

チャイルドロック..... 67

て

データの収集および処理..... 36
デュアルモードシステム動作モード概要..... 25
デュアルモードシステム動作モード選択..... 30

と

ドアの施錠/解錠..... 58
ドアポケット..... 169
ドライバー眠気注意力警告システム*
..... 144
トランクアンダーボード..... 175
トレーラーのけん引..... 108

な

ナビゲーションパイロット..... 129

は

ハザードランプスイッチ..... 84
バニティーミラー..... 172
パワーバッテリー..... 104

ふ

ファン ON/OFF..... 161
フューズ..... 198
ブラインドスポットアシストシステム
..... 140
ブレーキフルード..... 193
フロントカップホルダー..... 170
フロントクロストラフィックアラート
およびフロントクロストラフィックオ
ートブレーキ..... 134
フロントシートの調節..... 69
フロント側 USB ポート..... 173

へ

ヘッドライト高さ調節スイッチ..... 84
ヘッドレストの調節..... 70

ほ

ボンネット..... 191

ま

マイクロ波通信用ウィンドウ..... 216

め

メンテナンス周期およびメンテナンス
内容..... 178

ら

ライトスイッチ..... 80

り

リアシートの収納..... 70
リアシェルフ*..... 173
リモートキーのバッテリーが切れたら
..... 202

る

ルームミラー..... 78
ルームランプスイッチ..... 86

れ

レーンサポートシステム..... 137
レッカー移動が必要なとき..... 204

わ

ワイパー..... 77
ワイパースイッチ..... 75
ワイパーブレード..... 195
ワイヤレス充電エリア..... 174

略語一覧

略語

用語	フルネーム	用語	フルネーム
ELR	シートベルト緊急ロック	ECU	エレクトロニックコントロールユニット
ISOFIX	ISO-FIX	SPORT	スポーツ
NORMAL	ノーマル	V2L	電動パーキングブレーキ
EPB	電動パーキングブレーキ	AVH	オートビークルホールド
PCW		AEB	自動緊急ブレーキ
TPMS	タイヤ空気圧モニタリングシステム	VDC	ビークルダイナミクスコントロール
TCS	トラクションコントロールシステム	HHC	ヒルスタートホールドコントロール
HBA	ハイドロリックブレーキアシスト	CDP	減速度制御
HDC		ABS	アンチロックブレーキシステム
MIN	最小値	MAX	最大値
VIN	車両識別番号		